

ニセンカ爲ニ製作シタルモノニシテ音韻ニ關スルモノ二十九枚、口語法ニ關スルモノ三十七枚アリ故ニ前項ノ調査報告書ト相俟チテ國語調査上及國語教育上ノ參考ニ供センニハ其ノ價值頗ル大ナルモノアラシ

音韻分布圖額面 一枚

三口語法分布圖額面 二枚

音韻分布ニ關スル額面ハ標準音ノ制定及假名遣ノ改正上重要ナル問題タルヘキカ、くわ、じ、ぢ、ず、づ等ニ就キ其ノ分布圖六枚ヲ一面ニ調製シタルモノニシテ之ニ據リテ分布ノ状態ヲ窺ヒ以テ如上ノ問題ヲ解決スルニ鞏固ナル方針ヲ立ツルヲ得ヘシ

口語法分布ニ關スル額面モ各六枚一面ニ調製シタルモノニシテ一面ハ口語法ノ變遷ヲ表示シ一面ハ專ラ東國方言(專ラ關東方言ヲ中心トシタル)ト西國方言(專ラ關西方言ヲ中心トシタル)ノ分布ノ對照ヲ表示セリ是等ノ額面ハ雷ニ斯學上多大ノ趣味ヲ感セシムルノミナラス學術的價值モ蓋シ鮮少ナラサルハ言ハ俟タス

四方言採集簿 一冊

是ハゲオルグフォンデルガベレンツ、マックスミューレル等ノ言語採集簿ヲ斟酌シテ專ラ方言ヲ調査センカ爲ニ作成シタルモノナリ

近來方言ノ調査ハ漸ク盛ニ起リ來レリト雖モ未タ見ルニ足ルヘキモノ多カラサルハ蓋シ調査ノ方法其ノ宜シキヲ得サルカ爲ナリ故ニ若シ此ノ採集簿ノ如キモノニ據リテ精細ニ調査センニハ始メテ完美ナルモノヲ得ルニ庶幾カラシコハ又方言ノ採集上ノミナラス外國語ノ學習上ニモ使用スルヲ得ヘク其ノ利便モ頗ル大ナルモノアルヘシ

五國字、國語改良論說年表 一冊

是ハ明治初年ヨリ明治三十六年ニ至ルマテ世ニ公ニセラレタル國字、國語ノ改良ニ關スル論說ヲ年表

ニ作成シタルモノニシテ國語問題ノ發展シ來レル徑路ノ概況ヲ窺フニ足ルヘシ

六、片假名讀ミ方書キ方ノ難易ニ關スル實驗報告 一冊

是ハ國語調査委員會臨時委員文學博士元良勇次郎、同松本亦太郎カ片假名及平假名ノ讀ミ方書キ方ノ難易ニ關シ實驗心理學上ヨリ實驗シタル報告ナリ

七、現行普通文法改定案調査報告之一 一冊

是ハ明治三十八年四月文部省ヨリ發表セラレタル文法上許容ニ關スル事項十七ヶ條ニ對シ調査シタル報告ニシテ是ニ依リ文法上斯クノ如キ許容ヲ設クルモ妨ナキ根據ヲ知ルニ足ルヘシ

震災豫防調査會出品

震災豫防調査會ヨリ出品セル大形寫眞ハ近時ノ大震災タル印度、柔港、臺灣ノ三大地震調査ノ爲派遣セラレタル委員カ撮影セルモノニシテ著キ斷層及鐵骨煉瓦、鐵筋コンクリート及種々ノ構造物ノ震害ヲ示シ地震ノ原因ニ關スル學理ト耐震構造ニ關シテ有益ナル參考品ナリ

又同會ノ報告書ハ邦文及歐文ノ分ヲ合シテ八十餘冊ニ及ヒ地震及火山ニ關スル論文ヲ載スルモノニシテ研究ノ結果ヲ公刊セルコト斯クノ如ク夥多ナルハ最モ顯著ナル事實ナリトス歐文報告ノ如キハ歐米各國ニ於テ非常ニ貴重視セラレ日本ハ地震ノ模範國ニシテ地震ノ學理應用ノ點ニ於テ世界ノ師ト稱セラレ近時出版ノ歐米ノ地震學書ノ如キモ其ノ主要ナル部分ハ殆ト全ク同會報告書ニ據ルニ至レリ

東京高等商業學校

東京高等商業學校ノ出品ハ左ノ如シ

- 一 卒業生就職種別統計圖 一枚
 - 二 入學志願者、入學者及卒業者統計圖 一枚
 - 三 寫真 五枚
 - 四 本校一覽 和英文二冊
 - 五 外國實踐用書式集 一冊
 - 六 學生記入外國實踐簿 二冊
 - 七 學生取調報告書 十三冊
- 内 譯
- (1) 函館、小樽海產物集散及取引慣習調査報告書
 - (2) 北海道輸出昆布調査報告書及支那輸出羊毛調査報告書
 - (3) 北海道豆類取調報告及福島町生絲取引調査報告書
 - (4) 長崎港錫輸出貿易調査報告書
 - (5) 九州石炭集散及賣買慣習取調報告書
 - (6) 筑豊地方ニ於ケル炭礦經理ノ狀況調査報告書及大阪ニ於ケル輸出機械織布調査報告書
 - (7) 八王子地方機業調査報告書
 - (8) 紀州及京都綿、ネル業取調報告書
 - (9) 大阪ニ於ケル輸出刷子業調査報告書
 - (10) 清國上海ニ於ケル貨幣事情調査報告書及清國蘇州、杭州絹織物業調査報告書
 - (11) 揚子江汽船業調査報告書
 - (12) 電氣鐵道調査報告書
 - (13) 銀行業務條例取調報告書

八、學生英作文集

一冊

九、同 習字集

一冊

本出品中第一號卒業生就職別表、第二號入學志願者、入學者及卒業生統計表ハ二十七八年以後實業界ニ於テ高等ナル商業教育ヲ受ケタル者ノ需用頗ニ増加シ入學志願者モ亦之ニ伴ヒテ激増セルヲ見ルヘク入學志願者數ニ比シテ入學許可者ノ數増加セス同校ノ設備カ一般社會ノ狀況ニ照シテ擴張スヘキ必要ノ多大ナルヲ示シタリ

又出品第七號ハ學生ノ取調ニ係ル内國各地ノ商品賣買ノ商習慣、工業、鐵道業、銀行業ノ狀況並ニ清國ニ於ケル貨幣事情、汽船業等ノ報告書ニシテ當業者ノ參考ニモ資スルニ足ルヘキ有益ナル材料ニシテ本邦各種ノ産業ニ關スル學術的研究ノ端緒ヲ認ムルヲ得ヘキモノナリ

東京高等工業學校出品

本校ハ文部省ノ直轄ニシテ明治十四年ノ設立ニ係リ適良ノ工業技術者ヲ養成スル所トス今ヤ年ヲ閱スルコト茲ニ二十有六年實ニ本邦ニ於ケル工業學校設置ノ嚆矢トス此ノ間國家ハ本校ノ爲ニ巨額ノ資ヲ投シ規模ノ擴張ト設備ノ完全トヲ計リ目下建物總坪數六千六百六十四坪ニ達セリ而シテ實技ノ練習ハ本校ノ眼目トスル所ナルヲ以テ之ニ使用スル工場其ノ多キヲ占メ練習ニ要スル機械等ノ設備モ亦缺ク所少キヲ期セリ而シテ其ノ學科ハ我國工業ノ現狀ニ鑑ミ最モ必要ナルモノヲ選ヒ現ニ染織科、窯業科、應用化學科、機械科、電氣科、工業圖案科、建築科ノ七科ヲ置ケリ又別ニ工業教員養成所、職工徒弟學校及工業補習學校ヲ附屬セラル

附設工業教員養成所ハ工業教員タルヘキ者ヲ養成スル所タリ而シテ其ノ學科ハ本科ニ在リテハ電氣科ニ電氣化學分科ヲ除クノ外本校ト同一ニシテ速成科ニ在リテハ金工、木工、色染、機械、陶器、漆工ノ六科ヲ置ケリ

附屬職工徒弟學校ハ木工、金工、機織ノ三科ニ分チ實技上必要ナル學科及實技ヲ授ケ善良ナル職工ヲ養成スル所ナリ

工業補習學校ハ工業教員養成所ノ附屬ニシテ晝間各種ノ工業ニ從事スル青年ヲシテ夜間ニ於テ其ノ業務ニ必須適切ナル智識技能ヲ補習セシムル所ナリ

本校	在學生	卒業者
附設工業教員養成所	五九一	一、五五一
附屬職工徒弟學校	一一〇	三二四
附屬工業補習學校	一二九	三四六
計	三二四	六八八
	一、二五四	二、八九九

各科出品略説

電氣科

電氣科ハ電氣機械分科、電氣化學分科ノ二分科ニ分チ電氣機械分科ニ於テハ電氣、磁氣一般ノ學理並ニ電氣學ニ關スル學科及實修ヲ授ケ電氣化學分科ニ於テハ電力分配、電鑄、電氣冶金、アルカリ、鹽類等ノ電解製造其ノ他各種ノ藥品、顔料、鞣革等化學工業ニ於ケル電氣ノ應用ニ關スル學理ト實地製造法トヲ授ク本科ノ出品左ノ如シ

電氣機械分科

- 一、半馬力三相誘導電動機
- 二、電車々臺雛形
- 三、小抵抗測定器

電氣化學分科

- 一、電解製顔料標本
右ハ鉛板、鐵板ヲ用キ電解法ニ依リテ製シタルモノナリ
- 二、鹽酸加里標本
右ハ電解法ニ依リテ製シタルモノナリ
- 三、電解漂白標本
右ハ電流ヲ以テ食鹽ノ水溶液ヲ分解スルトキハ通常ノ漂白粉溶液ヨリモ漂白力強キ溶液ヲ得ヘシ本品ハ該液ヲ用キテ漂白セルモノナリ
- 四、電鍍品
五、鍍金應用陶磁器標本
右ハ電流ニ依リ陶磁器上ニ模様ヲ鍍出セルモノナリ

應用化學科

天然原料ニ化學操作ヲ施シ世用ニ供センコトヲ務ムルハ應用化學ノ目的ナリ隨ヒテ其ノ範圍ハ極メテ廣大ナリト雖モ本科ニ於テハ我國ノ現狀ニ鑑ミ主トシテ釀造、製糖、製紙、石油、製革其ノ他ノ化學製品ニ就キ其ノ學理及實地製造法ヲ授ク

本科ノ出品左ノ如シ

一、顔料標本

右ハ第二年生第二學期ニ於ケル實修成績品ニシテ塗料、繪畫等ニ使用スル顔料及、レーキ類ノ一二ナリ

二、油標本

右ハ第三年生實修成績品ノ一ナリ

三、藥品標本

右ハ第一年生第一學期ニ於ケル實修成績品ナリ

四、酵母標本

右ハ釀造實修用トシテ顯微鏡室ニ備ヘタル標本ノ一二ナリ

五、牛骨製品、牛脂、膠骨炭、過磷酸石灰

六、石鹼、阿麻仁油、軟石鹼、松脂、軟石鹼、阿列布油、軟石鹼

七、蒸餾品、原油、揮發油、燈油、重油、蒸餾殘渣、硫酸滓

應用化學科漆工場

一、生漆製漆、色漆標本

二、蠟色塗順序標本

三、彩髹標本

鐵板樣漆器標本

四、ブリキ樣漆器標本

陶器樣漆器標本

アンチモニー樣漆器標本

右出品ハ樣ノ改良ト新塗漆法ノ應用トヲ主トセルモノニシテ即チ鐵板、ブリキ、陶器(素燒)、アンチモニー等ヲ樣トシ其ノ塗漆セルモノハ高溫硬化法ニ依リテ乾燥セシメ從來行ハレタル塗色ハ勿論青銅塗、茶銅塗、古銅塗、朱銅塗、四分一塗等ヲ極メテ簡單ニ製作セルモノナリ

染織科

染織科ヲ分チテ色染、機織ノ二分科トシ色染分科ニ於テハ色染ニ關スル諸學科ヲ授ケ之カ實驗トシテ纖維及織布ノ精練、漂白、色染、整理等ノ實修ヲ課シ機織分科ニ於テハ織物ノ原理ヲ授ケ之カ實修用トシ

テ紡績機械、各種ノ手織機、絹、綿、毛等織物用織機等ヲ備ヘ電氣發動機、蒸氣機械類ヲ用キテ運轉ス本科ノ出品ハ左ノ如シ

機織分科

一、織物ノ製造順序ヲ示セル標本

右出品ノ中央ニ在ル標本ハ蠶繭、綿羊及綿花ヨリ絹絲、毛絲及木綿絲ヲ造リ之ヲ織物トナス仕事ノ順序ヲ示セルモノアリ

二、輸出入ノ多少ヲ示セル織物標本

右出品ハ孰レモ本科ノ實修製品ニシテ輸出入ノ金額ヲ山ノ高低ニテ示セルモノナリ標本ノ右ナルモノハ輸入品ニシテ左ナルハ輸出品ナリ

三、再製絨製造ノ順序ヲ示セル標本

右ハ古洋服及古編物等ノ廢物ヲ裂キテ綿狀トナシ之ヲ再ヒ紡績シ糸ト爲シテ製織シ用途ニ應シ適當ナル仕上ヲ施セル再製絨製造ノ順序ヲ示セルモノナリ

四、毛織物仕上順序ノ一般ヲ示セル標本

毛織物ノ仕上ハ織物ノ種類、用途ノ如何ニ依リ常ニ同一ナル方法ヲ施シ得ヘキモノニ非サルナリ本標本ハ其ノ一般ノ順序ヲ示セルモノナリ

五、實驗製品

(イ)再製絨 古靴、足袋及其ノ他ノ古編物ヲ裂キテ再ヒ綿狀トナシ更ニ紡績シテ製織及仕上セルモノナリ

(ロ)梳毛絨 梳毛絲ヲ經緯トシテ製織シ然ル後染色セル Fancy Worsted Coating ナリ

(ハ)短衣地 木綿織物ニ麻樣ノ仕上ヲ施セルモノナリ

(ニ)木綿縹子 木綿縹子ニ絹樣ノ仕上ヲ施セルモノニシテ用途ハ傘、袖口、半襟等ナリトス

- (ホ)製本用綿布 綿布ニ特別ノ仕上ヲ施シタルモノナリ
- (ヘ)木目附琥珀織 織方及仕上方ニ依リテ木目ヲ出セル琥珀織ナリ
- (ト)襟飾地 紋織機械ニテ總模様ヲ織リ出シ之ニ縫取ヲ用キテ飛ヒ模様ヲ顯セルモノナリ
- (チ)縮ヲランネル 綿毛絲ヲ經絲トシ梳毛絲ヲ緯絲トセル後染梳毛縮ヲランネルニシテ特別ノ仕上法ヲ施シ收縮ノ虞ナカシメタルモノナリ
- (リ)紋琥珀織紋縐子織

色染分科

一、友禪染標本

右ハ毛布ニクロリネーションヲ爲セルモノト否ラサルモノトカ友禪染ニ如何ナル影響アルカヲ示シタルモノナリ

二、交織物ノ染色標本

右ハ絹綿交織物ニ異色染ヲナセルモノニシテ、ネツクタイ地ニ使用スル目的ナリ

三、タオル用ノ赤絲染並標本

四、試験染標本(第一號)

右ハ生徒ノ平素實驗セシ布ヲ貼附シタルモノニシテ(一)ハ綿及毛ヲ精練漂白セルモノ及此等纖維ヲ浸染シテ色素ノ部屬別ニ排列セシモノナリ(二)ハ絹ノ精練浸染交織物ノ浸染及綿毛絹等ニ施セル捺染ノ標本ナリ

五、試験染標本(第二號)

右ハ各種交織物ニ同色染又ハ異色染ヲナセルモノ、革ニ捺染セルモノ並ニ羽二重ニ捺染セシ實修品ヲ貼附シタルモノナリ

窯業科

本科ハ陶磁器、玻璃、セメント、煉瓦等ノ製造法ニ就キ學理ト實驗ト相俟テ教授ス即チ窯業品ノ製造操作、原料ノ理化學的性質並ニ其ノ燒成試驗ヨリ築窯法、工場設計等ノ事項ヲ授ク

陶磁器實驗順序標本

一、玻璃實驗標本

粘土試驗標本

右ハ生徒カ實驗上製作セシモノナリ

二、石膏模型教授標本

三、陶器標本

四、軟質磁器標本

五、辰砂標本

六、マデヨリカ標本

「マデヨリカ」ハ陶器ノ一種ニシテ元來伊太利ニテ製出セシ品種ノ名稱ナルモ現今獨逸、埃太利等ニテ盛ニ製造スルモノヲ獨逸「マデヨリカ」ト稱シ歐米各國ニ於テ中等裝飾品及裝飾的日用品トシテ盛ニ需用セララルモノナリ本科ハ之カ製造試驗ヲ行ヒ茲ニ其ノ試製品數種ヲ出陳セリ

工業圖案科

凡ソ如何ナル工業ト雖モ直接或ハ間接ニ圖案ヲ要セサルハナシ本科ノ目的ハ其ノ總ヘテノ工業ニ應用スヘキ圖案ヲ授クルニ在リ殊ニ科學上ノ智識ト技術上ノ手腕トヲ有スルト共ニ實地製作法ノ大體ニ通スル圖案家ヲ養成スルニ在リト雖モ我國工業ノ現狀ニ鑑ミ本科ヲ建築裝飾、製版窯業、染織金工ノ六部ニ分テ生徒各自ノ天稟ニ應シ其一ヲ專攻セシム

本科ノ出品左ノ如シ

- 一、圖案教授順序
- 二、建築裝飾圖案
- 三、製版圖案
- 四、染織圖案
- 五、窯業圖案
- 六、漆器圖案
- 七、金工圖案
- 八、石版應用陶磁器標本
- 九、三色版印刷順序標本
- 十、生徒實驗製版成績品

機械科

本科ニ於テハ機械學ノ原理及各種工業用ノ機械製造法ヲ授クルニ在リト雖モ就中蒸汽、瓦斯、石油、水力發動機、工作用機械及紡績、織、製紙、機械等ハ其ノ應用最モ廣キヲ授ケ兼テ圖畫ノ練習、各種試驗機械及精測器ノ實驗トニ依リ機械製造ニ必要ナル智識及經驗ヲ修得セシム

- 一、第三年生製圖
- 二、第一年生木工實修製作品
- 三、同 鑄造實修製作品
- 四、可鍛鑄鐵實修成績品
- 五、第三年生仕上實修製作品
- 六、同

七同

八同

- 九、第二年生鍛工實修製作品
- 十、同 仕上實修製作品
- 十一、同 金工板金實修製作品
- 十二、磨研機
- 十三、中心穿孔機
- 十四、右ハ旋盤ニ於テ工作スル物體ニ中心孔ヲ穿ツニ用フ
- 十五、仕上用萬力臺
- 十六、日本工業地圖
- 十七、日本原動力地圖

建築科

本科ハ建築ニ關スル學理及技術ヲ授ク即チ實修ニ於テハ和洋建築ノ製圖及建築ニ關スル諸戰ヲ實地ニ就キ研究セシム

本科ノ出品左ノ如シ

- 一、圖書館設計圖
- 二、銀行設計圖
- 三、旅館設計圖
- 四、同
- 五、日本住宅設計圖

附屬職工徒弟學校

一、洋服筆筒

三、用筆筒

以上ハ木工科指物分科生徒ノ實修成績品ナリ

三、仕上及鍛工實修製作品

右ハ金工科生徒ノ實修成績品ナリ

右ハ東京高等工業學校ニテ發行シタル出品略説ニ據レルモノニシテ出品ノ選擇宜シキヲ得テ斯學ノ爲又工業者ノ爲ニ有益ナル參考タルモノト認ム

工業試驗所出品調査報告

工業試驗所ニ於テ現今從事シツアル事業ハ次ノ四部ニ關スル事項ナリ

第一部 一般ノ分析ニ關スル事項

第二部 化學工業ニ關スル事項

第三部 窯業ニ關スル事項

第四部 色染工業ニ關スル事項

今本所ノ事業及各部出品ノ概要ヲ舉クレハ左ノ如シ

第一部 分析

本部ノ事業トシテ明治三十八年八月ヨリ同三十九年十二月ニ至ル十六ヶ月間ニ民間實業者ノ依頼ニ應シタル分析試驗ノ類別數ハ左ノ如シ

部 屬

依頼品ノ種類

第一部 一般分析

鑛物、金屬ノ類

件 數

一〇一六

第二部 化學工業

油、蠟、減磨油、塗料、紙、燐寸、石鹼ノ類

一〇八

第三部 窯業

陶磁器、硝子、珐瑯及耐火煉瓦石ノ原料、耐火煉瓦石、硝子、珐瑯、建築材料ノ類

一四四

第四部 色染

纖維、織布、染料、媒染劑ノ類

四七

計

一三二五

一ヶ月平均

八二

第一部 一般ノ分析

本部ニハ出品ナシ

第二部 化學工業

此ノ部ニ屬スル事業ニシテ先ツ試驗ノ必要ヲ認メテ研究シ其ノ結果ヲ發表シタルモノノ項目ハ(一)漆器黒目釜ノ發明、(二)漆様漆器、(三)漆器下地ノ改良、(四)輸出漆器變色漆器、(五)漆液ノ新應用法、(六)漆ノ高温硬化及其ノ應用、(七)漆ノ成分研究、(八)金屬ニ於ケル彩漆ノ應用、(九)椿油ノ試驗、(十)茶油ニ關スル試驗、(十一)樅油ニ關スル試驗、(十二)大豆油ニ關スル試驗、(十三)荏油定數ノ試驗、(十四)蠟油ノ試驗、(十五)油土試驗、(十六)魚油ノ研究、(十七)燐寸ノ試驗等ニシテ此等諸問題ノ試驗成績ハ本所刊行ノ報告書中ニ詳記セリ

本部ノ出品ハ漆器試驗ノ成績物ニシテ、其ノ内漆汁主成分研究成績品ハ最重要ナルモノナリ。從來漆汁ノ化學的智識ハ不完全ナルモノナリシカ本所ニ於テ其ノ主成分ノ研究ヲ遂ケ漆汁ノ性状ヲ闡明シ、且ツ之ニ據リテ漆汁ノ品質ヲ檢定スル方法ヲ案定スルニ至リタルハ、斯業改良上一大進歩ナリトス。又彩漆ニ適用シ得ヘキ「レーキ」顏料ニシテ日光ニ對シ堅牢ナルモノヲ低廉ナル原料ヨリ新ニ製出シ、此ノ種ノ顏料及之ヲ應用シタル漆器數點ヲ出陳シタリ。是亦漆器ノ發展上大ニ裨益ヲ與フルモノナリ。

第三部 窯業

本部ノ試驗成績物トシテ出陳シタルハ、硬質陶器製品ナリ。本邦從來ノ實用的陶磁器ハ、専ラ磁器ニシ

テ陶器ノ品質堅牢、形状正確、色澤清麗ナルモノハ殆ト稀ナリ近時其ノ需用ヲ來シ外品輸入ヲ増シ大ニ此ノ種ノ製品ノ必要ヲ促セリト雖モ我國ニハ未タ之ヲ完成セル者ナシ故ニ本所窯業試驗場ニ於テ之カ試驗ヲ爲シ學理的ノ研究ノ結果ニ基キ先ツ日用洋食器ヲ試製シテ之ヲ出陳シタリ而シテ其ノ成績ハ最好結果ニシテ外國品ニ比シテ毫モ遜色ナキモノナリ

第四部 色染工業

本邦ニ於テ從來研究シタル試驗ノ項目ハ(一)染料堅牢比較試驗(二)編羽二重ノ精練及色染試驗(三)糊附砂羽二重ニ關スル試驗(四)天然藍紺染綿布ト改良紺染綿布トノ堅牢度比較試驗(五)蘭精練漂白及染色試驗(六)貝卸漂白法等ニシテ其ノ結果ハ從來印刷セシ報告又ハ官報等ニ登載セリ
本部ノ出品ハ染料ノ堅牢度比較試驗成績物ナリ現今我國ニ輸入スル染料ノ種類ハ頗ル夥多ニシテ營業者ハ之ヲ甄別スルニ苦シミ其ノ適用ヲ認識スルヲ得ス仍リテ本所色染試驗場ニ於テハ夙ニ之ニ資セントシ色素ノ堅牢度ヲ試驗シテ其ノ結果ヲ報告シタルコト既ニ二回今ヤ第三回ノ試驗ヲ了シテ其ノ成績標本ヲ出陳シタリ而シテ是等ノ成績ハ營業者カ色素ヲ選擇スルニ當リテノ羅針盤トナルヘキモノニシテ斯業ニ裨益アルコト尠ナラヌトス

水産講習所出品

一 水産講習所一覽表

一枚

右ハ水産講習所ノ概況ヲ一見シ易カラシメンカ爲ニ作りタルモノトス
一 寫眞額面

右ハ本所内設備ノ狀況及實習ノ模様ヲ類集シタルモノニシテ前記一覽表ト相俟テ本所ノ實況ヲ窺ヒ知ラシメントスル目的ナリ

本所最近試驗成績品ノ一二

茲ニ記載セルモノハ本所ノ考案ニ依リテ試驗ヲ施シタルモノノ内最近ノ分二三ノ成績ヲ示シタルモノナリ

一本所考案煮乾鱈改良竈

本裝置ハ本所カ煮乾鱈ヲ煮熟スルニ時間及燃料ヲ節約スルヲ目的トスルモノナルカ右ハ鱈ノ豐産アル土地ニ非サレハ試驗ヲ施ス能ハサルニヨリ三重、廣島、大分ノ三縣下ニ築造シ好成績ヲ得タルモノナリ凡ソ煮乾鱈ヲ製造スルニハ其ノ燃料ヲ節約シ原料ノ處置ヲ迅速ナラシムルコト最モ緊要ナリ蓋シ燃料ハ生産費ノ大部ナレハ成ルヘク之ヲ節約スル方法ヲ講セサルヘカラス又其ノ原料ハ極メテ腐敗シ易キヲ以テ大漁ニ際會スレハ往々製品ヲ劣惡ナラシメ不測ノ損害ヲ招クコトアルカ故ニ迅速ニ處置スルノ方法ヲ肝要トス改良竈ハ此ノ目的ニ基キ成ルヘク製造力ヲ大ニシ燃料ヲ節約シ得ラルル様設計シタルモノナリ左ニ大分縣ニ設置シタルモノニ付キ其ノ構造及成績ヲ掲ク

構造

圖ニ示スカ如ク一字形及丁字形ノ二様アリ一ハ徑二尺ノ釜四個ヲ一字形ニ裝置シ他ハ同様ノ釜五個ヲ丁字形ニ裝置シテ内側ニハ耐火煉瓦ヲ用キ外部ニハ普通煉瓦ヲ用キテ築造シタルモノナリ先ツ一字形ノモノヨリ説明センニ焚口及風口ニハ各鐵製ノ扉ヲ設ケテ開閉ヲ自由ニシ火室ニハ「ロストル」ヲ架ク焚口ノ扉ハ縦一尺、横一尺二寸、風口ノモノハ縦八寸、横一尺一寸七分アリ火室ハ釜ノ形ニ從ヒテ圓ク圓徑二尺四寸、深サハ第一號一尺六寸、第二號一尺四寸、第三號一尺二寸、第四號一尺アリ火室ノ底部ニ存スル「ロストル」ハ長サ二尺五寸、幅一尺六寸トス各號ノ火室ニ通スル火門ハ何レモ煉瓦ニテ「アーチ」形ニ積ミ内法ノ底幅一尺、高九寸、厚八寸アリ「ロストル」ノ下面ニ接シ風室ノ與上部ニハ特ニ口徑一吋ノ鐵管ヲ曲ケ延長三尺ノモノヲ三本延長シ二尺六寸ノモノ三本計六本ヲ二列ニ据ヘ附ク何レモ口ヲ第二號火室ノ中央部ニ開カシメ風口ヨリ入り來ル空氣ヲ一旦温メテ導キ茲ニ燃燒セシムル趣向トス又第四號ノ火室ニハ第三號ノ火門ト相對シテ特ニ障壁ヲ設ケ火焰ノ直ニ焰道ニ遁クルヲ防ケリ此ノ障壁

ハ粘土ニテ作り火室ノ後方上面ヨリ懸垂シテ釜肌ノ中央部ニ密接セシム焰道ノ勾配ハ火室底ノ勾配ニ等シク後方ニ於テ漸ク高シ第四號火室ノ外側ニハ「ダンバー」ヲ懸垂セリ煙道ハ「アーチ」形ニシテ直ニ煙突ニ接ス底徑一尺高一尺二寸アリテ煙突臺ニ口ヲ開ク

丁字形竈ノ前面ニハ前者ト同様ナル扉ヲ有セル焚口及風口アリ第一、第二ノ火室ハ左右相並ヒ中央ニハ煉瓦ノ火門底徑二尺高一尺二寸ノモノヲ設ケ相連リテ火門ノ直下ナル底部ニハ凸形ニ「ロストル」ヲ架ク前方ノ「ロストル」ハ長二尺五寸幅二尺ニシテ後方ノモノハ長二尺幅二尺アリ火室ハ第一號、第二號何レモ圓徑二尺四寸深一尺八寸アリ第三號ハ一尺六寸、第四號一尺四寸、第五號一尺二寸アリ第一、第二火室ノ「ロストル」下面ニ接シテ風室ノ與上部ニハ一字形竈ト等シク六本ノ鐵管ヲ裝シ口ヲ第三號火室ノ中央部ニ開カシム又第五號火室中ノ障壁及「ダンバー」焰道ノ勾配等ハ一字形竈ト畧同一ナリ煙突ハ鐵製厚一分、口徑一尺二寸、高三十二尺アリ徑四尺、高三尺ノ煉瓦製煙臺ノ上ニ設ケ上部ニハ滑車ヲ附シ煤煙ノ掃除ヲ爲スノ便ニ供セリ

舊來竈トノ比較

左ノ成績ハ大分縣ニテ從來使用シタル竈ノ最モ進歩セルモノヲ選擇シ改良竈ト比較シテ其ノ優劣ヲ試驗シタルモノナリ

竈ノ種類	點火ヨリ沸騰マテノ時間	製造力ノ比較	原料五十貫ニ要スル燃料ノ費用
一字形改良竈	十三分二十秒	三〇六	八錢一厘 (石炭薪)
丁字形改良竈	二十六分二十秒	二、四七	十錢二厘 (石炭薪)
舊來竈	五十三分二十秒	一〇	十四錢五厘 (薪)

一、本所考案蒲鉾製造用魚肉推碎機械
本機械ハ蒲鉾製造ニ使用スル目的ニテ本所ノ創製セルモノニシテ小田原實習場ニ据ヘ附ケ好成绩ヲ得タルモノトス

蒲鉾製造ニ當リテ魚肉ヲ推碎スル從來ノ方法ハ極メテ簡易ニシテ原料ヲ石臼ニ投シ擦潰スルモノナルカ故ニ多量ノ製造ニ際シテハ不便ヲ感スルコト少カラズ本機械ハ動力ニテ石臼及轉子ヲ回轉スル裝置ニシテ從來ノ方法ニ比スレハ大ニ時間及勞力ヲ省減シ得ヘシ加フルニ其ノ使用方法簡便ニシテ之ヲ以テ製シタル製品ハ敢テ從來ノ方法ニ依リテ製シタルモノニ劣ラサル良品ヲ得ヘシ

一、罐詰鯉燒用瓦斯發生裝置
本裝置ハ米國「ナイヤガラ」機械製造工場ノ製造ニ係ルモノニシテ揮發油或ハ石油ヲ以テ簡易ニ瓦斯ヲ發生セシメ之ニ點火シテ鯉ヲ加熱スルノ趣向ニシテ本所小田原實習場ニ設置シテ生徒ノ實習ニ供用セリ其ノ方法ハ圓筒形ノ「タンク」ニ揮發油或ハ石油ヲ注キ然ル後唧筒ニヨリテ壓搾空氣ヲ充填シ「タンク」ノ上部ヨリ鐵管ヲ以テ油ヲ壓上シテ瓦斯發生器ニ導キ其ノ油ハ流通間燃燒室周圍ニ於テ熱上シ瓦斯狀ニ變セシメ火口ニ噴出セシメ之ニ點火シテ完全燃燒ヲ起サシメ其ノ火焰中ニ數本ノ鯉ヲ投シ加熱スル裝置ナリ本裝置ハ使用方法極メテ輕便ニシテ從來炭火ヲ用キ加熱スル方法ニ比スレハ大ニ時間ト費用トヲ節約スル特長アリ

魚油 五種

元來鮫ノ種類ハ頗ル多ク其ノ分布、習性亦大ニ異ナルト共ニ其ノ肉體組織上ニモ相異アルハ汎ク認識セラルル所ナリ而シテ此ノ油質ノ相異ハ需用者ノ利害得失ニ關スルコト多キモノナレハ採油業者ハ須ラク此ノ點ニ意ヲ止メ採製ノ際其ノ品種ヲ類別シテ判明セシムルコト必要ナリ

然ルニ從來市場ノ鮫油ナルモノヲ見ルニさめ油ナル同名ノ下ニ採油原料ノ種類ニヨリテ區別スルコトナク異種相混同セルヲ普通トス斯クノ如キハ良油モ劣化スルコトアルノミナラス其ノ結果油質始終一定セサルヲ以テ用途上ニ大ナル障害ヲ來スノ缺點アリ此ニ於テ本所ハ其ノ鑑識上ノ標準ヲ定メンカタメ鮫類ヲ各別ニ採油シ少シモ加工精製ヲ加ヘサルモノニ就キテ分析シタルモノナリ本出品ハ其ノ數僅ニ五種ニ過キサレトモ此ノ例ニ依リテ異種ノ原料ト油質ノ關係ヲ明ニシ需用者

カ魚油ヲ採用スル上ニ於テ利害得失ノ存スル所以ヲ知ラシメントスルニ在リ
今出品セシ鮫ノ名稱及其ノ油質等左ノ如シ

品名	比重	引火點	粘 力	凝固點	酸價	酸化價	沃度價
こらめめ肝油 Squatina, Japonica, Bleeker	0.82(1.55)	255(60開)	零下六〇	0.055	110.0	106.5	
からしめめ Spinaid, granulatus, Bleeker	0.82(同)	260(開)	零下七五(開)	0.055	110.0	106.5	
めらめめ油 Caroharhinus gangetica, muller & Heale	0.84(同)	261(開)	零下七五(開)	0.050	113.5	117.2	
くらめめ油 Centrocy elium Ketteri Jarean & Polh.	0.82	261(開)	—	0.037	104.0	103.3	
からすめめ Etmopterus, laefer. Jordan & Anger.	0.85	267(開)	—	0.026	87.8	84.3	

あさくさのり胞子場選定ノ理由

あさくさのりハ河水ノ混合其ノ宜キヲ得タル所ニ繁茂スト雖モ胞子ハ斯クノ如キ所ニ少ク却リテ鹹味多キ所ニ多シ然レトモ鹹味多キ場所ハ成長宜シカラス故ヲ以テ胞子ノ多キ場所ニ胞子蒞ヲ植ヘ之ヲ河水ノ混スル場所ニ移スヲ便トス此ノ方法ハ明治十六年頃ヨリ千葉縣君津郡青堀村ニテ創ムル所ナリ同縣東葛飾郡浦安村ニテモ亦之ニ倣ヒ胞子場ヲ字十萬坪ニ選ヒ年々實行ス今何故ニ胞子場ヲ此所ニ選ヒタルカニ就キ教授岡村理學博士ノ研究シタルモノ左ノ如シ

元來あさくさのりノ胞子ハ鹹味多キ海水ニ豊富ナルヲ以テ沖ヨリ潮ノ衝キ來リ急ニ沖合ニ去ルコトナク一時潮水ノ沮ム所ハ最モ其ノ附着ニ便ナリ今之ヲ十萬坪ニ見ルニ上ケ潮ハ方ニ此方ニ向テ流レ來レトモ地盤少シク高キヲ以テ水ハ此所ニ擴カリ一部ハ東字貝ケ落ニ一部ハ其ノ西方ニ流レ遂ニ其ノ勢ヲ減衰ス是レ十萬坪ノ如キ地勢ノ胞子場ニ適シタル所以ナリトス

一、東京内灣重要魚介類標本 五十一種

東京内灣ニ於テ漁獲セラレ東京市民ノ食膳ニ供セララルル魚介類ノ主ナルモノヲ示シ且ツ其ノ産額、漁期及漁具等ノ一般ヲ掲ケテ參考ニ供セリ即チ別表所載ノ如シ

種 名	産 額	數 量	漁 期	漁 具
すずね Lateolabrax japonicus, C. & U.	4,274	4,478	周年殊ニ八月ヨリ翌年一月ヲ最トス	藻打網、てんや釣刺網
せいら Parapristipoma japonicum, C. & U.	?	?	五月ヨリ九月	藻打網、根打網、一本釣
いさご Scombrops cheilidip teroides, Bleek.	40,000	80,000	三月ヨリ十月マテ	手釣
おぼだひ Sparus major, T. & S.	7,113	56,637	十一月ヨリ翌年七月ニ至ルヲ最トス	こらた繩、曳網、六駄網
くらだひ Sebastodes inermis, C. & U.	3,718	35,542	同上	投網、竿釣、延繩、手釣、刺網
めはる Helicolenus marmoratus, C. & U.	?	?	九月ヨリ翌年五月	延繩、底刺網、手釣
いしもち Corvula schlegelii, Bleek.	5,633	2,690	周年殊ニ五月ヨリ九月ヲ最トス	刺網、延繩、手続網、地引網、天秤釣、鵜繩網、地引網、棹受網
あぢ Trachurus japonicus, T. & S.	2,262	5,289	五月ヨリ十二月	刺網、一本釣、旋刺網
いなだ Seriola quinqueradiata, T. & S.	9,095	23,820	三月ヨリ翌年十一月	延繩、延繩、竿釣、手釣
さば Scomber colias, Gmelin.	16,345	47,825	八月ヨリ翌年二月	引網、延繩、敷網、落網、地
さむら Scomberomorus sinensis, Lacép.	4,888	59,276	六月ヨリ十二月	流網、延繩
さ Silago japonica, T. & S.	2,139	3,437	周年殊ニ五月ヨリ九月ヲ最トス	刺網、延繩、竿釣、手釣
あさだひ Lutilus sinensis, Lacép.	?	?	九月ヨリ翌年三月	延繩、一本手釣
あんこう Lophionus setigerus, Vahl.	?	?	九月ヨリ翌年四月	藻打網
こら Platycephalus indicus, L.	1,690	2,715	四月ヨリ十二月	延繩、手釣、打瀬網
ほうばら Cheilodnich thys Kunn, L. & G.	3,482	5,340	十月ヨリ翌年三月	延繩、打瀬網
はせ Acanthogobius flavinanus, T. & S.	9,160	21,902	四月ヨリ十月	延繩、底刺網、手釣
あしなめ Hexagrammus otakii, Jord. & Star.	3,822	4,653	周年殊ニ五月ヨリ九月ヲ最トス	延繩
ざんぼ Enebras nebulosus, T. & S.	400	400	周年	打瀬網、手釣
ぼら Mugil oeur, Forskul.	1,240	1,638	十月ヨリ翌年四月マテ	竿網、圍刺網、投網
いさな do.	?	?	周年殊ニ八月ヨリ十月ヲ最トス	流網、延繩、手釣、投網

うみたなご	Ditrema temminckii, Bleek.	150	200	五月ヨリ九月	刺網、旋網
ひらめ	Paralichthys olivaceus, T. & S.	198783	228906	十一月ヨリ翌年七月マテ	七日網、手釣、延繩、打瀬網
かれ	Clidodermis asperium, T. & S.	440053	584133	同上	打瀬網、延繩、手釣、見突
したびら	Utinosta Japonica, T. & S.	?	?	同上	打瀬網
さよら	Hyporhamphus sajoi, T. & S.	70210	573211	二月ヨリ九月	八駄網、刺網、延繩、竿釣
しらうま	Salanx microdon, Bleek.	1111133	63366	十月ヨリ翌年四月	四手網、袋網
いわし	Clupea melanostictus, T. & S.	3301157	1071187	周年殊ニ四月ヨリ六月マテ	延繩、刺網、引網、棒受網、刺網
ひしこ	Engraulis Japonicus, S. & T.	4550	26307	四月ヨリ十一月	三艘張網、二艘張網、棒受網、提網
このし	Konosirus punctatus, T. & S.	41184	118486	三月下旬ヨリ十一月	天釣、提網、地引網、棒受網
うな	Anguilla Japonica, T. & S.	11556	8643	四月ヨリ十月	延繩、竿筒、引網、うなぎ橋
あな	Congrellus anago, T. & S.	5905	6270	四月ヨリ十一月	延繩、曳網、手釣
かわな	Monacanthus cihhifer, T. & S.	?	?	?	?
ふぐ	Spheroides vermicularis, S.	779	768	周年	延繩
あかぎ	Dasyatis akajei, M. & H.	460211	47248	五月ヨリ八月マテ最トス	延繩、刺網、空釣
ほし	Mustelus manazo, Bleek.	5454	11285	周年	延繩、刺網
か	Neptunus pelagicus, M. Edw.	5418	4440	周年殊ニ七月ヨリ九月マテ最トス	刺網、打瀬網、手線網
しや	Squilla oratoria, De Haan.	?	?	周年殊ニ三月ヨリ五月マテ最トス	打瀬網、手線網
くら	Penaeus canaliculatus, Olivier.	?	?	周年	桁網
しば	Penaeus Joyneri, Miers.	?	?	四月ヨリ六月及十月ヨリ一月	同上
い	Sepia esculenta, Hoyle.	36733	42992	三月ヨリ六月マテ	いか藻網、刺網、一本釣
た	Octopus octopodia, Poulpe.	33716	13166	周年殊ニ八月、九月マテ最トス	たこ瓶、手釣
か	Ostrea talienwanensis, Cross.	173511	71902	十月ヨリ五月マテ最トス	介殼、鑿
あか	Arca inflata, Reev.	1000	2500	十二月ヨリ翌年四月マテ最トス	介桁網
しほ	Trigonella sachaliensis, Schrenk.	?	?	周年殊ニ夏期マテ最トス	腰巻網、金胴

はまぐり Cytherea meretrix, L. 三二七二二 二一七八五三 周年殊ニ夏期マテ最トス 大巻、鋤廉、腰巻

あさり Tapes philippinarum, Ad. & Ru. 一〇九九四九 二七四八八五 周年殊ニ夏期マテ最トス 腰巻、金胴網

ばかがひ Macra sulcata, Desh. 一五三〇九六 七二七七五〇 十二月ヨリ翌年四月マテ最トス 大巻、鋤廉、腰巻、金胴

なまこ Stichopus Japonica, Selenka. 四九三九 二二九二八 十月ヨリ翌年三月 桁網、打網、ころた網

右ハ水産講習所ヨリ提出シタル説明書ニ依レルモノニシテ水産ニ關スル學術上及斯業者ノ爲ニ有益ナル參考タリシモノト認ム

商船學校出品

一、明治丸及寫真額面

此ノ額面ハ商船學校校舍及練習船明治丸ノ圖ニシテ左ノ説明書ヲ添示セリ

本校ハ遞信省ノ直轄ニシテ高等海員ヲ養成スル所ナリ其ノ創立ハ明治八年ニ係リ舊校舍ハ東京市京橋區靈岸島銀町ニ在リシテ三十二年十一月新ニ地ヲ深川區越中島ニ相シ三十五年一月建築落成シ觀象臺、氣象觀測所等ヲ設備ス校舍繫留ノ練習船明治丸ハ銅製シツプ形ニシテ總噸數一千三十七アリ圖ハ即チ其ノ三分一ノ面積ナリ

一、航海練習船雛形 一隻

大成丸ノ雛形ニシテ形體可ナリ大ニ製作精巧、裝帆ノ具合等マテ一切ノ機能ヲ示スヲ得大ニ觀覽者ノ注意ヲ惹キ之カ爲其ノ周圍常ニ雜踏セリ

左ノ説明書ヲ添示セリ

本船ノ實體ハ最新式ニ則リ工學博士寺野精一ノ設計ニ係ル四本橋「バーク」形、總噸數二千二百八十七噸餘補助機關ヲ有スル鋼製帆船ニシテ學生實地航海練習ノ用ニ供スルモノナリ本模型ハ即チ其ノ二十四分ノ一ノ實形ナリ

一、教習用時辰儀 一個

左ノ説明書ヲ添示セリ

航用時辰儀ハ航海ニ缺クヘカラサル樞要ノ器ナルヲ以テ航海科學生ニハ精ク其ノ構造及運動ノ關係ヲ知ラシムル要アリ故ニ從來圖畫及實物ニ就キテ指教シタルモ如何セン圖畫ハ其ノ運動ヲ實現セス又實物ハ器小ニシテ複雑微細ナル機關ノ動作ヲ示スニ充分ナラサレハ短時日間ニ此等ノ要點ヲ明ニ會得セシムルノ難キハ斯業ニ從事スル者ノ均シク認ムル所タリ是ニ於テ本校教授本多千代雄多年苦心ノ結果新ニ此ノ器械ヲ案出シ明治三十七年始メテ之ヲ教授用トシタルモノナリ此ノ器械ハ上部ニ時辰儀内容ノ全部ヲ現ハシ文字板及其ノ内部ハ反射鏡ヲ用キテ之ヲ下方ニ映出セシメ一見内外部ヲ對照シ易カラシム又「バラストホイール」ノ運動ヲ遲緩ニシ「エスケープメント」ノ動作ヲ判然現出セシメタリ

一、實驗用「ソーニクロフト」式汽鐘錐形 一個

左ノ説明書ヲ添示セリ

此ノ模型ハ「ソーニクロフト」形水管式汽鐘ノ蒸氣釀製ノ際ニ於ケル鐘水ノ循環ノ狀況ヲ明瞭ニ理解セシメンカ爲ニ製作セルモノニシテ學生教授上ノ實驗ニ供スルモノナリ

一、汽力操舵機錐形 一個

左ノ説明書ヲ添示セリ

舵ハ船舶ノ操縦ヲ掌ル重要具ナリ從ヒテ之ヲ轉働スヘキ操舵汽機ハ船用補助機中ノ主要ナルモノニ屬ス此ノ模型ハ學生ヲシテ操舵汽機及附屬機具ノ動作ト轉舵ノ關係ヲシテ一目明瞭ニ理解セシメンカ爲ニ下田本校教諭カ特ニ考案セシモノニシテ動力トシテハ便宜上蒸氣ニ代フルニ壓搾空氣ヲ以テセリ

一、練習船大成丸額面 一個

左ノ説明書ヲ添示セリ

明治三十七年四月神戸川崎造船所ニ於テ竣工シタル總噸數二千三百噸補助機關ヲ有スル鋼製帆船ナリ時恰モ日露ノ變ニ際會セシヲ以テ之ニ從ヒ戰止ムニ及ヒ更ニ艦裝ヲ整ヘ三十九年十月二十五日航海科實習學生八十六名ヲ載セ濠洲シドニー港ニ向ケ初航ノ途ニ上ル途中佛領「ニューカレドニア」島「ブライ」港ニ寄港シ十二月十七日「シドニー」着港碇泊三週間該地官民ノ熱誠ナル歡迎ヲ受ケ四十年一月六日出帆小笠原島ヲ經テ二月十九日無事品川港ニ歸着茲ニ初航ノ終ヲ告ケタリ

此ノ航海ニ要セシ日數ハ總テ百十七日航走距離一萬一千二百四十五哩其ノ間櫛風沐雨赤道ヲ通過セシコト二回ニ及ヒタルモノノ病者ヲ出ササリシハ本船ノ榮トスル所ナリ

一、航用風力計 一個

左ノ説明書ヲ添示セリ

從來船舶ニ於テ風方ヲ觀測スルニ確平タル標準ナク唯人々ノ推測ニ依ルノミニシテ往々人ニ依リテ其ノ力ヲ異ニスルノ憂アリ是レ獨リ我カ日本ノミニ非スシテ西洋各國皆然ラサルハナシ本校教授馬場信倫爰ニ見ル所アリ去ル明治三十七年始メテ航用風力計ヲ作り之ニ依リテ風ノ速度ヲ測リ海上風力觀測ノ一定ヲ圖ラントセリ爾來本校練習船大成丸ニ於テ之ヲ試驗シタリシニ其ノ成績稍好良ナリ因リテ其ノ研究ヲ持續シテ將來益完全ノモノトナサンコトヲ期ス本器械ハ常平架裝置ニ依リテ其ノ水平ヲ保チ船舶ノ橫搦動ヲ受ケサル様工夫シタルモノナリ

要スルニ出品ノ選擇何レモ宜キニ協ヒ其ノ目的ヲ達スルニ於テ遺憾ナキモノト認ム

第六類

東京帝國大學出品

東京帝國大學ノ出品ハ同大學ノ出版ニ係ル東京帝國大學紀要外十一種百十七冊ノ圖書ニシテ右出品
 中東京帝國大學紀要及工科並ニ農科大學學術報告ハ明治二十年以後同大學教授及學生等ノ研鑽ニ係
 レル論文並ニ研究報告ヲ編纂セルモノニシテ各種理學ノ研究上裨益ヲ與フル所尠シトセス且ツ之ヲ
 歐文ニ翻譯シテ廣ク世界ニ頒テテ以テ我カ國學術ノ進歩ヲ世界ニ知ラシメ以テ邦家ノ品位ヲ高ムル
 ニ與リテ偉大ノ力アリ而シテ以上ノ外大日本史料等ノ史料ニ關スル出版並ニ北京宮殿建築裝飾ハ材
 料ノ蒐集ニ幾多ノ勞力ト時日トヲ費シ漸ク之ヲ集成セルモノニシテ其ノ苦心蓋シ尠ナラザリシナ
 ルヘシ之ヲ要スルニ以上ノ出品ハ主トシテ同大學中醫、工、文、理、農ノ五科ニ屬スル研究ノ結果ヲ一部出
 陳セルモノニシテ國家ノ須要ニ應スル學術技藝ヲ教授シ又其ノ蘊奧ヲ攻究スヘキ帝國大學ノ出品ト
 シテ適當ナルモノナルヘキモ文科ニ關スル出品ハ單ニ史料ノ一部ニ止リ又法科ハ相當出陳スヘキ
 モノナキニ非サルヘキヲ一個ノ出品タニ見サリシハ甚タ遺憾トスル所ナリ

東京外國語學校出品

東京外國語學校ノ出品ニ係ルモノハ同校一覽ノ一點ニシテ右ハ明治三十年以後十箇年間ニ於ケル同
 校入學志願者年別増減比較明治四十年二月現在ノ卒業生職業別並ニ同在外國人員及同校沿革ノ大略
 ヲ記載セリ而シテ本表ニ在リテハ既往十箇年間ニ於ケル同校趨勢ノ一斑ヲ間接ニ知ルヲ得ヘキモ尙
 同年度間ニ於ケル毎年度入學並ニ卒業生徒數ノ對比ヲ擧ケサリシハ學校趨勢ノ全豹ヲ窺フニ多少ノ
 遺憾ナキ能ハス

東京美術學校出品

東京美術學校ノ出品ハ全部八十三點ニシテ同校ノ各科生徒ノ製作ニ係レルモノナリ之ヲ大別スレハ
 油畫ハ西洋畫科、毛筆畫ハ日本畫科、彫金、鍍金ハ金工科、蒔繪ハ漆工科、石膏、木彫、牙彫ハ彫刻科、各種圖案ハ

圖案科、鑄金ハ鑄造科生徒ノ成績品ナリトス而シテ右出品ハ特ニ枚舉スヘキ傑作アルヲ見サルモ其ノ
 成績概シテ佳良ニ屬シ且ツ同校科目ノ全部ニ涉リテ其ノ成績ヲ出陳セルヲ以テ同校事業全般ノ一端
 ヲ見ルニ適ス以上ノ外竹内同校教授ノ製作ニ係ル天平式天井中心飾及圖案科生徒ノ考案ニ係ル埃及
 式裝飾ハ同校出陳ノ區劃ヲ潤飾スルニ與リテ甚タ力アルヲ認ム

傳染病研究所出品

傳染病研究所ノ出品ヲ大別スレハ四種類ニシテ之ヲ調査シタル成績左ノ如シ

第一種類 各種細菌培養基及各種細菌培養標本

此ノ種類ニ屬スルモノハ(一)細菌ノ培養ニ使用スル普通ノ培養基、(二)各種ノ病原菌即チ人又ハ牛ノ結核
 菌、(ベスト)菌、破傷風菌、腸チブス菌、赤痢菌、コレラ菌、チフテリア菌、連鎖球菌、肺炎菌、淋毒菌、惡性水腫菌、鳴疽
 菌、脾脫疽菌、膿葡萄球菌、及二三ノ非病原菌ヲ試験管内若クハ梨子狀扁平ノ硝子器内ニ於テ純培養
 セル標本ナリ其ノ中梨子狀硝子器ノモノハ細菌ヲ平板面ニ培養シタルモノニシテ之ヲ垂直ノ位置ニ
 保タシメ觀者ヲシテ當該細菌聚落ノ情態ヲ容易ニ見ルヲ得シメン爲特ニ考案シタルモノノ如シ是レ
 實ニ標本用トシテ細菌ヲ培養スルニハ最モ適切ナルモノト認メタリ

第二種類 細菌毒素豫防液及血清類

此ノ種類ニ屬スルモノハ(一)諸種ノ病原性細菌體又ハ細菌ノ產出物ヲ原料トシテ製作セル各種ノ細菌毒素
 即チ結核菌、チブス菌、赤痢菌、コレラ菌、(ベスト)菌、連鎖球菌、腺疫菌、脾脫疽菌、破傷風菌、チフテリア菌等ノ毒
 素ヲハ液體ノ儘ニシタルト、之ヲ化學的ノ處置ヲ以テ乾燥セシメタルモノトアリ(二)赤痢、チブス、コレラ
 「ベスト」菌等ヨリ製シタル所謂豫防液ナルモノ及赤痢、チブス「コレラ」「ベスト」連鎖球菌、破傷風、チフテリア
 等ニ對スル免疫血清等アリ其ノ他(三)蛇毒並ニ之カ免疫血清、(四)狂犬病或ハ狂水病毒及痘苗等ノ標本ア
 リ就中「チフテリア」毒ハ同所ノ發明ニ係ル特別ノ方法ヲ以テ製造シタルモノニシテ他國ニ於テモ未タ

其ノ例多カラサル強毒ノモノアリ從ヒテ「デフテリア」血清ニ至リテモ今ヤ完全ナルモノト云フヘシ

一五四

第三種類 病的標本

此ノ種類ニ屬スルハ傳染病ニ關スル人體及各種動物體ノ病的組織標本ニシテ例ヘハ猩紅熱患者ノ手皮「デフテリア」義膜、癩病患者ノ手甲、赤痢ノ腸、皮膚「ペスト」、肺結核等ノ人體病的組織、牛ノ眞球病、痘瘡ノ皮膚、蛇毒或ハ「デフテリア」毒ノ注射ニ依リテ斃レタル馬ノ心臟、兎ノ赤痢腸、蛇毒注射ニ依リテ斃レタル「モルモット」「モルモット」ノ結核、「ペスト」鼠及破傷風毒ニ犯サレタル南京鼠ノ標本等ニシテ其ノ大ナルモノハ貯藏液内ニ於テ特異ノ色彩ヲ保チ其ノ小ナルモノハ固有ノ病變セル部分ヲ切片トナシ直徑約三寸乃至五寸ノ時計「グラス」様ノ硝子平板トノ間ニ封埋シタルモノニシテ公衆ヲシテ此ノ特異ナル病變ノ部分ヲ容易ニ視ルヲ得シメタルモノナリトス蓋シ斯クノ如キ組織標本ハ局部ノ病竈ヲ示教スル標本トシテハ最モ巧妙ナルモノナリ然レトモ之ト同時ニ健全ナル同一部分ノ標本ヲ同列セサルヲ以テ醫家以外ノ者ニ在リテハ其ノ如何ニ病變セルカヲ知ル能ハサルヲ憾トス

第四種類 各種ノ模型及器械

此ノ種類ノモノハ馬ヲ免疫センカ爲ニ之ニ病毒素ヲ注射スル模型、免疫血清ヲ採取スル模型、狂犬毒ノ爲ニ斃レタル家兎ノ脊髓ヲ採取シ及家兎ノ眼窩ヲ刺通シテ腦内ニ狂犬毒ヲ注射スル模型、痘瘡製造ノ目的ヲ以テ痘毒ヲ犢牛ノ腹部ニ接種シ以テ發生シタル牛痘ノ模型等アリ而シテ狂犬毒ノ接種及採取、痘苗移植方法ノ如キ共ニ同所ノ創始セルモノニ係レリ

上記ノ外検査用具、各種細菌個々ノ形態及聚落「マラリア」熱ニ關スル諸種ノ精巧ナル顯微鏡寫眞圖、赤痢「ペスト」及肺結核患者死亡統計表、各種血清使用高表等ノ額面數枚アリ

上記ノ如ク傳染病研究所ノ出品ハ各種ノ傳染病ニ關スル病原療治及豫防方法等ノ各方面ニ亘レル研究ノ成績ヲ網羅シタルモノニシテ極メテ有益ナル出品タルハ言フ俟タヌ加フルニ一ノ研究所ニシテ

其ノ規模ノ廣大ナル又多方面ニ涉レル事業ニ對シテ着々成功セルモノハ世界中恐ク本所ノ他ニ其ノ比ヲ求ムヘカラサルハ憾ムラクハ出品點數ノ多キニ比シテ陳列所ノ狹隘ニ失セシト其ノ出品ノ専門的ニシテ高等ナル學術ニ屬スルカ爲一般ノ公衆ニ對シテハ多大ノ印象ヲ與フル能ハサリシコトヲ

第九類 人類學及考古學ニ關スル出品

東京府管内太古遺物ハ東京市ノ蒐集品ヲ主トシ之ニ東京帝國大學理科大學、東京市役所、二條公爵銅駝坊陳列所、眞福寺、興住鶴吉、小林與三郎、立川金之助、野中完一、伊藤源太、青木純造等ヨリノ出品ヲ加ヘ其種類ハ東京市及其ノ附近ニ於ケル石器時代竝ニ上古ノ遺物ヲ集メタルモノニシテ石斧、石棒、石匙、石鏃、石皿、貝輪、土版、紡錘車、色料入レ、骨製品、其ノ他種々ノ石器、土器ヲ始メ曲玉、管玉、棗玉、銅鏡、地輪等善ク其ノ類聚ヲカメ更ニ之ニ附スルニ遺跡分布圖ヲ以テシ人類學、考古學上ノ參考ニ資スルニ足レリ

第十一類

臺灣總督府殖產局出品

度量衡器

臺灣總督府殖產局出品ノ度量衡器ハ同總督府專賣制度ノ下ニ殖產局ノ設計製造ニ係ルモノニシテ度量器ハ十四點、量器ハ二十四點、衡器ハ二十點ナリ製品ハ概シテ其ノ品質佳良ニシテ構造堅牢ナリ特ニ木製樹ハ其用材ノ乾燥脫脂充分ニシテ其ノ組ミ合セ方及塗料ノ着キ方堅クシテ濕氣ノ影響ニ耐ヘ得ヘク又臺秤ノ構造堅牢ニシテ久シク計量ノ正確ヲ保持シ得ヘキ等内地度量衡器製造上參考トシテ裨益スル點尠カラサルモ其ノ價格低廉ナラサルカ爲直ニ之ヲ内地ノ需用ニ應セシムル能ハサルハ甚タ遺憾トスル所ナリ

度量衡器

白仁審査部外國製品館出品調査報告

文房具

英國製萬年筆 五點

東京市日本橋區通四丁目

出品者 丸善株式會社

本出品者ハ三十餘年來學術研究上ニ將又社交上ニ必要ナル各種ノ文具ヲ供給スルニ努ムル者ニシテ萬年筆ノ如キモ之ヲ輸入セシハ恐ク本出品者其ノ嚆矢ナルヘシ而シテ五種ヲ列記セハ左ノ如シ

(1)ベリカン萬年筆

英國製

(2)オノト萬年筆

(3)ウオーターマン萬年筆

英國製

(4)カウス萬年筆

英國製

(5)グラビチー萬年筆

英國製

右ノベリカン萬年筆ハ「ペン」ノ差替極メテ簡易ニ且ツ携帯中體溫ノ影響ニ依リテ管中ノ「インキ」ノ流出スルカ如キコトナシ又螺旋ニ依リテ「インキ」ヲ流出ヲ隨意ニ加減シ得ラルル裝置アリ總テノ點ニ於テ本品ハ現存セル萬年筆中ノ最モ完全セルモノナリ

「オノト」萬年筆ハ最新式ノモノニシテ「インキ」ヲ注入ニ滴量器ヲ用キス筆端ヲ「インキ」壘ニ入レ後部ノ螺旋ヲ少シク緩メテ前方ニ引出ストキハ「インキ」ハ自然ニ管中ニ吸入セラレ手ヲ汚ス等ノ煩ナシ是レ其ノ得色ナリ

「ウオーターマン」萬年筆ハ金「ペン」ノ裏面ニ給墨匙アリ其ノ左右ニ一定ノ刻形ヲ設ケ以テ本管ヨリ供給スル「インキ」ノ貯溜ト流出ノ調節トニ供シ且ツ筆鞘ニ懸鈎アリ以テ衣囊ノ縁ニ懸クルヲ得ヘシ上記ノ二裝置ハ共ニ「ウオーターマン」會社ノ特許ヲ得タルモノニシテ萬年筆トシテハ技巧ヲ盡セルモノナリ

「カウス」萬年筆ハ其ノ筆端「ペン」ニ非スシテ管尖圓錐狀ヲナシ彈機ヲ有スル針其ノ尖端ニ露出シ之カ伸縮ハ以テ「インキ」流出ノ調節ニ供セラル是レ本筆ノ特許ヲ有スル所以ニシテ「ペン」ノ使用ニ慣レサルモノト雖モ能ク之ヲ使用シ得ヘシ故ニ和漢ノ文字ヲ書キ又ハ線引ヲ爲スニ最モ便利ナリ從ヒテ本邦ニ於ケル販路極メテ多シト云フ翻リテ第一部第九類ノ文房具出品中ニ存在セル本邦製ノ萬年筆ヲ見ルニ多クハ此ノ形式ヲ模造セルモノナレトモ悲イカナ孰レモ彈機針應用發明以前ノ形式ニ依レルモノナレハ「インキ」流出ノ調節ヲナスコト能ハス一品モ實用ニ供セラルヘキモノナカリキ「カウス」萬年筆ハ上記ノ如ク彈機針ニ依リテ「インキ」流出ノ調節ヲ行ヒ得ヘキモノナルニモ拘ラス實驗ニ依レハ其ノ適度ヲ得ルコト又容易ナラサルモノノ如ク筆記中又ハ携帶中「インキ」ノ流出スルコト稀ナラス蓋シ一大缺點ナルニ似タリ

運動遊戲用具

英國及米國製運動遊戲用具 四十八點 出品者 東京市京橋區南金六町八番地 日英商會 馬場 壽

品目

品目	英國		米國	
	產地	製造點	產地	製造點
庭	ロンドン	二	ニユーヨーク	三
「ラケット」	ロンドン	一	ボストン	八
球	ロンドン	一	ニユーヨーク	三
「レギュレーションボール」				
「バット」				
野				
「ボール」				
「グラブ」				
球				
「ミット」				
「マスク」				
「ボデープロテクター」				
「フットボール」	ロンドン	三		
「ピンポン」	ロンドン	二		
室内體操具	ロンドン	二		
運動用靴	ロンドン	二		
合計		一三		三五

上記ノ各品ヲ審査スルニ孰レモ此等運動遊戯ノ最モ盛ニ行ハルル英國及米國ノ製作品ナルニヨリ意匠、外觀ノ何所トナク垢脱ケタル品質、技術ノ卓絶ナル、堅牢ニシテ然モ輕硬ナル等何レノ點ニ於テモ本邦製品ニ比シテ一頭地ヲ拔ケルヲ認ム

「ローンテニス」「フットボール」ノ最モ盛ニ行ハルル英國ニ如クナク「ベースボール」ハ米國ニ及フモノ稀ナリ本出品ノ各側ニ就キテ其ノ製作地ト品物トヲ比較セハ一目シテ之ヲ識ルニ難カラズ

凡ソ此等ノ諸品カ本邦ノモノニ比シテ優良ナル原因ハ其ノ需用ノ夥多ニシテ之カ製作ノ巧妙ナルニ

在ルハ言フ俟タスト雖モ又特ニ良好材料ノ豊富ナルト之ヲ一定ノ度ニ達スル加工ヲ施シテ供給スル設備ノ至レルトニ職由セスンハアラシ然ルニ本邦ニ於ケル現況ハ全ク之ニ反セリ一例ヲ舉クレハ「ラケット」ノ如キ先ツ其ノ主要原料タル木材ノ恰好ナルモノハ漸クニシテ近時北海道ト長野縣下トニ發見セルノミ之ヲ專業トシテ木材ヲ切出シ或ハ乾燥シ又ハ定型ニ矯メ下拵ヲナシ以テ「ラケット」製作用材トシテ供給スル者ハ今仍皆無ナリト聞ケリ故ニ製作スル者モ常ニ其ノ心ヲ技藝上ノミニ専ラニスル能ハスシテ材料ノ蒐集準備ニ至ルマテ自ラ之ヲ經營セサルヘカラス是レ何業ニ拘ハラズ創業ノ時代ニ於テハ止ムヲ得サル次第ナレトモ斯業ノ進行ヲ遲緩ナラシムルコト尠シトセス加之本邦ニ於ケル工業家ノ常辦トシテ第一、製造若クハ販賣ヲ專業トスル者少ク其ノ多數ハ商ト工トヲ兼ネタリ第二、彼等ハ其ノ既ニ商工兩業ヲ兼ヌルノミナラス業務ノ少シク隆盛ニ赴クヤ全力ヲ之ニ傾注スル事ヲナサスシテ却リテ本業以外第三、第四ノ事業ヲ開始シ自ラ其ノ力ヲ四分五裂セシムル者多シ斯クノ如クニシテ何ソ能ク二十世紀ノ競争場裡ニ起ツコトヲ得ンヤ本邦ニテ有名ナル體操遊戯用具製作店ノ如キ近年各種ノ模型、標本等ノ製造販賣ヲ開始シタルヲ以テ或ハ彼ノ本業タル運動用具ノ上ニ惡影響ヲ及ホス事ナキカヲ憂ヒシユ今ヤ英米國製ノ運動遊戯ノ用具ヲ視ルニ及ヒテ益、其ノ感ヲ深クセスンハアラズ本邦體育ノ振作實行ニ志ス者何ソ猛省セサルヲ得ンヤ

日英商會ノ出品中「ワイトレ」ノ「エキゼルサイザ」室内體操具及運動用靴ノ如キハ敢テ賞スヘキ特點ヲ有セサレトモ庭球、野球及蹴鞠用具ハ斯業者ノ參考ニ供シテ之カ進歩ヲ促スニ餘リアラン

醫療器械

英國製ノ檢溫器 五點 東京市日本橋區本町三丁目二番地

此ノ醫科用檢溫器ハ英國龍動「ジー、エッチ、ジール」ノ製品ニシテ通計五種トス 出品者 岩本 藤吉

- 第一(No. 6.)ハ棒状ニシテ攝氏ノ度ヲ外面ニ劃シ其ノ下部ニ□形ノ標ヲ附シ示度ノ水銀ヲ容易ニ發見シ得ヘカヲシメタルモノナリ是レ「ジール」ノ特許ニ屬ス(價金二圓)
- 第二(No. 14.)ハ後壁ヲ紅色ニセルモノニテ亦示度ノ發見ニ便セルモノナリ(價金三圓)
- 第三(No. 6¹.)ハ普通ノモノト同シク扁平ノ形狀ヲナス
- 第四(No. 4.)ハ壓還式原名ヲ「The Repello」ト稱シ檢温器ノ上部ニ平打ノ花挿ニ類セル直徑凡ソ二分ノ扁圓形ナル硝子筒アリテ内ニ水銀ヲ盛レリ人若シ此ノ平打形ヲ指間ニ輕ク壓スルトキハ内部ノ水銀ハ膨脹シテ檢温器ノ管内ニ流入シ彼ノ體温ノ爲ニ示度留點セル水銀ヲ壓シテ下部ノ貯槽ニ還流セシムルヲ得ヘシ通常ノ檢温器ニ於ケル如ク水銀ヲ還流セシメン爲ニ之ヲ振ルノ煩ヲ省ケルモノナリ「ジール」ノ特許ニ屬ス(價金四圓五十錢)
- 第五(No. 32.)ハ原名ヲ「Aseptic」「Reset without shaking」ト稱ス檢温器ニハ度目ヲ劃セス其ノ上部ハつまみ形ヲナセリ而シテ之ニ相當スル硝子筒アリ中ニ少量ノ消毒液ヲ容ルルニ供ス度目ハ此ノ筒ノ外面ニ劃セラレ檢温器ノ示度ハ之ニ依リテ知ルヲ得ヘシ其ノ目的ハ主トシテ檢温器ノ消毒ニ在レトモ亦神經過敏ノ患者ニ對シテ體温ノ度ヲ知ラシメサルノ利アリト稱ス是レ亦「ジール」ノ特許ヲ得タルモノニ係レリ(價金五圓)
- 「ジール」ノ檢温器ハ悉ク「エナグラス」ヲ以テ作り其ノ第三號ノ三分ナルヲ除クノ外孰レモ三十秒ヲ以テ正確ニ體温ヲ測リ得ルモノトセリ
- 外國製檢温器ノ本邦ニ輸入セララルモノ其ノ數枚舉ニ違アラスト雖モ近年英國ヨリ輸入セルモノノ中感温迅速ニシテ示度ノ正確ナルヲ誇レルハ此ノ「ジール」ト「ヒック」製トノ二種ト爲ス其ノ形狀、大小、價額ハ殆ト相均シク而モ其ノ優劣ニ至リテハ殆ト相同シキモノトス
- 「ジール」又ハ「ヒック」檢温器ハ共ニ醫師用トシテハ適當ナルモノ一般用トシテハ雙方共ニ多少ノ不利アルヲ免レス何トナレハ第一其ノ價高シ「ヒック」ハ一圓八十錢「ジール」ハ二圓第二形體細小ニシテ取扱ニ不便

ナリ第三劃度細狭ニシテ示度ヲ讀ムニ難シ第四劃度外面ニ在ルヲ以テ洗淨ノ際其ノ著色料剝脱シ易シ最近輸入セル「ヒック」檢温器中其ノ劃度ヲ硝子内ニ盛レルモノアレトモ其ノ價ハ四五圓ナルニ依リ家庭ノ用ニハ供シ難シ

「ジール」ノ有スル檢温器ノ特許ニ就キ其ノ利害ヲ陳ヘシニ

第一、□形ノ標ヲ附シテ水銀ノ示度ヲ發見スルニ便シタルハ一ノ考案ナリ然モ實際使用セル經驗ニ徴スレハ僅ニ有ハ無ニ優レリト云フ程ノモノニ過キサレノミ

第二、第四號、ゼリペロノ反對側ノ水銀膨脹ヲ利用シテ留點セル水銀ヲ還流セシムル方法ハ理學ノ應用トシテ價値アルヲ認ムレトモ其ノ價ノ高キニ拘ラス容易ニ破損スルノ虞アルハ一大缺點ナルヘシ檢温器ノ取扱ニ慣レサル者カ水銀ノ冷却スルヲ待タス周圍ニ物アルニ氣附カス水銀ヲ還流セシメントシテ漫ニ之ヲ振り物ニ觸レテ破碎セシムルコトアレトモ此ノ壓還式装置ノ容易ニ破碎スル虞アルニ比シテ孰レカ利害アラシヤ

第三、消毒檢温器ハ消毒ヲ爲スニ於テ多少ノ便ヲ有スヘシ然モ其ノ高價ナル程特別ノ利益アリトハ認めサルナリ

神經過敏ノ患者ニ體温ヲ示ササルノ利アリト云フカ如キハ一笑ニ附スヘキ能書ニ過キス何トナレハ斯クノ如キ患者カ其ノ示度ヲ知ラスシテ果シテ納得シ居ルヘキカ如何若シ之ヲ示ササルニ於テハ却リテ事實以上ノ體温ヲ妄想シ其ノ害ノ大ナル必ヤ之ヲ示スニ過クルモノアラン

本邦ニ於テモ一二ノ外國製ニ劣ラサル寒暖計及檢温器ヲ製作シ得ル者ナキニ非ラス然レトモ其ノ多數ハ外國製ノ模造品ヲ作ルニ汲々タリ焉ソ新案工夫ヲナスノ違アランヤ近時市中ニ販賣スル檢温器ハ其ノ獨國製又ハ英國製ト稱スルモノ殆ト常ニ模造品ニシテ甚シキハ普國國立度量衡檢定所ノ檢定證マテヲ翻刻シ之ニ無差ノ印ヲ記入シ杜撰ナル檢温器ニ添附シテ販賣スル者アリト云フ此ノ際ニ當リ其ノ利害便否ハ別問題トシテ「ジール」檢温器ノ如ク外國ノ製作者カ常ニ新案工夫ニ怠ラサルノ事實

ヲ示スハ本邦ノ當業者ニ向ヒテ確ニ鞭撻ノ効アルヲ認ム

測量器

一 測遠器

本器ハ三稜鏡ヲ用キテ望遠鏡ノ鏡管ヲ短クシ球準器ヲ用キテ全器ノ水準ヲ正シ縱横二箇ノ廻轉ニ依リテ簡單ニ距離ヲ定ムルニ供スヘキモノトス全體三脚上ニ裝置セラレ堅緻ナル小器械ヲナシ極メテ攜帶ニ便ナリ軍事用其ノ他ノ簡捷ナル距離測定用トシテ有益ナルモノト認ム

東京市京橋區明石町三十四番地
出品人 輸入業 エー、クラウス

時計

時計ノ出品者ハ四名ニシテ此ノ出品總數一千二百二十五點、内横濱市「フアーブル、ブランド」百九十五點、同横濱市瑞西「タバン」會社代理店「ゼーウキトコスキ」商會九十八點、天賞堂江澤金五郎五百三點、服部金太郎三百二十九點トス、而シテ時計器械トシテ完全且精巧ニシテ價值アルモノハ「フアーブル」出品ニ係ルモノニシテ他ハ裝飾用ノモノニ屬シ器械トシテハ殆ト品評スルニ足ルモノナキカ如シ只「ゼーウキトコスキ」商會出品ニ稍精良ノ甲板時計等一二アルノミ

「フアーブル、ブランド」出品ノ「ナルダン」製「クロノメーター」代價五百五十圓及「デック、ウオチ」代價三百五十圓ノ如キ要部ニ「ニッケル、スチール」ヲ採用シ大形下振時計代價一千圓ハ温度ノ伸縮ヲ調和スル裝置完全セリ

電氣時計ハ時計ノ正確ヲ保持スルト共ニ實用上利便ノ點尠カラス且ツ之ニ使用スル電池ハ屋井乾電池角形二號ノモノ二個ヲ以テ優ニ一箇年半ヲ繼續ス其ノ他時計器械組立及振動ヲ示ス「シリコン」「アシクル」及「クロノメーター」ノ三種模型ノ如キハ教授用トシテ精巧ヲ極メタルモノニシテ實ニ羨望ニ堪ヘス

是ヲ觀テ以テ時計器械ノ微妙ナル作用ヲ窺フト同時ニ構造ノ如何ヲ熟知セシムル要具タリ

懷中時計ハ主ニ「ナルタン」製ニシテ各種類ヲ網羅セリ其ノ價ノ高キハ一千五百圓ヨリ低キハ十圓ニ至ルモノアリ高價ナルモノハ裝飾ニ意ヲ用キ彫刻ノ精巧、高雅ナルト共ニ色合ノ甚タ優美ナルモノアリ器械モ又精良ト堅牢ナルヲ選メリ價ノ廉ナルモノモ他ニ比シテ大ニ見ルヘキモノアリ要スルニ裝飾ト共ニ器械ニ意ヲ用キタル點充分ニ了解スルヲ得ヘシ

「ゼーウキトコスキ」會社出品ハ當時流行ノ他器械ト稍、異ル所ナキニ非サルモ然モ構造堅牢ニシテ且ツ彫刻及裝飾共ニ精巧ナルモノアルニ非サルモ概シテ一般ノ需用ニ應セントスル意ニ外ナラス其ノ内一個ノ甲板時計アリ器械ノ精良ヲ期セントスル點ヲ認ムヘシ

天賞堂ノ出品ハ時計トシテ觀察スルヨリハ裝飾品否寧ロ裝飾品兼時計トシテ觀ルヘキカ器械ノ主ナルモノハ米國「ワルサム」製多ク又瑞西製アリ時計器械トシテハ普通品多ク大ニ卓絶シタルモノヲ見スト雖モ彫刻ノ稍、密ナルモノナキニ非ス殊ニ置時計ノ軍艦形、汽車機關形、自動車形、回轉堂形及汽船機關形ニ在リテハ其ノ運轉ノ一部ヲ實際ニ示シ教育上裨益スル所アルト同時ニ目ヲ樂マシムル一具トシテ精巧ノ製作ト認ムヘク尙之ヲ店頭ニ置カハ大ニ人目ヲ引キ看板ノ代用トシテ高尚優美ナルモノトス

服部金太郎出品モ前同様裝飾品トシテ價值アルモノ多ク米國製、獨國製、英國製、佛國製及瑞西製ノ最近ノ各種類アリ就中襟飾用トシテ僅ニ徑一厘許ノ内ニ「アンクル」器械ヲ裝入シタルカ如キ本邦ニ於テハ稀ニ見ル所又精巧ナルト同時ニ器械ノ保證ヲ注意シタリ其ノ他各種置時計ハ皆大同小異ニシテ普通品ヨリ稍、精良ナルモノ又大ニ低廉ナルモノアリ

要スルニ「フアーブル、ブランド」ヲ除キ出品ノ多數ハ貴女紳士用裝飾時計ニシテ器械トシテ觀察スルヨリモ寧ロ美術眼ヲ以テ觀タランニハ價值アラント推察セラル然モ茲ニ特筆スヘキハ近年世人ノ器械ノ堅牢ナルト歪撓ヲ生セサルヲ選ムノ念稍、發達シタルト同時ニ裝飾ヲ專ニスル風潮アルヲ以テ之ニ

應スルニ外ナラサルナリ

望遠鏡其ノ他

東京市「エー、クラウス」出品點數ハ五十八點望遠鏡、雙眼鏡、寫真器及晴雨計等ニシテ精良ノモノ多シ殊ニ測遠鏡、蝸牛式望遠鏡、解剖顯微鏡等ノ如キ「クラウス」獨特ノ技術ヲ顯シ寫真器又最近ノ「シヤッター」ヲ使用シ雙眼ノ裝置アリ只晴雨計ハ空盒製ノモノニシテ普通品ト異ルコトナシ其ノ教授用トシテ特製シタルモノハ大ニ利便ヲ覺ユ

寫真用具

寫真ニ關スル外國製品館内出品ハ「エー、クラウス」商會ノ出品ノミニ止マリ其ノ出品ハ寫真鏡玉十四點外ニ鏡玉附寫真器械三點、寫真用三脚五個「シヤッター」類五點、總計二十七點ニシテ其ノ製品頗ル精巧善ク實用ニ適セリ就中鏡玉「アラナール」、「ウナール」、「プロター」、「テッサール」、「カロプタット」、「ダブルプロター」等ハ皆近時世界各國到ル所ニ稱揚セラルルモノニシテ皆善ク色差ノ調整、歪ノ齊整ニ意ヲ用キ寫真角寫度ノ大小各善ク使用ノ目的ニ適合ス

各種印刷器具、用品及印刷物等

「ウエリントン、タイプライター」

一、「タイプ」ノ鮮明ナルコト

二、印刷面ノ見ユルコト

三、押鈕ノ數少クシテ他ノ「タイプライター」ノ如ク「タイプ」ノ應用自在ナルコト

四、器械裝置簡單ニシテ取外シ自在ナレハ素人ニテモ修繕又ハ掃除シ能フコト

五、器械ハ鋼製ニシテ堅牢ナルヲ以テ永久ノ保存ニ堪フルコト

六、代價低廉ナルコト

本器ハ久シキ以前ノ輸入品ニシテ前記ノ特色アルヲ以テ頗ル便利ナルモノト認ム

「アイデヤル、タイプライター」

一、「タイプ」ノ鮮明ナルコト

二、印刷面ノ見ユルコト

三、押鈕ノ右方ニ把手ヲ附シ此ノ把手ニ依リテ挿紙盤自由ニ回轉シ一行終レハ次行ニ移ル裝置アリ

四、計算尺ヲ附シアリテ印刷用紙ニ自由ニ罫線ヲ印刷シ得ル便利アリ

五、堅牢ニシテ永久ノ保存ニ堪フルコト

右ハ輸入日尙淺キカ故ニ未タ廣ク本邦ニ流布セサルモ以上ノ特色アルニ依リ便利ナルモノト認ム

「デンスモア、タイプライター」

器械最モ堅牢ニシテ「タイプ」亦鮮明ナルモ印刷方法較、舊式ニ屬シハ印刷面ノ見ユサルカ如キ價格

亦不廉ナリトス然ルニ今尙其ノ聲價ヲ失ハサルハ其ノ器械ノ裝置完全ニシテ永久ノ使用ニ堪フル特

色アルニ由ルナルヘシ但シ便利ナルモノノ一ナリ

「サン、タイプライター」

器械ノ構造堅牢ニシテ最小ナル容積中ニ他ノ「タイプライター」ニ等シキ複雑ナル裝置ヲ施シ且ツ其ノ

價格低廉ナルヲ特色トス

「ウエグスタ、インターナショナル、デクシヨナリー」

裝釘ハ堅牢ニシテ且ツ美麗ナリ文字ハ鮮明ナル活字印刷ニシテ挿入繪畫ハ多クハ寫真版ヲ用キタリ

爲ニ價格廉ニシテ廣ク公衆ノ需用ニ適セリ

「フハンダ、スタンダード、デクシヨナリー」

裝釘堅牢且ツ美麗ナリ印刷文字ハ活字、挿入繪畫ハ石版、木版等ニシテ其ノ印刷頗ル鮮麗ナリ

「ネルソン、エンサイクロペディア」

装釘普通ニシテ文字印刷ハ活版、繪畫、地圖等ハ木版、網目版、三色版等ヲ用キ何レモ鮮麗ナリ

「マイエル、レキシコン」
装釘ハ普通ナレトモ活字印刷鮮明ニシテ挿畫又見ルヘキモノ多シ

「ドット、ミッド、ニューインター、ナシヨナル、エンサイクロペディア」
装釘美麗、文字ハ活版印刷、繪畫及地圖ハ石版、網目版、木版等ヲ用キ其ノ印刷鮮麗ナリ

「チャンバア、トエンチャーセンチュリー、デクシヨナリー」
装釘及印刷トモ普通ニシテ著キ特色ヲ見スト雖モ本邦製ニ比スレハ遙ニ優レルヲ認ム

美術書類 宗教書類 工學書類 文學書類 農園藝書類
右ハ装釘普通ニシテ文字印刷ハ活版、挿入ノ繪畫ハ石版、寫眞版、木版等ヲ用キ其ノ印刷ハ實ニ鮮明ナリ
書籍中教文館出品ノ書籍ハ其ノ部數多カラサルモ能ク宗教、文學、歴史、傳記、政治、哲學、理化、數學、小説、音樂、語學及雜等ニ亘リテ興味アル書ヲ陳列シ之ニ附スルニ書簡紙、封筒及骨牌等ヲ以テセリ教文館ハ素ト「メンヂェスト」教會ノ出版所タルヲ以テニヤ外國人ノ日本ニ於ケル著書並ニ日本研究ニ關スル書籍ヲ比較的ニ多ク出品セルハ觀ルニ足ルモノトス

印刷肉

印刷肉並「レーキ」ノ出品ハ西川忠亮、中西京次郎ノ二人ニ止マリ前者ハ北米合衆國「イー、ヂェー、シヤッタ」社、後者ハ同國「カリフォルニア」貿易會社及英國「マンダー」商會ノ製品ニ係リ其ノ種類ハ石版肉九、印刷肉五、「レーキ」十ヲ算ス

西川忠亮ハ本邦印刷肉輸入ノ率先者ニシテ由來印刷業上ニ貢獻セル所尠カラス今回ノ出品ニ係ル印刷肉ノ如キハ色相良好、擴布性ニ富ミ品質ニ於テ一點ノ瑕瑾ナク當業者ノ參考トスルニ足ル中西京次郎ノ出品亦優良ナリト雖モ「レーキ」中往々溶解性ノ色素ヲ包含シ或ル種ノ目的ニハ全ク使用スルニ

堪ヘサルヲ遺憾トス

樂器

東京市京橋區尾張町二丁目

天賞堂 江澤金五郎

右ノ出品者ハ時計、寶玉、貴金屬、美術品等ノ製造販賣ヲ營業トセル傍ラ今ヤ盛ニ蓄音機、寫聲機、「レコード」ノ製造並ニ販賣ヲ事トセリ明治三十三年米國「コロムビヤ」蓄音會社ニ於テ創メテ平圓盤ノ發明アルヤ多年販賣ノ蠟管ヲ擲チ率先之カ輸入ヲ計リ爾來本邦ニ於ケル軍樂ヲ始メ俗樂、詩吟、落語、講談等ニ至ルマテ洽ク諸名流ヲ請シテ之ヲ寫聲シ今ヤ其ノ盤類積ミテ三千餘種ノ多キニ及ヘリト云フ其ノ寫聲盤ハ特ニ斬新ノ意匠ヲ加ヘ家庭ノ玩具ヲ變シテ實用ト娛樂トヲ兼ネタル器械タラシムルニ至リタルカ如キハ其ノ着眼眞ニ賞スヘキアリ

東京市京橋區銀座三丁目

倉田繁太郎

西洋器中彈奏樂器ニハ「ピアノ」、「オルガン」アリ吹奏樂器ニハ「ホルネット」、「クラリオネット」等アリ吹樂器ニハ「ヴァイオリン」、「ギター」、「バンジョー」、「マンドリン」等アリ其ノ他精巧ノ手風琴、斬新ノ蓄音器、「フラジオレット」、「マウス」ハモニカノ如キ玩具等ニ至ルマテ夙ニ世ノ趨勢ヲ看破シ能ク内外各般ノ物ヲ網羅シテ以テ巧ニ嗜好ニ投シ加フルニ汎ク之ヲ廉價ニ販賣スルハ決シテ容易ノ業ニ非サルニ本出品者ハ常ニ銳意之ヲ務ム即チ本出品者ノ如キハ本邦ニ於ケル西洋音樂ヲ進歩セシメ樂器ノ製作ヲ改善セシムル上ニ於テ間接ニ貢獻スル所尠カラサルモノトス

東京市京橋區銀座一丁目

松本武一郎

方今蓄音器ハ公會用、家庭用、店頭用トシテ需用極メテ大ナルニ當リ出品人ハ盛ニ之カ輸入ヲ爲シ其ノ販路ヲ擴張ス其ノ創業ノ當時本邦雅俗ノ樂曲ヲ吹込ムニ際シ或ハ記錄器吹込針ニ或ハ蓄音器聞針ニ幾度カ改良ヲ謀リテ蹉跌シ苦心焦慮スルコト四星霜ノ久シキニ亘リタルノ後遂ニ能ク之ヲ完成セシメタリ加之平素廣ク海外ノ事情ニ注意シ益、新器ヲ輸入販賣セントスルコトニ熱中セルモノハ邦家ノ爲恠ニ嘉スヘキモノトス

玩具

玩具ニ屬スルモノハ日本銃砲店出品ノ米國製小兒銃及倉田樂器店出品ノ金屬製電車、汽車、汽船ノ模造玩具ナリ其ノ製作ハ何レモ綿密堅固ニシテ完全ナルモノナリト雖モ本邦一般ノ家庭ニ於ケル兒童用トシテハ其ノ價格ノ高キニ過クル嫌ナキ能ハス蓋シ止ムヲ得サルモノ歟

協會出品

日本與國貿易株式會社出品ノ事務整理用器具「カード」容器「タイプライター」附事務用机ハ米國「グローブ、グーニツケ」會社ノ製作品ニ係リ何レモ最モ複雑ナル商業事務ノ整理上ニハ缺クヘカラサルモノニシテ本邦ニ在リテモ漸次之ヲ使用スル必要アルニ至ルヘシ但シ目下ニ於テハ未タ斯カル高價ノ事務用具ヲ設備シ得ルモノ多カラス舊ニ依リテ比較的簡單ニシテ廉價ノモノニ安ンスルヲ免レス然レトモ是等複雑ナル器具ノ利便ヲ認識セシムルコトハ教育上忽ニスヘカラサル所トス

東京勸業博覽會審査報告卷二

正木審査部

總說

審査部長 正木直彦

第二部及第三部ニ於ケル各分科ノ審査報告ヲ爲スニ當リ本部全體ニ關スル事項ノ要領ヲ略述スヘシ
第二部ハ美術及美術工藝ヲ網羅シ第三部ハ建築圖案及工藝圖案ニシテ鑑査ノ便宜上左ノ分科ニ類別シ
鑑査モ亦此ノ分科ヲ製用セリ

- 第一科 東洋畫
- 第二科 西洋畫
- 第三科 彫塑
- 第四科 彫版、寫眞
- 第五科 篆刻
- 第六科 金工
- 第七科 漆工
- 第八科 木竹、牙角、介甲工
- 第九科 陶磁、七寶、玻璃
- 第十科 染織、刺繡
- 第十一科 建築圖案
- 第十二科 工藝圖案

科別	鑑査點數	合格點數	不合格點數	鑑査點數ニ對スル合格數百分率
第一科	八六五	三三〇	五三五	三八
第二科	二四九	一〇〇	一四九	四〇
第三科	一一一	六九	一六二	二九
第四科	二五	一六	九	六四
第五科	七七	二六	五一	三三
第六科	一三六	七九	五七	五八
第七科	八七	二四	六三	二七
第八科	三五	一一	二四	三一

第九科	五五	二〇	三五	三六
第十科	二七	二二	〇五	八一
第十一科	五	五	〇	一〇〇
第十二科	一九九	一四一	五九	七〇
合計	一九九〇	八四三	一、一四九	四二

出品ヲ許可セルモノ八百四十三點ノ内出品ヲ見合セタルモノ二十點アルヲ以テ實際陳列セルモノハ八百二十三點トス此ノ内東京府管外ノ出品ニ係ルモノ七十點アリ

第四回内國勸業博覽會	出品數	出品許可數	百分率
第五回内國勸業博覽會	四、一五	八九〇	二一
東京勸業博覽會	五、八八二	八六七	一四
審查ノ成績左ノ如シ	一、九九〇	八四三	四二

分科	出品總點數	出品總人員	名譽銀牌	一等賞牌	二等賞牌	三等賞牌	褒狀	小計
第一科 東洋畫	三二七	二九四	〇〇	〇〇	二五	二四	八九	一四六
第二科 西洋畫	九	七〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	四	四
第三科 彫塑	九四	五〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	一八	四〇
第四科 彫版、寫真	五五	二五	〇〇	〇〇	〇六	〇〇	一六	四〇
第五科 篆刻	一七六	〇六	〇〇	〇〇	〇二	〇一	〇〇	四
第六科 金工	二二	一七	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇六	一四
第七科 漆工	一一	一	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇三	四
第八科 木竹牙角介甲工	〇九	〇六	〇〇	〇〇	〇〇	〇一	〇二	〇五
第九科 陶磁、七寶、玻璃	〇五	五七	〇〇	〇〇	〇〇	〇一	〇一	〇五
第十科 染織、刺繡	二八	五五	〇一	〇一	〇〇	〇〇	〇一	〇五
第十一科 建築圖案	〇五	〇五	〇〇	〇〇	〇〇	〇一	〇〇	〇三
第十二科 工藝圖案	一一〇	七六	〇〇	〇〇	一五	〇一	〇二	〇三
總計	八二二	六一一	五	四	三	一	二〇	三三

分科	出品總點數	出品總人員	名譽銀牌	一等賞牌	二等賞牌	三等賞牌	褒狀	小計
第六科 金工	六六	三二	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇九	四四
第七科 漆工	二二	一五	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇三	四
第八科 木竹牙角介甲工	〇九	〇六	〇〇	〇〇	〇〇	〇一	〇二	〇五
第九科 陶磁、七寶、玻璃	〇五	五七	〇〇	〇〇	〇〇	〇一	〇一	〇五
第十科 染織、刺繡	二八	五五	〇一	〇一	〇〇	〇〇	〇一	〇五
第十一科 建築圖案	〇五	〇五	〇〇	〇〇	〇〇	〇一	〇〇	〇三
第十二科 工藝圖案	一一〇	七六	〇〇	〇〇	一五	〇一	〇二	〇三
總計	八二二	六一一	五	四	三	一	二〇	三三

第四回内國勸業博覽會	出品總數	褒賞總數	百分率
第五回内國勸業博覽會	八九〇	三九七	四五
東京勸業博覽會	八五三	三九二	四五
右本會ノ褒賞數ヲ入員ニテ示セハ下ノ如シ	八二三	四三五	五三
右ノ褒賞總數ヲ第四回及第五回内國勸業博覽會ノ褒賞數ト對比スレハ左ノ如シ	八二三	三七二	四五

第四回内國勸業博覽會ニハ名譽賞二點アリ第五回ニハ全ク之ヲ缺キ本會ニ於テハ名譽銀牌四個ヲ授與セリ又協贊賞狀ヲ授與セル數ハ五十四名ナリ

鑑査ノ分擔及審査ノ分掌竝ニ各分科主任並ニ報告員ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一科 東洋畫

主任 川端 玉章

第三科 彫塑

主任 高村 光雲

第二科 西洋畫

報告員 瀧川 合精

第四科 彫版

主任 米原 雲海

主任 住持 黒田 清輝

主任 大山 助一

報告員 久米 桂一

報告員 寺崎 廣業

報告員 小正 太郎

報告員 岡田 三郎

右第三科ニ於テハ審査ヲ開始スルニ當リテ左記二名ヲ加ヘタリ
右第四科ニ於テハ審査ヲ開始スルニ當リテ左記二名ヲ加ヘタリ

第五科 篆刻

主任及報告員 今泉 雄作

主任及報告員 今泉 雄作

第六科 金工

主任 濱村 藏六

主任及報告員 鹽田 景真

第十部 染織、刺繡

主任及報告員 鹽田 景真

右第六科ニ於テモ審査開始ニ際シ左記二名ヲ加ヘタリ

第七科 漆工

主任及報告員 岸光 景

第十二部 美術工藝圖案

主任及報告員 福地 復一

第八科

主任 木竹、牙角、介甲工 石川 光明

主任及報告員 島田 佳矣

東洋畫出品ハ總數三百二十六點ニシテ授賞ノ數ハ一等八、二等二十五、三等二十四、褒狀九十三ナリ、之ヲ地方ニ分テハ東京ノ出品ハ三百十七點、東京以外ノ出品ハ九點ニシテ、褒狀四點ヲ除ク外ハ悉ク東京ノ出品ニ屬セリ

要スルニ今回ノ出品ハ東京以外ノ者誠ニ少數ナレハ以テ全國ニ於ケル東洋畫ノ狀況ヲ察知スルニ足ラスト雖モ東京ニテハ殆ト各種ノ著名ナル流派ニ屬スル作家ノ出品アリ又所謂大家ノ出品モ少カラサルカ故ニ其ノ全體ニ於テ現在畫界ノ大勢ヲ察知シ得ルモノナキニ非ス

第一、流派ノ關係ヲ以テ見レハ今回ノ出品ハ一方ニハ舊流派ノ城壁ヲ破リテ技術ノ革新ヲ計ラント欲スル者アルト同時ニ又他方ニハ舊流派ノ作法ヲ遵守シテ漫リニ新法ヲ交ヘサラントスル者アリ是等ハ其ノ數ニ於テ殆ト相半シ新舊兩派ハ相對峙シテ互ニ其ノ地ヲ讓ラサル觀アリ舊派ニ屬スルモノノ中ニハ所謂様ニ依リテ胡蘆ヲ描クモノ殊ニ多ク北宗ニ屬スル漢畫派若クハ圓山、四條派ノ如キ偶筆力ニ於テ見ルヘキモノアリト雖モ其ノ意匠ノ如キハ何レモ陳腐ニシテ興趣ノ認ムヘキナシ南宗畫及大和繪ノ如キモ古人ノ糟粕ニ甘シテ偏ニ描寫ノ熟練ヲ誇ルニ過キササルモノ多キニ居ル又新派ト稱スヘキモノノ出品ニモ斬新ヲ欲スルノ餘途ニ常軌ヲ脱シテ突飛ノ形相ヲ爲シ或ハ純正繪畫ノ目的ヲ誤リテ形式ノ美ヲノミ志セル者尠カラズ其ノ弊害ニ至リテハ或ハ舊派ノソレニモ劣ラサルヘシ然レトモ之ヲ一般ヨリ察スルニ畫ノ興趣ニ留意シテ摯實ノ作法ヲ爲ス者ハ舊派ヨリモ寧ロ新派ニ多ク從ヒテ最優ノ賞ヲ得タルモノノ比較的此ノ方ニ多數ナリシハ當然ナリ

第二、意匠ノ點ニ於テ今回ノ出品ニ毫モ秀妙ノモノアラサルハ甚々遺憾ナリ或ハ作者カ自ラ意匠ノ畫ニ必要ナル所以ヲ充分ニ理解セス單ニ技法ノ熟練ヲ以テ畫ノ最大目的ト爲スカ如ク思ヘル者ナキニ非サルカ如シ是等ハ美術ヲ作ルヨリモ寧ロ職人者流ノ仕事ヲ以テ自ラ甘スル者ト謂フヘキ平而シテ其ノ稍、意匠ニ重キヲ置ク者ニ在リテハ其ノ規模ノ雄大ナルモノ少ク偶、畫ノ紙面ヲ大ニシテ以テ雄大ノ氣ヲ得タリト爲スカ如キ者ハ多ケレトモ是等ハ小局ノ圖ヲ伸寫スルニ過キササルモノニシテ其ノ紙面ノ大ナルニ從ヒテ益、興趣ノ缺乏スルヲ覺エシム技法習練ノ上ヨリ見レハ大紙面ノ製作決シテ價値ナシト云フヘカラサレトモ眞個雄大ノ氣ハ必スシモ紙面ノ大ニ基カス尋常大ノ畫幅ニテモ其ノ經營ノ如何ニ依リテハ亦至大ノ意ヲ寓スルヲ得ヘシ近年作者ノ博覽會出品等ニ於テ徒ニ大畫面ノ作ヲ爲スハ是唯觀者ノ注意ヲ惹カント欲スル陋劣ノ意志ニ出ツルモノ多キコトハ惜ムヘシ蓋シ作者ノ意匠ヲ輕視スルモノ多キハ其ノ舊派ニ屬スル畫家ノ大部分カ古人ノ粉本ヲ小變シテ作圖ヲ爲シ又甚シキハ有名ナル古圖ヲ其ノ儘ニ寫シテ僅ニ彩色ヲ變シタルニ過キササルモノアルヲ以テモ證トスヘシ新派ノ徒ニ在リテモ圖ヲ平凡ナル西洋ノ印刷畫ナトニ取リテ新奇ヲ術ハントシタルハ見惡シ概スルニ畫題ノ人物ニ係ルモノヲ畫クハ大和繪ヲ除キテハ青年ノ作家ニ多ク其ノ意匠ハ未タ決シテ賞美スヘキモノアラズ殊ニ多數人物ノ活動セル狀態ヲ寫スカ如キニ至リテハ拙劣ナルモノ多ケレトモ其ノ舊派ノ作ニ比シテ苦心ノ大ナルモノ多キハ賞スヘシ動植物畫ニ至リテハ意外ニモ其ノ意匠ノ狭小ニシテ或ハ孔雀、虎、鷄ナトノ類ヲ寫スモノノミ目立チテ多キハ遺憾ナリ山水ノ圖ハ最モ多數ニシテ其ノ作法モ種々ニ分カレタレハ一概ニ論スルヲ得サレト亦意匠ノ見ルヘキハ少數ナリ

第三、意匠ノ幼稚ナルニ反シテ技術ハ漸ク熟達ノ徵ヲ認ムヘシ然レトモ其ノ巧妙ナルモノハ概シテ精緻、恰モ工藝ノ術品ヲ見ルカ如キ感アリ色彩ノ如キモ其ノ配合ノ麗美ニシテ生理的ニ快感ヲ催サシムルモノハアレトモ其ノ畫ノ意想ニ契合シテ能ク其ノ體ノ美ヲ成セルモノハ罕ナリ殊ニ色彩塗布ノ方法カ只管平滑ヲ尙ヒテ何等ノ餘韻ヲモ生シ得サルハ最モ識者ノ譏ヲ免レ難キ所トス蓋シ邦畫ノ著色ニ關シテハ近年新ニ之カ工夫ヲ試ミル者出テ是等ハ或ハ技法上他ノ重要ナル事柄ヲモ犧牲ニ供シテ一意專心色彩ノ美ヲ發揮スルニ努ムルカ如クナレト是畢竟形式派ニシテ未タ邦畫ヲ其ノ全體トシテ發達セシメ得ルモノニ非ス又是等ノ流ニ在リテハ或ハ邦畫ニ必要ナリトセラレシ筆致ヲ無視スルモ

ノ多ケレトモ今回ノ出品ニ依リテ見ルニ一時新様ニ走リシ作家モ漸ク筆致ノ重ンスヘキヲ覺知シテ殊更線ノ應用ヲ多カラシメシモノアルヲ如シ舊派ニ屬スルモノハ固ヨリ筆力ヲ尊重スルモノ多ク殊ニ近頃ノ纖弱ナル畫風ニ反動スルカ如ク故ラニ雄勁ノ筆ヲ用キタルアリ然レトモ又是等ハ單ニ筆力ノ一義ニノミ拘泥シテ形相其ノ他ニ於ケル工夫ヲ輕視シ筆力ノ見ルヘキ割合ニ却リテ畫ノ興致ヲ失ハシム而シテ是等カ特ニ所謂老大家ノ作ニ多キハ甚タ惜ムヘシ畫ノ形象ニ關シテハ舊慣ニ隨ヒテ不自然ナル標示ノ方法ニ安ンヌルモノ少カラサレト又一方ニハ寫實ヲ努メテ硬化ヲ脱セント欲スル者ノ漸ク多カラントスルヲ認ム然レトモ其ノ寫實タルヤ部分的ニシテ完全ナルモノ少ク日本畫ニ特有ナル想化ノ基礎トシテハ充分ナルモノ多カラス

第四、西洋畫法ノ折衷ハ近年青年畫家ノ間ニ流行シタルモノニシテ今回ノ出品ニモ其ノ例ヲ見ルコト少カラス即チ形象、布置、色彩等ノ上ニ於テ西洋風ヲ學ヒテ從來ノ邦畫ノ技術ノ及ハサル所ヲ補ハント欲スルカ如キモノアリ然レトモ其ノ多數ハ失敗ニ終リト謂フヘシ何トナレハ其等ハ率ネ洋畫ノ皮相ヲ學ヒテ寧ロ其ノ必要ナラサル所ヲノミ摸倣シ爲ニ和畫ニモ非ス洋畫ニモ非サル一種ノ變態ヲ爲スニ過キサレハナリ然レトモ洋風折衷ハ習學中ノ青年ニ多ク稍其名ヲ知ラレタル者ニハ比較的少ク是等ハ或ハ近頃ニ至リテ折衷ノ弊害アルヲ覺リテ自ら改メタルニ非スヤト察セラル果シテ然ラハコハ寧ロ邦畫ノ爲喜フヘキ事ナリ洋畫ノ折衷モ其ノ方法如何ニ依リテハ大ニ必要ナル事アランカ今日迄ノ實例ハ寧ロ害アリテ益ナキモノ多シ特ニ今回ノ出品ニモ其ノ例ヲ見ル如ク西洋雜誌ノ平凡ナル挿圖中ヨリ形相ヲ取り集メテ拙劣ノ布局ヲ爲シ唯從來ノ邦畫ト其ノ趣ヲ異ニスルヲ以テ得意ト爲スカ若クハ漫ニ全幅ヲ塗色シテ油繪ニ似タル莊重ノ趣ヲ得ント欲スル者ノ如キハ最モ戒メサルヘカラス

第五、古人ニ學フ法亦種々アリ所謂舊派ノ作家ハ大概自己ノ屬スル流派以外ニ眼識ヲ擴ムル度量ナク從ヒテ其ノ古人ヲ學フ所以ハ却リテ其ノ技術ヲ狹隘ナラシムル所以ト爲ルニ過キス次ニ新ナル見識

ヲ以テ諸種ノ流派ニ亘リテ古人ノ作法ニ私淑セント欲スル者近頃漸ク其ノ數ヲ増シタルカ如ク今回モ青年有爲作家ノ出品中ニハ少數ナカラ其ノ實例ヲ見サルニ非ス然レトモ是亦畫ノ根柢トナルヘキ意匠ノ上ニ於テ古人カ爲セル雄圖ヲ學ハント欲スル者ハ罕ニシテ寧ロ一部ノ形相ニ就キテノミ古法ヲ參酌シ從ヒテ其ノ畫ニ於ケル精神ノ統一ヲ得サルモノ多キハ遺憾ナリ蓋シ古畫ニ學ヒテ其ノ所長ヲ綜合スルハ夫ノ洋畫ヲ折衷スルモノト同シク兎角其ノ方法ヲ誤リ易キモノニテ其ノ之ヲ爲スハ却リテ爲ササルニ如カサル場合ナシトセス將來作家ハ豫メ其ノ方法ヲ熟慮シテ而ル後之カ適當ナル實施ニ出ツルヲ努メサルヘカラス

之ヲ要スルニ日本畫ハ今ヤ正シク過渡ノ時代ニ在ルモノノ如ク一方ニ舊慣ヲ持續セント欲スル者アルト同時ニ又他方ニハ新様ヲ案出シテ革新ヲ計ラント欲スル者アリテ頗ル紛雜ノ狀ヲ呈シ技術ニ關シテモ固ヨリ將來ノ模範ト爲ルヘキ程秀妙ナルモノヲ見サルナリ殊ニ一般ノ作家カ技術以外ニ適當ナル學識ノ修養ヲ缺ケル者多キハ即チ其ノ改善ヲ容易ナラシメサル一原因ナリト斷セサル能ハス然レトモ今回ノ出品ヲ以テ之ヲ前同ノ博覽會ニ於ケルモノニ比スルニ著ク卓絶シタルモノアラサルハ明白ナレト全體ニ於テ稍進歩ノ徵ヲ認ムヘキモノナキニ非ス特ニ少數ナレトモ青年有爲作家ノ奇矯ニ流レシテ稍穩當ニ古様ト新様トヲ調和シ更ニ寫實ニモ留意シテ興趣アル製作ヲ成シタルハ最モ喜フヘキ所トス

西洋畫

報告員 久米桂一郎

今回ノ博覽會ハ計畫發表ノ時期甚タ遅ク準備ニ必要ナル時日ノ短少ナリシニ拘ラス洋畫ノ出品ハ意外ニ多數ナリキ是蓋シ泰西文明ノ感化ニ依リテ開ケタル此ノ技藝ハ東京ヲ中心地トシタルニ第三回勸業博覽會ノ開カレテヨリ以後東京ニ於テハ公設競技ノ舉久シク中絶シ技藝家カ奮ヒテ其ノ製作ヲ提出シタルニ因ルヘシト雖モ而カモ現代思想ノ普及ト共ニ洋畫ニ志ス者漸ク多ク既ニ修得セル成績

ヲ公衆ニ示サント欲スル者著ク増加セルコトヲ見ルヘシ
 洋畫類ノ出品ハ三月十日ヲ以テ最終期日トシ同日マテニ受理セル製作ハ管内出品二百四十三點、管外
 出品六點、合計二百四十九點ニシテ鑑査ノ結果謝絶セルモノ百五十點アリ確定出品總數ハ九十九點ナ
 リ此ノ内油畫六十九點、水彩畫、バス、テ、ル、畫等三十點ニシテ出品セル技藝家ノ人員ハ八十名ナリ
 美術作品ノ陳列配置ニハ概シテ深キ注意ヲ要スルコト勿論ニシテ殊更洋畫ニハ描寫ノ精疎、調色ノ濃
 淡、強弱、構圖ノ輕重、畫面ノ大小等ニ相異セル所多ク其ノ配置宜シキヲ得サルトキハ隣接セル製作ノ間
 ニ相互ニ調和ヲ妨ケ損害ヲ被ルコトアリ本會ニ於ケル洋畫類ノ陳列ハ當事者ノ委囑ニ依リ審査官中
 ヨリ岩村透、和田英作、滿谷國四郎ノ三名出テテ之ヲ擔當シ鑑査事務ノ結了シテ出品ノ確定スルヤ否ヤ
 直チニ其ノ陳列ニ着手シ各製作ニ就キ個々ノ特徴ヲ識別シテ適當ノ配置ヲ爲シ他ノ部類ニ先シテ整
 頓ヲ告ケタルヲ以テ開會ノ當日ヨリ觀覽者ノ注意ヲ惹ケリ
 然レトセ陳列館ノ構造其ノ他ノ設備ニ關シテ多クノ缺點アリシハ遺憾ナリト云ハサルヲ得ス從來ノ
 博覽會ニ在リテハ人類靈能ノ生産タル美術作品ヲ他ノ工藝ト區別シ其ノ品位ヲ揚ケ名譽ヲ表スルカ
 爲ニ會場内ニ於テ特別ノ地域ヲ選ミ他ノ陳列館トハ其ノ趣ヲ異ニセル一ノ美術館ヲ有スルヲ例トセ
 リ假令其ノ築造ニハ尙希望スヘキ點少カラサリシト雖モ美術ヲ禮遇スル意ハ即チ之ヲ備ヘタリ今回
 ノ博覽會ニモ美術館ノ設アレトモ其ノ建物ハ染織工業ニ充テタル第三號館ニ並ヒテ何等ノ外觀ヲ異
 ニスルコトナク其ノ構築ハ却リテ一般工業ノ陳列館ニ劣リタルカ如ク館内ハ床板ヲ張ラスシテ全部
 ヲ土間トシ泥履ヲ着ケ雨傘ヲ携ヘタル觀覽者カ狹隘ナル通路ヲ往來スルニ任セタリ一時世人ヲ驚カ
 シタル雨水漏洩ノ災害カ美術館ニ於テ殊ニ甚シカリシハ明ニ其ノ構造ノ他ノ陳列館ニ比シテ一層粗
 惡ナリシヲ證スルニ足ル是實ニ美術作品ヲ優遇スル道ヲ得サルノミナラス長キ苦心ノ製作ヲ出品シ
 テ其ノ保管ヲ托シタル技藝家ニ不安ノ意ヲ生セシムルモノニ非スヤ美術館ニ必要ナル裝飾ヲ施スコ
 トハ經費ノ許ササリシ所ナリトセンモ設計者ニシテ美術ヲ尊重スルノ念慮更ニ深カリセハ前述ノ失

態ハ必スシモ避ケ得サルコトニハ非サルヘシ尙繪畫及彫像ノ陳列ニ最モ切要ナル條件ハ室内光線ノ
 分配ノ適度ナルヘキ一事ナリ採光ノ方法ニ關シテモ今回ノ美術館ハ他ノ陳列館ト其構造ヲ異ニシタ
 ルコトナク特ニ建築ニ考案ヲ加ヘサリシヲ以テ光線ノ照射均一ナラスシテ場所ニ依リテハ陳列品ノ
 効果ヲ充分ニ顯示スル能ハサルモノアリ洋畫類ノ陳列區ニテハ側面ノ窓口ヲ閉鎖シ天井ニ布ヲ張リ
 テ過激ナル光線ヲ遮斷シタルニ由リ幾分カ此ノ缺點ヲ補フトヲ得タリ是等不備ノ點アルハ本會ノ事
 業カ早急ニ經營セラレタルカ爲ニ已ムヲ得サル所ナルヘシト雖モ會場設計ノ初メニ方リテ専門家ニ
 諮ラサリシヲ遺憾ナリトス將來此ノ種ノ事業ヲ計畫スルニ臨ミテハ豫メ充分ノ研究ヲ爲スヲ要スル
 ナリ

本會ニ出品セル洋畫ハ鑑査ニ於テ約五分ノ三ヲ減シ陳列セラレタルハ百點ニ滿タス其ノ數ニ於テハ
 未タ満足スルヲ得スト雖モ例年開カルル私設展覽會トハ大ニ趣ヲ異ニシ描法調色ノ技巧ニ於ケル種
 々ノ傾向アルモノヲ集メテ其ノ變化ノ見ルヘキモノアリ之ヲ以テ略シ我邦ニ開ケタル洋畫ノ現狀ヲ察
 スルヲ得ヘク其ノ一般ノ成績ハ頗ル佳良ニシテ將來ノ發達ヲ期待スルニ足ルコトヲ認ム出品者中ニ
 ハ多年ノ修養ヲ積ミ其ノ力量ノ既ニ世ニ知ラルル者アリ或ハ歐米ノ藝術地ニ遊ヒテ技法ヲ研キタル
 者モ少シトセス然レトモ其ノ大多數ハ我カ邦ニ在リテ官立若クハ私設ノ學校又ハ研究所ニ入りテ學
 習セル青年技藝家ニシテ既ニ有爲ノ才能アルヲ表示セルハ大ニ注意スヘキコトナリ蓋シ東西開化ノ
 觸接ハ年ヲ逐ヒテ愈々親密ヲ加ヘ世界的智識ノ普及スルニ隨ヒ西洋藝術ノ研究ニ志ヲ立ツル者漸ク増
 加スレハ其ノ中ニ頭角ヲ挺ル俊秀ノ顯ハルヘキハ必然ノ理ニシテ世俗ノ好尙未タ遠ニ之ニ伴ハス洋
 畫ニ對シテ尙甚タ冷淡ナルニ比シ技藝ノ進歩ハ顯著ナリト謂ハサルヘカラス描寫ノ技巧ニ至リテハ
 既ニ熟練ノ程度ニ達セル者アリ各自ノ傾向ニ從ヒ種々ノ方面ニ誠實ナル研究ヲ積ミツツアルハ喜フ
 ヘキ現象ナリトス勿論之ヲ以テ直チニ歐米ニ於ケル技藝ト對比セハ尙甚タ懸隔アルヲ免レサレトモ
 一般ノ嗜好低クシテ需用ノ道未タ開ケス練修ノ資料備ヘラス獎勵ノ方法全ク闕ケタル今日ニ於テ技

藝家カ一身ノ勤勉ト熱心トヲ以テ多クノ難境ニ處シ此ノ進歩ヲ實現シ得タルヲ諒トスヘシ今後更ニ一段ノ進境ニ入ラントスルニハ技藝家ノ奮勵ヲ囑望スルト同時ニ是時ノ缺點ヲ擧ケテ技藝家ニ對スル社會ノ同情ヲ喚起セサルヲ得ス

今回出品ノ製作ヲ畫題ノ種類ニ依リテ大別スレハ風景畫最モ多數ヲ占メ油畫水彩畫ヲ併セテ六十二點ヲ算シ人物畫ハ二十三點、靜物及動物畫十四點ナリキ人體ノ表現ヲ以テ藝術ノ基礎トスル洋畫ニ在リテ人物畫ノ斯ク少數ナルハ其ノ發達ノ程度高カラサルヲ察スヘキニ似タレトモ必シモ此ノ現象ニ依リテ其ノ進運ヲト知スルヲ得ス原來東洋ノ思想ハ花鳥風月ノ自然ニ對シテ情趣ヲ馳スルコト深クシテ形相ノ美ヲ解スル素養ハ一般ニ乏シキ所ナレハ西洋ノ技法ヲ修メテ之カ運用ヲ試ミントスルニ方リ最モ感シ易キ風景ニ先ツ筆ヲ揮ハントスルハ至當ノ順序ナルヘシ歐洲ニテモ十九世紀ノ後半ニ入り自然主義ノ鼓吹セラレテヨリ風景畫ハ著ク品位ヲ高メタルカ如ク人物ヲ主トスル構圖ニ在リテモ天然ノ景致ハ繪畫ノ一大要素ト見做サルニ至レリ他日我カ邦ノ洋畫カ歐米ノ藝術ニ對シテ一派ヲ爲スコトアラハソハ往時ノ和蘭陀畫派ニ類シテ更ニ清楚ノ趣致ヲ加ヘタル風景畫若クハ風俗人物畫ニ於テ優出スヘキカヲ豫想セシム是國民自然ノ性情ニシテ人爲的ニ此ノ傾向ヲ左右スルコト能ハサルヘシ風景畫出品ノ比較的多數ナルハ技藝家カ天然ニ對シ誠實ノ研究ヲ爲シ穩健ナル手腕ヲ養ヒツツアル徵候トシテ見ルヘク其ノ技倆ノ既ニ渾熟シ時々刻々變化無限ナル光景ヲ探リテ能ク其ノ情趣ヲ表出シ或ハ瞬間ノ物象ヲ固定シテ傳彩ノ妙アル佳作モ少シトセス本會ニ於テ進歩ノ最モ顯レタルハ風景畫ナルコト爭フヘカラス更ニ進ミテ一層ノ妙境ニ入り益々個性ノ特長ヲ發揮シ有力ナル一派ノ成體ヲ期セサルヘカラス通途ノ畫材以外ニ出テス凡調單味ニ流ルル弊ヲ避クヘキハ言ヲ俟タサレトモ徒ニ新奇ニ馳セテ運筆ノ弄巧ニ陥リ寫生ノ修練未タ足ラサルニ早ク既ニ綜約ノ手段ヲ考フルカ如キハ藝術ノ真趣ヲ害スルヲ以テ深ク之ヲ戒メサルヘカス

人物ヲ寫シテ形相ノ美ヲ表出スルハ藝術ノ至高ナル目的ニシテ天稟ノ材幹ハ練磨ノ功ト相俟テ始

メテ其ノ熟達ヲ望ムヘク修業ノ難易ハ素ヨリ風景其ノ他ノ畫品ト同日ノ論ニ非ス描寫ノ疵瑕ハ容易ニ寛假セラレサルヲ以テ鑑査ニ於テ落選ノ不幸ニ遭ヒタルモノ多ク此ノ種ノ製作著ク減少シタルハ止ムヲ得サル所ナリ然レトモ確定セル少數ノ出品中ニハ大幅ノ畫面ニ多クノ人像ヲ綜合シ其ノ布局若クハ體形ノ研究ニ苦心ノ功ヲ奏シ全局ハ効果佳良ニシテ情致モ亦備ハリタル大作ノ觀者ノ注意ヲ惹ケルモノアリ或ハ婦人ノ容色姿勢ヲ精察シ膚肉ノ溫調、衣褶ノ綴法ニ手練ノ巧緻ヲ見ルヘキモノアリ他ニ畫題ヲ舊記佛說ニ借リ若クハ譬喩的精神ヲ以テ思想畫ヲ試ミタル二三ノ作家モアリ其ノ構圖ノ意匠頗ル賞スヘクシテ技巧ノ之ニ伴ハス未タ人ヲ首肯セシムル能ハサリシモ此クノ如キ至難ナル圖題ニ思索ヲ凝ラスニ至レハ我カ邦ノ洋畫カ新ナル進路ヲ開ケル徵證ナリトス蓋シ才氣餘リアリテ精力及ハサルハ我カ一般人業ノ竟ニ泰西ニ一籌ヲ輸セサルヲ得サル所以ニシテ殊ニ藝術ニ在リテハ一ノ製作カ未タ結了ニ至ラサルニ早クモ筆ヲ抛テ終ニ圓滿ノ技倆ヲ示ササルモノアルハ眞ニ遺憾ナリトスヘシ苟モ蕪漫ナル濫作ニ耽ルコトナク堅忍ノ志操ヲ動カサス眞摯ナル研究ヲ積ミテ技藝ノ大成ヲ期センコトヲ將來ニ向ヒテ切望スル所ナリ

以上洋畫部出品ノ全體ニ就キテノ所感ヲ概說セリ個々ノ製作ニ對スル品評ハ擬賞ノ發表ニ依リテ自ラ定マルヘキヲ以テ茲ニ其ノ說述ヲ畧セリ要スルニ本會ニ集メタル洋畫ハ既往ノ博覽會ノ出品ニ比較シテ著ク技藝ノ平準ヲ高メ將來益々發展ノ氣運ニ向ハントスル徵候ヲ顯ハシタルコトヲ結論スヘシ

彫 塑

報告員 大 村 西 崖

彫塑ノ出品六十九點アリ鑑査品二百三十一點ノ中ヨリ選拔シタルモノニシテ皆各、多少ノ見ルヘキ所アリ一々ノ作品ニ就キテノ批評上ノ意見ハ略、擬賞ノ等級ニ依リテ表セラルルカ故ニ茲ニ詳述セス今唯各材體ニ從ヒテ類別シタル上ニ就キテ聊カ所見ヲ述ヘムニ象牙彫刻ハ從來海外輸出ノ盛ナリシカ爲ニ年々進歩シ來リシカ第五回内國勸業博覽會以後ニ於ケル變化ノ著キモノハ作風ノ寫生ニ進ミタ

ルコト幾個ノ材ヲ集メタル數尺ノ大作行ハレタルコト等ナリ作風ノ寫生ニ進ミタルハ十年前以來西洋彫塑教授法東京美術學校ニ採用セラレ粘土ヲ用キテ生人ヲ寫生スルニ從ヒ技風モオノツカラ西洋ノ寫生風ニ近ツキシモノ石膏像銅像等ニ行ハレ其ノ舊來ノ國風木彫ニ比シテ頗ル斬新ナルカ爲ニ頓テ木彫牙彫ニモ採用セラレ牙彫ニ在リテハ初メ青年ノ名手一二人ヲ試ミシカ次第ニ流行シテ多クハ此ノ新作風ニ倣フニ至リタルナリサレハ牙彫家モ大作ハ皆先ツ其ノ原型ヲ粘土ニ作リテ而ル後之ヲ本材ニ移スヲ常トシ推敲オノツカラ足リテ比較上佳作ヲ出スコト多シ然レトモ出品中ノ數點ヲ除ク外大抵皮相ノ寫生ニ局シ或ハ肢體衣服等物質ノ表現ニノミ留意シテ徒ニ細巧曲折ニ馳セ人身ノ骨格ニ解剖學上ノ瑕疵アリ全體ノ形象妥帖ヲ缺ケルコトヲ免レヌ蓋シ作者ノ修養尙足ラサルヲ表白スルモノナリ集材大作ノ行ハルルニ至リタル動機ハ果シテ那邊ニ在ルヤヲ詳ニセスト雖モ由來小品ノ佩墜ヨリシテ盈尺ノ置物ト爲レル牙彫ノ進運次第ニ茲ニ至ルヘキ傾向アルニ加フルニ木彫ノ自在ニ大作ヲ出シ銅鑄ノ近年漸ク輸出ノ好況ヲ呈シタルニ對應セムトスル思想ノ自然ニ貯材ニ富メル牙彫商ノ間ニ起レルカ爲ナラム恰好ノ用途ナキカ故ニ廉價ナル鋸削ノ薄片ヲ利用シ集メテ羽翼ヲ作リテ以テ巨大ナル鷲鳥ト爲セシ巧點ノ比ニ非スシテ軌近ノ集材牙彫ハ材ヲ糜スルコト甚タ多ク價格從ヒテ貴ケレハ其ノ餘リニ大ナルモノハ恐クハ將來モ多ク行ハレサラム木彫ハ立體美術ニ設色ノ喜ハレサルトソヲ主トセシ佛像ノ建立殆ト絶無ナルトノ爲ニ集材中空ノ舊法復之ヲ用キルニ宜シカラス自然ノ材色ヲ以テ弄ハムニハ木材ノ紋理彫塑上ノ純形觀ヲ亂リ中空ノ法ニ依ラサル實材ハ往々乾燥ニ裂ケ尖端ノ細部或ハ缺ケ易キカ爲ニ適用ノ方途少クシテオノツカラ銅鑄像等ノ流行ニ壓倒セラレ製作年ヲ逐ヒテ少キコトヲ致シ今回モ僅ニ數點ノ出品アリシニ過キス其ノ佳ナルモノハ作風皆塑造ノ寫生風ニ屬シテ舊來ノ木彫トハ全ク一變セリ蓋シ木彫ヲ以テ塑造銅鑄ニ對抗セムハ容易ナラス設色木彫ノ佛像既ニ需用ナシトセハ木彫ハ木造建築及家具ノ裝飾某種ノ浮彫品乃至席玩ノ小品等ノ外適當ノ用途ヲ發見シ難ク從ヒテ塑像銅像ト寫生風ノ大作ニ並鑑スルニ宜シカラス或ハ方面ヲ變シテ他

ノ材體ノ能クシ難キ一刀彫小作り仕上ケ等ノ範圍ニ刀鑿ノ妙味ヲ肆ニスルカ得策カモ知レス鑄銅ノ作品ハ近年大ニ發達セリコハ一面美術學校卒業者ノ漸ク巧妙ナル原型ヲ供給スル者多キヲ加ヘ一面海外輸出ノ途開ケ又屋外ニ建ツル紀念銅像ノ行ハルルニ由リテ急ニ盛況ヲ呈シタルナリ多數ヲ標準トシテ言ハハ今日ノ彫塑ハ銅鑄品概シテ最モ佳作ニ富ム蓋シ塑造ヲ專ラニスル彫塑家ハ大抵原型ノ製作ヲ以テ任シ敢テ自ラ之ヲ金石等ノ質ニ複製スルヲ好マス而モ其ノ複製ノ最モ原型ノ眞ヲ失ハサルハ全ク工匠的ナル鑄造法ニ如クモノナキカ故ニ原型作者亦最モ其ノ作ノ鑄ラルルコトヲ喜フモ亦一原因ナルヘシ今回ノ出品ニ塑造ノ石膏型脫品ハ前數回ノ博覽會ニ比シテ最モ多カリシ所以モ上述ノ説明ニ依リテ亦之ヲ解スルニ足レリ此ノ種ノ出品ニハ西洋趣味ノモノ少カラスコハ寫生塑造ノ新法元之ヲ西洋ニ取リシニ基ケルモノニシテ將來日本ノ社會ニ行ハルルヤ否ヤハ疑問ナリ大理石彫ノ出品一點アリシカ故アリテ審査ノ決セラルルニ及ハスシテ撤去セラレタリ作風亦他ノ石膏品ノ屬ナリキ銅鑄ト相反シテ石彫ノ作者ハ極メテ少シ洋風建築ノ需用漸ク増スヘケレハ他年多少ノ發達ヲ期セサルヘカラス乾燥像モ亦作者ノ需用共ニ同シク稀ニシテ今回ノ出品僅ニ一點アリキ必然ナル應用ノ良途ヲ發見スルニ在リテハ恐ラクハ行ハレサラム浮彫ハ木彫ニ一銅鑄ニ一アリシニ過キスコハ需用ノ多キモノナレハ一層ノ進歩ヲ望マサルヲ得ス以上ノ諸品概シテ作風ハ比年傾キ來レル寫生風多少ノ進歩ヲ認ムト雖モ大要殆ト同風ニシテ作者個々ノ特色賞スヘキモノ著カラス是或ハ後世指シテ明治式ト謂ハムモノカ

彫版寫眞

報告員 合田清

同 大築千里

彫版ノ出品點數ハ僅ニ六點ニ過キスト雖モ其ノ中特ニ稱揚スヘキモノ尠シトセス印刷局ノ鋼鐵彫版彫刻ノ肖像ハ本邦ニ於ケル唯一ノ製作品トス抑、銅版彫刻ハ泰西諸彫版術中ノ至難ナルモノナルニ拘ラ

ス其ノ技術能ク此ノ域ニ達シタルハ實ニ彫刻家ノ熱心ナル研究ノ結果ナリ
 審美書院ノ出品ハ第五回内國勸業博覽會ニ比シテ技術ノ進歩大ニ見ルヘキモノアリ浮世繪名蹟帖ハ
 本邦固有ノ木版ヲ以テ精巧緻密ニ古畫ヲ模刻シテ而モ其ノ古色ヲ損セス一見原畫ニ對スル感アリ是
 本邦ノ以テ誇ト爲スニ足ル所ニシテ彫刻印刷ノ進歩ハ茲ニ其ノ極ニ達シタリト云フヘシ又同院ノ光
 琳派名蹟帖ハ其ノ彫刻ノ精巧ナルコト前者ニ異ナラサルノミナラス寫真版ヲ併用シテ大ニ人工ヲ減
 シ木版ノ容易ニ成シ能ハサル所ノ墨色マテモ亦能ク之ヲ摸シ得タルハ此ノ種ノ藝術ニ於テ一機軸ヲ
 出シタルモノナリ然レトモ爲ニ木版固有ノ趣味ヲ減殺スル感ナクハアラス故ニ美術的價值トシテハ
 寧ロ寫真版ヲ併用セサルヲ勝レリトス

伊上凡骨ノ畫譜ハ同シク本邦固有ノ木版ヲ以テ水彩畫鉛筆畫等ヲ模刻シ巧ニ洋畫ノ本領タル陰影濃
 淡ノ調和ヲ得シメシハ其ノ配色ニ際シ筆者ノ助力ナシトセスト雖モ亦彫版印刷ノ伎倆大ニ稱スヘキ
 モノアリ而シテ洋畫模刻ノ術ノ如キハ尙一層ノ研究ヲ要スルヤ論ヲ俟タス

小柴英侍ノ石版風景畫ハ先ツ「クレイヨン」ヲ以テ紙上ニ畫キ後之ヲ石面ニ轉寫製版セシモノニシテ此
 ノ方法タル普通ノ石版術ニ比シ最モ困難トスル所ナリ技術ニ熟達セル者ニ非スンハ焉ソ能ク此ノ成
 功ヲ見ルコトヲ得ム殊ニ少數ノ版面ヲ以テ高雅ナル原畫ノ筆趣配色ヲ模寫シ得タルニ至リテハ明カ
 ニ製版者ノ伎能ヲ證スルモノナリ

寫真ノ出品モ其ノ數僅ニ十ヲ超エス加之其ノ製作ニ至リテモ尙頗ル不完全ノ感アルハ大ニ遺憾トス
 ル所ナリ繚リテ第一部ニ屬スル寫真印畫ノ出品ヲ見ルニ却リテ精妙ニシテ第二部ノ出品ニ比シ遙ニ
 卓越セルモノ多シ而シテ斯クノ如ク第一部出品ノ中ニハ寧ロ第二部ノ出品トシテ取扱フヘクシテ第
 一部出品トシテハ審査取扱上頗ル不便ヲ感スルモノアリ斯クノ如キハ出品者カ自己ノ出品部類ヲ明
 知セサルニ由ルモノニシテ是又本科ニ屬スル今同ノ出品カ其ノ數其ノ技術ニ於テ遙ニ第一部出品ニ
 劣ルノ原因ト云ハサルヲ得ス望ムラクハ爾後ハ當局者ニ於テ其ノ製作者ニ對シ適當ノ出品部類ヲ明

示シ今回ノ如キ憾ナカラシメンコトヲ切望シテ止マサル所ナリ

篆刻

報告員 今泉雄作

本邦篆刻ハ刀法篆學ノ道開ケテヨリ寶曆ノ頃高芙蓉出テ篆學刀法略體ヲ具ヘテ今日ニ至レリ然レト
 モ世ニ鐵筆ヲ弄スル人多クシテ其ノ正統ヲ繼續スル者少シトス近日徽派浙派ノ二流興リテ其ノ風ニ
 倣フ者モ亦多シ然レトモ支那ニ派ノ開祖タル程穆情丁敬身ノ堂奧ニ入レル者ハ未タ之ヲ見ス其ノ篆
 學ニ至リテハ之ヲ講習スル者少カラスト雖モ出凡ノ人ハ未タ有ラサルニ似タリ故ニ本邦篆刻ノ一技
 ハ幼稚ノ域ヲ脱セシモノトハ云ヒ難シ而シテ東京市ノ外ニ名手ノ多キハ京都市トス其ノ外府縣一二
 ノ刻手無キニ非サレトモ概シテ右ノ範圍ヲ出テサルニ似タリ況ヤ今回ノ出品ノ如キハ僅々數十顆之
 ヲ以テ全豹ヲ評スルヲ得ス又隨ヒテ名手ノ出品モ至リテ少シ其ノ他管外出品ノ如キハ概シテ匠氣紛
 々文士ノ雅玩ニ當ラサルモノ多シ之ヲ綜論スルニ今日ニ於テ此ノ技ハ更ニ向上ノ域ニ達スルヲ俟ツ
 ヘキモノトス

金工

報告員 大森惟中

美術工藝ノ金工ハ彫金、鍍金、鑄金ノ三種ニ分レ竝ニ東京ノ特技トスル所ニシテ今代ノ名工ヲ以テ世ニ
 稱セラルル者尠シトセス今其ノ沿革ヲ略叙スレハ
 彫金ハ明治以前ニ於テ刀劔ノ裝飾ヲ主トシ鏤、目、拔、線、頭、及、小柄、筭、等ノ類小ナル工作ヲ爲スニ過キス其
 ノ模様ハ家派(後藤祐乘)ノ後ト江戸派(横谷宗珉)ノ門流トヲ問ハス共ニ狩野風ノ筆意ナリ維新ノ後廢
 刀ノ令一タヒ出テヨリ是等ノ製作ハ一時全ク其ノ跡ヲ歛メタリシカ故帝室技藝員加納夏雄氏始メテ
 片切ノ技ヲ以テ一世ニ鳴リ時計側及懷中卷簾入等ニ四條派ノ畫風ヲ施シタリ是ヲ彫金ノ一變革トス
 爾後海野勝珉、香川勝廣ノ諸氏相尋イテ輩出シ近來ニ至リテハ花瓶、卷簾箱等ニ施工セルモノ世ニ流行

シ海外人モ亦盛ニ其ノ技術ヲ稱贊スルニ至レリ當初高肉薄肉彫象眼諸器ノ歐米博覽會ニ出陳セラレルルヤ彼國ノ審査官ハ其ノ精密ナル彫刻ト肉合ノ高低トヲ見テ全ク器械力ニ藉ルモノト爲シ會テ之ヲ異トセサリシカ我カ事務員ノ説明ヲ聞キ始メテ日本手藝ノ巧妙ナルニ驚キタリト云フ是實ニ我カ邦特殊ノ工藝トシテ萬國ニ誇ルニ足ル況ヤ往時細小ノ裝飾ニ止マリシモノ今ハ數尺ノ器物ニ製作セラレ室内缺クヘカラサル要品ト爲リ夫ノ寸徑ノ根附彫ヨリ進化シ來リテ尺餘ノ彫像ヲ製セル象牙工ト共ニ發展ノ逕路ヲ同シクシ明治美術史ニ特書スヘキ新技術ト爲レリ從ヒテ平象嵌ニ布目象眼ニ各專業ノ工手ヲ出シ就中布目象眼ハ故鹿島一布ノ創意ニ由リ山水ニ花鳥ニ適意ノ圖樣ヲ現シ得ルニ至レリ

鍍金ハ元來下地師ヲ以テ目セラレ彫金家ノ器地ヲ造ルニ過キサリシカ東京彫工會ノ創立セラレルニ隨ヒ黒川榮勝平田重光ノ諸氏主トシテ鍍工部ヲ設置シ專ラ鍍起鍍金ノ工技ヲ精研シ彫金ト相對立シテ愧チサルニ至ル是ニ於テ切嵌切透シ等ノ新技術ヲ創出シタリ尋イテ日本金工協會ノ立ツヤ益其ノ規模ヲ擴張シ近年輸出銀器ノ盛況ヲ呈シ聲價ヲ海外市場ニ馳スルモノ諸氏カ率先ノ功與リテ力アルナリ

鍍金ハ其ノ傳來最モ古ク佛像ニ寺鐘ニ巨大ノ製作ヲ爲セルセノアリ中世ニ至リテ其ノ業衰ク衰ヘ特ニ一世ニ傑出スル者アラズ然ルニ明治ノ初ニ當リ帝室技藝員鈴木長吉始メテ鷲及鷹置物竝ニ大香爐ヲ歐米博覽會ニ出シテ名聲ヲ顯シ日本鑄造ノ技藝ヲ示シタリ岡崎雪聲又其ノ大作ヲ以テ名ヲ知ラル近年西洋鑄造ノ術東京美術學校ニ採用セラレ卒業生盛ニ出テタルヲ以テ鑄造ノ製作一時ニ隆興シ是ニ由リテ東京ノ鑄製品ハ全ク其ノ面目ヲ一變シ人物動物ノ象型ハ言フニ及ハス他器ノ物ニモ亦之ヲ應用シ延イテアンチモノ製品ニモ及ホシタリ然レトモ從來使用セル蠟型ノ鑄造ハ一種ノ工技ニシテ其ノ細密ノ部分ヲ表出スルハ粘土型ノ及ハサル所ナリ古銅器ヲ摸シテ温然掬スヘキ風致ヲ現スハ殊ニ蠟型ノ特色トス加之大島如雲氏ノ如キ最モ鑄凌ビノ術ニ長シ其ノ施工ヲ經テ始メテ觀ルヘキヲ

致ス是ヲ石膏ノ原型ニ依リ其ノ儘ニ鑄成スルモノト固ヨリ趣ヲ異ニセリ内外人ノ贊稱スル所亦此ノ點ニ外ナラス然ラハ則チ鑄工モ亦彫金ト等シク我邦ノ一技術トシテ獎勵セサルヘカラス以上東京ニ於ケル各種金工ノ現況ナリ而シテ本會美術館ニ陳列セラレタル東京府下ノ出品ハ六十六點ニシテ其ノ出品人員ハ二十八人トス之ヲ第四回及第五回内國博覽會ニ比較シテ品數ノ許多ナルハ京都大阪兩地ノ如ク相懸隔セス東京所在地ノ開設ナルニ由リ又東京府廳ノ勸誘アリシニ由ル各府縣ノ出品ハ至リテ少ク京都府ト石川山梨ノ二縣ノミ其ノ人員五名ニシテ品數モ之ニ同シ金工技藝家ノ東京ニ多クシテ各地ニ少キハ是ヲ以テ知ル可シ其ノ中賞選ニ上レルモノ一等二品二等十品三等十五品褒狀十五品トシ外ニ紀念一等一品同三等一品同褒狀二品ヲ得タリ之ヲ出品總數七十一點出品人員三十三名ニ比率スレハ受賞ノ數約十分ノ六強ニ當レリ

而シテ場中ヲ通觀スレハ優品大作頗ル多シ今其ノ特異ナルモノヲ舉クレハ江澤金五郎出品海野勝珉作銀製花盛器ハ徑二尺五寸周圍六尺ニ近シ其ノ紅羅小禽ヲ彫ルニ各種ノ金屬ヲ應用シ彫方ノ變化悉ク備ハル就中片切ニ大鑿ヲ用キ健雉ニシテ氣勢アルコト泥土ヲ切ルカ如シ是從前ニ例ナキ所ニシテ精熟ノ技ニ非サレハ能ハス其ノ賞首タル亦宜ナリ同出品同作銀製孔雀小函ハ周邊ニ四禽ヲ配シテ鳥ノ五客ヲ表シ彫嵌精絶ナリ但其ノ小器ナルヲ以テ次點トシ擬賞ノ數ニ入レス大西榮輔出品香川勝廣作銀製松梅花瓶ハ鈴木華邨ノ筆意ヲ寫シ刀痕ノ活潑ナル頗ル人意ヲ快ニス然レトモ同作臙銀舞子濱圖小函ノ穩健巧密ナルニ如カストシテ降等スルコト孔雀函ノ例ニ同シ此ノ他同作ニシテ賞ヲ擬セサルモノ之ニ準ス川端虎三郎出品關口一也作銀製孔雀花瓶ハ形式頗ル大ニ彫鏤ノ精細燦然目ヲ悅ハス製作ノ勞想フヘシ天賞堂出品太田政親作臙銀三船御遊圖小函ハ工作精緻ニシテ優美ナリ四邊ニ歌句ヲ配ス多田花香女ノ書スル所其ノ筆意ヲ誤ラス象嵌中ノ尤品トス同出品宮智一男作布目象眼月夜圖小函ハ山脇荷聲ノ畫ニ依リ巧ニ月下樹木隱映ノ狀ヲ寫ス太々新致アリ其ノ鳥金糸目ノ函マタ能ク夜景ニ適應セリ同出品臙銀花見小袖小函ハ豊川光長ノ作ナリ意匠布圖竝ニ清警ナレトモ其ノ肉合稍厚

ク爲ニ品位ヲ損シタルハ惜ムヘシ同作大西榮輔出品胡蝶舞小函ハ殊ニ其ノ甚キヲ覺ユ將來ノ注意ヲ
ランコトヲ望ム天賞堂出品平山寛亭作銀製鬮雞花瓶ハ鬮様彫作竝ニ觀ルヘク青年中ノ秀作トス但其
ノ羽合ノ狀稍繁縟ニ過クル感アリ村松萬三郎出品宮地一男作銀製山水花瓶ハ象眼ノ工作頗ル力ヲ費
シタリ而モ瓶式ノ之ニ適合セサルヲ憾ム鹿島一谷ノ柳陰洗馬花瓶ハ自カラ精熟ノ技アルヲ認ム以上
彫工ノ製品ニ係レリ

鎚工ハ石川縣山田長三郎ノ鐵鎚地馬置物兼香爐殊ニ優逸ナリ鎚作ノ巧ナル海外人ノ驚異スル所タリ
本品ハ様式古雅愛スヘク其ノ四足ヨリ鎚造シテ體部ニ及フ最モ至難ナリトス但香爐ニ兼用シタルハ
製作上背部ヲ空漏セルカ爲ナラン天賞堂出品黒川榮勝作銀鑲銀切劔花瓶ハ其ノ大サ花盛器ニ亞キ苦
心ノ製作ニシテ切接ノ手際最モ巧ナリ唯恨ムラクハ浪勢激怒ノ狀ヲ寫サントシテ鎚作隆起ニ過キ渺
漫タル趣ニ乏キヲ平田宗幸ノ銀鎚雄鷄ハ形狀能ク整ヒ完好ノ作ト爲ス其ノ翎羽ニ細彫ヲ加ヘサルハ
最モ可ナリ平田重光出品上條是美作鑲銀雙鳥ハ鎚成ノ後巧ニ彫嵌ヲ施シ多年ノ辛苦ヲ徵スルニ足ル
天賞堂出品藤本萬作作鑲銀切嵌梅形菓子器ハ製式温雅ニシテ其ノ足ヲ鶯ニ擬シタルハ意匠アリ同出
品鈴木源助作鑲銀切嵌小函ハ工作精巧ナラサルニ非ス但其ノ布圖宜シカラス兩面ニ變化ナク燕子花
ノ葉莖ニ悉ク金片ヲ嵌裝セルハ故ラニ華美ヲ街フ嫌アリ賞格ニ上ラサル所以トス

鑄工ハ中村喜之助出品大島如雲作鑄銅大膽瓶特ニ尤作トス鯉魚ノ波間ニ出沒スル巧ニ其ノ狀ヲ寫シ
瓶口ヲ流水ニ擬シ落花ヲ點襯セル頗ル新意アリ同作天賞堂出品鑄銅丸額ハ狗兒ニ愛スヘキ嫩草ヲ配
シ薄肉ノ彫裝ヲ施セル殊ニ妙ナリ加藤英一ノ青銅群鯉花瓶ハ作者如雲氏ニ學ヒ能ク其ノ師法ヲ受傳
セリ香取秀眞ハ東京美術學校ヲ卒業シ好ミテ古式ノ銅器ヲ製ス其ノ鑄銅獅子香爐ハ兼テ自家ノ印
ニ供シ様式太々雅馴篆文ノ深厚ナル嘉スヘシ同作星野新七出品絢絡紋花瓶亦清玩ニ供スルニ足ル是
等有爲ノ青年輩將來誠ニ多望トス小川彌太郎ノ銅鑄花瓶ハ甲蟲三頭ヲ合シテ瓶體ヲ作ル形式新奇ナ
リ著色ノ黒クシテ光澤アル能ク其ノ物ニ適應セリ

近年銀製品盛ニ世ニ行ハレ會場ニ出陳スル所彼此皆銀色玻璃箱中ニ在リテ爛々トシテ人目ニ炫曜シ
其ノ圖様彫作ノ如何ヲ諦視スルニ苦ム陳列配置ノ困難ナル知ルヘキナリ其ノ銀器以外ニシテ稍異彩
ヲ放テルハ京都府紹美榮祐ノ緋銅煤竹式花瓶ト正阿彌勝義ノ鑲銀雪竹花瓶トナス前者ハ家傳ノ特技
ニシテ形色俱ニ妍美後者ハ老工ノ製作ニシテ配色見ルヘシ後會ニ出品スル者宜シク此ノ點ニ注意セ
ラルヘシ正阿彌氏ハ最後ニ素銅製ノ大花瓶ヲ輸送シ來ル高サ二尺許リニシテ薄肉ノ大蝦ヲ彫出シ其
ノ色淺赭ニシテ鬚足勢氣アリ一見シテ壯快ヲ喚ハント欲ス特ニ出色ノ製品トス評者ハ優點ヲ附スル
ニ脚躡セサルヘシ然レトモ鑑別ノ期過キタルヲ以テ出陳ヲ許サレズ遠方高齡ノ技藝家ヲシテ榮賞ニ
預カルコトヲ得サラシム誠ニ惜ムヘキナリ次ニ其ノ品種ヲ見ルニ花瓶ナリ小函類ナリ隨ヒテ其ノ形
狀モ亦大同ニシテ殆ト差異ナキカ如シ方今外交盛ニ開ケ洋風器具ノ新需用頗ル多シ之ニ日本意匠ヲ
施サハ内外ノ用品ト爲ルモノ必ス多カラン銀製ノ彫工鎚工ヲ加ヘテ美術工藝品ニ入ルヘキモノ何ソ
花瓶ト小函トニ限ランヤ況ヤ鳥金ニ鑲銀ニ青銅素銅黃銅各其ノ物ニ適當セルモノアルヘシ後ノ出品
者其ノ宜シキヲ選ヒテ新器具ヲ製出セサルヘカラス

顧フニ金工ノ製品ハ其ノ地金ト貴金屬ノ材料トニ許多ノ經費ヲ要スルヲ以テ工藝家ノ獨力ニ由リテ
特殊ノ出品ヲ製成スル能ハサルハ現在ノ情況ニ照シテ明カナリ之ヲ繪畫塑造ノ自作ニ成リ得ヘキモ
ノト同一ニ視ル可カラス加フルニ其ノ製品ヲ賣ルニハ勢ヒ著名ノ商店ニ頼ラサルヲ得ス是レ商業家
ノ囑附ヲ須テ出品ヲ製作スル者多キ所以ナリ今本會ニ於ケル製作家ノ出品ト商業家ノ出品トヲ比
較シテ其ノ成績ヲ徵驗スレハ則チ左ノ二表ノ如シ

第一 製作家出品統計表(各府縣ヲ合算ス)

賞級 一等 二等 三等 衰狀 不賞 合計 氏名

一等	二等	三等	衰狀	不賞	合計	氏名
一	一	一			一	平田 宗幸
					一	加藤 英一

ル所或ハ之カ爲ナラン是彫金家ノ本領トシテ喜フヘキ現象ニ非サルヘシ事固ヨリ出品ノ規則ニ關ス
ト雖モ自ラ審査ノ成績上ニ影響ス茲ニ一言セサルヲ得ス困リテ聊カ鄙見ヲ附記スト云フ

漆 工

報告員 岸 光 景

本科ニ於ケル鑑査品總數八十七點出品ヲ許可セルモノ二十四點其ノ内製作間ニ合ハサリシモノ一點
アリシ爲美術館ニ陳列セル實數ハ二十三點ナリ而シテ之ヲ品類ニ依リテ細別スレハ左ノ如シ

- 提筆筒 一點 硯筒、軸盆、色紙、短冊筒 各一點
- 書 柵 二點 文臺、料紙、硯筒 三點
- 堆朱香合 四點 手 十點

以上ノ出品中授賞セルモノ十七點有賞者十三名ナリ茲ニ意匠工作ノ優劣ニ就キ所見ヲ述ヘテ將來參
考ノ資ニ供セントス

今回ノ出品中名譽ノ賞選ニ入レルモノナキハ甚タ遺憾ナリ蓋シ今ノ漆工家ハ細紋枝葉ノ緻密ヲ以テ
長技ト誇ルノ風アリ是技巧ノミニ於テハ或ハ嘉スヘシト雖モ大局ニ就キテ高雅優美ノ趣味及意匠ニ
乏シキハ作家深ク顧慮セサルヘカラサル所ナリ

一等賞ノ選ニ入レルモノ二點アリ一ヲ林九兵衛出品赤塚自得作孔雀躑躅花蒔繪提筆筒トシ一ヲ保井
庄吉ノ松島蒔繪書柵トス提筆筒ハ蒔繪精密ニシテ苦心ノ作タルヲ見ル扉裏面ノ製佳ナラサルハ遺憾
ナリ書柵ハ圖樣位置穩雅ニシテ平目地粉蒔共ニ鮮麗ナリ惜ムラクハ扉裏切箔蒔ニシテ柵ノ四脚長キ
ニ失セリ然レトモ以上二品共ニ今回出品中ノ優品タルヲ失ハス

二等賞ノ選ニ入レルモノ八點ニシテ有賞者六名ナリ一ヲ植松彌太郎ノ叢菊蒔畫文臺硯筒トス圖案形
狀共ニ佳ナリ只文臺ノ水紋不調和ナルハ惜ムヘシ一ヲ林庄八出品田邊照亭作金地芍藥蒔繪文臺硯筒
トシ一ヲ同出品植松抱美作平目地源氏繪扇面散シ蒔繪文臺料紙硯筒トス芍藥蒔繪ノ圖案及描法共ニ

見ルヘク扇面散シノ各種ハ其ノ髹法嘉スヘキモノ尠シトセスト雖モ扇骨ノ太キニ失スル等ハ作者ノ
最モ注意ヲ要スヘキ所ナリ堆朱楊成ノ堆朱蓮子香合及堆青梅子香合竝ニ堆黃雙魚香合ノ如キハ各種
製ヲ異ニシ刀法精練アリテ圖樣布置其ノ宜シキヲ得タリト云フヘシ次ヲ小林藤右衛門出品船橋舟民
作五月雨圖蒔繪手宮トス畫圖佳ナルヲ見ルヘク描金亦鮮麗ナリ高橋太華出品堆朱楊成作ノ紅花綠葉
柵子香合ノ製作前者ノ堆朱類ト共ニ雅致アリ

三等賞三點別ニ管外ニ於テ一點ノ受賞アリ即チ一ハ佐久間庄兵衛出品船橋舟民作平目地水陸草花蒔
繪書柵トス大作ノ勞ヲ見ルト雖モ形狀ニ因リテ適當ノ圖案ヲ起草セサルハ甚タ遺憾ナリ次ヲ三宅利
右衛門出品船橋舟民作ノ金地花卉蒔繪手宮トス花卉ノ圖樣位置共ニ可ナリ惜ムラクハ其ノ嵌入拙ナ
ルコトヲ次ヲ加藤新十郎ノ群鷄蒔繪手宮トス圖樣穩雅ナリサレドモ髹法老熟ナラサルヲ憾ミトス管
外出品ニテ三等賞ヲ得タルヲ京都ノ三上治三郎ノ春郊牧童蒔繪手宮トス描漆ノ技倆ニ於テハ賞スヘ
キ所多カラスト雖モ製作野鄙ナラス三等賞ノ選ニ入リタル所以ナリ

褒狀三點アリ三宅利右衛門出品船橋舟民作金地山水蒔繪手宮池田松之助ノ齒染蒔繪軸盆及一色福松
ノ金地羊齒草蒔繪手宮トス山水蒔繪手宮ノ切金ノ散布佳ナラサルト軸盆ノ是真派ノ特有トシテ見ル
ヘキモノナルモ未タ老熟セサルト羊齒草蒔繪手宮ノ淡雅ニシテ殊ニ掛子ノ平目地ニ蜘蛛糸ノ兩三線ヲ
描出セルカ如キ瀟洒タル趣アルニモ拘ラス蓋ノ表面研出ノ判明セサルカ如キハ共ニ甚タ遺憾トスル
所ナリ

右ノ外賞選ニ入ラサリシモノ四點一ヲ林九兵衛出品赤塚自得作ノ鳥頭花蒔繪ノ手宮トス花瓣ニ金線
ヲ描キ葉ニ黒粉ヲ加ヘタルカ如キ或ハ新機軸ノ意ナランモ賞觀ノ價值乏シ一ヲ柳澤一抱ノ戰役紀念
圖蒔繪手宮トス各種蜻蛉ノ描畫製作ノ勞ヲ見ルヘシ然レトモ掛子ニ寫真繪葉書ノ研出ヲ附シタルハ
甚タ拙ク且生地重クシテ疎惡ナルヤノ感アリ一ヲ梶新太郎ノ玉簪花螺鈿蒔繪手宮トス製作佳ナラス
一ヲ梅澤順三郎ノ黒地水葵圖螺鈿蒔繪手宮トス無難ノ作ナルカ如シト雖モ技工ノ不熟ナルニ由リ共

陶磁器、七寶、玻璃

報告員 島田 佳 矣

一九八

本科ニ屬セシ鑑査品ハ五十五點ニシテ内合格シテ出品ヲ許可セラレタルモノ二十點此ノ内磁器九點七寶十一點ナリ更ニ磁器ヲ分類スレハ本窯染附物六點、錦窯上繪附物二點、窯變釉ノモノ一點トス又七寶ニ於テハ金線平面七寶一點ニシテ餘ハ悉ク盛上七寶、有線平面七寶、省線七寶ノ各方法ヲ交置配布シタルモノトス而シテ以上二十點ノ内五點ハ管外ノ出陳ニ係レリ

各種美術工藝品中最モ至難ノ技巧ニ屬スルモノハ蓋シ窯業品ナルヘシ即チ其ノ意匠圖樣、製作技工、顔料釉藥、燒成作業等ノ諸點ヲ具備セサレハ優秀ナル作品ト稱スヘカラス是鑑査合格品ノ少數ナリシ所以ナリ

今回ノ出品ヲ通覽スルニ釉藥原料ノ化學的變化ヲ應用セル點ニ於テハ斬新ナル工夫ニ成レルモノ無ク從來公私ノ博覽會共進會等ニ出品セラレタルモノト大差ナキカ如シト雖モ技術ノ精緻ニシテ練熟セル形貌風格ノ溫麗秀麗ナル等大ニ見ルヘキモノアリ即チ磁器ニ在リテハ江澤金五郎出品宮川香山作青華富嶽連山圖花瓶ノ名譽銀牌ノ選ニ入りタル又同人出品加藤友太郎作青華紅釉竹外雙鷄圖花瓶ノ一等賞ノ選ニ入りタル其ノ他七寶ニ在リテハ安藤重兵衛作安藤重壽出品ノ銀七寶孔雀尾紋六角鉢竝ニ盛上七寶海魚畫シ對花瓶ノ一等賞ノ選ニ入りタルカ如キ苦澁ノ痕跡ナク頗ル嘉スヘキモノナリ板谷波山作磁製金紫紋結品釉花瓶ノ褒狀ノ選ニ入りタルハ其ノ釉藥ノ稍、新工夫ナルニ由ル錦窯上繪附ノ作品ニハ意匠圖案等ニ於テ進歩ノ跡ヲ認ムヘキ程ノモノナク從ヒテ賞選ニ入レルモノナキヲ遺憾トス

七寶ニ在リテ近來盛上釉藥ヲ使用スルコト盛ニ行ハルルハ斯道ノ一進歩ト謂ハサルヲ得ス然レトモ其ノ盛上ケタル肉取法ニ誤謬アルハ戒メサルヘカラス

陶器及玻璃製品ニシテ本科ニ其ノ出品ヲ見サリシハ遺憾ナリ之ヲ要スルニ輓近我カ邦ニ於ケル工業的陶磁器、七寶、玻璃製品ハ其ノ産額及製作ニ於テ顯著ナル進歩ヲ認ムレトモ美術的作品ノ僅少ニシテ振ハサルハ斯業ノ爲頗ル遺憾トスル所ナリ

建築圖案

報告員 武田 五 一

今回出陳セラレタル建築及建築裝飾圖案ヲ通覽スルニ其ノ圖案ノ作成ニ於テ正當ナル方法ヲ施ササル出品多キヲ見ル元來圖案スヘキ品類ニハ平面的及立體的ノ二者アルハ言フマテモナク從ヒテ其ノ立案及製圖方法ニ其レ々々殊別ナル約束アルハ苟モ此ノ種ノ圖案ヲ試ミントスル者ノ知ラサルヘカラサル所ナリトス圖案ハ要スルニ立案者ノ意志創意ヲ完全ニ平面上ニ表シ工作上ノ指導ト爲スヲ以テ目的トスルモノナルヲ以テ圖面ハ須ク充分精確ナルヘク且一物ヲ平面上ニ現サントスルニハ必ス平面圖、正面圖、側面圖及切斷圖ヲ要シ若シ完全ヲ望マハ之ニ加フルニ配景圖ヲ以テセサルヘカラス是等ノモノノ具備セルモノヲ名ツケテ完全ナル圖案ト云フ然ルニ今回ノ出品ニハ此ノ如ク完全ナル表現方法ニ山リテ圖案セラレタルモノ少ク多クハ單ニ正面圖ノミヲ出品セルヲ見ル不忠實ト謂ハサルヲ得サルナリ

出品中保岡、本野兩氏ニ依リテ計畫サレタル三菱出品館設計圖ハ完全ナル配景圖ヲ出陳シ其ノ實物ハ本會第二會場内ニ實現セラレタリ其ノ形式、色彩等能ク此ノ種ノ建築物ノ特性ヲ發揮セリト雖モ色彩ノ調和ニ於テ尙一段ノ考慮ヲ經タランニハト思ハレテ遺憾ナリ

岡本、井手兩氏ノ共同出陳ニ係ル明治三十七八年戰役紀念建造物ハ形狀整ヘリト雖モ此ノ種ノ建造物ノ目的ニ對シテハ少シク不完全ナル點アリ且圖面餘リニ簡單ニシテ考案ノ詳細ヲ認知シ難キハ遺憾ナリ

各出品ニ對スル等級ハ授賞ノ發表ニ依リテ自ラ明カナルヘシ

美術工藝圖案

報告員 福地 復一

1100

裝飾圖案ハ近來ノ發達ニ屬スルカ故ニ未タ著ク斬新ニシテ他邦ニ比類ナキ様式ヲ出スニ至ラサレトモ其ノ進歩ハ大ニ見ルヘキモノアリ内外ノ嗜好ヲ考ヘ製作ノ實地ニ適當セル圖様ヲ作り出シ其ノ技術モ益々精巧ヲ加フルニ至レリ此ノ際專ラ獎勵ヲ要スヘキ必要アルヲ以テ意匠ノ斬新ニシテ其ノ製圖ノ精巧ナルモノ二種ヲ拔キテ一等ノ評點ヲ附シ其ノ他各意匠ノ巧拙技術ノ精粗ニ從ヒテ等ヲ分チテ賞選セリ其ノ等級及賞狀ノ數ノ如キハ受賞人名録ニ依リテ自カラ明カナリトス

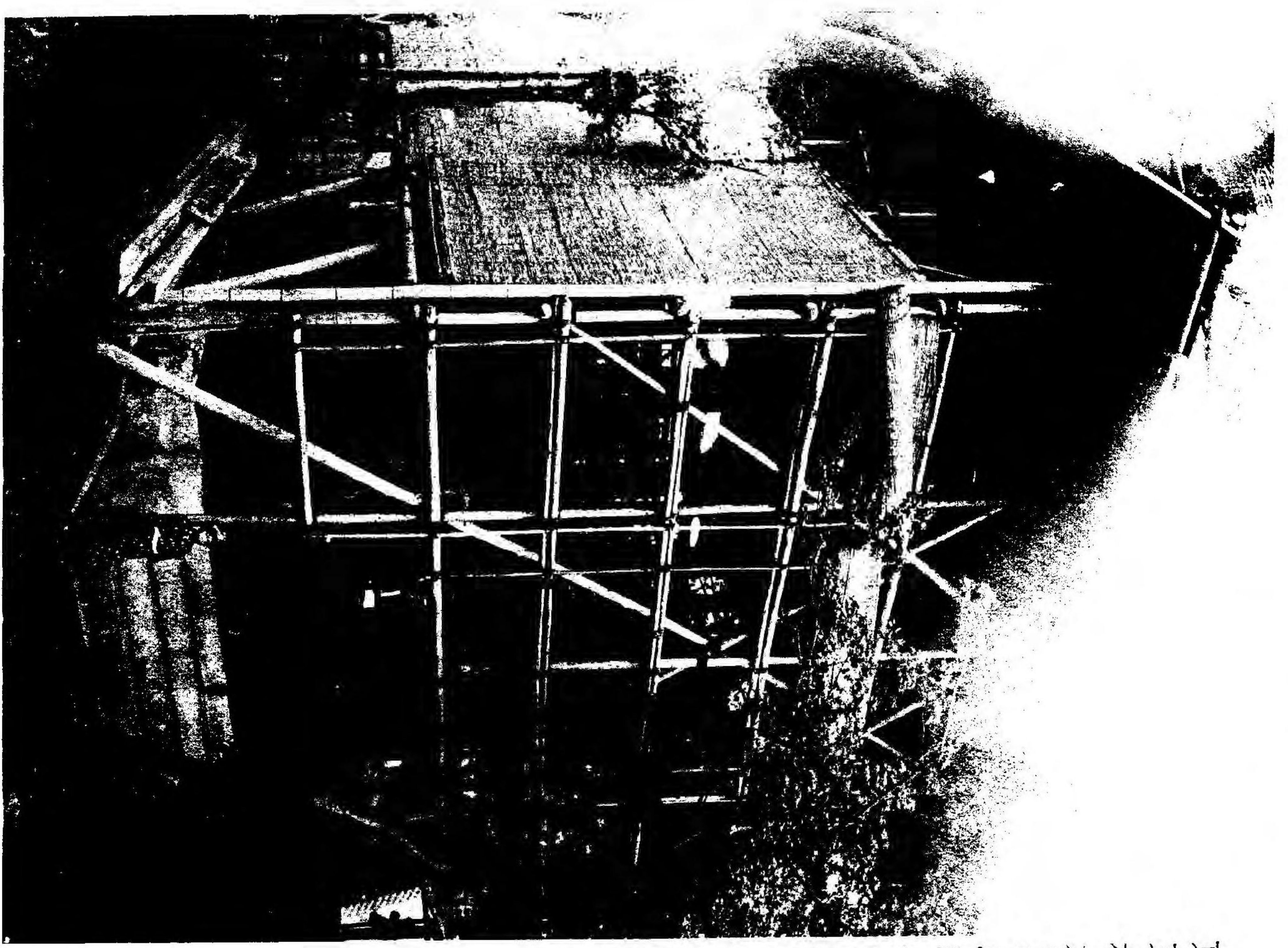


齋藤平藏出品模造客殿



千住木材商組合出品筏

(東京製版所印行)



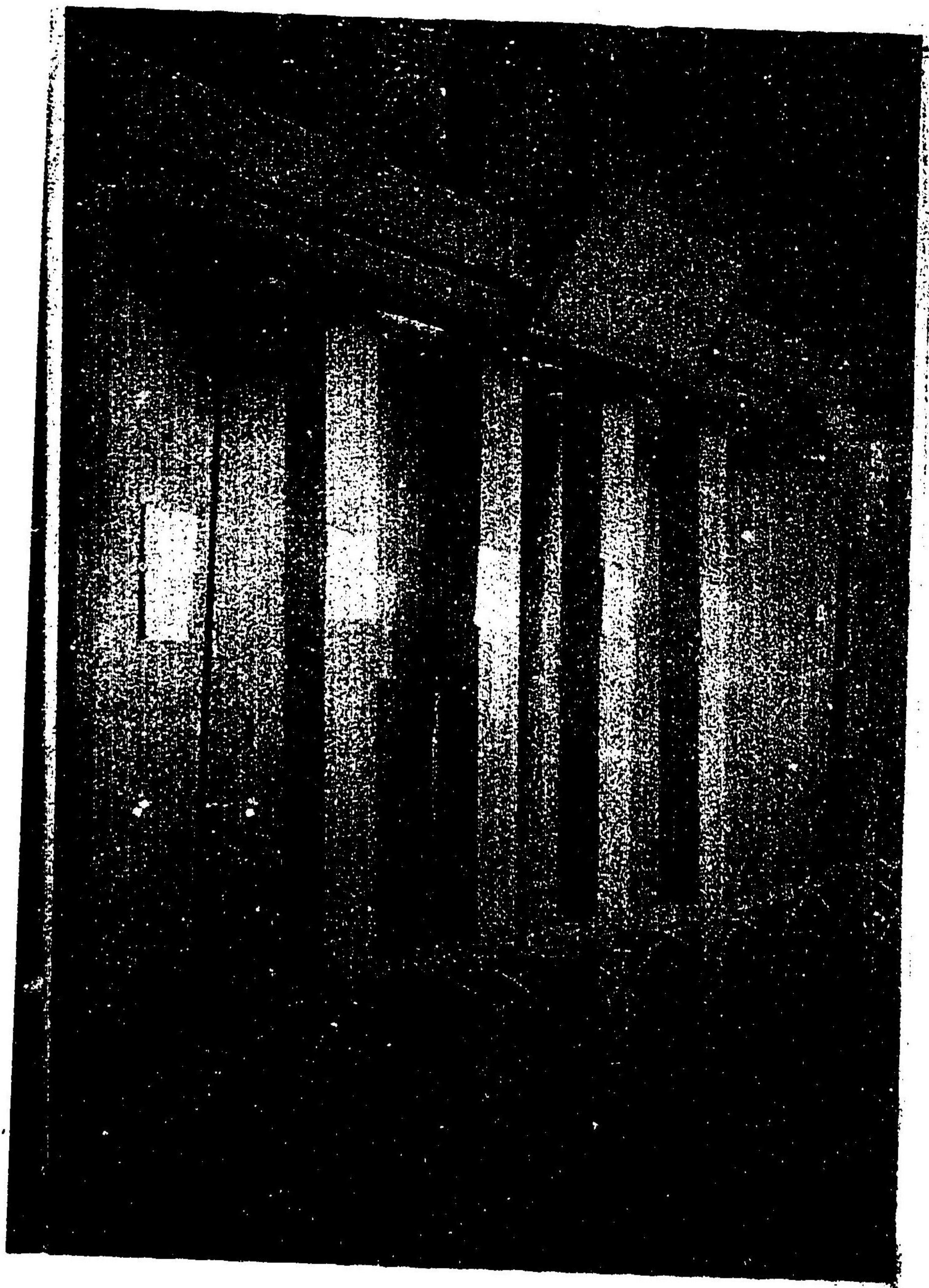
東京材木問屋組合出品建築材標本其三（土藏切組）



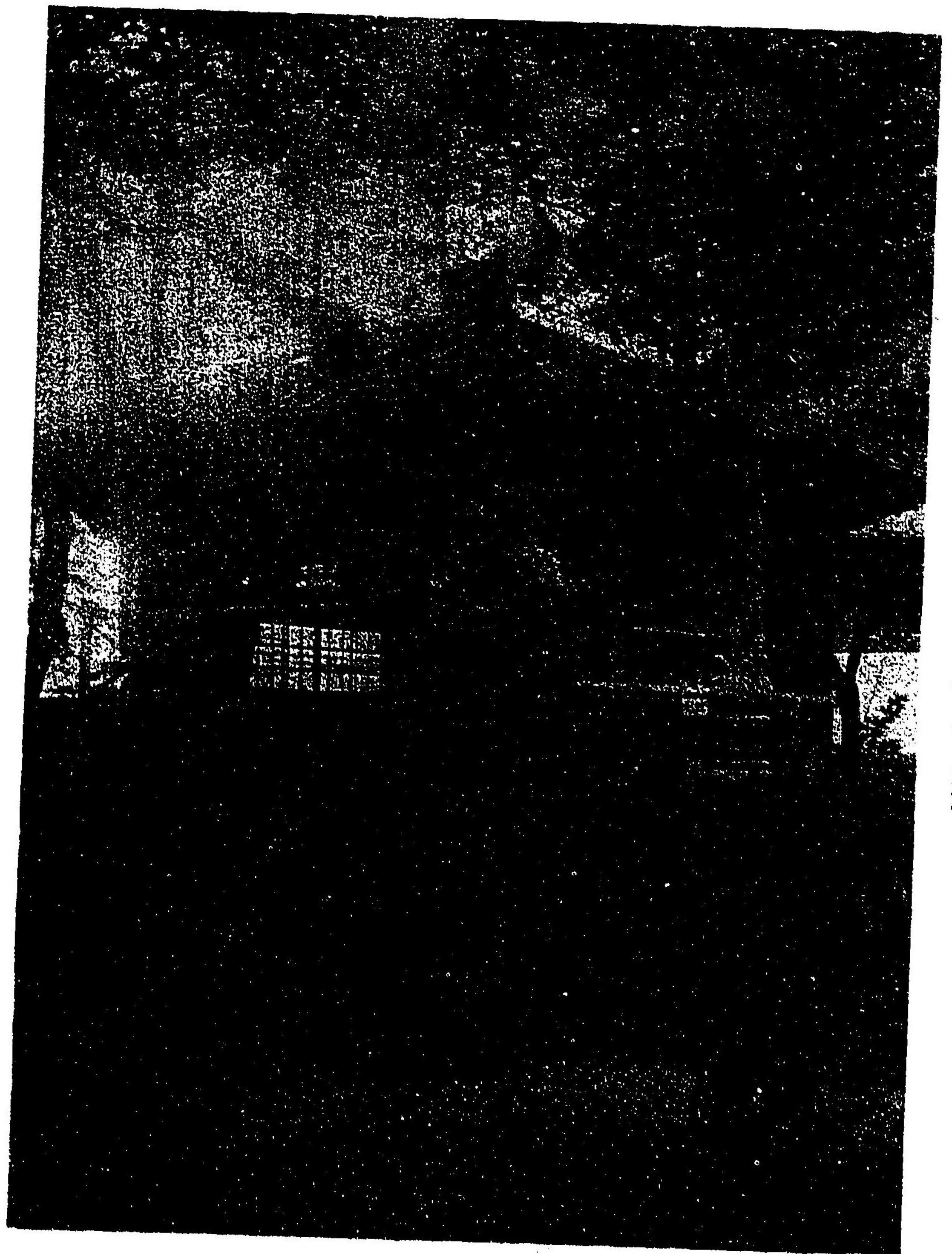
東京材木問屋組合出品建築材標本其四（洋館）

（東京製版所印行）

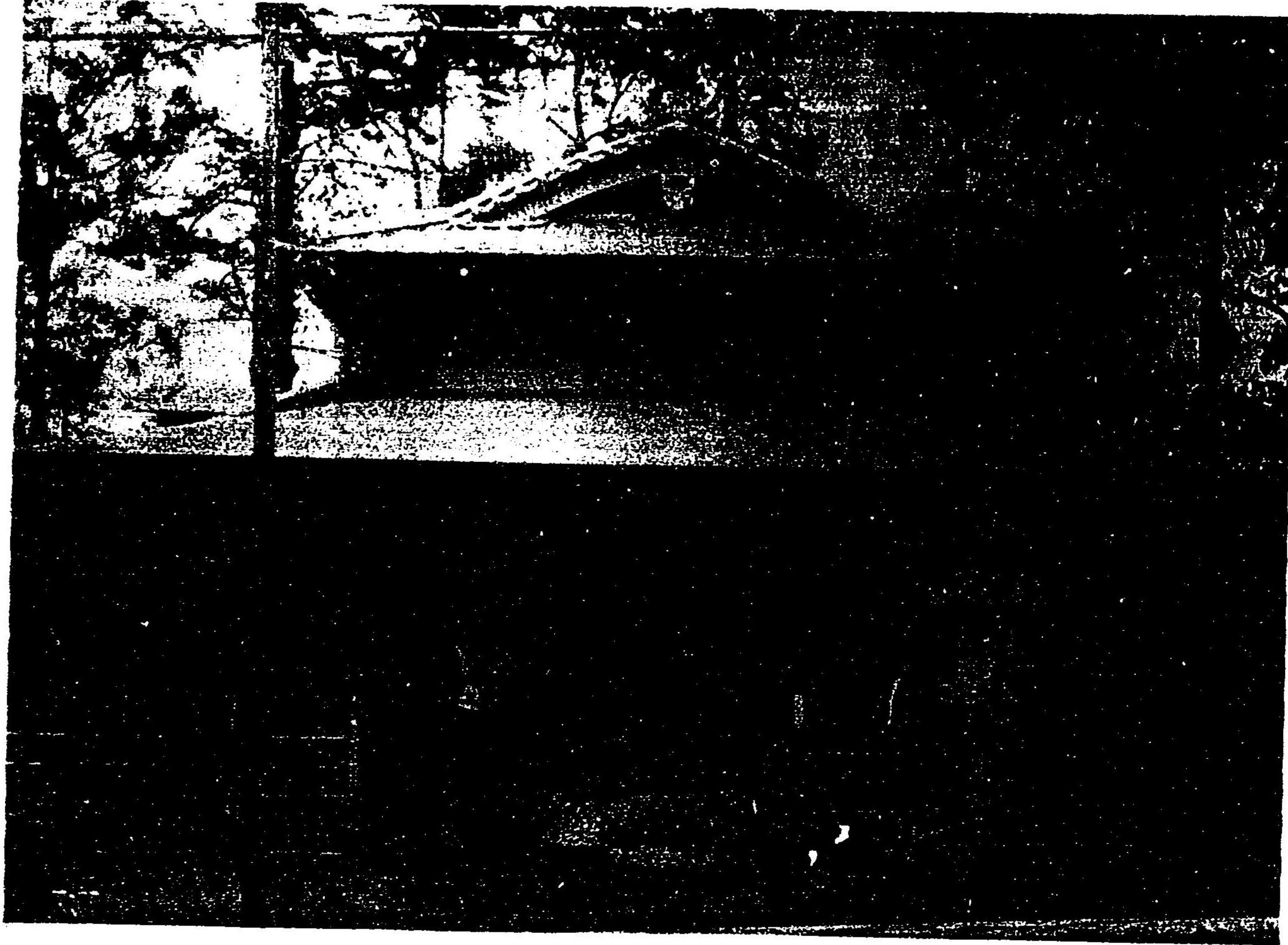
(東京製版所印行)



藤田組出陳臺灣阿里山材



農商務省山林局出陳青森製材所製材



(家本) 一其本標材築建品出合組屋間木材京東

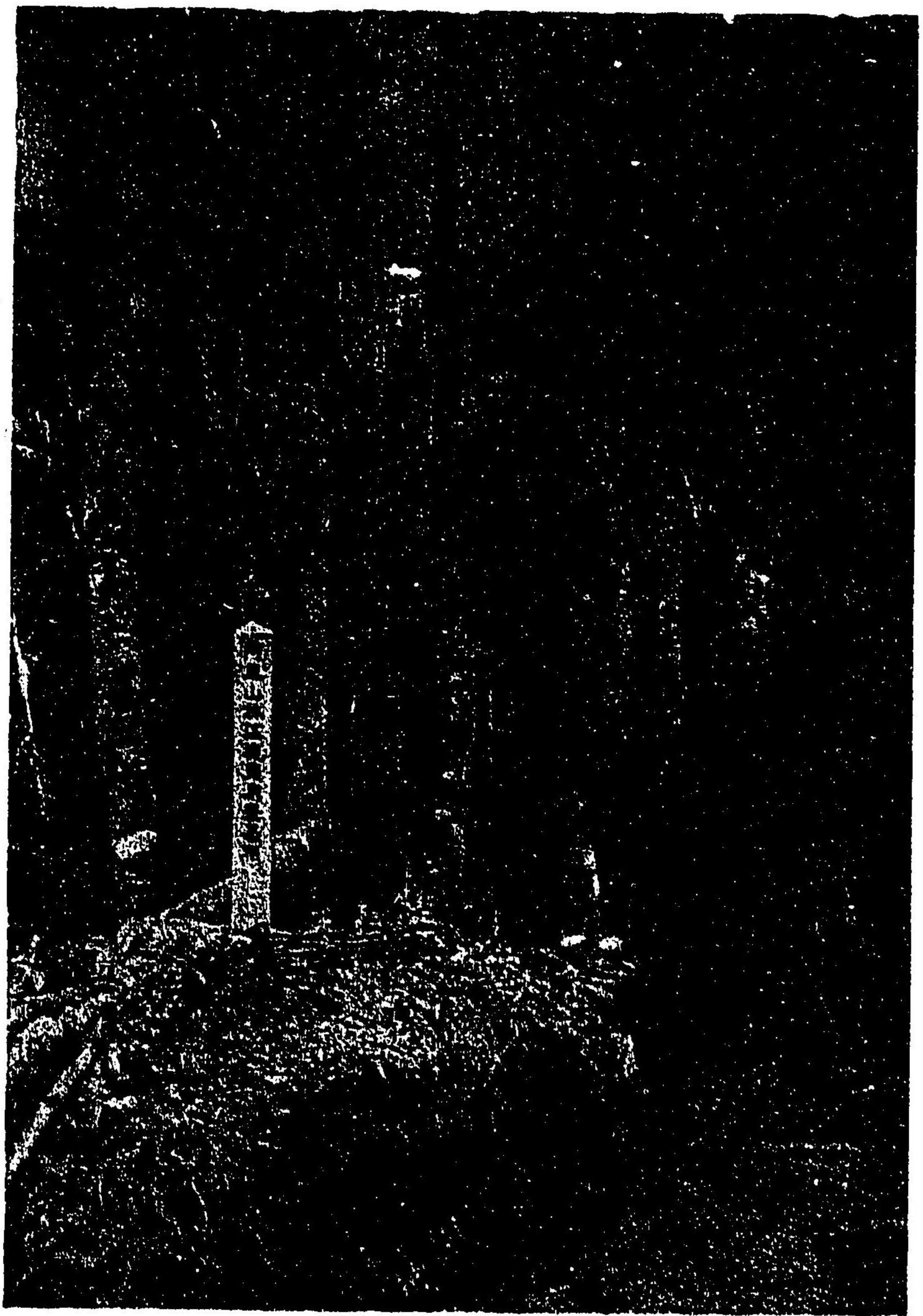


(屋茶) 二其本標材築建品出合組屋間木材京東

(東京製版所印行)

(東京製版所印行)

臺灣總督府出陳林木寫真(其一)



臺灣總督府出陳林木寫真(其二)





(三其) 真寫木林陳出府督總灣臺



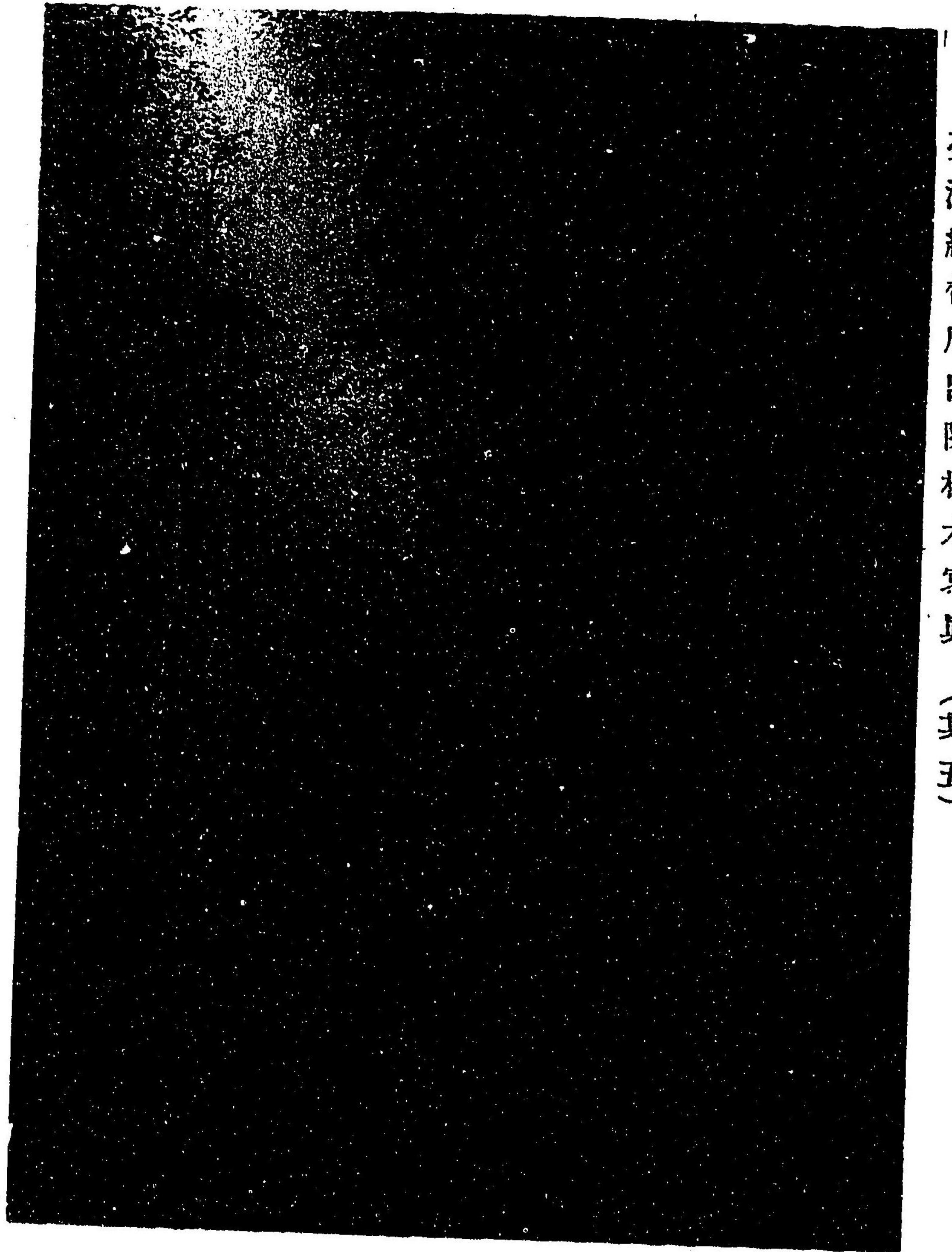
(四其) 真寫木林陳出府督總灣臺

(東京製版所印行)

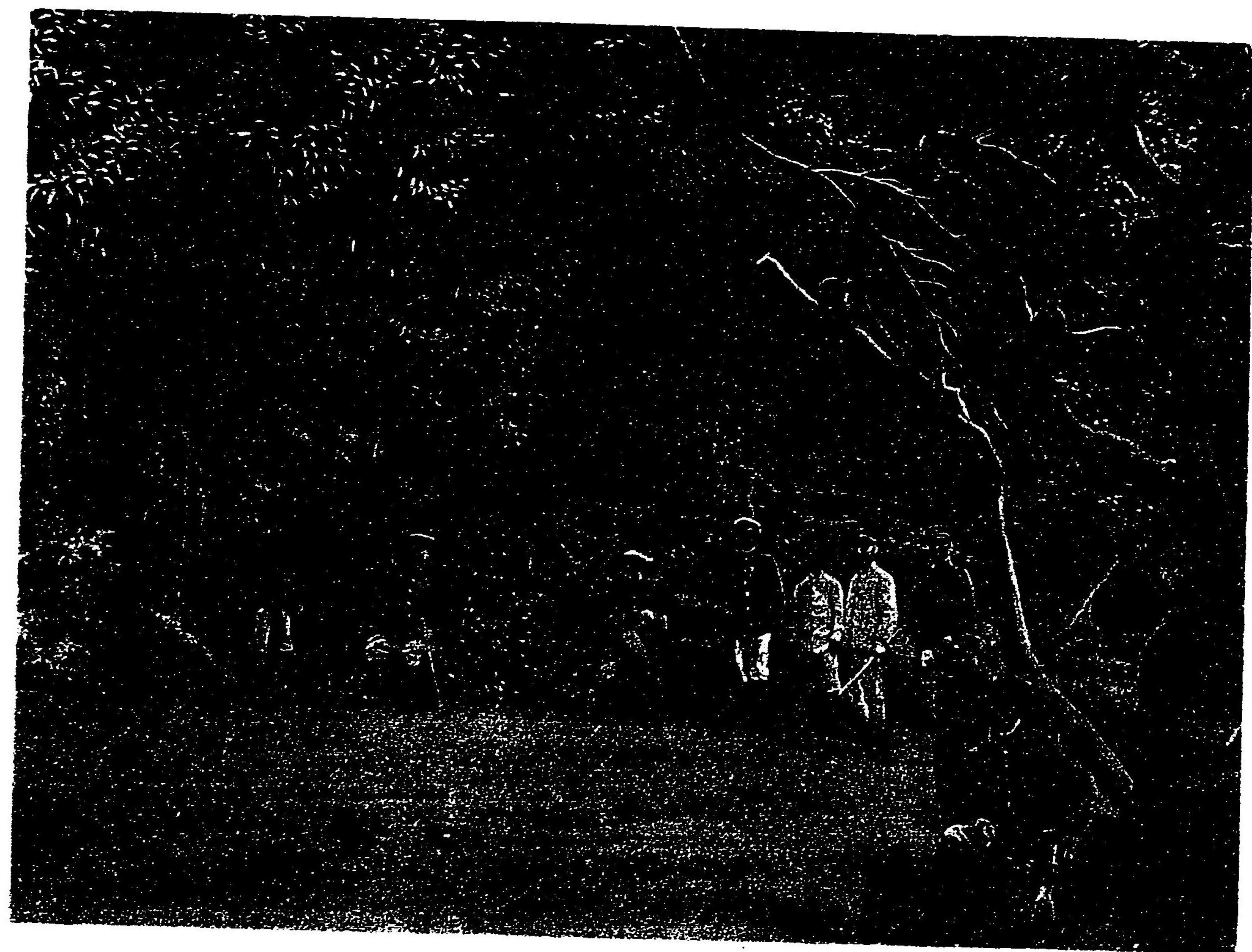
(東京製版所印行)



臺灣總督府出陳林木寫真 (其六)



臺灣總督府出陳林木寫真 (其五)



臺灣總督府出品林木寫真(其七)

東京勸業博覽會審查報告卷三

古在審査部

總說

東京勸業博覽會第四部及第七部第六十類醃、雲丹、海鼠、腸臘子等及第六十一類乃至第六十四類ヲ除クニ屬スル出品點數ハ一萬千七百二十一點、出品人員六千九百八十三名ニシテ審査ノ結果名譽銀牌ヲ得タル者十六名、一等賞ヲ得タル者五十九名ニ達セリ出品物ハ近來進步ノ形跡ヲ示セルモノ尠カラスト雖モ前途改善ノ餘地尙頗ル多キヲ認ム是等ノ事項ハ各審査官ノ審査報告ニ詳記セルヲ以テ茲ニ之ヲ贅セスト雖モ試ニ其ノ著明ナルモノヲ摘示セハ穀菽類ノ乾燥及調製ヲ完全ナラシムルカ如キ蔬菜及果實ノ種類選擇ニ一層ノ注意ヲ加フルカ如キ良好ナル種苗ノ採收及苗木ノ育成ニ努ムルカ如キ蠶兒ノ飼育、種繭ノ選擇ニ注意ヲ加ヘ良好ナル蠶種ノ產出ヲ努ムルカ如キ牛、家禽及家畜ノ種類改良ニ努ムルカ如キ茶ノ製造上通風及火度ニ注意シ水色及香味ノ改善ヲ期スルカ如キ製粉器具ノ刷新ヲ圖ルカ如キ農業ノ發達ニ伴ヒ農具ノ製作ニ改良ヲ加フルカ如キ清酒其ノ他ノ釀造物釀造ノ方法及器具機械ノ改良ヲ圖ルカ如キ麵類ノ製造ニ機械力ヲ應用スルカ如キ菓子製造上和風、洋式互ニ其ノ長ヲ採リ短ヲ補フカ如キ是ナリ當業者ハ宜シク是等ノ點ニ注意シ從來ノ經驗ニ加フルニ科學ノ應用ヲ以テシ事業ノ改善ヲ圖ランコトヲ望ム

次ニ當業者ニ注意セシムヘキハ博覽會等ニ出品スル酒類其ノ他飲食品ノ容器及之カ充填法ニ改善ヲ圖リ能ク貯藏ニ耐ヘシムルコトナリ本會出品ノ狀況ニ徵スルニ或ハ酒類其ノ他釀造物ヲ無色ノ燻類ニ容レ或ハ其ノ充填法不完全ニシテ品質ヲ損シ或ハ腐敗ニ傾ケルカ如キモノ往々之アリ此ノ如キハ出品者ノ不利益多キカ故ニ充分ノ注意ヲ望ム更ニ將來ノ博覽會共進會等ニ於ケル出品ニ關シ出品者

及當局者ノ注意ヲ望ムヘキハ出品物ハ必ス平常出品者ノ生産物ヲ代表スヘキモノタラシムルコト是ナリ從來博覽會又ハ共進會ニ品質ノ優良ヲ競ハンカ爲往々特別ノ方法ニ依リ生産調製シタル物品ヲ出陳シ或ハ品質ノ缺點ヲ補ハンカ爲特ニ賣價ヲ低廉ニシ市場ニ在ルモノト著ク相違シ到底同一品質ノ物品ヲ同一ノ賣價ニテ供給シ能ハサルモノアリ斯ノ如キ特製品ハ或ハ公衆ノ好奇心ヲ滿スニ足ルヘシト雖モ毫モ該事業ノ改良ニ資スルニ足ラサルノミナラス出品者モ亦實際上モ利スル所ナカルヘシ何トナレハ假令特製品ニ由リ不相當ノ賞ヲ僥倖スルコトアラントモ生産物ヲ需用者ニ供給スルコト能ハサレハナリ然レトモ所謂特製品ノ出陳ハ多年馴致セラレタル通弊ナレハ單ニ出品者ニ警告ヲ與フルノミニテ之カ矯正ヲ期スヘカラス是ヲ以テ審査ノ際從前ヨリモ尙一層ノ注意ヲ加ヘ苟モ多少ノ疑アル場合ニハ出品物ト一般ニ販賣セル物品トヲ比較精査シ品質價值大ニ徑庭アリテ特製品ト認ムヘキモノハ斷シテ排斥スルノ方針ヲ採ラサルヘカラス蓋シ此ノ事タル其ノ實行容易ナルカ如シト雖モ實ハ頗ル困難ナルモノアリ殊ニ農産物ノ如キ出品物ト同一ノ物品ヲ市場ニ於テ購求シ能ハサルモノニ在リテ然リトス何トナレハ此ノ場合ニ於テハ平素出品者ノ生産スル標準物品ト出品物トヲ比較考究スルコト能ハサレハナリ是ヲ以テ從來此ノ種ノ出品物ヲ審査スルニ當リテハ往々普通一般ノ標準ヲ假定シ出品物ノ加工調製等ノ程度ヲ臆測シ標準品ノ品質ヲ推定セサルヘカラサル困難アリテ動モスレハ狡猾ナル特製物出品者ニシテ不相當ノ賞ヲ得ルニ至ルコトアリ斯ノ如キハ實ニ産業獎勵ノ機關タル博覽會ノ主旨ニ反シ公衆ハ勿論出品者モ亦自カラ利スルコトナキコト前述ノ如クナレハ將來此ノ種ノ出品物ニ對シテハ出品規定ヲ改正シ出品物ノ量ヲ増加シ場合ニ依リテハ出品ノ資格ヲ有スルモノヲ團體ト一定額以上ノ生産者ニ制限シ且栽培ノ狀況ヲ示スニ足ルヘキ株附標本ヲ添附セシムルカ如キ方法ヲ採ルコトトセハ積年ノ弊風ヲ一洗シ得ルノミナラス博覽會ノ効果ヲ一層著クナラシムルモノアラシ

禽ノ如キ出品期短キモノニ在リテハ特別ノ方法ニ依リ直ニ審査ノ決定ヲ公示ヘシ斯ノ如クスルトキハ公衆ハ實物ト賞格トヲ對照考究シテ利スル所尠カラサルヘシト信ス
以上本部ノ出品ニ關シテ必要ト認メタル事項ノ概要ヲ記シ以テ參考ニ資ス
明治四十年十月
審査部長 農學博士 古 在 山 直
本部ニ屬スル出品ノ點數ハ一萬千七百二十一點、人員六千九百八十三名ニシテ内第四部ニ屬スルモノ點數九千〇二十五點、人員五千七百六十三名、第七部ニ屬スルモノ點數二千六百九十六點、人員一千二百二十名ナリ而シテ授賞數ハ第四部一千三百三十八點、第七部七百七十三點、合計二千百一十一點ニシテ出品人員ノ約三割ニ當ル其ノ詳細ハ左表ノ如シ

第四部出品點數、出品人員及授賞數一覽表

第 二	米		麥		豆		雜 穀	
	管内	管外	管内	管外	管内	管外	管内	管外
出品點數	七六七	三四五	一、一一二	四八六	五九二	五四九	一、〇三五	一五四
出品人員	七五二	二八六	一、〇三八	四七一	五四一	五三二	九六八	一五一
名譽銀牌	二	二	四	四	四	一	六	一
一等賞	二	二	二	一	二	一	二	一
二等賞	七〇	三八	一〇八	四八	六〇	六一	一八	一
三等賞	八四	五四	一三八	六七	八一	七一	四五	一
復狀	一一〇	一五七	一三四	一三八	一四四	一四九	一四〇	〇
協賛賞	一一二	一八九	一四二	一四二	一五〇	一三三	一五〇	〇
計	一一二	一八九	一四二	一四二	一五〇	一三三	一五〇	〇
出品點數ニ對シ	一、一一二	一、〇三八	一、〇三八	四七一	五四一	五三二	九六八	一五一
出品人員ニ對シ	七五二	二八六	一、〇三八	四七一	五四一	五三二	九六八	一五一
授賞歩合	一、一一二	一、〇三八	一、〇三八	四七一	五四一	五三二	九六八	一五一
合計	一七六	一六九	一七六	一六九	一七六	一六九	一七六	一六九

外類煙草(管外)

總計

九〇二五 五七六三 四二〇

一〇三〇八 九〇四 一三六

一〇五六 二〇〇

第七部(第六十六類鹽、雲丹、海風勝、臘子等)出品點數、出品人員及授賞數一覽表

第七類	第十類	第五類	第	出品點數		出品人員		授賞數			授賞步合		
				管外	管內	管外	管內	名譽銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞
葡萄酒	臺灣酒	燒酎	白酒	味淋	麥酒	清酒							
合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計							
一八七	二七九	四四五	八二六	一七二	一〇	四四二	一五五	二八八	一五五	四八	一	一	一
八四	二二九	四四五	八二六	一五	一四	三	二六四	二二六	四八	二	四	三	一
四二二							二四	三	一	二	四	三	一
三一							一四	一〇	四	二	一	四	二
二							四六	二二	二五	二	二	二	二
三							八〇	五三	二七	八	〇	五	三
二							七六	七〇	六	七	〇	六	六
九							二二〇	一五七	六三	二	三	〇	三
五							三〇	五七	六	二	〇	三	〇
〇							三三三	四〇六	三	三	〇	三	〇
一							〇	四	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	五	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	三	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	五	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	四	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	六	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	三	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	三	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	三	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	三	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	三	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	三	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	三	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	三	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	三	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	三	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	三	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	三	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	三	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	三	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	三	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	三	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	三	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	三	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	三	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	三	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一							〇	二	〇	〇	〇	〇	〇
一		</											

類九十六第		類八十六第		類七十六第		類六十六第		類五十六第	
精製糖及糖蜜	砂糖蜜漬	水豆腐、水海苔、湯波、麵、燒酎等	加工香辛	煉乳、乾酪、煙肉等	乾果	果	乾	果	乾
管外	管内	管外	管内	管外	管内	管外	管内	管外	管内
1,205	506	699	58	37	21	35	26	9	132
309	176	133	36	27	9	18	16	2	73
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
8	4	4	4	4	4	4	4	4	4
19	10	9	1	1	1	1	1	1	1
63	36	27	1	1	1	1	1	1	1
113	67	46	2	2	2	2	2	2	2
205	117	88	2	2	2	2	2	2	2
170	131	104	1	1	1	1	1	1	1
663	665	663	6	6	6	6	6	6	6

類二十七第		類十七第	
飲食品ノ製造及貯蔵ノ方法ニ關スル特殊ノ器具、装置、材料、標本	管外	管内	合計
55	3	52	38
1	1	1	3
11	1	10	11
113	39	74	152
20	0	20	20
3	3	7	10
5	0	5	5
509	0	509	509
455	0	455	455

本部ニ屬スル審査官專任四十二名、他部ヨリ兼任セルモノ九名、審査囑託二十八名ニシテ各分掌毎ニ主任及審査報告員各一名ヲ置ケリ即チ左表ノ如シ

審査官分掌表

第二十五類		染色原料		製油原料		牧草	
米、麥、豆、雜穀	主任報告員	主任報告員	主任報告員	主任報告員	主任報告員	主任報告員	主任報告員
安藤廣太郎	伊藤三藏	今關次郎	岡田鴻三郎	大塚由成	今關次郎	今關次郎	山下脇人
伊藤三藏	作間三郎	今關次郎	今關次郎	今關次郎	今關次郎	今關次郎	今關次郎
吉川祐輝	大塚由藏	今關次郎	今關次郎	今關次郎	今關次郎	今關次郎	今關次郎
伊藤三藏	岡田鴻三郎	今關次郎	今關次郎	今關次郎	今關次郎	今關次郎	今關次郎
安藤廣太郎	伊藤三藏	今關次郎	今關次郎	今關次郎	今關次郎	今關次郎	今關次郎

主任報告員

山下 脇人

藥

安藤 廣太郎

主任報告員

望月 瀧三

主任報告員

下山 順一郎

報告員

丹波 敬三

主任報告員

慶松 勝左衛門

香辛類

大工原 銀太郎

主任報告員

吉川 祐輝

報告員

大塚 由成

主任報告員

岡田 鴻三郎

報告員

安藤 廣太郎

主任報告員

作間 餘三郎

報告員

安藤 廣太郎

主任報告員

吉川 祐輝

報告員

作間 餘三郎

主任報告員

本多 岩次郎

報告員

加賀山 辰四郎

主任報告員

辻 暢太郎

報告員

土屋 泰

蔬菜、果實、花卉、裝飾植物、種苗

第二十九類ノ内

乾果

第三十三類

温室、温窖、催成框ノ模型、圖畫

第三十四類

盆栽、箱庭及庭園裝飾用品、器具

第六十類ノ内

漬物

第六十八類ノ内

砂糖漬、蜜漬、「ジャム」等

第七十類

乾葡萄、乾柿、打栗等

果實、乾果、乾葡

漬、乾柿、打栗

花卉、裝飾植物、種苗、砂糖報告員

漬、蜜漬、「ジャム」、漬物報告員

蔬菜及第三十三類、報告員

類、第三十四類、報告員

種

苗(桑)

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

石居 一郎
土屋 泰
町田 穰

第二十八類
牛、羊、山羊、豚、兔、家禽及卵、蜜蜂、畜乳

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

農學博士

本多 幸介

望月 瀧三

石崎 芳吉

山下 脇人

今泉 雄作

豐丸 勝二

丹羽 圭介

大林 雄也

澤村 眞藏

伊藤 悌藏

小林 房次郎

伊藤 謙藏

池田 謙藏

池田 謙藏

池田 謙藏

池田 謙藏

池田 謙藏

池田 謙藏

池田 謙藏

池田 謙藏

池田 謙藏

池田 謙藏

粗糖、蜜
第六十八類ノ内

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

大工原 銀太郎
今關 常次郎
内山 定一

第三十類
繩、叭、草鞋、草履、蓆等

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

池田 謙藏
安藤 廣太郎
作間 餘三郎

第三十一類
礦物、植物、動物及人造肥料

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

大工原 銀太郎
内山 定一
今關 常次郎

第三十二類
農業、園藝、養蠶、牧畜用器具及農産製造器具

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

主任報告員

報告員

池田 謙藏
安藤 廣太郎
石原 助熊
林 彈作
土屋 泰

(牧畜) 西川勝藏
(農産製造) 山下脇人

第三十五類

農業、園藝、養蠶、牧畜ノ經營及作業ノ方法、成績

主任 月田藤三郎
報告員 有働良夫 横山正夫 伊藤悌三 恩田鐵彌 加賀山辰四郎 西川勝藏

(農業)

(園藝)

(養蠶)

(牧畜)

第三十六類

有害動物ノ標本、圖畫、其ノ驅除豫防ノ方法及器具
有益動物ノ標本、圖畫、其ノ蕃殖保護ノ方法及器具

主任 理學博士 佐々木忠次郎
報告員 堀正太郎 小貫信太郎 桑名伊之吉

煙草類外

主任報告員

伊東一二 安藤廣太郎 大工原銀太郎

第五十七類

醬油、生溜、洋醬、酢

第六十類ノ内

味噌、納豆

主任

藥學博士

奥村順四郎 丹波敬三 矢部規矩治 西村寅三 嘉儀金一郎 安藤福三郎

報告員

第五十九類

沸騰水、鍍水、果實水等

主任

藥學博士

丹波敬三 下山順一郎 慶松勝左衛門 佐藤壽衛 安藤福三郎

報告員

第六十五類

煉乳、乾酪、乳油、燻肉等

主任報告員

山下勝人 慶松勝左衛門 石崎芳吉

第六十六類

燒鹽、加工香辛、食油等

主任報告員

内山定一

清酒、味淋、火酒

主任

藥學博士 矢部規矩治 丹波敬三 下山順一郎 奥村順四郎 佐藤壽衛 嘉儀金一郎 安藤福三郎 肥田蜜三

報告員

麥酒

主任

藥學博士 丹波敬三 矢部規矩治 奥村順四郎 安藤福三郎 肥田蜜三

報告員

葡萄酒、混成酒

主任

藥學博士 丹波敬三 下山順一郎 奥村順四郎 矢部規矩治 佐藤壽衛 安藤福三郎

報告員

第五十八類

山下脇人 大工原銀太郎

第六十七類

水豆腐、水蒟蒻、湯波、麵、燒麩等

主任報告員

伊東一二 小林房次郎 池田謙藏

麵麩、「ビスケット」、菓子、飴等

主任

慶松勝左衛門 小林房次郎 伊東一二 花川温 石原助熊

報告員

第七十二類

飲食品ノ製造及貯藏ニ關スル方法、特殊ノ器具裝置、材料、模型、標本等

主任

藥學博士 丹波敬三 藥學博士 下山順一郎 農學博士 澤村眞 慶松勝左衛門

報告員

審査囑託

(落花生、絲瓜、香辛類)

織田利三郎 佐藤信平

(家禽)

(羽、骨、角)	登山長藏	(醬油及味噌)	茂木啓三
(清酒)	守永平助	(同)	別所直温
(同)	池内要治	(同)	圓尾龜次
(同)	岸五郎	(同)	岡田小三郎
(同)	嘉納治郎右衛門	(同)	石井孫次郎
(同)	升本喜右衛門	(菓子)	林新次郎
(同)	椿宮太郎	(同)	米津恒次郎
(同)	清水新七	(同)	森永太一郎
(同)	肥塚源治郎	(同)	黒川光景
(同)	竹塚新助	(同)	今井清次郎
(葡萄酒及其他ノ果實酒)	大塚新造	(同)	山田留次郎
(同)	大澤安五郎	(同)	常原佐吉
(醬油及味噌)	中西安五郎	(同)	鈴木吉彌

第四部第二十五類

其一 米

米、麥、豆、雜穀、棉、麻、繭、製紙原料、雜纖維、染料、色原料、製油原料、牧草、藥草、香料、種類、種苗

主任 安藤廣太郎

本會出品ノ米ハ總計一千百十二點、出品人員千〇八十五名ニシテ東京府下ノ産出ニ係ルモノ約其ノ七割、臺灣産ノモノ同割ヲ占メ、其ノ他諸府縣産ノモノハ僅ニ一割弱ニ過キス。出品米審査ノ方法ハ先ツ肉眼ヲ以テ形狀、色澤、乾燥、調製等ヲ鑑定シ、其ノ良好ナルモノヲ選抜シ、更ニ「ラッア」氏穀粒試験器及硬度計ヲ以テ一定容量ニ對スル米ノ重量及米粒ヲ破碎スルニ要スル重量即チ米粒ノ硬度ヲ檢シ以テ其ノ品質ノ優劣ヲ鑑別シ、更ニ解說書ニ依リ栽培法ノ當否、收量ノ多少等ヲ調査シ、其ノ結果百三十八名ヲ選抜シテ之ニ擬賞セリ。今出品點數人員及擬賞數並ニ出品點數ニ對スル擬

賞ノ割合ヲ各府縣別ニ依リテ表示スレハ左ノ如シ

府縣	出品點數	出品人員	一等	二等	三等	褒狀	計	出品點數ニ對シ
東京府	七六七	七五二	〇	〇	〇	七〇	八四	一、〇〇
埼玉縣	一〇	一〇	〇	〇	〇	五	五	一、〇〇
靜岡縣	一三	一二	〇	〇	〇	一	三	二、三一
新潟縣	三一	三〇	〇	〇	〇	一	二	〇、六五
福島縣	一七	一七	〇	〇	〇	一	一	一、四三
宮城縣	一	一	〇	〇	〇	〇	一	〇、〇〇
島根縣	一	一	〇	〇	〇	〇	一	〇、〇〇
滋賀縣	三一	三一	〇	〇	〇	〇	三	〇、〇〇
秋田縣	一八	一五	〇	〇	〇	一	〇	三、七五
和歌山縣	一	一	〇	〇	〇	〇	一	〇、〇〇
福井縣	一	一	〇	〇	〇	〇	一	〇、〇〇
山梨縣	一	一	〇	〇	〇	〇	一	〇、〇〇
岡山縣	二	二	〇	〇	〇	〇	二	〇、〇〇
山口縣	三	二	〇	〇	〇	〇	〇	〇、〇〇
德島縣	六	二	〇	〇	〇	〇	〇	六、六七
千葉縣	八	六	〇	〇	〇	〇	〇	〇、〇〇
三重縣	一	七	〇	〇	〇	〇	〇	七、五〇
群馬縣	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇、〇〇
群馬縣	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇、〇〇
臺灣	二二〇	一八七	〇	〇	〇	二	二	一、〇〇
韓國	三七	一〇	〇	〇	〇	四	四	一、一九
計	一、二二二	一、〇三八	〇	〇	〇	一〇八	一三八	一、〇八

モノ少カリシハ已ムヲ得サル所ナリト雖モ一般ニ乾燥不完全ナルモノ多ク調製亦不良ナルモノ尠カラサリシハ遺憾ナリ今左ニ重ナル出品米ニ就キ將來改良ヲ要スヘキ缺點ヲ擧ケン

東京府ノ出品ハ其ノ種類甚々雜駁ニシテ出品粳米中種類ノ名稱明カナルモノ二百七十六點ニ對シ種類數八十四ノ多キニ達セリ固ヨリ米ハ其ノ地方ノ風土異ナルニ從ヒ之ニ適應セル種類亦自カラ異ナルヘキヲ以テ之ヲ二三ノ種類ニ限定スルコト或ハ困難ナルヘシト雖モ其ノ氣候上ノ差異著カラサル本府内ニ於テ右ノ如ク多數ノ種類ヲ要スル理ナク加フルニ是等ノ種類中ニハ東京府農事試驗場ノ成績ニ徴シ其ノ收量少ク寧ろ劣等種ト認ムヘキモノ少シトセス此ノ如キハ却リテ農業ノ利益ヲ減殺スルコト多キモノナレハ宜シク農事試驗場ノ成績ニ鑑ミ其ノ地方ニ適應シ收量多キ種類ヲ選擇一定スルニ至ランコトヲ望マサルヲ得ス又本府出品米中北多摩及南多摩兩郡ノ産米ニ係ルモノノ一部ハ品質良好ニシテ乾燥調製亦完全ナリト雖モ其ノ他ノ諸郡ニ至リテハ一般ニ品質良好ナラス乾燥亦充分ナラス從ヒテ容重輕ク硬度亦低シトス是一ハ田地多ク一毛田ニシテ排水不良ナルニ因ルモノナルヘシト雖モ栽培法ノ未タ其ノ宜シキヲ得サルト收穫後乾燥ニ注意ヲ缺ケルトニ基カスハ非ス其ノ他調製ノ不完全ナルモノ亦少カラサルカ如キ何レモ充分ノ改良ヲ要ス又陸稻ハ北豊島及豊多摩兩郡ノ出品ニ係ルモノ多ク品質稍見ルヘキモノナキニ非スト雖モ色澤不良ナルモノ多シ種類ノ選擇改良ヲ要ス

東京府以外ノ諸縣出品米ハ山口、千葉、静岡、秋田ノ四縣出品中ニ品質良好ナルモノアリシ外殆ト見ルニ足ルモノナク乾燥充分ナラサルモノ多シ

臺灣ノ出品ニ係ル米ハ概シテ品質劣惡ニシテ光澤ナク乾燥調製殊ニ不良ナルモノ多ク見ルヘキモノ殆ト無シト雖モ彰化、臺中、宜蘭農會ノ出品ニ係ル内地種ノ品質ハ比較的良好ニシテ内地産普通米ト著キ差異ナキヲ見レハ是等ノ種類中同地ニ適應セルモノノ普及ヲ計リ種類ノ改良ニ資スルト共ニ乾燥調製ノ完全ヲ期スルニ於テハ良米ヲ産出スルニ至ランゴト難キニ非サルヘシ

韓國在留邦人ノ出品ニ係ル米ハ其ノ品質不良ナラサレトモ調製甚々不良ニシテ粳米若クハ赤米ヲ混漚セルモノ多シ

今各府縣ノ出品ニ就キ調査セル「ヘクトリーター」ノ重量及硬度ヲ表示スレハ左ノ如シ

府縣	供試點數	最		
		高	低	平均
東京府	八七	八六、二	七九、四	八二、九
埼玉縣	三五	八五、八	八五、五	八五、六
静岡縣	三五	八五、五	八二、〇	八四、一
新潟縣	三	八七、三	八二、六	八四、四
福島縣	四	八四、七	八二、六	八三、八
秋田縣	三	八六、二	八四、〇	八五、〇
千葉縣	六	八七、七	八四、四	八五、七
山梨縣	三	八六、二	八五、五	八五、七
臺南縣	四	八一、三	七七、二	七八、七
韓國	二二	八〇、六	七七、二	七八、七
東京府	二九	八四、〇	七八、一	八一、三
埼玉縣	二	八二、〇	八一、〇	八一、五
陸稻				
東京府	二〇	八二、六	七七、八	七九、九
糯米	六	八〇、〇	七八、七	七九、六

供試點數	最高	最低	平均
東京府	七五五	五七〇	六四〇
埼玉縣	六二九	六二八	六二八
群馬縣	六六六	六六六	六七一
新潟縣	六六六	六〇七	六四五
秋田縣	七二九	六〇九	六七五
千葉縣	五〇四	四七八	四九三
山口縣	五九七	四九六	五四四
臺灣	六七〇	五六三	六〇七
韓國	九		

右ノ成績ヲ昨三十九年山梨、秋田及佐賀ノ三縣ニ於テ開催セラレタル關東、東北及九州地方聯合共進會ニ於ケル審査成績ニ比較スルトキハ容重、硬度共ニ何レモ劣レル所アルヲ見ル即チ左ノ如シ

山梨縣主催一府九縣聯合共進會
 秋田縣主催奧羽五縣聯合共進會
 佐賀縣主催九州沖繩八縣聯合共進會
 本會(臺灣及韓國ヲ除ク)

米ノ容重及硬度ハ栽培及乾燥ノ方法ニ由リテ大ナル差異ヲ生スルモノナルヲ以テ本會出品米カ此ノ如キ成績ヲ呈スル所以ノモノ亦前ニ述ヘタルカ如ク出品ノ多數ノ是等ノ點ニ於テ缺クル所多カリシニ由ラスハアラス仍リテ左ニ是等ノ點ニ關シ最モ注意スヘキ事項ヲ述ヘ以テ參考ニ供セン

一、肥料ノ配合ニ注意スルコト 肥料ノ配合其ノ宜シキヲ失フトキハ其ノ收量ヲ減スヘキノミナラス品質亦自カラ不良ト爲ルヘキヲ以テ之カ配合ニ注意シ殊ニ窒素肥料ノ過用ヲ避ケ又之カ施用期ヲ誤ラサルヲ要ス今農事試驗場ニ於テ行ヒタル試驗ノ成績ニ依リ肥料三要素ノ配合カ米ノ品質ニ及

ホス影響ヲ示セハ左ノ如シ

肥料ヲ施サス

無窒素(磷酸及加里ヲ施ス) 六四二
 無磷酸(窒素及加里ヲ施ス) 六六八
 無加里(窒素及磷酸ヲ施ス) 六四〇
 三要素(窒素磷酸加里ヲ施ス) 五八七
 六七一

排水法ヲ行フコト 排水不良ノ濕田ニ於テハ土壤常ニ水ヲ以テ蔽ハルルカ故ニ施用セル肥料ノ分解遅ク爲ニ稻ノ生育亦充分ナラス其ノ收量及品質亦排水佳良ノ地ニ比シテ劣ルヲ常トス之ヲ以テ是等ノ土地ニ排水ヲ行フトキハ其ノ後兩三年間ハ大ニ肥料ヲ節約シ得ルノミナラス收量ヲ増シ品質亦上進スルコト著シトス即チ農事試驗場ニ於テ行ヒタル試驗ノ成績ニ依リ排水ノ良否カ米質ニ及ホス影響ヲ示セハ左ノ如シ

排水不良ナルモノ 六五〇
同 良好ナルモノ 六六四

三、乾燥ノ完全ヲ計ルコト 乾燥ノ良否ハ其ノ品質ニ影響ヲ及ホスコト大ナルノミナラス乾燥不良ナルトキハ貯藏中蟲害ニ罹リ易ク甚シキハ腐敗スルニ至ルモノアリ之ヲ以テ收穫セル稻ハ稻架ニ掛ケ能ク乾燥シタル後排水良好ナル乾田ニ在リテハ刈取後田面ニ薄ク擴クモ可ナリ(扱落シ扱ヲ兩三日間席上ニテ乾燥シタル後扱摺ヲ行フヘシ又氣候ノ關係上稻收穫後其ノ乾燥困難ナル地方ニ在リテハ屋根ヲ有スル稻架ヲ作り穂ヲ内ニシテ之ヲ架シ以テ乾燥ヲ圖ルヘシ又場合ニ依リテハ火力ヲ應用スルモ可ナルヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ籾ヲ竹籠若クハ席上ニ薄ク擴ケ豫メ設ケタル棚上ニ配列シ室内ノ溫度ハ攝氏三十度内外ト爲スヘシ左ニ乾燥ノ程度ト容重及硬度トノ關係ヲ示サン

刈取後直ニ粃ヲ扱落シ三日間蓆乾セルモノ 水 分 一升ノ重量 硬 度
 一四八 一四〇九
 一〇一〇 三七一
 三九三 六、一八
 一三七 三七六 五四九

刈取後粃ヲ扱落シ一夜ヲ經テ十二時間火力乾燥ヲ行ヘルモノ
 四、調製 調製ノ良否ハ市場ニ於ケル評價ニ大ナル影響ヲ及ホスモノナルヲ以テ注意シテ粃青米等ヲ除去スルニ務ムヘシ又赤米ノ混淆セルハ選種ノ不良ナルニ基クモノナレハ豫メ穗選ミヲ爲シテ之ヲ除去スルニ務ムヘシ

右ニ述ヘタル事項ハ米質改良上常ニ注意ヲ要スト雖モ更ニ我カ米作上一大注意ヲ要スヘキモノアリ即チ産額ノ増加ヲ圖ルカ爲收量多キ種類ヲ選擇スルコト是ナリ
 今農商務統計表ニ依リ本邦米作ノ狀況ヲ窺フニ近年農事改良ノ結果米産額ノ増加セルコトヲ確認シ得ヘシト雖モ米ノ需用増加セルカ爲ニ外國米ノ輸入年ヲ追フテ増加スルニ至レリ即チ左表ノ如シ

第一表 米栽培反別及收量

栽培反別	同上増加ノ割合	收量	同上増加ノ割合
明治二十四年乃至二十八年五ヶ年平均	二七六四、〇五四 ^町	一〇〇〇〇	三九七三九六六九 ^石
同二十九年乃至三十三年五ヶ年平均	二八一三、〇六三〇	一〇一七七七	三九五五六三九八
同三十四年乃至三十八年五ヶ年平均	二八六四、一九〇三	一〇三六二	四三、九八四五五六
内地消費額			一一〇、六八
輸 入 額	六八一、三二〇	六四九、七七九	三一五三一
輸 出 額	一九〇、三八八九	五六三、九二五	一、三三九九六三
輸入超過			四〇、九〇六、三六一
内地消費額			一一〇、〇〇〇
同上増加ノ割合			一、四三七
同上増加ノ割合			一、四〇七
同上増加ノ割合			一、五三六

第二表

栽培反別	同上増加ノ割合	收量	同上増加ノ割合
明治二十四年乃至二十八年五ヶ年平均	三六八八、八八九	三、七四七六〇	三、三二四、二二九
同二十九年乃至三十三年五ヶ年平均	三、七四七六〇	三、三二四、二二九	四七、二九八六八五
同三十四年乃至三十八年五ヶ年平均	三、六八八、八八九	三、七四七六〇	一一八、九三

同三十四年乃至三十八年五ヶ年平均 三、六八八、八八九 三、七四七六〇 三、三二四、二二九 四七、二九八六八五 一一八、九三

備考 内地消費額ハ第一表ノ收量ニ輸入超過額ヲ加ヘタルモノナリ

第三表 人口増加ノ割合ト消費額及生産高ノ割合トノ比較

人	口	同上増加ノ割合	消費額ノ割合	生産高ノ割合
明治二十四年乃至二十八年五ヶ年平均	四一、四五六、一五三	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇
同二十九年乃至三十三年五ヶ年平均	四三、七五五、五二二	一〇五、五五	一〇二、八五	九九、五六
同三十四年乃至三十八年五ヶ年平均	四六、八〇八、〇三三	一一二、九一	一一八、九三	一一〇、六八

右表ニ依レハ我カ邦ノ米産額ハ人口ノ増加ニ伴ハス加之消費額ハ更ニ人口増殖ノ割合ヨリ一層大ナル割合ヲ以テ増進セルカ故ニ勢ヒ外國米ノ輸入ヲ助長スルニ至リ將來益増加セントスル傾向ヲ呈セリ此ノ如ク本邦米作ノ現狀ハ甚タ憂慮スヘキノ状態ニ在ルヲ以テ常ニ其ノ栽培ニ改良ヲ加ヘ以テ之カ增收ヲ期セサルヘカラス而シテ之カ爲ニハ種子ノ選擇、肥料施用上ノ改良、病虫害ノ驅除豫防等ニ注意スヘキハ勿論ナリト雖モ收穫多キ種類ヲ選擇栽培スルコト最モ必要ナリト然ルニ本會ノ出品ニ徴スルニ多クハ品質ニ重キヲ置キ收量多キ種類ノ選擇ニ關シテ未タ充分ノ考慮ヲ致ササルモノノ如シ此ノ如キ傾向ハ從來博覽會及各地ノ共進會ニ於テ屢見ル所ナリト雖モ我カ米作ノ現狀ヨリセハ最モ避ケサルヘカラサルコトナリトス之ヲ以テ各地方共ニ其ノ地ニ適スル種類中收量最モ多キモノヲ栽培スルニ務メ我カ米穀ノ増殖ヲ圖リ外米ノ輸入ヲ防遏スルニ至ランコトヲ望マサルヲ得ス

其二 麥

主任 安藤廣太郎

本會出品ノ麥ハ大麥二百八十點、小麥二百二十八點及稈麥五十四點、總計五百六十二點ニシテ其ノ出品人員五百四十一名ナリ而シテ出品總點數ノ八割七分ハ東京府下ノ産出ニ係ル

麥ノ品質審査法ハ米ト同シク肉眼鑑定ニ依リ形狀、色澤、乾燥及調製ノ良否ヲ區別シタル後一ヘクトリ

「ター」ノ重量ヲ檢シ大麥ニ於テハ更ニ稈皮ノ厚薄ヲ調査シ之ニ依リテ優劣ヲ定メタリ而シテ其ノ結果八十一名ヲ選抜シテ之ニ擬賞セリ今出品點數、出品人員、擬賞ノ等級及其ノ數並ニ出品ニ對スル擬賞ノ割合ヲ示セハ左ノ如シ

出品	點數			人員	擬賞			出品點數ニ對スル擬賞ノ割合
	大麥	小麥	稈麥		一等	二等	三等	
東京府	二五一	一九二	四三	四七	〇	四	一五	四〇
千葉縣	一五	〇	〇	五	〇	〇	一	〇
静岡縣	一	〇	〇	三	〇	〇	〇	〇
秋田縣	三	〇	〇	三	〇	〇	〇	〇
岐阜縣	一	〇	〇	一	〇	〇	〇	〇
福井縣	〇	〇	〇	一	〇	〇	〇	〇
山口縣	〇	〇	一	一	〇	〇	〇	〇
德島縣	〇	〇	五	一	〇	〇	〇	〇
福島縣	〇	〇	三	三	〇	〇	〇	〇
臺灣	一二	二七	〇	三九	〇	〇	一	〇
韓國	七	七	〇	九	〇	〇	〇	〇
合計	二八〇	二二八	五四	五六一	四	一七	六〇	八一

今回出品ノ大麥及小麥ニハ子實能ク充實シ外皮薄ク色澤亦良好ノモノ尠カラスト雖モ收穫ノ時期ヲ誤リタルカ爲色澤ヲ損シ乾燥及貯藏法ノ不完全ナルカ爲蟲害ヲ被レルモノ尠カラスト殊ニ臺灣及韓國産ノ大麥及小麥ハ何レモ品質劣等ニシテ乾燥充分ナラス且調製極メテ不良ナルカ爲ニ容重甚タ輕シトス又稈麥ハ出品點數少ク見ルヘキモノ稀ナリトス

今左ニ今回出品麥類中肉眼鑑定ニテ選抜セルモノノ「ヘクタリ」ノ重量及大麥稈皮ノ割合ヲ示サム

大麥

供試點數	「ヘクタリ」ノ重量			供試點數	稈皮ノ厚薄		
	最多	最少	平均		最多	最少	平均
東京府	三三	七五	六五	一七	一一	〇七	一〇
千葉縣	三七	七五	六五	一三	一一	〇七	一〇
静岡縣	一	七二	六九	一	一	〇七	一〇
臺灣	四	五九	五二	四	一	一	〇
韓國	一	五七	五二	一	一	一	〇
在來種	二	五七	五二	三	一	一	〇
小麥及稈麥	二	五七	五二	三	一	一	〇

供試點數	平均			供試點數	平均		
	最多	最少	平均		最多	最少	平均
東京府	六一	八三	七六	一五	八三	七五	七八
静岡縣	一	八三	七六	二	八〇	七九	七八
德島縣	一	八三	七六	三	八三	八〇	七八
福島縣	一	八三	七六	一	八三	八〇	七八
臺灣	七	七九	七六	一	八〇	七九	七八
韓國	五	七八	七五	一	八〇	七九	七八
在來種	一	七八	七五	一	八〇	七九	七八
小麥及稈麥	一	七八	七五	一	八〇	七九	七八

元來麥作ハ米作ニ比スレハ其ノ栽培上一般ニ注意セララル所少ク殊ニ麥成熟期ハ梅雨期ニ際スルヲ以テ之カ收穫及乾燥ニ關シテハ最モ注意ヲ要スルニ拘ラス時恰モ稻ノ移植及春蠶ノ上簇期ニ屬スルカ爲ニ動モスレハ等閑ニ附セラレ其ノ品質ヲ損スルコト頗ル多ク從ヒテ麥類ノ栽培反別ハ農産物中第二位ヲ占ムルニ拘ラス其ノ收量ハ近年殆ト増加スル所ナク依然舊態ヲ維持スルニ止マレリ然ルニ

社會ノ進歩ニ伴ヒテ麥類殊ニ小麥粉ノ需用ハ年ヲ逐フテ増進シ之カ爲其ノ原料及製品ノ外國ヨリ輸入セラルル額ハ近年著ク増加シ其ノ價額約千萬圓ニ達シ將來尙増加ノ傾向ヲ示セリ今農商務統計表及外國貿易概覽ニ依リテ本邦麥類ノ産額及麥類及其ノ製品輸入ノ狀況ヲ左ニ表示セン

第一表 麥作反別及收量

年	反別			收量		
	大麥	裸麥	小麥	大麥	裸麥	小麥
二十九年	六五,四三,一	六七,二八,五	四三,三三,六	七八,五,五七	五,九七,四八七	三五,九四,三
三十年	六五,八八,〇	六五,四八,五	四八,三三,二	八〇,六,六九	六,一五,七五二	三八,一,〇〇〇
三十一年	六五,六九,五	六八,一三,四〇	四六,六〇,九	八,九三,五五〇	七,三六,六〇五	四,一八,一八八
三十二年	六五,七,二六,一	六八,〇三,七	四六,三三,九	八,五二,七三六	六,五八,九,五五二	四,一四,一〇六
三十三年	六四,六四,七	六八,八二,〇,五	四八,六六,五,七	八,六七,一九	七,四三,六〇三	四,二五,五,六二
三十四年	六四,八,三四,四	六八,〇五,〇	四八,七,三,六,四	八,九八,九,七四	七,二九,三,八六七	四,三三,五,三六
三十五年	六四,五,三,七,八	六七,四三,九	四八,四,一,七,三	八,一四,九,八〇	六,三三,〇,八二	三,九四,四,九七
三十六年	六五,八,二五,〇	六七,三,四,二	四九,〇,六,九	七,四,三,三〇	四,〇七,四,九七	一,八七,五,三八
三十七年	六五,六〇,八	六九,〇,六,九	四八,六,六,三	八,九七,〇,三五	六,八五,三,三三	三,八五,八,九一
三十八年	六九,六,七,七	六九,四,七,七	四三,四,七,〇	八,五九,四,五	六,五九,四,八二	三,六〇,一,五三
三十九年	六九,六,七,七	六九,四,七,七	四三,四,七,〇	八,五九,四,五	六,五九,四,八二	三,六〇,一,五三

第二表 小麥、小麥粉並ニ麥芽輸入額

年	小麥		小麥粉		麥芽
	小麥	小麥粉	小麥粉其ノ原料小麥ニ改算セルモノ	小麥及小麥粉其ノ原料小麥ニ改算セルモノノ合計	
三十五年	三八,四六〇	六五,九,二四〇	四五,七,八〇六	四九,六,二六六	—
三十六年	五六,二,五〇二	一九,一,二,三三三	一,三二七,九九五	一,八九〇,四九七	—
三十七年	一五,九,九四〇	一,七五〇,一一一	一,二一五,三六二	一,三七五,三〇二	二二,四三五
三十八年	四一〇,五八四	一,六八三,七三八	一,一六九,二六三	一,五七九,八四七	二四,七四八
三十九年	一五七,〇七四	一,四五五,一〇九	一,〇〇,四九二	一,一六七,五六六	四〇,一〇一

備考 小麥粉原料小麥百匁ヨリ七十匁ヲ得ルモノトシ小麥粉ハ一升三百六十匁麥芽ハ一升二百六十六匁トシテ計算セリ

前表ニ據リテ見レハ小麥及小麥粉ヲ小麥ニ改算セルモノノ合計ハ明治三十五年ニ於テ約五十萬石ナリシモノ三十六年ニ於ケル麥作不良ナリシト三十七八兩年ノ戰役ニ由リ其ノ輸入額急ニ増加シ三十九年ニ於テハ戰局既ニ止ミテ常態ニ復シ麥作亦良好ナリシニ拘ラス尙且其ノ輸入ハ一百萬石以上ニ達シ我カ小麥平年産額ノ約二割五分ニ達セリ又麥芽ハ麥酒醸造業ノ發達ト共ニ漸次増加シ昨三十九年ニハ其ノ價格六十五萬圓ニ上レリ若シ此ノ趨勢繼續センニハ數年後ニ於ケル麥類及其ノ製品ノ輸入ハ更ニ巨額ニ達スヘク我カ國家經濟上ニ及ホス影響頗ル大ナルモノアラン

本邦麥作ノ現時ニ於ケル平年收量ハ約二千萬石ニ過キスト雖モ前ニ述ヘシ如ク其ノ栽培ニ關シ注意ヲ缺ケル所多キヲ以テ種子ノ鹽水選適當ナル肥料ノ配合、病蟲害ノ驅除豫防等栽培上ノ改良ニ依リ五割内外ヲ増加シ得ヘキハ各府縣農事試驗場ニ於テ行ヘル試驗ノ成績ニ徵スルモ明カナルヲ以テ是等ノ成績ニ鑑ミ栽培法ノ改良ニ努ムルト共ニ種類ノ選擇ニ注意シ以テ其ノ增收ヲ期セサルヘカラス今左ニ麥作改良上必要ナル要點ヲ擧ケン

一、種類ノ選擇ニ注意スルコト 種類ノ良否ハ收量及品質ニ大ナル影響ヲ及ホスモノナレハ其ノ目的ニ依リ適當ナル種類ヲ選擇スルヲ要ス例セハ製粉用小麥トシテハ或ハ外國種中本邦ノ氣候ニ適當シ收量多クシテ品質亦良好ナル「ブルツ」種ヲ選ムカ如キ又麥酒ノ原料タル麥芽製造用トシテハ「ゴルデン」種ヲ栽培スルカ如キ其ノ目的ニ應シテ之ヲ選擇ニ注意スヘキハ勿論ナレトモ一般ニ栽培スルモノハ成ルヘク收量多キモノヲ選擇シ以テ增收ヲ期セサルヘカラス又製粉用小麥若クハ麥芽用大麥ヲ栽培スル場合ニハ成ルヘク多數協同シ種類ノ選擇栽培法ノ如キモ之ヲ一定シ品質同一ナルモノヲ多額ニ産出スルニ努ムルコト肝要ナリトス

二、肥料ノ配合ニ注意スルコト 麥類ニ施用スヘキ肥料ノ用量ハ固ヨリ地方ニ依リテ一定スヘキニ非

スト雖モ各地方農事試験場ノ成績ニ鑑ミテ肥料ノ配合ニ注意シ殊ニ多少ノ燐酸肥料ヲ加用スルコト最モ必要ナリトス

一、收穫ノ時期ヲ誤ラサルコト 麥類ノ收穫期ハ梅雨期ニ際スルヲ以テ其ノ適時ニ至レハ直ニ收穫スヘシ若シ收穫後ニ降雨ニ逢遇セハ色澤不良ト爲リ甚シキハ麥粒發芽スルニ至ルヘク此ノ如キハ何レモ品質ヲ損シ價格ヲ低落セシムルモノナレハ特ニ注意ヲ加ヘ穗黃變シ穗首亦稍黃變セハ猶豫ナク刈取ルヲ要ス今回出品ノ多數ハ此ノ點ニ注意ヲ缺ケルモノ多シ

四、乾燥法ヲ完クスルコト 麥收穫ノ際降雨多キヲ以テ之カ乾燥ニハ殊ニ注意ヲ要ス彼ノ收穫後永ク畑地ニ刈倒セル儘放置スルカ如キハ降雨ニ遭遇スルトキ非常ノ損失ヲ被ルヘキヲ以テ豫メ屋根ヲ有スル稻架ノ如キモノヲ作り置キ收穫セル麥ハ穗ヲ内ニシテ之ニ架シ以テ乾燥ヲ圖ルヘシ又脱穀後席上ニテ一兩日間日光ニ當テ乾燥ノ完全ヲ圖ルヘシ

五、調製ニ注意スルコト 調製ノ良否ハ米審査報告ニ述ヘタルカ如ク其ノ價格ニ影響ヲ及ホスコト大ナルヲ以テ之カ完全ヲ期スルヲ要ス

其三 豆

主任 安藤 廣太郎

本會出品ノ豆類ハ大豆、小豆、落花生、蠶豆、豌豆、菜豆、刀豆等ニシテ其ノ總點數一千〇三十五點出品人員九百六十八名ナリ而シテ大豆ノ出品ハ總點數ノ約四割ヲ占メ小豆及落花生之ニ次キ其ノ他ノ豆類ハ甚タ少シ

豆類ノ品質審査ノ方法ハ肉眼ニテ形狀、色澤、乾燥、調製等ノ良否ヲ鑑別スルノ外大豆ニ在リテハ更ニ「クトリ」ターノ容重及外皮ノ厚薄ヲ檢シ落花生ハ外殼ノ割合及子實中ニ含有スル脂油ノ量ヲ檢定シ以テ其ノ優劣ヲ査定シタリ而シテ其ノ結果百四十五名ヲ選抜シ之ニ擬賞セリ今左ニ出品點數、人員及擬賞ノ數位ニ出品點數ニ對スル擬賞ノ割合ヲ府縣順ニ表示スレハ左ノ如シ

出品點數	出品人員	賞			褒狀	合計	出品點數ニ對スル擬賞ノ割合
		一等	二等	三等			
東 京 府	五四九	五三三	一	九	六一	七一	一二九
千 葉 縣	七一	六九	一	四	一四	一九	二六八
靜 岡 縣	八	五	〇	〇	〇	〇	〇
兵 庫 縣	一一	一	〇	〇	〇	〇	〇
埼 玉 縣	一一	一	〇	〇	〇	〇	〇
新 潟 縣	二〇	一八	〇	〇	〇	〇	〇
秋 田 縣	二七	二五	二	一	三	七	三五〇
福 島 縣	二七	二七	〇	一	二	三	四二九
山 梨 縣	三七	三七	〇	〇	〇	〇	三三三
宮 城 縣	三五	三五	〇	〇	〇	〇	二〇〇
岐 阜 縣	二二	二二	〇	〇	〇	〇	〇
福 井 縣	二二	二二	〇	〇	〇	〇	〇
群 馬 縣	三	三	〇	〇	〇	〇	〇
德 島 縣	一	一	〇	〇	〇	〇	〇
山 形 縣	一	一	〇	〇	〇	〇	〇
北 海 道	一	一	〇	〇	〇	〇	〇
臺 南 縣	二八〇	二七九	〇	〇	〇	〇	〇
韓 國	五三	一二	〇	〇	〇	〇	〇
計	一〇三五	九六八	六	二二	一八	一四五	一四〇

今左ニ各種豆類ニ就キ概評ヲ試ミ將來改善ヲ要スヘキ缺點ヲ擧ケン

(二) 大豆

大豆ノ出品點數ハ五百七十一點ニシテ内東京府下ノ産ニ係ルモノ六割弱臺灣産ノモノ二割強ヲ占ム

而シテ出品中品質良好ナルモノハ多クハ秋田、新潟、福島地方ノ産ニ係リ東京府及附近諸縣ノ出品ハ往々良品ナキニ非サレトモ子實ノ形狀整一ヲ缺キ色澤亦良好ナラス殊ニ乾燥ノ充分ナラサルモノ多キハ甚タ惜ムヘシ又臺灣産大豆ハ品質概シテ劣惡ニシテ色澤不良ナルモノ多ク殊ニ調製ニ至リテハ甚タ不完全ナリ韓國産大豆ハ其ノ品質稍見ルヘキモノ少カラサレトモ調製ノ不充分ナルハ遺憾ナリ將來其ノ地方ニ適應セル良種ヲ選擇スルト共ニ是等ノ點ニ就キテ充分ノ注意ヲ加フルヲ要ス今參考ノ爲各地方出品ノ大豆ニ就キテ調査セル「ヘクトリ」ノ重量及外皮ノ割合ヲ表示スレハ左ノ如シ

「ヘクトリ」ノ重量

東 京 府	新 潟 縣	秋 田 縣	福 島 縣	宮 城 縣	福 井 縣	群 馬 縣	千 葉 縣	山 梨 縣	臺 灣 國	韓 國
供試點數	四三	八	二二	三	一	一	一	一	二	九
最 多	七五二	七五八	七五二	七四一					七五〇	七五五
最 少	七〇九	七一四	七二二	七三〇					六九四	七四〇
平 均	七三五	七三六	七三〇	七三六					七三〇	七四六
外皮ノ割合	八	二二	三	一	一	一	一	一	二	九
供試點數	四三	八	二二	三	一	一	一	一	二	九
最 多	七五二	七五八	七五二	七四一					七五〇	七五五
最 少	七〇九	七一四	七二二	七三〇					六九四	七四〇
平 均	七三五	七三六	七三〇	七三六					七三〇	七四六

(二) 小豆

新 潟 縣	秋 田 縣	福 島 縣	宮 城 縣	臺 灣 國	韓 國
供試點數	二	四	一	一	一
最 多	〇七九	〇六三			〇五三
最 少	〇七一	〇六一			〇七一
平 均	〇七五	〇六二			〇六二

小豆ノ出品點數ハ百七十二點ニシテ東京府下ノ出品其九割ヲ占ム概シテ良品少ク子實不整、色澤亦良好ナラサルモノ多シ又韓國ノ出品中ニハ品質稍見ルヘキモノアリシカトモ調製充分ナラス臺灣産ノモノハ品質調製共ニ甚タ不良ナリ

(三) 落花生

落花生ノ出品點數ハ百九十六點ニシテ就中臺灣ノ出品其ノ五割餘ヲ占メ千葉縣ノ出品之ニ次キ約三割ニ達シ東京府下ノ出品ニ係ルモノハ僅ニ一割餘ニ過キス概シテ品質良好ナルモノ多ク殊ニ静岡縣及千葉縣ノ出品ニ係ル大粒種ハ外殼ノ色澤良好ニシテ子實能ク充實シ且脂油ニ富メリ又東京府ノ出品ニ係ル小粒種ニモ品質見ルヘキモノアリ然レトモ是等諸府縣ノ出品中ニハ形狀整一ナラス或ハ外殼ノ汚レタルモノアリ甚シキハ外殼ノ美ヲ街ハンカ爲殊ニ鹽化石灰ヲ以テ洗滌セルカ如キモノアリ此ノ如キハ却リテ子實ノ品質ヲ損スルモノナルヲ以テ寧ロ之ヲ避ケサルヘカラス又臺灣ノ出品ニ係ルモノハ近來大ニ進歩ノ徵ヲ呈シ就中大粒種中ニハ其ノ品質内地産ニ比シ遜色ナキモノアルハ甚タ悦フヘシト雖モ尙其ノ多數ハ外殼ノ色澤不良ニシテ形狀不整ナリ宜シク種類ノ選擇及調製ニ注意シ之カ改良ヲ圖ルヘシ今左ニ參考ノ爲各府縣ノ出品中良品ニ就キテ試験セル外殼ノ割合、子實ノ比重及百分中ニ含有スル脂油ノ量ヲ表示スヘシ

供試點數	外皮ノ割合			子實ノ比重			子實百分中ニ含有スル脂肪			
	最多	最少	平均	最重	最輕	平均	最多	最少	平均	
千葉縣(大粒)	六	二八	二六二	二七三	〇、九八	〇、九三	〇、九六	四七、八	四三、五	四五、五
静岡縣(同)	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—
臺灣(同)	九	三、一五	二、四九	二、七五	一、〇三	〇、九〇	〇、九五	四九、二	三九、三	四五、四
東京府(小粒)	六	一、八七	一、七五	一、八一	一、〇五	〇、九九	一、〇三	五〇、五	四八、九	四九、九
静岡縣(同)	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—

落花生ハ近年海外ニ輸出セララルコト多ク昨三十九年ノ如キハ輸出額三十萬圓ニ達シ將來益増加ノ望ナキニ非サルヲ以テ之カ栽培及調製ニ注意シ外穀ノ美ニシテ子實ヨク充實セル良品ノ産出ニ務メシコトヲ望ム

(四) 雜豆

大小豆及落花生ノ外菜豆、綠豆、豌豆、蠶豆、刀豆等各種豆類ノ出品點數ハ僅ニ九十六點ニ過キス而シテ出品物ノ品質ハ概シテ普通ニシテ特ニ見ルヘキモノナク臺灣ノ出品ハ品質及調製良好ナラス又韓國出品ノ綠豆ハ品質稍見ルニ足ルモノアリシカトモ調製ニ缺クル所アルヲ遺憾トス

其四 雜穀

主任 安藤 廣太郎

本會出品ノ雜穀ハ粟、黍、蜀黍、玉蜀黍、稗、蕎麥等ニシテ其ノ出品總點數百七十六點、出品人員百六十六名ナリ而シテ出品中多數ヲ占ムルモノハ黍(六十六點)及粟(四十八點)ニシテ其ノ他ノモノハ十點乃至二十點ニ過キス

雜穀類審査ノ方法ハ他ノ穀類ト同シク先ツ肉眼ニテ品質ノ良否ヲ鑑定シ更ニ其ノ「ヘクトリータ」ノ重量ヲ檢シ以テ優劣ヲ査定シタリ而シテ其ノ結果十四名ヲ選抜シテ之ニ褒狀ヲ擬シタリ左ニ各府縣ノ出品點數、人員及擬賞數竝ニ擬賞ニ對スル割合ヲ示セハ左ノ如シ

府縣	出品點數	出品人員	擬賞數(褒狀)	出品點數ニ對スル擬賞ノ割合
東京府	一五四	一五一	一一	〇、七
福井縣	二	二	二	一〇〇
臺灣	一四	一三	一	〇、七
韓國	六	三	〇	〇
合計	一七六	一六六	一四	〇、八

今各種ノ出品ニ就キテ概評ヲ試ミレハ左ノ如シ

粟、黍及蜀黍 品質普通ニシテ見ルヘキモノ少シ往々調製ノ充分ナラスシテ稗皮ヲ混セルモノアルハ遺憾ナリ

玉蜀黍 在來種多ク其ノ品質亦普通ニシテ特ニ評スルニ足ルモノナシ

稗 品質劣等ニシテ見ルヘキモノナシ

蕎麥 福井縣出品ノ二點ハ子實ヨク充實シ品質稍佳良ナリ東京府ノ出品ニ係ルモノハ概シテ外皮厚ク子實不整ニシテ見ルヘキモノ少シ

今參考ノ爲ニ各種「ヘクトリータ」ノ重量ヲ示セハ左ノ如シ

供試點數	最多	最少	平均
粟	七	六八三	六七二
黍	一〇	六三七	六二八
蜀黍	一	—	—
稗	二	四七六	四六三
蕎麥	七	七五二	六四九

其五 綿

主任 吉川 祐輝

今回出品ノ棉ハ實綿線綿ヲ合セテ二十四點ニシテ東京府小笠原島及臺灣ノ産出ニ係リ其ノ品質見ルニ足ルヘキモノ殆ト之ナシ
 棉ハ古來本邦ニ於テ盛ニ栽培セラレ重要農産物ノ一タリシカ紡績業ノ勃興ト共ニ外國産棉花ノ盛ニ輸入セララルニ至リタル結果之カ作附反別及産額ハ著ク減少シ現時ニ於テハ二十年以前ニ比シ約八分ノ一ニ過キス今農商務省統計表ニ依リ明治十七年ヨリ五年毎ニ於ケル作附反別及産額ヲ示セハ左ノ如シ

明治十七年	九六三二八七	作附反別	收穫高
同 二十三年	一五、五三九、二四三		
同 二十八年	五五五四一〇		
同 三十三年	一〇、四八八、五六九		
同 三十八年	二八、二六二、〇		
	四、八九四、三二二		
	二、一四五、六二五		
	一二二〇三、五		

此ノ如ク本邦内地ニ於ケル棉花ノ栽培著ク減退セル所以ハ氣候ノ關係上其ノ栽培ニ費用ヲ要スルコト多クシテ低廉ナル外國産棉ト競争スル能ハサルニ由ルモノニシテ一時棉獎勵會設ケラレ陸地棉ノ栽培ヲ奨励シタリシカトモ遂ニ無効ニ終リタルカ如キ其ノ原因亦全ク之ニ外ナラス其ノ今日僅ニ餘喘ヲ保テラルハ本邦在來種ノ纖維太ク且短クシテ彈力ニ富メルカ爲中入綿及蒲團綿トシテ適當セルモノアルニ因ルノミ
 今回棉花ヲ出品セル小笠原島及臺灣ハ共ニ温度高ク棉作ニ適スヘキカ如シト雖モ小笠原島ノ如キハ出品解説書ノ示ス所ニ依ルニ相當ノ施肥及保護ヲ加ヘ尙且一反歩ノ收量ハ僅ニ十貫乃至二十貫ニシテ到底有利ナル作物ト稱スルヲ得ス又臺灣ハ之ニ反シ收量遙ニ多ク稍有望ナルカ如シト雖モ暴風雨ノ襲來スルコト多キヲ以テ將來多額ノ産出ヲ見シコトハ疑問ニ屬ス

本邦棉作ノ狀況此ノ如ク其ノ將來亦敢テ望ヲ屬スルヲ得サルカ故ニ自家用ノ外ハ氣候能ク棉作ニ適シ栽培費用比較的低廉ナル地方ニ非サレハ寧ロ他ノ有利ナル作物ニ代ヘ又棉作ノ適地ニ於テハ内地用トシテ纖維太ク彈力强キ種類ヲ選擇栽培スルコト有利ナルヘシ
 今回ノ出品ハ概シテ色澤良好ナラサルモノ多ク纖維ノ發育不良ナルモノ亦少シトセス左ニ各産地別ニ依リ纖維ノ長短及細太ヲ表示セン

小笠原島産	陸地棉	纖維ノ長サ	同	幅	線綿歩合
臺灣産	内國棉	二、三〇〇	二、二二一	二、二九一	二、二九九
		二、二六八	二、二二五	二、二八七	二、二八七
		二、三〇五	二、二二四	二、二四三	二、二四三

其六 麻 主任 吉川 祐輝

麻類ノ出品ハ大麻、黄麻、苧麻及苧麻ノ四種ニシテ出品點數合計二百一點ナリ
 一大麻ノ出品ハ東京府ノ外福島、栃木、長野、島根ノ四縣ニシテ出品ノ産地ハ東京府下ニ屬スルモノナリ
 栃木縣産大多數ヲ占メ其ノ他ノ産出ニ係ルモノハ僅少ニ過キス即チ左表ノ如シ

群馬縣	一點	栃木縣	三五	長野縣	三	福島縣	一
島根縣	一	清國	三	合計	四四		

製造ノ方法ハ二三ヲ除ク外悉ク所謂金引製若クハ野州法ト稱スルモノニ屬セリ而シテ品質ハ舊ニ依リ栃木縣ノモノ概シテ優良ニシテ其ノ最優等品ニ至リテハ纖維細美、強靱ニシテ光澤麗シク剖裂亦良好ナルヲ以テ一等賞ヲ擬セリ
 大麻ハ我カ邦古來ノ物産ニシテ地方ニ依リ氣候善ク之ニ適シ隨ヒテ其ノ品質ノ佳良ナルコト諸外國中多ク其ノ比ヲ見スト雖モ價格ノ低廉ナラサルニ依リ諸外國ノ麻類ハ盛ニ輸入セラレテ之ニ代用セララルニ至レリ例之ヘハ網ノ原料トシテハ、マニラヘンブノ輸入アリ粗織物ノ原料トシテハ黄

麻苧麻等アリ又精織物トシテハ亞麻苧麻等アリ今夫日本外國貿易年表ニ依リテ苧麻ト總稱スルモノ即チ大麻亞麻黃麻及苧麻ノ最近六ヶ年間ニ於ケル輸入額ヲ掲ケレハ左ノ如シ

三十四年	一二,九六五,一八九	一,三七〇,一八三	三十五年	一三,二六五,四七五	一六〇,二七九九
三十六年	一三,七四九,一一七	一,七五八,〇六五	三十七年	一六,三五五,一五〇三	二二六,二二五八
三十八年	二一,八四九,八七七	三,三五八,二五一	三十九年	二二,三三九,二二五	三,三七四,〇九九

而シテ我カ國內ニ於ケル麻類需用ハ固ヨリ次第ニ増進シツアルハ確乎タル事實ナリト雖モ主トシテ前記輸入品ノ爲ニ壓迫ヲ受クル結果トシテ我カ大麻ノ作附並ニ産額ハ共ニ漸次減少ニ傾ケルコト左表ノ如シ(第二十二次農商務統計表ニ依ル)

二十九年	二二,六二九,三〇	三,二八五,七三〇	三十年	二二,三四九,七	三,五六九,一五九
三十一年	二五,一八八,〇	三,七七五,九一七	三十二年	一七,九一〇,六	二,九二一,九五四
三十三年	一八,二〇三,〇	二,六五二,七七四	三十四年	一七,五七六,九	二,九九四,〇二八
三十五年	一六,八九一,一	二,六八七,五九一	三十六年	一六,六一六,四	二,六六五,一〇一
三十七年	一五,七一一,六	二,七二七,二二三	三十八年	一三,三五〇,二	二,一八五,四二五

此ニ於テ當然起ル所ノ問題ハ我カ大麻ハ將來如何ニスヘキヤ其ノ栽培ハ到底有利ナルコト能ハサルカ又之ヲ栽培スルトセハ如何ナル品ヲ目的トスヘキヤ即チ價貴キモ精良ノ品ヲ産スヘキヤ若クハ品質ハ精良ナラストモ價廉ナルモノヲ産出スヘキヤ等之ナリ

抑モ我カ邦ノ大麻ハ主トシテ山間地方ニ栽培スル作物ニシテ其ノ栽培ノ規模及地區共ニ固ヨリ小ナリ從ヒテ同一品質ノモノヲ多量ニ産出スルカ如キハ甚タ望ミ易カラス而シテ從來ニ於ケル其ノ用途ハ現今ニ於ケル麻類各種ノ用途ヲ兼ネタリ其ノ粗ナルモノハ網糸類鼻緒心等トシ其中ナルモノハ晒布蚊帳トシ又其ノ精良ナルモノハ上等衣料釣糸網糸等ニ供用セリ而シテ糸トシテ之カ使用ノ方法ハ從來專ヲ手工ニ依リ纖維ヲ剖裂シ縫ヲ施セルナリ纖維ノ調製ノ方法モ亦此ノ點ニ於テ便ナル方法ヲ採ル即チ糸類及織物トシテ我カ邦大麻ノ優點ハ其ノ美麗強韌ニシテ久キニ堪フルニ

在リ同時ニ其ノ價格ノ甚タ高キハ主トシテ多大ノ勞力ヲ要スルニ由ルナリ

輸入麻類ハ其ノ素質若クハ調製頗ル粗ニシテ之ヲ精美ナル我カ大麻纖維ニ比スル時ハ外觀甚タ劣レリ然レトモ價甚タ廉ニシテ且特殊ノ長所ヲ有スルアリ例之ヘハ「マニラ」ハ水濕ニ堪フルヲ以テ船舶用ノ網ニ適シ苧麻及亞麻ハ加工ノ程度如何ニ依リテ粗布ヲ織ルニモ用フヘク又上布ヲ織ルニモ適セリ且夫レ近世ニ於ケル纖維工業ハ世運ノ大勢ニ伴ヒテ一變シ手工ノ領域ハ大ニ縮少セラレテ器械力ノ應用大ニ擴張セラレ麻系モ亦紡績器ニ依リテ紡カルルニ至レリ紡績製系ノ場合ニ於テ我カ邦從來ノ大麻纖維ハ其ノ特有ノ優點ヲ發揮スル餘地ナク徒ニ高價ナル贅品トシテ排斥セラルルコトアルハ勢ヒ免ルル能ハサル所ナリ況ヤ品質一定セル巨額ノ産出ナキコト前述ノ如クナルニ於テヲヤ

論者往々我カ大麻ノ生産費ヲ減少シ以テ輸入品ニ拮抗センコトヲ説クモ亦一理アルカ如シト雖モ輸入麻類ノ産出地ハ地價遙ニ我カ大麻産地ヨリ低廉ニシテ且勞銀甚タ低キカ若クハ資金豊ニシテ裁製ニ器械ヲ用キ大規模ヲ以テ之ヲ營ムニ由リ輸入麻類ハ斯ノ如ク低廉ナルヲ得ルモノニシテ我邦大麻産地ノ事情ハ大ニ之ト異リ前記外國諸産地ニ於ケルカ如ク大ニ生産費ヲ減少スルコト甚タ難ク若シ夫レ強テ生産費ヲ減少シテ粗品ヲ出スカ如キハ決シテ利益ヲ増加スル所以ノ途ニ非サルヘシ只我カ國産特有ノ良質ハ之ヲ失フコトナク其ノ栽培及製造ニ學理ヲ應用シ又無用ノ裝飾等ニ費ス所ノモノヲ節約シテ努メテ生産費ヲ減少シ組合ヲ設ケテ品質ノ一定ヲ圖リ又需用ヲ廣ク海外ニ求ムルカ如キハ我カ邦大麻業ヲ振興スル所以ノ途ナリト信ス

前述ノ如ク我カ邦大麻纖維ノ一特性ハ其ノ強韌ニシテ漁網釣糸等ニ好適スルコト之ナリ此ノ特性ヲ充分ニ利用セント欲セハ手工ニ依ラサルヘカラスシテ此ノ點ハ即チ器械紡績ノ能クスルヲ得サル所ナリ斯ノ如キ我カ邦大麻ニ對スル重要ナル特性ハ産出者ノ最モ注意スヘキ所タルハ言フヲ埃タス然ルニ今回ノ出品ニ就キテ之ヲ觀ルニ其ノ價格ハ強韌性ト相伴フヲ見サルナリ詳言スレハ外

觀略相等シキ品ニ於テモ價格ハ強韌性ニ伴ヒテ上下スルコトナキヲ見ル斯ノ如キハ我カ邦大麻業カ未タ幼稚ノ域ニ在ルヲ示スモノニシテ尙改良ノ餘地多キハ多言ヲ要セス今參考ノ爲ニ今回出品ノ大麻ニ就キテ施行シタル強力試驗ノ成績ヲ示セハ左表ノ如シ

強力試驗ノ方法ハ各纖維ノ一端ヨリ三十センチメートル宛切り取り一定ノ間隔ニ依リテ各四個所ノ部ヲ採リ更ニ其ノ各部ヨリ一「デシグラム」ニ相當スル幅ノ纖維數條ヲ叮嚀ニ剖キ取り之ヲ二十センチメートルノ間ニ緊張シ其ノ一端ニ重力ヲ加ヘ纖維ノ切斷スルニ至ルマテ漸次其ノ重力ヲ増加シタルナリ故ニ茲ニ掲クル強力ハ長サ二十二センチメートル重量七、三三センチグラムノ纖維カ支フルコトヲ得ヘキ重量ヲ示スモノナリ外觀ハ之ヲ十等ニ分チタルモノトス

番號	名稱	外觀等級	一貫匁價格	強 力
一	岡 地 麻	五 等	四、三五	一一、五五〇瓦
二	引 田 麻	二 等	一一、〇五	一一、四三〇瓦
三	不 明 麻	二 等	八、三三	一一、二四〇瓦
四	上 野 麻	七 等	三、三三	一一、一六〇瓦
五	引 田 麻	六 等	一〇、〇〇	一一、一五〇瓦
六	南 摩 麻	一 等	八、三三	一一、〇六〇瓦
七	永 野 岡 東 麻	七 等	四、五〇	一一、八六〇瓦
八	引 田 麻	六 等	一一、〇五	九、七八〇瓦
九	岡 地 麻	六 等	四、〇〇	一〇、一四〇瓦
一〇	引 東 麻	六 等	五、六六	一〇、一〇〇瓦
一一	引 田 麻	六 等	一〇、三三	八、四三〇瓦
一二	永 野 麻	六 等	七、五〇	一〇、二六〇瓦

一黃麻ノ出品ハ總ヘテ臺灣ノ產ニ係リ出品人員九十三、出品點數九十六ナリ概シテ品位ニ甚シキ差等ナシト雖モ栽培收穫若クハ調製ノ未タ至ラサル所アルヲ認ム黃麻ノ如キハ素ヨリ精緻ノ製品ニ供

スルモノニ非サルカ故ニ漫ニ品質ノ美ヲ望ムヘキニ非サルハ勿論ナリト雖モ勞費ノ増加ニ據ラスシテ尙改良ノ餘地多キヲ認ム

夫レ黃麻ハ古來印度ノ大物產ニシテ其ノ用途一二ニ止マラスト雖モ其ノ主タルモノハ穀物ヲ容ルヘキ袋用ノ粗布即チ所謂「ズック」ヲ織ルニ在リ近世ニ至リ穀物貿易ノ隆盛ヲ致セルト共ニ該國ニ於ケル黃麻產額ノ増加セルハ實ニ著キ事實タリ我カ臺灣ノ地モ氣候炎熱能ク黃麻ニ適スルヲ以テ其ノ栽培稍見ルヘキアリ臺灣總督府ノ統計ニ據レハ其ノ近年ノ栽培面積及產額左表ノ如シ

年 次	栽培甲數	產額斤數	年 次	栽培甲數	產額斤數
三十一年	一、三八六、二七	一、一〇四、六三五	三十二年	一、四九四、六三	一、四四二、〇二
三十三年	一、一五五、四四	一、四八一、五四八	三十四年	一、四一一、一八	一、四八二、四七〇
三十五年	一、二四六、八六	一、五六四、八七八	三十六年	一、三四九、八六	二、七三七、九九二

然ルニ該島ニ於ケル麻袋ノ需用額ハ遙ニ其ノ產出額ノ上ニ在リ隨ヒテ年々巨額ノ輸入ヲ海外ニ仰クコト左表ノ如シ

年 次	輸入個數	輸入價額	年 次	輸入個數	輸入價額
三十一年	一、七三二、二六六	一〇九、七二二	三十二年	一、六三三、六三一	一一、七四〇
三十三年	四六四、四三〇	二七、〇二一	三十四年	三八二、四二一	二二、八六五
三十五年	三〇九、五九七	一七、八四八	三十六年	三八三、八一八	二六、五四八

臺灣總督府農事試驗場ノ調査ニ據レハ該島黃麻栽培ハ現ニ頗ル有利ノ業ナルカ如ク而シテ前掲ノ如ク其ノ栽培面積ノ年々増加スルコトハ之ヲ事實ニ證明スルモノト謂フヘシ該島農業家タルモノ益奮勵シテ黃麻ノ栽培ヲ改良擴張セハ當ニ各自ノ利益タルノミナラサルナリ

一苧麻ノ出品モ亦悉ク臺灣ノ產ニシテ出品人員五十三、出品點數五十三ナリ品位ハ一般ニ從來清國ヨリ輸入スル所ノモノト大差ナシ即チ從來我カ邦内地ニ產スルカ如キ精良美麗ノ品アラスト雖モ現今廣ク行ハルルカ如キ紡織漂白等ノ方法ヲ應用スルニ於テハ敢テ斯ル精製品ヲ產スル必要ナシ要

成ルヘク經濟的ニ品質ノ一定セルモノヲ多量ニ産出スルニ在リ臺灣總督府ノ統計ニ據レハ全島ノ栽培甲數一千八百三十五甲八分九厘ニシテ基隆、臺北、恒春、澎湖ヲ除キ各廳皆之ヲ作り就中新竹廳最モ多ク苗栗廳、宜蘭廳、臺南廳、蕃薯寮廳等順次之ニ亞クト云フ

芋麻纖維ハ其ノ本來ノ性質優良ナルコト他ノ麻類ニ卓越スト雖モ其ノ調製甚タ容易ナラスシテ未タ之ニ應用スヘキ適良ナル器械ノ發明ナク從ヒテ歐米ノ如キハ假令土地低廉氣候適應スルモ勞力賃高キニ由リ利益多カラス只清國湖北地方ノ如キハ氣候好適シ地價高カラス勞銀亦甚タ低廉ナルニ由リ其ノ栽培隆盛ナルヲ得ルナリ我カ臺灣ノ如キモ氣候好ク之ニ適シ一年間ニ三四回ノ收穫ヲ得ヘク其ノ他ノ事情亦頗ル可ナルヲ以テ將來益叢林地ヲ開墾シテ之カ栽培ヲ擴張スルヲ得ヘク當業者ノ大ニ注意スヘキ作物ナリ

臺灣總督府農事試驗場ノ調査ニ係ル同等芋麻栽培ノ收支計算ノ一二ノ實例ヲ舉クレハ左ノ如シ(一) 甲ニ對スル割合

一新竹廳竹北一堡大山背庄十二年繼續

支出	千二百八圓二十錢
收入	二千九百九十三圓七十六錢
差引益金	九百八十五圓五十二錢
一ヶ年平均益金	八十二圓十二錢六厘

支出内譯左ノ如シ

費目	金額	數量	單價	備考
種苗	一〇〇〇〇	二〇〇〇〇	千株 五十錢	伐株燒拂 三十二人
開墾整地	二四〇〇〇	八〇	一人 三十錢	耕地整地 四十八人
移植	三、四〇〇	八	同	同日一回十六年三回十二年通計
除草	一七二、八〇〇	五七六	同	三十六回

收穫	五八、四〇〇	五二八	同	上	一年一回ニ付四十八人十二年ニ付十一回
調製	一五八、四〇〇	五二八	同	上	平均一回ニ付十六人十二年通計三十三回
小作	五二四、八〇〇	一三、一二〇	一斤 四錢	圓	女一人上手十斤普通六斤
農具損料	一三一、二〇〇		百斤 一圓	圓	
收入内譯左ノ如シ	二六、二四〇		千斤 二圓	圓	

種目	金額	數量	單價	備考
芋 第一期分	一、三二二、〇〇〇	六、五六〇	百斤 二十圓	
芋 第二期分	六、一六〇、〇〇〇	四、四〇〇	同 十四圓	
芋 第三期分	二、五九二、〇〇〇	二、一六〇	同 十二圓	
計	二、一八七、二〇〇	一三、一二〇		
芋 麻 莖	六、五六〇	三二、八〇〇	百斤 二錢	生莖百斤ニ付乾燥物十斤

二、宜蘭廳員山堡結頭份庄十年繼續

支出	二千八十五圓五十錢
收入	二千九百九十圓六十四錢二厘
差引益金	九百五圓十四錢二厘
一ヶ年平均益金	九十圓五十一錢四厘

支出内譯左ノ如シ

費目	金額	數量	單價	備考
種苗	二五〇〇〇	四、〇〇〇	百斤 六十二錢五厘	一圓ニ付六十斤
整地	九、五〇〇	一〇〇	一人 一日六十錢	犁起二回ニ付牛十日
移植(苗取共)	三、五〇〇〇	一〇〇〇	一人 三十五錢	其他十人
除草	七〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇	同	一回ニ付五十人一年四回

種目	金額	數量	單位	價	備考
施肥	二一〇,〇〇〇	六〇〇	牛人一日六十錢		一回二付二十人一年三回
收穫平均	三五,〇〇〇	一〇〇	同		十年一回三十人
調製	七〇,〇〇〇	二,〇〇〇	同		十年一回四十人
耕作及販賣	四三二,〇〇〇	女二四〇〇	一人一日	十八錢	十年一回付五十人年四回
覆土	一四〇,〇〇〇	四〇〇	一人一日	三十五錢	十年一回付六十人年四回
小作	四〇,〇〇〇	一〇〇	百斤(一荷)	四十錢	年々一甲二付四十人
農具損料	一〇〇,〇〇〇	一〇	百斤(一荷)	四十錢	一甲二付年々一萬斤
肥料人糞尿	二五,〇〇〇	一〇	百斤(一荷)	二十錢	一甲步二付一ヶ年十圓
肥料人糞尿	二六四,〇〇〇	一三三,〇〇〇	百斤(一荷)	二十錢	一甲步一年二圓五十錢
收入内譯左ノ如シ					一回二付一萬二千斤每年一回及移植當時一回總へて十一回

一 苧麻ノ出品ハ東京府下ヨリ一人六點ヲ出品セリコハ粗製品ヨリ順次精製シテ仕上ニ至ルマテノ標品ト更ニ仕上ケ品ヲ赤色ニ染メタルモノトニシテ品質佳ナルヲ見タリ

苧麻ノ纖維ハ大麻ニ比スレハ其ノ素質劣等ニシテ粗ナルヲ以テ從來疊糸其ノ他粗品ヲ製スルニ用キ其ノ栽培固ヨリ盛ナラス將來ニ於テモ工業材料トシテ之カ栽培ヲ擴張スル見込アラズ但シ其ノ栽培製織共ニ容易ナルヲ以テ農家ノ自用ニ供スルカ如キハ地方ニ依リテ可ナルヘシ

其七 蘭

主任 吉川 祐輝

一 蘭(二名備後蘭)ハ出品人員五、出品點數五ニシテ中、東京府ノ産三點、他ノ二點ハ宮城縣ノ産ナリキ就中東京府下瑞穂村ノ産稍、佳ナルヲ見タリ

蘭ハ我カ邦内ニ廣ク栽培スルコトヲ得ヘク而シテ之ヲ疊表、莫産、花莖等ニ製織スルニハ大規模ノ器械ヲ用キルコト能ハスシテ多ク手工ニ埃ツヘキカ故ニ殊ニ我カ邦ニ好適スルノ作物ナリ

一 苧苳(一名七島蘭又琉球蘭)ノ出品ハ悉ク臺灣ノ産ニ係リ出品人員十一、出品點數十一ナリシカ品位ハ佳良ト稱スヘキモノナカリキ苧苳ハ寒氣ヲ忌ムカ故ニ我カ邦内ニ於ケル栽培區域ハ蘭ノ如ク廣キコト能ハスト雖モ其ノ用途畧、蘭ニ同シク亦我カ邦内暖地ニ好適スル重要作物ノ一ナリ

蘭苧苳共ニ花莖ノ製造ニ適シ而シテ近年ニ於テ花莖ノ輸出ハ漸次増加シテ一ヶ年數百萬圓ヲ算スルニ至レリ貿易年表ノ示ス所左ノ如シ

年度	輸出價額	年度	輸出價額	年度	輸出價額
三十七年	四,九一七,三五八	三十八年	五,〇八六,九八七	三十九年	五,八二九,六四二
大甲蘭ハ出品人員一、出品點數二ニ過キス悉ク臺灣ノ産ナリ大甲蘭ノ帽子及莖蓆ハ能ク實用ニ適スルカ故ニ將來其ノ需用ハ倍、増加スヘキヤ必セリ					
概シテ蘭類ハ我カ邦内ニ適シ之カ製品ノ需用ハ漸次増大スヘキカ故ニ當業者ハ倍、奮勵シテ之カ栽培ニ努ムヘキナリ					

其八 製紙原料

主任 吉川 祐輝

一 製紙原料トシテ楮皮三點ノ出品アリタリ中二點ハ東京府下ノ産、他ノ一點ハ島根縣ノ産ナリキ就中東京府下西多摩郡ノ産稍、佳ナリ

楮ハ所謂和紙ノ原料トシテ古來用キラレ纖維強韌ナルコト他ノ製紙原料ニ優レリ所謂西洋紙ノ使用如何ニ擴張スルモ一種特有ノ良性質ヲ有セル我カ和紙ハ將來其ノ需用決シテ減退セサルヘキニ因リ之カ栽培ニ從フ者品種ヲ選ミ收穫、調製等ニ意ヲ用キ益、和紙特有ノ良性質ヲ發揮スルニ努ムヘキナリ

一製紙原料ニ屬スル黃蜀葵ノ出品三點、同出品人員三何レモ東京府下南多摩郡ノ産ニ係レリ就中同郡南村ノ産稍佳ナリ

其九 雜纖維

主任 吉川 祐輝

一糸瓜羅ノ出品ハ人員七、點數八ナリシカ内靜岡縣ノ産二點ノ外ハ皆東京府ノ産ナリキ靜岡縣ノ産ハ色白ク形頗ル大ニシテ纖維細ク其ノ組織緻密ニシテ頗ル佳良ナリシカトモ未タ最良品ト認ムルヲ得ス靜岡縣ハ從來糸瓜ノ産出ニ於テ我カ國內ニ冠タリ今回ノ出品ノ如キハ僅ニ其ノ一斑ヲ示シタルノミ而シテ東京府下ニ於テ頗ル良品ヲ産スルニ至リタルハ賀セサルヲ得ス殊ニ南葛飾郡瑞穂村ノ産ニハ品位靜岡縣産ニ讓ラサルモノアリキ今後益々之カ栽培ニ努力セシムコトヲ望ム

糸瓜羅ノ用途ハ海綿ノ代用、汗脂除、帽子心、籠細工等ニシテ世界ニ於ケル其ノ需用ハ將來尙増加スヘキモノナリト信ス而シテ之カ輸出ハ數年前迄ハ着々増進シ來リシニ三十八年ニ至リテ頓挫シ三十九年ニハ復々増加セリ貿易年表ノ示ス所左ノ如シ

年度	輸出個數	價格
三十七年	四、四〇一、六九二	一〇七七、七三九
三十八年	二、二一九、三六二	六一、七〇一
三十九年	三、四五六、一〇六	一〇六、六五八

一櫻欄ノ出品ハ鬼毛、拔毛、皮及晒葉合計十點ニシテ出品人員二名ナリキ出品ハ悉ク和歌山縣下ノ産出ニ係レリ出品中晒葉稍見ルヘキモノアリシ外特ニ賞スヘキモノナカリキ
櫻欄毛ノ類ハ古來我カ邦ニテ使用スル所ニシテ其ノ使用ハ増加スルコトアルモ減少スルコトナカルヘシ又其ノ葉ハ之ヲ漂白シテ木履表ノ製造ニ供シ且近年夏帽子ノ原料トシテ稍盛ニ使用セララルニ至リシカ故ニ之カ栽培ハ倍有益ナラントス只良畑ヲ以テ之カ栽培ニ充ツルカ如キハ得策ニ非サルヘシト雖モ家宅ノ附近、路傍等ニ栽エテ傍ラ風致ヲ添ヘシメ又ハ他作物ニ適セサル傾斜地ヲ利

用スル等ハ殊ニ有益ナラント信ス

一甘蔗纖維一點小笠原島ヨリ出品アリシカトモ調製佳ナリト謂フヲ得ス

一鳳梨纖維ハ出品人員十三、出品點數十三ニシテ悉ク臺灣ノ産ニ係レリ中二三ハ品質稍佳ナルモノアリキ將來尙一層栽培ニ注意セシムコトヲ望ム

一唐綿或ハばんヤト稱スノ出品人員四、出品點數四アリ何レモ東京府下ノ産ニ係レリ
近年唐綿ノ効用ヲ誇張シ頻ニ其ノ栽培ヲ勸誘スル者アレトモ纖維トシテノ唐綿ハ其ノ價值極メテ低キモノニシテ紡キテ糸ト爲スニ適セス只僅ニ填充品トシテ用キルヲ得ヘキノミ農家タル者漫ニ之ヲ栽植スルコトナカラシムヲ望ム

其十 染色原料

主任 今關 常次郎

(一) 葉藍

葉藍ハ染色原料中首位ヲ占ムルモノナレトモ其ノ出品點數ハ東京府十五點、德島縣九點合計二十四點ニ過キス而シテ之カ審査ハ先ツ肉眼鑑定ニ依リテ其ノ品質、色澤、乾燥、調製等ノ良否ヲ調査シテ優品ヲ選抜シ其ノ優品ニ就キテハ更ニ化學藥品ノ力ヲ藉リテ所含色素ノ多少等ヲ鑑別シ解説書及其ノ他ノ方法ニ依リテ出品者ノ事業實況及其ノ功績等ヲ調査シ其ノ結果三等賞二名、褒狀五名、合計七名ヲ選抜擬賞セリ之ヲ出品人員ニ對比スレハ約三割ニ相當セリ今左ニ出品點數、出品人員、擬賞數並ニ褒賞歩合ヲ表示セン

府縣名	出品點數	出品人數	褒賞數		出品點數ニ對スルモノ	出品人員ニ對スルモノ
			褒狀	賞		
東京	一五	一四	一	三	二六、七	一、八六
德島	九	九	一	二	三、三三	三、三三
合計	二四	二三	二	五	二九、一	三、〇三

今回ノ出品ニ就キテ概評スレハ次ノ如シ

東京府、品質稍、觀ルヘキモノナキニ非スト雖モ概ネ色澤不良ニシテ葉肉ノ瘠薄ナルハ遺憾トスル所ナリ殊ニ乾燥不充分ナルカ爲ニ微ヲ生シタルモノ及收穫ノ適期ヲ誤リテ藍分ヲ減少セルモノ等モ亦尠カラズ當業者此ノ點ニ注意スルヲ要ス

德島縣、品質概ネ稍佳ナリト雖モ特ニ優良ナルモノ尠ク藍作主産地ノ出品トシテ賞揚ニ値スルモノナカリシハ遺憾ナリ就中往々特ニ新芽ノミヲ摘ミ形狀ヲ整ヘ葉柄ヲ除キ或ハ揉ミ或ハ擦リテ徒ニ外觀ノ美ヲ粧フ等調製ノ方法甚タ虚飾ニ流レタルモノアリシハ頗ル遺憾ニ堪ヘサル所ナリ

左ニ東京府及德島縣ニ於ケル藍作ノ實況ト本邦藍業ノ趨勢トヲ略述シ以テ當業者ノ參考ニ資セントス東京府及德島縣ニ於ケル葉藍生産ノ狀況ハ之ヲ統計ニ徴スルニ左ノ如シ

年 度	東京府		德島縣	
	作附反別	收穫高	作附反別	收穫高
明治二十七年	一、六八六、五	三九四、七二七	一〇、四九三、〇	三四六、一五九〇
同 二十八年	一、七八九、七	四六九、九二七	一三、〇五五、三	四、七一一、五五四
同 二十九年	二、一六七、一	五八三、二九七	一一、五二〇、六	四、三九一、九〇〇
同 三十年	二、一四八、八	五三一、六五〇	一一、八二一、七	四、五六五、二八〇
同 三十一年	二、一四四、九	七七五、九九二	一一、二八七、二	四、一四一、五四九
同 三十二年	二、〇五八、九	六〇七、一八七	一三、八六三、五	四、八八〇、八七二
同 三十三年	一、四一一、三	二二九、〇六六	一四、〇六三、〇	四、五六五、二九〇
同 三十四年	一、七二八、七	五二六、二一七	一三、五六七、四	三、二五九、三六七
同 三十五年	一、〇三七、五	二三八、五六五	一二、四八六、二	四、四六九、七一八
同 三十六年	一、二二四、四	三六九、四〇三	一二、六六三、八	五、四二七、二五一
同 三十七年	八四六、八	二三四、六二〇	九、〇〇八、五	三、六四九、四九三

同 三十八年 七七六、一 四六四、一〇六 六〇 六〇七三、八 二、四五七、六八一 四〇

前表ニ據レハ兩府縣トモ藍作ハ明治三十年前後數年間ニ於テ盛大ヲ極メタリシモ爾後年々衰退ノ兆ヲ現シ殊ニ三十七、八年ニ至リテハ著ク其ノ生産ヲ減少シ耕作反別ノ如キハ前數年ニ比シテ半ニタモ達セサルヲ見ル(縱令東京府ニ在リテハ三十八年度收穫高耕作反別ニ比シテ異數ノ巨額ヲ示セリトモ、即チ兩府縣トモ葉藍ノ耕作ハ漸次退歩ノ狀態ニ在ルハ爭フヘカラサル事實ナリトス更ニ全國ニ於ケル葉藍生産ノ消長ヲ統計ニ徴スルニ次表ノ如シ

年 度	東京府		德島縣	
	作附反別	收穫高	作附反別	收穫高
明治十七年	三三、七三五、〇	一一、五五二、三四八	一、五五二、三四八	三五
同 二十年	五〇、二五七、四	一五、四二四、四一一	一五、四二四、四一一	三一
同 二十五年	四四、〇四九、五	一五、四四七、八二二	一五、四四七、八二二	三五
同 二十七年	四六、八五一、七	一六、〇八七、三七七	一六、〇八七、三七七	三五
同 二十八年	四九、〇七九、〇	一七、三七三、三四四	一七、三七三、三四四	三五
同 二十九年	四九、一九〇、三	一七、九一八、八六三	一七、九一八、八六三	三六
同 三十年	五〇、七一三、三	一九、四一五、五九三	一九、四一五、五九三	三八
同 三十一年	四八、八七二、四	一七、七五八、五一〇	一七、七五八、五一〇	三六
同 三十二年	四七、八二四、八	一七、〇四四、四一〇	一七、〇四四、四一〇	三六
同 三十三年	四六、一八〇、四	一六、五八二、二三〇	一六、五八二、二三〇	三六
同 三十四年	四〇、七四二、八	一一、二二三、一四八	一一、二二三、一四八	三二
同 三十五年	三七、一九三、三	一二、四九五、一五一	一二、四九五、一五一	三四
同 三十六年	三五、六一八、五	一三、五五〇、四〇二	一三、五五〇、四〇二	三八
同 三十七年	二四、六六二、七	九、一七三、〇五五	九、一七三、〇五五	三七
同 三十八年	一八、七二五、四	七、二五四、〇三三	七、二五四、〇三三	三九

是ニ由リテ之ヲ觀レハ我カ邦ニ於ケル葉藍作ハ明治三十年度ニ於テ作附反別及收穫高共ニ最高ニ達

シ爾來漸次衰退ニ傾ケルカ如シテ之カ衰退ノ原因ハ最初ハ主トシテ印度産天然乾藍ノ輸入ニ基ケリト雖モ最近數年ニ在リテハ主トシテ獨逸産人工乾藍ノ競争ニ因ルモノナリトス但シ三十七、八年度ニ於テ特ニ耕作反別及收穫高ノ著ク減少シタルハ日露戰爭ノ結果諸種染織工業大打撃ヲ受ケ隨ヒテ染料ノ需用ヲ減シタルコト其ノ主ナル原因ナラン何トナレハ此ノ兩年ニ於テハ外國産乾藍ノ輸入額モ亦前數年ニ比シテ著ク減少シタル事實アレハナリ左ニ外國産乾藍及其ノ類似色素タル「アリザリン」及「アニリン」染料ノ輸入表ヲ揭示シテ參考ニ資セン

甲 表

年 度	天然乾藍(印度藍)		人工乾藍(獨乙乾藍)		合 計	
	數 量	價 格	數 量	價 格	數 量	價 格
明治三十年	—	—	—	—	—	—
同 三十一年	—	—	—	—	—	—
同 三十二年	—	—	—	—	—	—
同 三十三年	—	—	—	—	—	—
同 三十四年	—	—	—	—	—	—
同 三十五年	一、一九六、四四一	二、四一五、六二九	二二一、四四五	六八二、三五二	一、四一七、八八六	三、〇九七、九八一
同 三十六年	一、六三四、五七五	三、三二五、〇〇〇	三四九、八一三	一、〇二五、八一五	一、九八四、三八八	四、四五〇、八一五
同 三十七年	二六八、九八八	五〇〇、三七六	七六五、一一六	一、六一七、三〇一	一、〇三四、一〇四	二、一一七、六七八
同 三十八年	二七六、一四三	五〇七、一四〇	一、一三四、四〇三	二、三三二、五九七	一、四〇七、五四六	二、八二九、七三八
同 三十九年	二七五、四九〇	五六七、九七一	一、七六三、八六六	三、八七八、九〇〇	二、〇三九、三五六	四、四四六、八七一
明治三十年	七〇、九五八	—	—	—	—	—
同 三十一年	—	—	—	—	—	—
同 三十二年	—	—	—	—	—	—
同 三十三年	—	—	—	—	—	—
同 三十四年	—	—	—	—	—	—
同 三十五年	—	—	—	—	—	—
同 三十六年	—	—	—	—	—	—
同 三十七年	—	—	—	—	—	—
同 三十八年	—	—	—	—	—	—
同 三十九年	—	—	—	—	—	—

乙 表

年 度	「アリザリン」染料		「アニリン」染料	
	數 量	價 格	數 量	價 格
明治三十年	—	—	—	—
同 三十一年	—	—	—	—
同 三十二年	—	—	—	—
同 三十三年	—	—	—	—
同 三十四年	—	—	—	—
同 三十五年	—	—	—	—
同 三十六年	—	—	—	—
同 三十七年	—	—	—	—
同 三十八年	—	—	—	—
同 三十九年	—	—	—	—

甲表乾藍ノ統計ニ於テハ明治三十四年度以前ハ天然乾藍ト人工乾藍トノ間ニ輸入額ヲ區別セザリシト雖モ三十五年及三十六年度輸入ノ狀況ヨリ推ストキハ三十六年度迄ハ天然乾藍ノ輸入少カラサリシコト疑フヘカラス然レトモ天然乾藍ハ三十六年以後人工乾藍ノ爲ニ漸次輸入高ヲ減殺セラレ三十八、九年度ニ於テハ僅ニ二十七萬斤、價格五十餘萬圓ト爲ルニ至レリ之ニ反シテ人工乾藍ハ逐年輸入額ヲ増加シ三十九年度ニ至リテハ百七十六萬斤、價格三百八十八萬圓ニ達セリ又乙表ニ據レハ乾藍ト類似色素タル「アリザリン」及「アニリン」染料ハ年々約二百萬圓内外ノ輸入アルヲ見ル即チ現時ノ我カ邦ハ外國産乾藍ノ爲ニ年々三百萬圓乃至四百萬圓「アリザリン」及「アニリン」染料ノ爲ニ約二百萬圓合計五百萬圓乃至六百萬圓ヲ海外ニ支拂ハサルヘカラサル境遇ニ立テルモノナリ是蓋シ本邦製藍業カ外國産乾藍トノ競争ニ於テ大勢ノ抗スヘカラサルモノアリテ漸次悲境ニ傾ケルニ職由スルモノト謂フヘシ然レトモ本邦産ノ製藍ハ染附容易ニシテ褪色シ難ク且一般ニ纖維ヲ強靱ナラシムル等各種ノ特性ヲ有スルカ故ニ假令人工乾藍ノ使用今後一層増加スルコトアラムトモ我カ製藍ハ之ニ由リテ悉ク驅逐セラルルニハ至ラサルヘシサレハ本邦製藍業者ハ宜シク製藍品種ノ選擇栽培ノ方法、肥料ノ配合、採收ノ季節ニ注意シ且乾燥調製等ニ關シテモ出來得ル限り無用ノ勞費ヲ節約スルニ努メテ銳意斯業ノ改良

(二) 檳榔子

檳榔子ハ檳榔樹ノ果實ナリ元來檳榔樹ハ熱帶地方一般ニ能ク繁茂スルモノニシテ彼ノ錫蘭島ノ如キハ其ノ果實ヲ輸出スルコト年々少クモ七百萬斤以上ニ達スト云フ我カ臺灣島ニ於テハ檳榔樹ハ果樹類ノ首ナルモノニシテ其ノ果實ハ染料藥用及土人ノ香味料ニ供セラルルモノナリ本會ニ於ケル出品ハ悉ク臺灣産ニシテ其ノ質優良ナルモノアリ左ニ出品點數人員擬賞數等ヲ掲ケン

出品點數	出品人員	褒狀	出品人員ニ對スル擬賞歩合
臺灣 一四	一四	四	二八六

檳榔子ハ染料トシテハ主トシテ黑染原料ニ供セラルルモノナレトモ臺灣ニテハ專ラ漁網帆木綿勞働者ノ衣服ヲ染ムルニ用キラル通常土人カ本品ヲ染料トシテ賞用スル所以ハ其ノ茶褐色ニシテ防腐ノ効アルニ由リ即チ其ノ所含單寧物質ニ職由スルモノト謂フヘシ依リテ今其ノ優品ト認メタルモノニ就キテ全果實蒸シテ日乾シタルモノニ對スル内肉ノ歩合及單寧酸ノ含量ヲ檢定シタルニ次ノ成績ヲ得タリ

番號	果實一粒(平均)ニ付		全果實ニ對スル内肉ノ歩合	内肉百ニ對スル單寧酸ノ量	出品者氏名
	全重量	内肉ノ重要			
一	七三三〇	二二九七	三一、三八%	一八、八一%	臺灣阿縵廳 李 來 興
二	三二一八	〇、八一	二五、二〇	二七、九六	同 阿縵廳 藍 翹 魁
三	三八九五	〇、九五六	二四、五四	二四、六九	同 臺南廳 林 老 賜
四	三八七五	〇、七八四	二〇、二三	二一、六五	同 阿縵廳 李 太
總平均	四、五七七	一、二二二	二五、三四	二三、二八	

(備考) 單寧酸ノ定量法ハ「フォルムアルデヒット」法ニ據リタリ
是ニ由リテ之ヲ觀レハ于檳榔子ノ内肉ノ歩合ハ平均約二割五分ニシテ其ノ内肉ニ含メル單寧酸ハ約

二割強ナリ而シテ又第一號ニ於ケルカ如ク内肉ノ充實セルモノ及第四號ニ於ケルカ如ク其ノ餘リ未熟ナルモノニ在リテハ共ニ單寧酸ノ含量少ク而シテ又第二號及第三號ニ於ケルカ如ク内肉ノ全果實ニ對シテ約二割五分内外ノモノハ最モ單寧酸ニ富メルヲ見レハ檳榔子採收ノ時期ハ果實ノ品質ニ至大ノ關係アルヲ知ルニ足ルヘシ
願フニ檳榔樹ハ熱帶地方ニ於ケル有要ナル果樹トシテ將來益發達スヘキ望アルモノナレハ之カ栽培ノ方法及果實採收ノ適期等ニ關シテハ將來充分ニ研究調査スル價値アルヘシ
以上ノ外韓國群山及釜山ヨリ五倍子ノ出品二點アリタレトモ之カ分析ノ結果六十乃至六十五パーセントノ單寧酸ヲ含ミ品質普通ニシテ特ニ注目スルニ足ラス

其十一 製油原料 主任 內山 定一

製油原料ノ出品ハ菜種、胡麻、荳、茶實及菜子ノ五種ニシテ總計百八十點、人員百十七名ナリ之ヲ府縣別ニ表示スレハ次ノ如シ

府縣名	菜種	胡麻	荳	菜類	菜子	計	出品人員
東京	一	一三	一	一	一	一三	一三
山梨	二	一	一	一	一	二	一
福井	二	一	一	一	一	二	一
臺灣	一	一四二	一	一	一	一五二	九四
韓國	一	一四二	一	一	一	一五二	一
計	四	一六〇	七	四	五	一八〇	一一七

製油原料品質ノ優劣ハ主トシテ油分ノ多少ニ依ルモノニシテ從來ノ研究成績ニ據レハ油分ニ富メル種子ハ其ノ子粒豐大ニシテ充實シ形狀齊整ニシテ色澤單純ナルヲ常トス(農事試驗場報告第三十二號

十五乃至三十三頁參照之ヲ以テ今回ノ審査ハ先ツ現品ニ就キ肉眼鑑定ニ依リ其ノ品質ノ優劣ヲ概別シ優品ト認メタルモノニ就キテ更ニ化學分析ヲ行ヒ油分ヲ檢定シ審査ノ結果優等者十九名ヲ選拔シテ之ヲ擬賞セリ今各府縣ノ出品點數出品人員及擬賞ノ等級竝ニ其ノ割合ヲ表示スレハ次ノ如シ

府縣名	出品點數	出品人員	擬賞等級			出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
			三等賞	褒狀	計	
東京	一三	一三	二	一	二	一〇、〇〇
山梨	二	一	一	一	二	一〇、〇〇
福井	二	一	一	一	二	一〇、〇〇
臺灣	一五一	九四	四	一	五	一、五八
韓國	一二	八	一	一	二	一、二五
計	一八〇	一一七	七	二	九	一、六二

茲ニ各府縣出品ヲ一括シテ概評センニ菜種ハ其ノ點數僅ニ四點ニ過キサリシカトモ山梨縣ノ出品ニ係ルモノハ品質頗ル優良ナリキ又胡麻ノ出品ハ百六十點ナリシカトモ優品甚タ尠ク就中臺灣ノ出品ニ係ルモノノ如キハ概ネ調製不完全ニシテ異種類ノ子粒及土砂等ヲ夾雜スルモノ多ク甚キハ乾燥不良ニシテ徵害ヲ被リ一種ノ臭氣ヲ放テルモノアリ將來調製及乾燥ニ注意スルヲ要ス往ハ韓國在留本邦人ノ出品ニシテ調製概シテ完全ナラス茶實及菜子菜種ノ種子ハ其ノ點數極メテ尠ク且品質概ネ通常ナリキ

次ニ化學分析ノ成績ニ據リテ優品ト認メタルモノノ二三ヲ表示スレハ左ノ如シ但シ油分ハ依的兒ニテ浸出シタルモノナリ又菜子ハ優品ニ非サリシカトモ從來其ノ油分ヲ定量セルコト多カラサルヲ以テ茲ニ掲ケテ參考ニ資ス

製油原料種	原品百分中ノ油分	府縣名	氏名	農園
菜種	四六、六四	山梨	矯農	園

製油原料種	原品百分中ノ油分	府縣名	氏名	農園
白胡麻	五〇、四二	臺灣	許薰	其
同	四二、五〇	同	謝紹	本
黑胡麻	四七、一六	同	林鷺	哥
同	四五、八〇	東京	稻山	太郎
同	四四、六〇	臺灣	黃山	太郎
同	三七、五〇	東京	田邊	嘉兵衛
同	三二、五〇	同	西山	常次郎
菜子	四二、八八	臺灣	廖天	臺

前表成績ニ據レハ優品ニ於ケル油分ノ含量ハ原品百分中菜種ニ在リテハ四六分六四、白胡麻ニ在リテハ五〇分四二、又黑胡麻ニ在リテハ四七分一六ナルヲ見ルヘシ今試ミニ是等ノ成績ヲ第五回内國勸業博覽會ニ於ケル優品ト比較スレハ左ノ如シ

製油原料種	第五回内博出品	原品百分中ノ油分	東博出品	第五回内博出品ニ比シ減量
菜種	四八、八三	四六、六四	二、一七	
白胡麻	五三、四四	五〇、四二	三、〇二	
黑胡麻	四九、四七	四七、一六	二、三一	

即チ今回出陳ノ優品ハ第五回内國勸業博覽會出陳ノ優品ニ比スレハ油分ノ含量ニ於テ原品百分中菜種ハ二分一七、白胡麻ハ三分〇二、又黑胡麻ハ二分三一ヲ減少セルヲ觀ルヘシ換言スレハ本會ニ於ケル製油原料ハ第五回内國勸業博覽會出品ニ比シテ品質著ク退却セルヲ認ムヘク頗ル遺憾ナリト謂フヘシ

其十二 牧草

主任 山下 協人

本會出品ノ牧草ハ北海道札幌農園ノ出品ニ係ル青刈燕麥、チモシ、及東京府下大島ヨリノ出品ノ一

點合計三點人員二名ナリ而シテ審査ノ結果札幌農園ニ三等賞ヲ擬シタリ
 今ヤ本邦ニ於ケル牛馬改良ノ聲頗ル大ニシテ海外ヨリ高價ノ種畜ヲ輸入スルニ拘ラス之カ飼養ニ最
 モ必要ナル牧草ノ改良ハ殆ト閑却セラレ品質劣等ナル野草ヲ以テスルニ過キサカ如キ狀況ニシテ
 今回牧草ノ出品甚タ少キハ亦之カ反映ニ過キス此ノ如キハ我カ邦牛馬ノ改良上甚タ遺憾トスル所ナ
 ルヲ以テ優良ナル牧草ノ栽培ニ就キテハ特ニ當局者及當事者ノ注意ヲ望マサルヲ得ス
 札幌農園ノ出品ニ係ル燕麥ノ青刈及「チモシ」ハ北海道ニ於テ大規模ニ栽培セルモノニシテ收穫乾
 燥共ニ西洋農具ヲ用キ壓搾荷造ニハ石油發動機ヲ使用スト云フ故ニ其ノ壓搾荷造ニ於テハ殆ト非難
 スヘキモノナシト雖モ陳列ノ位置不良ナリシカ爲ニ著ク濕氣ヲ吸收シ外部ハ微ヲ以テ被ハレ一部腐
 敗スルニ至レリ然レトモ其ノ内部ハ酸酵ヲ生シタル形跡ナク荷造前ノ乾燥充分ナリシコトヲ證セリ
 唯惜ムヘキハ兩者共ニ乾草トシテノ固有ノ芳香ニ乏シク莖葉稍粗剛ニシテ之ヲ縮羊ニ給與シタルニ
 幾分食セサル部分アリタルコト是ナリ要スルニ此ノ出品ハ現時本邦ニ於テ未タ廣ク行ハレサル牧草
 栽培ヲ實行シテ其ノ生産物ヲ示シタルモノニシテ荷造法等當業者ノ模範タルモノト雖モ其ノ栽培乾
 燥等ニ缺點ナキニ非ス後來一層ノ改良ヲ望ム

其十三 藥 草

主 任 藥學博士 下山順一郎
 報告員 太工原銀大郎

今回藥草ノ出品ハ府下他府縣臺灣及韓國ヲ併セテ其ノ出品點數六十四點出品人員三十名ニシテ出品
 ノ種類及點數左ノ如シ

東京府 (七點)	人 蔘 二點(鉢植)	「サフラン」 二點	黃 蓮 一點(鉢植)
茨城縣 (三點)	甘 菘 一點(鉢植)	除虫菊 一點(鉢植)	
	茯 苓 一點	天 摩 一點	

福島縣 (一點)	人 蔘 一點		
福井縣 (一點)	茯 苓 一點		
臺灣 (二十五點)	姜 黃 十三點	生 姜 九點	茯 苓 三點
韓 國 (二十八點)	人 蔘 二點		

遠志、柴胡、桔梗、山椒、白扁豆、山茶英、山查山萬、洋瀉、白芍藥、半夏、枸杞子、蒼朮、瓜婁仁、桃仁、赤茯苓、五味子、香附、乾姜、
 知丹、木瓜、柴草、白木、牡丹、黃芩、川芎、各一點

備考 東京府出品中甘菘トアルハ名稱正シカラス額草かのこさうヲ以テ正シトス

擬賞ハ三等賞一點、褒狀六點、合計七點ニシテ其ノ管轄別擬賞數歩合ヲ表スルコト左ノ如シ

管轄名	出品點數	出品人員	擬賞			合計	出品點數ニ對シ		出品人員ニ對シ	
			一等賞	二等賞	三等賞		褒狀	數	價	數
東京府	七	三				一	一	一四三	三三三三	
東京府外	四	三				一	一	二五〇	三三三三	
臺灣	二五	二二				五	五	二〇〇	二二七	
韓國	二八	二				一	一	〇	〇	
合計	六四	三〇				六	七	一〇九	一一三三	

今回ノ出品中輸出額ノ最モ多キハ人蔘ニシテ黃蓮之ニ次キ茯苓及姜黃亦多少ノ輸出アリ而シテ「サフ
 ラン」ニ至リテハ却リテ年々輸入ノ尠カラサルヲ見ル今是等藥草類ノ最近三ケ年間ニ於ケル輸出及輸
 入額ヲ調査スルニ左表ノ如シ

(一) 人蔘輸出額

年 次	數 量(斤)	價 額(圓)	年 次	數 量(斤)	價 額(圓)
明治三十七年	三七四、四三〇	四〇七、五九五	明治三十八年	一八七、九八五	三六三、四九四
同 三十九年	二二〇、一二八	三三八、六七〇			

(二) 黃蓮輸出額

年次	數量(斤)	價額(圓)	年次	數量(斤)	價額(圓)
明治三十七年	四五,三九八	五八,一一七	明治三十八年	三七,五七七	四四,二二三
同 三十九年	五三,四九四	五七,六五八			

(三) 姜黃輸出額(但シ臺灣ヨリ)

年次	數量(斤)	價額(圓)	年次	數量(斤)	價額(圓)
明治三十五年	一,三〇二,六一九	六一,〇三九	明治三十六年	四八二,五四五	一九,五七八
同 三十七年	三二四,四七八	九,〇〇〇	同 三十八年	四六三,〇三六	一三,七七八

(四) 「サフラン」輸入額

年次	數量(斤)	價額(圓)	年次	數量(斤)	價額(圓)
明治三十七年	一,六六七	三五,六四四	明治三十八年	三,一七一	四九,七六四
同 三十九年	一,六〇五	三〇,四二四			

今各種出品ニ就キテ概評ヲ試ミレハ左ノ如シ

一、人蔘 福島縣ヨリ一點稍良品ノ出陳ヲ見タルノミニシテ他ノ有名ナル産地ノ出品ヲ見サリシヲ憾ミトス又東京府下ノ出品ハ其ノ栽培段別極メテ少ク韓國ノ出品モ亦見ルニ足ルモノナシ審査ノ結果福島縣ノ出品ニ三等賞ヲ擬セリ

二、黃連 東京府ヨリ鉢植ノモノ一點ヲ出品セリト雖モ其ノ栽培段別極メテ僅少ニシテ別ニ評説スル價値ナシ

三、姜黃 臺灣殊ニ臺南地方ニ多ク産出セラルルモノナリ今臺灣ニ於ケル明治三十二年以降六ヶ年間ノ姜黃産額ヲ示セハ左表ノ如シ

年次	栽培段別(甲)	産額(斤)	年次	栽培段別(甲)	産額(斤)
明治三十二年	三六八	一,〇一五,四五〇	明治三十三年	七三〇	二一九,〇〇〇
同 三十四年	六五四	三,五七六,一〇〇	同 三十五年	二四四	二〇一,七三〇

同 三十六年	二五二	二六二,六六一	同 三十七年	三六三	二,五六八,九五五
--------	-----	---------	--------	-----	-----------

備考 右表産額中ニ野生ノモノヲ含有スルハ其ノ産額必シモ栽培段別ノ増減ト比例セサル所以ノ一因ナルヘシ

今回出品ノ姜黃十三點中品質良好ナルモノ尠シトセス其ノ生産額ノ多少ヲ參酌シ優品二點ヲ選抜シテ之ニ褒狀ヲ擬シタリ

四、茯苓 茨城、福井ノ二縣、臺灣及韓國ヲ併セテ其ノ出品六點品質優良ナルモノナキニ非スト雖モ素ヨリ天然ノ生産品ニシテ更ニ人工ヲ加フル餘地ナキモノナルヲ以テ審査ノ結果本品ハ擬賞ノ價値ナキモノト決定シタリ

五、「サフラン」東京府下ノ出品ニ係ルモノ二點アリ内品質優良産額亦多キ一點ヲ選抜シテ之ニ褒狀ヲ擬シタリ

六、生姜 其ノ點數九ニシテ悉ク臺灣ノ出品ニ係レリ出品中品質良好ナルモノナキニ非サレトモ或ハ腐敗シ或ハ乾枯ニ近ツキ大ニ其ノ品質ヲ損傷シタルモノアリタルヲ憾ム審査ノ結果生産額最モ多キ優品三點ヲ選抜シテ之ニ褒狀ヲ擬シタリ

之ヲ要スルニ今回藥草類ノ出品ハ第五回内國勸業博覽會ノ出品點數四百六十點ニ比スルニ約七分ノ一ニ過キス有名ナル産地ノ出品ヲ見ルコト極メテ少ク從ヒテ品位概シテ見ルニ足ルモノナカリシヲ遺憾トス

其十四 香辛類

主任 吉川 祐輝

本會出品ノ香辛類ハ僅ニ乾薑二點、蕃椒七點、合計九點、出品人員八名ニ過キス而シテ審査ノ結果四名ヲ選擇シテ之ヲ擬賞セリ即チ左ノ如シ

出品點數	出品人員	擬賞			衰狀	合計	出品點數ニ對スル 擬賞ノ割合
		一等	二等	三等			
東京府	五	〇	〇	〇	〇	二〇〇〇	
静岡縣	一	〇	〇	一	〇	一〇〇〇	
兵庫縣	二	〇	一	〇	〇	一〇〇〇	
韓國	一	〇	〇	〇	〇	一〇〇〇	
合計	九	〇	一	二	一	四〇〇〇	

今出品物ニ就キテ概評ヲ試ミレハ左ノ如シ
 乾薑 東京府小笠原島及大島竝ニ静岡縣ヨリ各一點ノ出品アリ品質佳良ニシテ製法亦「ジャマイカ」ノ方法ニ依リ近來頗ル進歩ノ徵アルヲ認ムルハ悦フヘシ乾薑ハ海外ニ輸出セラルルコト多ク昨三十九年ノ如キハ輸出額二十三萬圓ニ達シ將來有望ナルモノナルヲ以テ益製法ニ研究ヲ加ヘ一層良品ノ産出ニ務メンコトヲ望ム

蕃椒 東京府三點、兵庫縣二點、韓國一點ノ出品アリ兵庫縣ノ出品ハ品質良好ニシテ殊ニ苗村源治郎出品ノ應ノ瓜ノ如キハ採收及乾燥ノ方法完全ニシテ品質頗ル良好ナリ之ニ反シテ東京府ノ出品ハ採收ノ時期ヲ誤レルノミナラス乾燥ノ方法亦不良ニシテ海外輸出品トシテハ不適當ナリ宜シク静岡縣及兵庫縣ニ於ケル栽培調製ノ方法ニ依リテ之カ改良ヲ圖ルヘシ又韓國ノ出品ハ在來種ニシテ品質良好ナラス

蕃椒モ亦乾薑ト同シク海外ニ輸出セラルルニト多ク昨三十九年ノ輸出額ハ九萬圓ニ達シ需用少ナカラサルカ故ニ之カ栽培及乾燥調製ニ注意シ良品ヲ産出スルニ務ムヘシ殊ニ本會出品ニ往々見ルカ如キ病斑ヲ有スルモノノ如キハ外觀ヲ損スルコト多キヲ以テ常ニ之カ豫防ニ注意スルヲ要ス

其十五 種子

主任 安藤 廣太郎

本會出品ノ種子ハ米、麥、豆類、牧草及綠肥類ニシテ其ノ總點數百五點、出品人員六十名ナリ而シテ出品點數ノ約七割ハ東京府下ノ出品ニ係リ臺灣ノ出品ニ係ル菁子及木藍ノ種子約三割ヲ占ム品質概シテ劣惡紫雲英種子ノ外殆ト見ルニ足ルモノナク出品ノ多數ヲ占メタル菜豆類ノ種子ハ何レモ形狀不整、色澤良好ナラス甚キニ至リテハ徵害ヲ蒙レルモノアリ又籽種ノ如キハ調製頗ル不良ニシテ芒若クハ穗梗ヲ混セルモノアリ又臺灣ノ出品ニ係ル菁子及木藍ノ種子ハ調製甚タ不良ニシテ莢ノ殘片或ハ塵埃ヲ混セルモノ多シ出品物ノ品質此ノ如キヲ以テ審査ノ結果衰狀ヲ擬シタルモノ僅ニ左ノ五點ニ過キサリシハ頗ル遺憾ナリ

東京府(七十一點中) 裸麥及紫雲英各一點 岐阜縣(二點中) 紫雲英 一點
 臺灣(三十二點中) 菁子 二點

本會出品ノ種子ハ獨リ本類ニ屬スルモノノミナラス第二十六類園藝作物ニ屬スル蔬菜、菓果類ニ屬スルモノモ共ニ品質甚タ劣惡ニシテ殆ト種子タル價值ナキモノ多ク今日種苗販賣者ノ行爲ニ關シ往々惡聲ヲ聲ク所以ノモノ偶然ニ非サルヲ知ルニ足ル
 抑種子トシテ良好ナルモノハ種類ノ純正ニシテ夾雜物ナク形狀齊整、色澤良好ニシテ發芽力旺盛ナルモノタラサルヘカラス而シテ是等ノ條件ヲ具備セル種子ヲ得ンニハ採種園ヲ設定シ栽培法及種子ノ調製或ニ選擇ニ充分ノ注意ヲ加フルコト最モ必要ナリトス然ルニ本會出品ノ如キハ是等ノ點ニ就キテ殆ト注意ヲ拂ヘル跡アルモノナク不良ノ種子ヲ陳列シテ敢テ怪マサルモノ多シ此ノ如キハ本邦農業改良ノ爲甚タ遺憾ナリト謂ハサルヲ得ス唯徒ニ價格ノ低廉ヲ以テ競争センヨリハ充分ノ設備ヲ調へ寧ロ價格ヲ高ムルモ純正純潔ナル良種子ヲ産出シ以テ今日ノ惡聲ヲ斷ツニ至ランコトヲ望ム

其十六 桑苗

主任 本多 岩次郎

(一) 出品點數

桑苗ノ出品點數ハ二十九點、出品人員十二人ニシテ之ヲ管内ト管外トニ區別スレハ出品點數前者ハ二十七點、後者ハ二點ナリ人員ハ前者十一人、後者僅ニ一人ナリ更ニ出品苗ノ種類ニ就キテ之ヲ區別スレハ十文字十五點、市平四點、赤木魯桑、御所選ハ各二點、多胡早生、九紋龍、伊達及大津各一點トス

(二) 審査ノ方法

桑苗ノ審査ハ各出品物ニ就キ一々根部、幹部ニ區別シテ之ヲ行ヘリ即チ根部ニ在リテハ命根ノ良否、細根ノ多少及發育ノ良否竝ニ寄生病蟲害ノ有無等ヲ檢シ幹部ニ在リテハ芽ノ健否、枝條ノ正否及發育ノ良否竝ニ寄生病蟲害ノ有無ヲ檢シタリ

(三) 擬賞點數

審査ノ結果優良ト認メタルモノニ就キ擬賞セルモノ總ヘテ八點ニシテ其ノ内管内出品七點、管外出品一點トス今之ヲ細別表示スレハ左ノ如シ

出品點數	出品人員	擬賞點數			出品點數ニ對シ	出品人員ニ對シ
		二等賞	三等賞	褒狀		
管内 二七	一一	一	二	四	七	
管外 二	一	一	一	一	一	
合計 二九	一二	二	五	八	一	

桑苗中管内ノ出品ニ係ルモノハ殆ト北多摩郡殊ニ砂川村ノ出品ニ屬シ豐多摩郡ノ出品僅ニ二點アルノミ從ヒテ擬賞ノ數モ六點ハ北多摩ノ占ムル所ト爲リ他ハ豐多摩郡及福島縣安積郡ニ各一點アルノミ

(四) 出品桑苗ノ概評

近來蠶絲業ノ發達ト共ニ林野ヲ開墾シテ桑園ヲ増殖スルコト益盛ナルヲ以テ從ヒテ桑苗ノ需用ハ愈多キヲ加フルニ至レリ此ノ秋ニ際シ本會出品ノ桑苗僅ニ二十九點ニ過キサルハ甚タ遺憾トスル所ナリ是ヲ以テ本會ノ出品ニテ我カ邦桑苗業發達ノ全般ヲ知ルコト能ハサレトモ今單ニ此ノ出品苗ニ就

キテ概評ヲ試ミレハ品質劣等ノモノ數點ヲ除クノ外概シテ佳良ナリト雖モ害蟲、害菌ノ寄生セルモノ多キヲ以テ將來是等ノ驅除豫防ニ努ムルコト肝要ナリトス

第二十六類 蔬菜、果實、花卉、種苗

其一 蔬菜

主任 恩田 鐵彌
報告員 市川 之雄

蔬菜ハ同一品ヲ永ク陳列スルコト能ハサルニ由リ十日毎ニ交替出陳セシメタルカ爲其ノ種類甚タ多ク從ヒテ總出品點數ハ千二百二點ノ多キニ達セリ而シテ出品ノ殆ト全部ハ東京府ノモノニシテ他府縣ノ出品ハ僅ニ十八點ニ過キス出品ノ種類ハ根菜類、葉菜類、蒴果類、前年產貯藏品、促成品等ニシテ約五十種ニ及ヒ就中馬鈴薯ノ出品ハ百四十一點ニシテ里芋及大根類之ニ亞キ其ノ他ハ何レモ百點以內ナリ

蔬菜ノ審査ハ月三回、毎月一ノ日ヲ以テ定日トシ、毎十日間ノ出品ヲ審査シタルカ故ニ審査ヲ行フコト八回ニ及ヘリ各出品物ハ成ルヘク審査定日ノ前日ニ出品スヘキ様注意セリト雖モ其ノ定日ニ先タツコト數日前ノ出品ニシテ次回ノ審査期日マテ保存ニ堪ヘサルモノ若クハ出品後一兩日ヲ出テスシテ變質スヘキ種類ノ出品ハ定日外臨時審査ヲ行ヘリ今毎回ニ於ケル各種出品數ヲ示セハ左ノ如シ

品名	出品期一回	二回	三回	四回	五回	六回	七回	八回	計
蘿蔔	一七	二	七	二二	五	三六	五	七	一〇〇
胡蘿蔔	一六	一	四	七	〇	二	四	五	三〇
牛蒡	一二	一	一	一	一	一	一	一	九
蓮根	一七	一	一	一	一	一	一	一	九
慈姑	二九	二	三	一	一	一	一	一	三六
百合	一一	四	〇	一	三	〇	二	〇	二一

品名	回数	以上蔬菜ノ出品點數千二百二點ニ對シ賞ヲ擬シタルモノ二百七十點ニシテ内府下二百六十五點他府																		
		計	雜類	芽山	松菜	鶯菜	春漬	尚菜	小花	花柳	高菜	西瓜	茗荷	蠶豆	落筆	土筆	わさつ	葱頭	蕨	
午	四	四〇八	六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
石	一	五五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
葱	一	二二七	五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
名	二	一四九	二	二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一	一	二	五	〇	〇	〇	〇	〇
回	三	七二	四	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一	〇	一	六	一	〇	〇	〇	〇	〇
回	四	一三四	二	〇	〇	三	〇	五	四	二	〇	〇	〇	〇	〇	六	〇	〇	〇	八
回	五	九五	三	〇	二	〇	一	四	〇	〇	三	〇	四	五	二	〇	〇	〇	〇	九
回	六	一六二	二	〇	〇	〇	〇	〇	一	二	〇	〇	〇	〇	三	一	〇	〇	〇	七
回	七	一一〇	二	二	三	一	九	五	四	四	一	六	六	八	一	八	九	二	〇	〇
回	八	二二四	二	二	三	一	九	五	四	四	一	六	六	八	一	八	九	二	〇	〇
計	九	二二〇	二	二	三	一	九	五	四	四	一	六	六	八	一	八	九	二	〇	〇

二六三

品名	回数	計	根	太五兵衛芋	波稜草	豌豆	蕃茄子	菜豆	大和	甘藍	獨活	山俞	石胡荽	胡瓜	蒟蒻	蓋葉	筍	三葉	蕪菁	京菜	葱	薯蕷	里芋	馬鈴薯	甘藷	
根	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
太五兵衛芋	一	八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
波稜草	一	五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
豌豆	一	六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
蕃茄子	一	五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
菜豆	一	四	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
大和	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
甘藍	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
獨活	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
山俞	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
石胡荽	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
胡瓜	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
蒟蒻	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
蓋葉	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
筍	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三葉	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
蕪菁	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
京菜	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
葱	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
薯蕷	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
里芋	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
馬鈴薯	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
甘藷	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

二六二

大島	一	一	一	一	二
八丈島	一	一	一	一	一
他府縣	二	一	一	三	五
計	二	一	一	五	二七〇

今回出品ノ蔬菜ハ開會期間ノ關係上根菜類ノ貯藏品ト晩春以後初夏ノ頃ニ於ケル普通品大部分ヲ占メ促成品竝ニ洋菜類ノ出品極メテ少ナリシハ甚タ遺憾ナリ由來東京ノ近郊ニハ有名ナル蔬菜ニ乏シカラス千住葱練馬蘿蔔瀧野川又ハ砂川牛蒡居留木橋竝ニ内藤南瓜龜井戸細根目黒ノ筍等其ノ冠タルモノナリ而シテ何レモ品質優良産額亦少カラサルノミナラス種子ノ各地方へ販賣セラルルモ夥シ然ルニ本會ノ出品中是等ノ蔬菜ハ從來ノ博覽會或ハ品評會等ニ於ケル出品ニ比シテ敢テ著キ改良進步ノ蹟アルヲ認メス近年農界各種ノ會合團體等ノ機關ノ發達ニ伴ヒ名産蔬菜類ノ種子ヲ產地ニ求ムルコト著ク増加シ其ノ栽培法研究改良ノ結果今ヤ原產地ヲ凌駕スルニ足ル優種ヲ出セル實例乏シカラサレハ徒ニ從來ノ慣習ヲ墨守シ毫モ改良進步ノ方法ヲ講セサルニ於テハ遂ニ名産タル聲價ヲ失墜スルコトナキヲ保セサルヘシ當業者能ク之ニ注意シテ種類ノ選擇及栽培法ノ改良ニ努ムルヲ要ス又小笠原島大島及八丈島等ノ出品ニ係ル蕃茄胡瓜茄子及西瓜ノ如キハ内地ノ促成栽培品ニ比肩スヘキモノナルカ故ニ適當ノ時期ニ於テ之ヲ内地ニ輸入セハ高價ヲ以テ販賣シ得ヘシト雖モ今回出品セルモノハ老熟過大ニシテ珍菜トシテ愛賞セラルル早生品ノ形態ニ適合セサル所アリ此ノ如キ老熟品ハ却リテ市價ヲ損スヘキカ故ニ早春内地市場ニ輸入スルニハ老熟長大ナラサルモノヲ選擇スルヲ要ス

又出品者中往々特ニ出品物ニ手工ヲ加ヘ或ハ徒ニ巨大ナルモノ或ハ稀有ノ不具品ヲ出品セル者アリ即チ畸形ナル鹹果或ハ蔬菜ノ價值ナキ長サ七八尺ニ餘レル筍或ハ一株ノ京菜ヲ盆栽トシテ出品シ一圓ノ價格ヲ附シタル如キ實例枚擧スヘカラス此ノ如キハ何等ノ價值ナキモノナレハ將來之ヲ許可セサルコト必要ナルヲシ

其二 果實

主任 恩田鐵彌

本會出品ノ果實ハ隨時出品ヲ許可シタルカ故ニ柑橘枇杷櫻桃莓ノ如キ其ノ成熟スルニ從ヒテ多少ノ出品ヲ見タリ而シテ審査ハ八回ニ分チテ之ヲ行ヘリ毎回審査セシ點數及總出品點數ハ左表ノ如シ

品名	一回	二回	三回	四回	五回	六回	七回	八回	合計
柑	一	一	一	一	一	一	一	一	八
橘	一	一	一	一	一	一	一	一	八
枇杷	一	一	一	一	一	一	一	一	八
櫻桃	一	一	一	一	一	一	一	一	八
莓	一	一	一	一	一	一	一	一	八
鳳梨	一	一	一	一	一	一	一	一	八
香蕉	一	一	一	一	一	一	一	一	八
梨	一	一	一	一	一	一	一	一	八
苹果	一	一	一	一	一	一	一	一	八
椰子	一	一	一	一	一	一	一	一	八
アダン	一	一	一	一	一	一	一	一	八
ユスラムメ	一	一	一	一	一	一	一	一	八
計	一七四	二五	二九	八	一五	一一	二二	一三	二九八

出品管名	出品點數	出品人員	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	計	出品點數ニ對シ	出品人員ニ對シ
東京	一四三	四七	一	一	五	一一	一六	一一二	三四〇

他府縣	一五五	八四	二	五	八	一七	三二	二〇六	三、八一
計	二九八	一三一	二	五	一三	二八	四八	一六一	三、六六

(一) 苹果

苹果ハ出品點數最モ多ク且優品ニ富ミ貯藏法ノ如キモ近來益改良セラレタルヲ見ル今各縣ノ出品ニ就キテ批評ヲ試ミン

青森縣ノ出品ハ點數最モ多ク品質優良ナルモノ亦最モ多數ヲ占ム出品ノ種類ハ國光、紅玉最モ多ク柳玉、倭錦之ニ次ク形狀齊整、色澤美麗ナルモノ多キハ悦フヘシト雖モ香味充分ナラサルヲ惜ム

岩手縣ハ從來青森縣ト相對峙シテ著名ノ產地ナリシカトモ近年二者ノ間ニ大ナル軒輊ヲ生シタリ今回ノ出品ハ形狀色澤等悉ク不良ニシテ優等ト認ムヘキモノナシ氣候、土性能ク苹果ニ適スル本縣ニシテ此ノ如キハ甚タ遺憾ナリ當業者ノ奮勵シテ其ノ栽培ニ努メントラ望ム

秋田縣鹿角郡ハ常ニ優良ナル苹果ヲ産出スルヲ以テ名アリ今回更ニ本郡ノ出品ナカリシハ頗ル遺憾トス平鹿郡ヨリ稍、優良ナル出品ヲ見タリ本縣ハ氣候風土能ク苹果ニ適スルヲ以テ將來之カ栽培ニ努メントラ望ム

右ノ外山形縣、北海道、長野縣等ヨリ少數ノ出品アリシカトモ皆品質劣等ニシテ評スルニ足ラス

(二) 梨

梨ハ東京、新潟及宮城ノ一府二縣ヨリ出品セルモ點數多カラス種類ハ赤龍、晚三吉、早生赤等ニシテ概シテ優品ニ乏シカリキ

(三) 柑橘

柑橘ハ夏橙最モ多數ヲ占メ温州、ネーブル之ニ次ク然レトモ從來著名ナル產地ノ出品極メテ少ク從ヒテ優良ナル品少ナカリシハ遺憾ナリ

小笠原島ヨリ出品セル一種ノ甜橙ハ形狀楕圓、肉色淡黃、組織細クシテ軟ク多漿ニシテ甘味ニ富ミ能ク高知縣產大唐蜜柑ニ類似セリ

(四) 香蕉

香蕉ノ大部ハ小笠原島ノ出品ニ係リ臺灣ノ出品極メテ少カリシハ遺憾ナリ小笠原島ノ出品ハ味佳ナルモノ多シ將來肥培ニ注意シ優品ヲ産出スルニ努ムヘシ

(五) 枇杷

枇杷ノ出品ハ房州産田中枇杷多シ形大ナレトモ甘味ニ乏シ

(六) 莓

莓ノ出品中ニハ稍、優品ヲ見タリ

(七) 櫻桃

櫻桃ハ東京地方ヨリ出品アリシカトモ收穫期早キニ失セルカ爲色澤充分ナラス味亦不良ニシテ食スルニ堪ヘス

其三 花卉

主任 恩田 鐵彌
 報告員 石原 助熊

本會出品ノ花卉ハ點數六百八十三點、人員百十二名ニシテ全部東京府下ノ出品ニ係ル今其ノ擬賞數及等級ヲ示セハ左ノ如シ

出品管名	出品點數	出品人員	擬賞等級	出品點數ニ對スル擬賞割合	出品人員ニ對スル擬賞割合
東京府	六八三	一一二	一等賞 二等賞 三等賞 褒狀 合計	〇三四	二〇五

法ヲ視ルコトヲ得テ審査上甚タ便利ナリキ

二七〇

出品者中ニハ府下屈指ノ花卉栽培家アリト雖モ特ニ改良ヲ加ヘテ一新種ヲ育成シ又ハ野生植物ヲ改良シテ一新種ヲ選抜若クハ育成シタルカ如キ進歩的方法ニ依リテ得タルモノナカリシハ甚タ遺憾ナリ其ノ内特ニ見ルヘキモノハ伊藤重兵衛出品ノ櫻草八十餘種ニシテ培養ノ周到ナル形狀完全花亦豊大ニシテ多數ノ變種ヲ有スルコト出品中ノ白眉トス

牡丹芍薬ノ類ハ多數ノ出品アリ其ノ種類及培養ノ方法等大ニ見ルヘキモノアリト雖モ何レモ從來ノ種類ヲ完全ニ培養セシニ止マリ進ミテ改良セシモノナシ又截花ニ於テモ然リ培養充分ニシテ花ノ豊大美麗ナルモノアリト雖モ特ニ改良進歩セシモノヲ認メス

右ノ外山茶花、躑躅、椿、薔薇等アリト雖モ普通種ヲ多數陳列セシニ止マリ特ニ注意スヘキモノナシ要スルニ花卉ハ其ノ需用益増進スルニ至レルヲ以テ之カ培養ハ勿論變種ノ選擇、人工交種等ニ依リ新種類ノ育成ニ努ムルコト最モ必要ナリトス外國ニ於ケル花卉培養者ノ目錄等ヲ見ルニ其ノ變種類ル多ク翠菊ノ如キ三百餘種ノ變種ヲ有スルモノアリ是等ハ年々人工交種又ハ變種ノ選擇等ニ依リテ改良セシモノナルヲ以テ其ノ方法ニ依リ學理ヲ應用シ新種類ヲ育成スルト共ニ培養法ヲ研究センコトヲ望ム

其四 種 苗

主 任 恩 田 鐵 彌
報 告 員 石 原 助 熊

本會出品ノ花卉及蔬菜ノ種子ハ其ノ總點數二百七十八點、人員八十九名、果樹及庭園用植木ノ苗ハ其總點數六十四點、人員十六名ニシテ何レモ東京府下ノ出品ニ係ル而シテ審査ノ結果種子ニ於テ十五名、苗木ニ於テ二名ヲ選抜シ之ニ褒狀ヲ擬シタリ

今回出品ノ種子ハ概シテ選擇宜シカラズ形狀不整、色澤不良ニシテ甚シキハ損傷セルモノ若クハ微害

ヲ被レルモノヲ混シ殆ト種子タルノ價值ナキモノアリ是實ニ採種用作物ノ栽培上特殊ノ注意ヲ缺キタルト種子採收後調製及選擇ノ方法宜シキヲ得サルトニ因ラスハアラス將來是等ノ點ニ充分ノ改良ヲ加ヘ純正純潔ニシテ形狀齊整、色澤良好ナル種子ヲ生産スルニ至ランコトヲ望ム

出品ノ重ナルモノハ蘿蔔四十七點、牛蒡三十四點、茄子二十一點、葱十五點、胡蘿蔔十四點、蕪菁十一點、南瓜十點、胡瓜及越瓜三十四點、白菜、山東菜、三河島菜、小松菜等漬菜類六十六點等ナリトス今是等ノ出品ニ就キテ概評ヲ試ミレハ左ノ如シ

蘿蔔 概シテ子粒不整ニシテ色澤良好ナラス往々子粒損傷セルモノアリ甚シキハ菌族ヲ混セルモノアリテ種子採收及選擇法ノ甚タ不完全ナルヲ證セリ種子ハ元來發芽シ易キモノナレハ今回出品ノ發芽力亦強シト雖モ往々發芽力六〇%内外ノモノアリ

牛蒡 色澤ハ概シテ不良ナラサルモ形狀ハ不整ナリ發芽力ハ不良ナラサレトモ九〇%以上ノモノ割合ニ少ク甚シキハ三〇%ニ過キササルモノアリ

茄子 色澤良好ノモノ二三點アレトモ概シテ暗灰色ヲ帯ヒタルモノ多ク甚シキハ微害ヲ蒙レルモノアリ一般ニ發芽力弱ク甚シキハ殆ト發芽セサルモノアリ

葱 子粒不整ナルモノ多ク發芽力八〇%以上ノモノ殆トナク甚シキハ一〇%以下ノモノアリ

胡蘿蔔 一般ニ調整不良ナリ發芽力八〇%以上ノモノ少ク五〇%以下ノモノ割合ニ多シ

蕪菁及漬菜類 發芽ハ一般ニ良好ナレトモ子粒不整ニシテ且損傷セルモノヲ混スルコト多ク色澤良好ナラサルモノ亦尠カラス

胡瓜及越瓜類 往々色澤不良ナルモノアリ發芽力ハ一般ニ強クレトモ五〇%以下ノモノ四五點ヲ數ヘタリ

要スルニ今回出品ノ種子ハ優品甚タ稀ニシテ一般ニ採收、選擇上ノ注意ヲ缺キ發芽力ノ如キ甚タ不良ニシテ種子トシテハ寧ロ排斥スヘキモノ多シ殊ニ府下ニ於テ有名ナル種苗商ノ出品ニシテ調製及選

擇甚タ不完全ニシテ發芽甚タ不良ナルモノアリ此ノ如キハ種苗商トシテ甚タ恥ツヘキコトニシテ唯自家ノ信用ヲ失スルノミナラス購買者ニ與フル損害實ニ大ナルモノアリ抑、良好ナル種子ハ種類ノ純正ナルコト、夾雜物ヲ混スルコトナク純潔ナルコト、子粒整一ニシテ色澤良好、發芽力強キモノタラサルヘカラス然ルニ今回ノ出品ハ殆ト是等ノ條件ヲ具備スルモノナシは一ハ從來ノ慣習ニ依リ只價格ノ低廉ヲ競フ結果ニ山ルナルヘシト雖モ自家ニ專屬セル採種及苗圃ヲ有セス且種苗販賣者専門的智識ニ乏シク自ラ採種及選擇ノ業ニ努ムル所ナク只農家ノ生産物ヲ蒐集販賣スルニ過キサリニ由ラスンハアラス此ノ如クハ到底良好ナル種子ヲ得ルコト能ハサルハ勿論其ノ農家ニ及ホス影響多大ナルヲ以テ歐米各地ニ於ケルカ如ク自家專屬ノ農園ヲ設ケ學理ヲ應用シ種子ノ採收及選擇ニ注意シ良好ナル種子ヲ供給スルト共ニ或ハ變種ノ選擇、人工交種等ニ依リ良種ノ育成ニ努メ斯クシテ得タル種子ハ其ノ價格現今ニ比シ自カラ昇騰スヘキハ止ムヲ得サルヘシト雖モ種子トシテハ徒ニ價格ノ低廉ヲ競ハシヨリモ純正純潔ヲ保證セル良好ナル種子ヲ供給セハ自家ノ信用ヲ博スルノミナラス購買者ヲ利シ延イテ國利ヲ増進スルコト決シテ尠ナラサルヘシ

苗木ハ其ノ點數甚タ少ク又種類モ普通多ク栽培セラルルモノノミニシテ見ルニ足ルモノ少ク其ノ育成法ノ如キモ舊套ヲ脱セス殆ト改良進步セル所ナシ一例ヲ舉クレハ桃苗ニ於テ接木セシ部分ヨリ上部ニ殘存セル臺木ヲ除去セス或ハ之ヲ除去セルモ垂平ニ切斷セルヲ以テ苗木ハ眞直ニ生長スルコト能ハサルノミナラス風強キトキハ接着部ヨリ吹キ裂カルル恐レアリ其ノ他栽培ノ方法臺木ノ選擇等ニ就キテ遺憾ナル點多シ宜シク學理ヲ應用シテ改良ニ努ムヘシ

第二十七類 蠶種、繭 主任 本多岩次郎

其一 蠶種

(一) 出品點數

蠶種ノ出品點數ハ八十四點其ノ出品人員ハ五十八名ニシテ之ヲ管内及管外ニ區別スレハ管内ノ出品五十八點、出品人品三十七名管外ノ出品二十六點、出品人員二十一名ナリ更ニ之ヲ春蠶種ト秋蠶種トニ分テハ春蠶種四十八點、秋蠶種三十六點ナリトス

(二) 審査ノ方法

蠶種審査ノ方法ハ之ヲ肉眼審査、器械審査及調査ノ三ニ分テ審査ハ全出品ニ就キテ之ヲ施行シタリ肉眼審査ニ於テハ蠶種ト色澤ノ良否竝ニ齊否、卵粒ノ形狀ノ適否竝ニ齊否、産附ノ良否及調製ノ適否等ニ就キテ鑑別ヲ行ヒ器械審査ニ於テハ微粒子病毒ノ有無、死卵數ノ多少ヲ検査シタリ又調査ニ於テハ出品物ノ解説書ニ依リ更ニ優品ト認めタルモノニ對シテハ其ノ製造人ノ最近三ヶ年間ニ於ケル蠶種製造額及病毒検査ノ成績ヲ關係府縣知事ニ照會シ以テ參考ニ供シタリ

(三) 擬賞點數

審査ノ結果優良ト認めタルモノニ就キテ擬賞セルモノ總ヘテ二十四點其ノ内十六點ハ管内ノ出品ニ係リ八點ハ管外出品ニ屬ス更ニ之ヲ細別スレハ左表ノ如シ

出品點數	出品人員	擬賞數			出品點數ニ對シ	出品人員ニ對シ
		一等賞	二等賞	三等賞		
東京府	五八	一	二	六	二七六	
他府縣	二六	一	二	一	四三二	
合計	八四	二	四	七	三〇八	
					二八六	
					四、一四	

(四) 出品蠶種調査成績

(イ) 種類名稱

出品蠶種ノ名稱ヲ異ニスルモノハ甚タ多シト謂フヘカラサレトモ尙春蠶種十四、秋蠶種十三アリ而シテ右ノ内出品最モ多キ種類ハ春蠶ニ在リテハ又昔ニシテ白玉、小石丸之ニ次キ他ハ極メテ少數ナリ秋蠶種ニ在リテハ多摩錦最モ多ク青熟之ニ次キ他ハ少數ナリ即チ今回出品蠶種ノ多數ハ以上數種ノ占

ムル所ナリトス尙詳細ハ左表ノ如シ

春蠶種ノ部

名稱	目標管内		管外		合計
	管内	管外	管内	管外	
又昔	七	一	一	一	八
小石丸	三	四	一	一	七
銀白	一	一	一	一	二
青熟	一	一	一	一	二
改良又昔	一	一	一	一	二
東錦	一	一	一	一	二
政白	一	一	一	一	二
名稱	目標管内		管外		合計
白玉	四	一	一	一	五
黃金又昔	二	二	一	一	四
しら玉	二	一	一	一	三
中巢	一	一	一	一	二
多摩	一	一	一	一	二
白龍	一	一	一	一	二
新撰	一	一	一	一	二
名稱	目標管内		管外		合計
青熟	四	一	一	一	五
太陽丸	三	一	一	一	四
小金丸	一	一	一	一	二
飛綿	一	一	一	一	二
東錦	一	一	一	一	二
白龍	一	一	一	一	二
國錦	一	一	一	一	二
名稱	目標管内		管外		合計
多摩	三	一	一	一	四
都錦	三	一	一	一	四
銀白	二	一	一	一	三
飛白	一	一	一	一	二
信濃	一	一	一	一	二
矢ノ羽	一	一	一	一	二

各出品蠶種ノ卵粒ヲ採リ之ヲ十二區ニ分チ一々鏡檢シタルニ微粒子毒ヲ認メタルハ九點ニシテ其ノ内稍、多數ノ病毒ヲ存セシモノハ僅ニ四點ナリ他ハ其ノ數極メテ僅少ニシテ頗ル満足ナル成績ヲ得タリ

(ロ) 微粒子検査

(ハ) 死卵検査
各蠶種ノ五ヶ所ニ就キ死卵調査器ヲ用キテ一定圈内ニ於ケル總卵數及死卵數ヲ算シ以テ死卵ノ百分率ヲ求メタリ検査數春蠶種四十八點、秋蠶種三十六點ニシテ總卵數百分ニ對シ死卵春蠶種平均〇、五九七、秋蠶種平均〇、五三〇ナリ今調査ノ結果ヲ總括シテ表示スレハ左ノ如シ

區別	最多少		平均
	最	少	
春蠶種ニ於ケル	〇、五九七	一、九四七	〇、五九七
秋蠶種ニ於ケル	〇、五三〇	四、三二〇	〇、五三〇

死卵百分率	目標管内		管外		合計
	管内	管外	管内	管外	
〇、未滿	六	四	一	一	二
一、〇未滿	一四	一	一	一	二
一、〇未滿	二	一	一	一	二
二、〇未滿	二	一	一	一	二
死卵百分率	目標管内		管外		合計
〇、未滿	一八	一	一	一	二
一、五未滿	八	一	一	一	二
二、一以上	〇	一	一	一	二

(三) 卵粒調査

卵粒ノ形狀及大小ハ肉眼審査ニ於テ之ヲ鑑別シ得ヘシト雖モ尙之ヲ器械的ニ測定シテ各種ノ比較參考ニ供センカ爲各出品物ニ就キテ卵粒ノ大サヲ測リタリ其ノ方法ハ各蠶種ノ面ヲ摩シテ適宜ノ卵粒ヲ採リ十粒ニ就キ一々其ノ長徑ト短徑トヲ測定シタルナリ概要左ノ如シ

區別	目標		長徑	短徑
	最	小		
春蠶種	一、一九	一、〇〇	一、二五	〇、九九
秋蠶種	一、二七	一、〇七	一、二五	〇、九六
平均	一、二三	一、〇三	一、二三	一、〇三

尙詳細ハ左表ノ如シ

長徑ノ部

長徑	目標	春蠶種ニ於ケル數	秋蠶種ニ於ケル數
一、一五	〇	二	一
一、二〇	〇	二	一
一、二二	〇	二	一
一、二四	〇	二	一
一、二六	〇	二	一

二七六

短徑ノ部

短徑	目標	春蠶種ニ於ケル數	秋蠶種ニ於ケル數
〇、九九	〇	六	一
一、〇一	〇	三	一
一、〇三	〇	三	一
一、〇五	〇	三	一
一、〇七	〇	三	一

長徑 目標 春蠶種ニ於ケル數 秋蠶種ニ於ケル數

一、一五	〇	二	一
一、二〇	〇	二	一
一、二二	〇	二	一
一、二四	〇	二	一
一、二六	〇	二	一

長徑 目標 春蠶種ニ於ケル數 秋蠶種ニ於ケル數

一、一五	〇	二	一
一、二〇	〇	二	一
一、二二	〇	二	一
一、二四	〇	二	一
一、二六	〇	二	一

卵粒ノ形狀ハ其ノ長徑ト短徑トノ比ニ依リテ略之ヲ推知スルコトヲ得ヘキヲ以テ之ヲ計算シタリ概要ハ左ノ如シ

長徑ト短徑トノ比	目標	春蠶種	秋蠶種
最 小	一、一六	一、一六	一、一六
最 大	一、二三	一、二三	一、二三
平 均	一、二〇	一、二〇	一、二〇

尚詳細ハ左表ノ如シ

長短兩徑ノ比	目標	春蠶種ニ於ケル數	秋蠶種ニ於ケル數
一、〇八	〇	一	一

長短兩徑ノ比	目標	春蠶種ニ於ケル數	秋蠶種ニ於ケル數
一、一六	〇	一	一

一、一七	四	五	八
一、一九	九	一	〇
二、二一	九	一	〇
二、二三	三	一	〇

(ホ) 調製

出品蠶種ノ調製ハ佳良ナルモノナキニ非サレトモ缺點ノ指摘スヘキモノ亦甚タ多シ左ニ之ヲ列擧スヘシ
臺紙ノ不良ナルコト 臺紙ハ其ノ質精粗不齊ニシテ且厚キニ失シ或ハ薄キニ過クルアリ而シテ原種用臺紙ノ記載方ニ至リテハ未タ一定セサルヲ見ル就中蛾區内記入ノ番號數字ハ大ニ失スルアリ又ハ印肉ニ藍色ヲ用キシモノアリ共ニ不鮮明ニシテ好マシカラス斯ノ如ク臺紙ノ不定ナルハ體裁不良ナルノミナラス蠶種ノ取扱上竝ニ蠶種検査上不便ナルモノナレハ框製普通製ヲ問ハス之カ改良一定ヲ要ス

産附ノ不齊ナルコト 産附卵數ノ不同著キハ大ナル缺點ナリ框製ニ在リテハ各區ノ着卵部一定セス著ク小形ナルアリ或ハ其ノ位置正シカラスシテ隣區ト相接スルモノアリ而シテ其ノ卵數過少ナルアリ過多ナルアリ殊ニ過多ナルモノハ一蛾區内ノ卵數八百六十八粒ヲ算シタリ斯ノ如キハ一母蛾ノ産卵トシテハ殆ト望ミ難キ所ニシテ且其ノ卵色ニ依レハ二母蛾ノ産卵ナルコト明カナリ之ニ反シテ却リテ卵數ノ著ク少キモノアリ是母蛾ノ不良ナルカ若クハ採種法ノ拙劣ナルニ基クモノナルヘシ普通製ニ在リテハ概ネ厚附ニ失シ卵粒ノ重積セルモノ多シ是亦改メサルヘカラス
採種中ノ注意ヲ缺クコト 框製蠶種ノ着卵部不正ナルカ如キ普通製蠶種ノ着卵ノ厚薄不同ナルカ如キハ總ヘテ採種法ノ拙劣ナルニ因ルナリ又母蛾ノ取扱不良ナルカ爲ニ種紙ノ面ニ蛾尿ヲ附着セシメ或ハ多クノ鱗毛ヲ附着セシメ不潔ナルモノ少カラス斯ノ如キ缺點ハ採種上充分ニ注意シテ之ヲ防カ

以上ノ外死卵ヲ除去シ又ハ人工ヲ以テ着卵セル形跡アルモノヲモ認メタリ斯ノ如キ陋手段ハ遂ニ何等ノ効ヲ奏スルコトナキヲ以テ決シテ行フヘカラサルナリ

(五) 出品蠶種ノ概評

今回出品ノ蠶種ハ八十四點ニシテ種類名稱ヲ異ニセルモノハ割合ニ少シト雖モ其ノ品質ニ至リテハ概シテ不同ナリト謂ハサルヲ得ス蠶種ノ色澤ハ不齊ナルモノ多ク特ニ鮮明ヲ缺クモノ多シ卵粒ノ形狀モ亦不齊ナルモノ多キヲ認メタリ是全ク種繭ノ選擇未タ充分ニ精シカラサルニ因ルト雖モ又蠶兒飼育ノ方法竝ニ飼料ノ不良ナルニ基因スルコト多キモノナレハ是等ノ點ニ就キテハ將來充分ニ改良スルヲ要ス殊ニ調製上ノ缺點ハ只外觀ノ美ヲ損スルノミナラス延イテ蠶種ノ品質上ニ及ホスモノナレハ決シテ輕々ニ看過スヘカラサルナリ

其二 繭

(一) 出品點數

繭ノ出品點數ハ三百七十七點其ノ出品人員ハ三百十人ニシテ之ヲ管内及管外ニ區別スレハ管内ノ出品點數三百三十八點出品人員二百八十人ニシテ管外ノ出品點數三十九點其ノ出品人員三十人ナリ而シテ更ニ之ヲ春蠶繭及夏秋蠶繭ニ區別スレハ春蠶繭二百九十三點夏秋蠶繭八十四點ナリトス

(二) 審査ノ方法

繭ノ審査ハ鑑定及器械検査ノ二ニ分チテ之ヲ行ヘリ鑑定ニ在リテハ色澤ノ良否形狀ノ適否竝ニ齊否緊緩ノ良否及殺蛹乾繭貯藏ノ適否ヲ鑑別シ又十顆ノ繭層量ヲ秤リテ繭一升ニ對スル絲量ヲ算出シ以テ其ノ多少ヲ比較シ器械検査ニ在リテハ十顆ノ繭ニ就キ一粒繰ヲ行ヒ平均絲長及織度ヲ檢シ且百回毎ニ一々類節及切斷ノ數ヲ檢シ各其ノ平均數ヲ求メ以テ優劣ヲ比較シタリ而シテ鑑定ハ繭ノ形狀ノ著ク不齊過大過小若クハ片薄ナルモノ或ハ微菌ノ寄生ヲ受ケタルモノヲ除キ他ハ悉ク之ヲ行ヒ又鑑

定ニ於テ著ク品質劣等ト認メタルモノノ外ハ總ヘテ器械検査ヲ施行シタリ從ヒテ鑑定及器械検査ヲ行ヒタルモノノ出品數三百七十七點中實ニ二百七十七點ニシテ其ノ割合ハ七割三分ノ多キニ達セリ

(三) 擬賞點數

審査ノ結果優良ト認メタルモノ八十一點ヲ選抜シ之ヲ擬賞セリ而シテ右ノ内管内受賞者ハ六十九名ニシテ管外受賞者ハ十二名ナリ尙詳細ハ左表ノ如シ

區別	目標	出品			賞	狀	計	擬賞割合	
		出品點數	人員	一等賞				二等賞	三等賞
管內	管內	三三八	二八〇	二	九	二一	三七	六九	二〇四
	管外	三九	三〇	一	一	六	四	一一	三〇八
合計	合計	三七七	三一〇	三	一〇	二七	四一	八一	二一五

(四) 出品繭調査成績

(イ) 種類名稱

今回出品ノ繭中種類名稱ヲ異ニセルモノ春蠶繭ニ二十七種夏秋蠶繭ニ十四種アリ其ノ他種名ノ記入ヲ缺キテ不明ナルモノ春蠶繭ニ五十四點夏秋蠶繭ニ二十九點アリ而シテ出品中最モ多數ヲ占メタル種類ハ春蠶繭ニ在リテハ又昔ニシテ小石丸青熟白玉ノ三種之ニ次キ秋蠶繭ニ在リテハ青熟最モ多ク多摩錦之ニ次キ白龍亦之ニ次キ其ノ他ノ種類ハ極メテ僅少ナリ詳細ハ左表ノ如シ

種名	目標管	管内		管外		合計	種名	目標管	管内		管外		合計
		管内	管外	管内	管外				管内	管外			
又昔	六四	一四	二	七八	七	小石丸	二七	二	七	三	四	三四	
青熟	三二	二	三	三四	三	白玉	三〇	一	四	三	四	三四	
中巢	八	一	一	八	一	角玉	八	一	一	一	一	四	
黃金又昔	五	一	一	五	一	多摩	四	一	一	一	一	四	
白龍	四	一	一	四	一	東摩	三	一	一	一	一	三	

審査ヲ行フ際繭ノ寸法ヲ測リ以テ大小長短竝ニ総レ目ノ深淺ヲ知ル資ニ供シタリ其ノ方法ハ各出品繭中適宜五顆ヲ採リ其ノ長徑中徑及雙方ノ短徑ヲ測リ各其ノ平均數ヲ求メ短徑ハ更ニ之ヲ平均シタリ今繭ノ大小ヲ比較スル爲春蠶繭二百丸十五點夏秋蠶繭七十六點ニ就キテ調査セル長徑及短徑ノ概要ヲ示セハ左ノ如シ

種名	夏秋蠶繭ノ部		種名	夏秋蠶繭ノ部	
	内管	外管		内管	外管
青熟龍	一七	一	多摩錦	二	一
白龍	三八	一	大代鶴	三	一
都錦	三	一	中巢龍	二	一
玉錦	二	一	又昔	一	一
白錦	一	一	東昔	一	一
太陽丸	一	一	青龍	一	一
白飛	一	一	川久	一	一
特選那	三	一	白羽	三	一
支那	一	一	改熟中	二	一
銀白	二	一	青熟	一	一
改良小石	一	一	錦龍	一	一
寶玉	一	一	綾龍	一	一
赤熟	一	一	小錦	一	一
太陽丸	一	一	川久	一	一
白露	一	一	川久	一	一
合計	一八	一	合計	一八	一

區別	春繭		夏秋繭	
	長徑	短徑	長徑	短徑
最大	八 ^分 二	四 ^分 三	九 ^分 五	四 ^分 一
最平均	一二 ^分 四	五 ^分 九	一二 ^分 〇	五 ^分 五
最小	一〇 ^分 二	四 ^分 二	一〇 ^分 二	四 ^分 一
平均	一〇 ^分 二	四 ^分 二	一〇 ^分 二	四 ^分 一

長徑目標	春蠶繭ニ於ケル數		長徑目標	春蠶繭ニ於ケル數	
	於ケル數	於ケル數		於ケル數	於ケル數
八 ^分 五	二	〇	九 ^分 〇	三	〇
九 ^分 五	八	〇	〇	一	〇
一〇 ^分 五	一	〇	〇	一	〇
一一 ^分 五	二	〇	〇	一	〇
一二 ^分 五	五	〇	〇	一	〇

短徑目標	春蠶繭ニ於ケル數		短徑目標	春蠶繭ニ於ケル數	
	於ケル數	於ケル數		於ケル數	於ケル數
四 ^分 二	〇	一	四 ^分 三	〇	一
四 ^分 四	二	〇	四 ^分 五	二	〇
四 ^分 六	三	〇	四 ^分 七	一	〇
四 ^分 八	一	〇	四 ^分 九	一	〇
五 ^分 〇	三	〇	五 ^分 一	四	〇
五 ^分 二	七	〇	五 ^分 三	七	〇
五 ^分 四	五	〇	五 ^分 五	四	〇

五、六未滿
五、八未滿
六、〇未滿
六、〇四
〇、〇三
五、七未滿
五、九未滿
六、一
〇、〇

繭ノ形状ハ長徑ト短徑トノ比ニ依リテ之ヲ示スコトヲ得ヘシ即チ其ノ比最小ナルモノハ短形ニシテ其ノ比大ナルモノハ長形ナリ春蠶繭二百九十五點、夏秋蠶繭七十六點ニ就キテ調査セル概要ハ左ノ如シ

長徑ト短徑トノ比	最	小	最	大	平均
春蠶繭ニ於ケル數	一、六五	二、七六	二、〇二		
夏秋蠶繭ニ於ケル數	一、八六	二、三〇	二、〇三		

尙詳細ハ左表ノ如シ

區別目標	春蠶繭ニ於ケル數		夏秋蠶繭ニ於ケル數	
	最	小	最	大
一、七〇未滿	三	〇	一、八〇未滿	一
一、九〇未滿	三二	〇	二、〇〇未滿	一
二、一〇未滿	七一	〇	二、二〇未滿	一
二、三〇未滿	二〇	〇	二、四〇未滿	二
二、五〇未滿	二	〇	二、六〇未滿	二
二、七〇未滿	一	〇	二、八〇未滿	二

繭ノ縦目ノ深淺ハ短徑ト中徑トノ比ニ依リテ之ヲ示スコトヲ得ヘシ即チ其ノ比小ナルモノハ縦目淺ク其ノ比大ナルモノハ深シ今支那角又兩種ヲ除キ春蠶繭二百八十六點、夏秋蠶繭七十六點ニ就キテ計算セルニ概要左ノ如シ

短徑ト中徑トノ比	最	小	最	大	平均
春蠶繭ニ於ケル數	一、〇三	一、〇三			
夏秋蠶繭ニ於ケル數	一、〇七	一、〇七			

最	大	一、三九
平均	均	一、二九
最	小	一、四三
		一、二五

尙詳細ハ左表ノ如シ

區別目標	春蠶繭ニ於ケル數		夏秋蠶繭ニ於ケル數	
	最	小	最	大
一、〇五未滿	三	〇	一、一〇未滿	三
一、一五未滿	六三	〇	一、二〇未滿	一
一、二五未滿	七四	二	一、三〇未滿	二
一、三五未滿	五	七	一、四〇未滿	一
一、四五未滿	〇	一		

(ハ) 絲量

繭十顆ノ繭層量ヲ秤リ一升ノ粒數ヲ算シ以テ繭一升ニ對スル絲量ヲ算出シ之カ比較ヲ行ヒタリ
春蠶繭二百九十九點、夏秋蠶繭七十七點ニ就キテ調査セル繭層量ノ概要ハ左ノ如シ

最	多	〇、四二〇
最	少	〇、七八〇
平均	均	〇、五六九
		〇、五三八

備考 右數字ハ繭十顆ニ對スルモノナリ

尙詳細ハ左表ノ如シ

繭層量	春蠶繭ニ於ケル數		夏秋蠶繭ニ於ケル數	
	最	小	最	大
〇、四〇〇未滿	〇	二	〇、四五〇未滿	六
〇、五〇〇未滿	三六	一四	〇、五五〇未滿	八五
〇、六〇〇未滿	八九	二〇	〇、六五〇未滿	五六

〇、七〇〇未滿
 〇、八〇〇未滿
 〇、七五〇未滿
 〇、五〇〇未滿

春蠶繭二百九十五點、夏秋蠶繭七十七點ニ就キテ調査シタル繭一升ノ顆數ノ概要左ノ如シ

區別	最		平均	春蠶繭ニ於ケル數	夏秋蠶繭ニ於ケル數
	多	少			
繭	一九八	三五〇	二五九	一九八	三五〇
繭	一八八	三〇八	二四二	一八八	三〇八

尙詳細ハ左表ノ如シ

顆數目標	最		平均	春蠶繭ニ於ケル數	夏秋蠶繭ニ於ケル數
	多	少			
繭	一九〇未滿	二一〇未滿	二〇〇未滿	一九〇	二一〇
繭	二一〇未滿	二三〇未滿	二二〇未滿	二一〇	二三〇
繭	二三〇未滿	二五〇未滿	二四〇未滿	二三〇	二五〇
繭	二五〇未滿	二七〇未滿	二六〇未滿	二五〇	二七〇
繭	二七〇未滿	二九〇未滿	二八〇未滿	二七〇	二九〇
繭	二九〇未滿	三一〇未滿	三〇〇未滿	二九〇	三一〇
繭	三一〇未滿	三三〇未滿	三二〇未滿	三一〇	三三〇
繭	三三〇未滿	三五〇未滿	三四〇未滿	三三〇	三五〇
繭	三五〇未滿	三六〇未滿	三五〇未滿	三五〇	三六〇
繭	三六〇未滿	三七〇未滿	三六〇未滿	三六〇	三七〇
繭	三七〇未滿	三八〇未滿	三七〇未滿	三七〇	三八〇
繭	三八〇未滿	三九〇未滿	三八〇未滿	三八〇	三九〇
繭	三九〇未滿	四〇〇未滿	三九〇未滿	三九〇	四〇〇
繭	四〇〇未滿	四一〇未滿	四〇〇未滿	四〇〇	四一〇
繭	四一〇未滿	四二〇未滿	四一〇未滿	四一〇	四二〇
繭	四二〇未滿	四三〇未滿	四二〇未滿	四二〇	四三〇
繭	四三〇未滿	四四〇未滿	四三〇未滿	四三〇	四四〇
繭	四四〇未滿	四五〇未滿	四四〇未滿	四四〇	四五〇
繭	四五〇未滿	四六〇未滿	四五〇未滿	四五〇	四六〇
繭	四六〇未滿	四七〇未滿	四六〇未滿	四六〇	四七〇
繭	四七〇未滿	四八〇未滿	四七〇未滿	四七〇	四八〇
繭	四八〇未滿	四九〇未滿	四八〇未滿	四八〇	四九〇
繭	四九〇未滿	五〇〇未滿	四九〇未滿	四九〇	五〇〇

繭一升ノ絲量ハ繭一顆ノ平均繭層量ニ一升ノ顆數ヲ乘シ屑物量ヲ三割ト見做シ之ヲ控除シテ算出セリ
 春蠶繭二百九十五點、夏秋蠶繭七十七點ニ就キテ調査セル概要ハ左ノ如シ

尙詳細ハ左表ノ如シ

絲量目標	最		平均	春蠶繭ニ於ケル數	夏秋蠶繭ニ於ケル數
	多	少			
繭	七〇未滿	八〇未滿	七五未滿	七〇	八〇
繭	八〇未滿	九〇未滿	八五未滿	八〇	九〇
繭	九〇未滿	一〇〇未滿	九五未滿	九〇	一〇〇
繭	一〇〇未滿	一一〇未滿	一〇五未滿	一〇〇	一一〇
繭	一一〇未滿	一二〇未滿	一一五未滿	一一〇	一二〇
繭	一二〇未滿	一三〇未滿	一二五未滿	一二〇	一三〇
繭	一三〇未滿	一四〇未滿	一三五未滿	一三〇	一四〇
繭	一四〇未滿	一五〇未滿	一四五未滿	一四〇	一五〇
繭	一五〇未滿	一六〇未滿	一五五未滿	一五〇	一六〇
繭	一六〇未滿	一七〇未滿	一六五未滿	一六〇	一七〇
繭	一七〇未滿	一八〇未滿	一七五未滿	一七〇	一八〇
繭	一八〇未滿	一九〇未滿	一八五未滿	一八〇	一九〇
繭	一九〇未滿	二〇〇未滿	一九五未滿	一九〇	二〇〇
繭	二〇〇未滿	二一〇未滿	二〇五未滿	二〇〇	二一〇
繭	二一〇未滿	二二〇未滿	二一五未滿	二一〇	二二〇
繭	二二〇未滿	二三〇未滿	二二五未滿	二二〇	二三〇
繭	二三〇未滿	二四〇未滿	二三五未滿	二三〇	二四〇
繭	二四〇未滿	二五〇未滿	二四五未滿	二四〇	二五〇
繭	二五〇未滿	二六〇未滿	二五五未滿	二五〇	二六〇
繭	二六〇未滿	二七〇未滿	二六五未滿	二六〇	二七〇
繭	二七〇未滿	二八〇未滿	二七五未滿	二七〇	二八〇
繭	二八〇未滿	二九〇未滿	二八五未滿	二八〇	二九〇
繭	二九〇未滿	三〇〇未滿	二九五未滿	二九〇	三〇〇
繭	三〇〇未滿	三一〇未滿	三〇五未滿	三〇〇	三一〇
繭	三一〇未滿	三二〇未滿	三一五未滿	三一〇	三二〇
繭	三二〇未滿	三三〇未滿	三二五未滿	三二〇	三三〇
繭	三三〇未滿	三四〇未滿	三三五未滿	三三〇	三四〇
繭	三四〇未滿	三五〇未滿	三四五未滿	三四〇	三五〇
繭	三五〇未滿	三六〇未滿	三五五未滿	三五〇	三六〇
繭	三六〇未滿	三七〇未滿	三六五未滿	三六〇	三七〇
繭	三七〇未滿	三八〇未滿	三七五未滿	三七〇	三八〇
繭	三八〇未滿	三九〇未滿	三八五未滿	三八〇	三九〇
繭	三九〇未滿	四〇〇未滿	三九五未滿	三九〇	四〇〇
繭	四〇〇未滿	四一〇未滿	四〇五未滿	四〇〇	四一〇
繭	四一〇未滿	四二〇未滿	四一五未滿	四一〇	四二〇
繭	四二〇未滿	四三〇未滿	四二五未滿	四二〇	四三〇
繭	四三〇未滿	四四〇未滿	四三五未滿	四三〇	四四〇
繭	四四〇未滿	四五〇未滿	四四五未滿	四四〇	四五〇
繭	四五〇未滿	四六〇未滿	四五五未滿	四五〇	四六〇
繭	四六〇未滿	四七〇未滿	四六五未滿	四六〇	四七〇
繭	四七〇未滿	四八〇未滿	四七五未滿	四七〇	四八〇
繭	四八〇未滿	四九〇未滿	四八五未滿	四八〇	四九〇
繭	四九〇未滿	五〇〇未滿	四九五未滿	四九〇	五〇〇

(二) 絲長

出品繭中著ク劣等ナルモノヲ除ク外何レモ十顆ツツ一粒繰ヲ行ヒ其ノ絲長ノ長短ヲ比較シタリ即チ
 春蠶繭二百三十一點、夏秋蠶繭四十六點ニ就キテ調査セル成績ノ概要ハ左ノ如シ

區別	最		平均	春蠶繭ニ於ケル數	夏秋蠶繭ニ於ケル數
	長	短			
繭	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
繭	六二	六二	六二	六二	六二
繭	四九	四九	四九	四九	四九

尙詳細ハ左表ノ如シ

絲長目標	最		平均	春蠶繭ニ於ケル數	夏秋蠶繭ニ於ケル數
	長	短			
繭	四〇〇未滿	四二〇未滿	四一〇未滿	四〇〇	四二〇
繭	四二〇未滿	四四〇未滿	四三〇未滿	四二〇	四四〇
繭	四四〇未滿	四六〇未滿	四五〇未滿	四四〇	四六〇
繭	四六〇未滿	四八〇未滿	四七〇未滿	四六〇	四八〇
繭	四八〇未滿	五〇〇未滿	四九〇未滿	四八〇	五〇〇
繭	五〇〇未滿	五二〇未滿	五一〇未滿	五〇〇	五二〇
繭	五二〇未滿	五四〇未滿	五三〇未滿	五二〇	五四〇
繭	五四〇未滿	五六〇未滿	五五〇未滿	五四〇	五六〇
繭	五六〇未滿	五七〇未滿	五七〇未滿	五六〇	五七〇
繭	五七〇未滿	五八〇未滿	五八〇未滿	五七〇	五八〇
繭	五八〇未滿	五九〇未滿	五九〇未滿	五八〇	五九〇
繭	五九〇未滿	六〇〇未滿	六〇〇未滿	五九〇	六〇〇
繭	六〇〇未滿	六一〇未滿	六一〇未滿	六〇〇	六一〇
繭	六一〇未滿	六二〇未滿	六二〇未滿	六一〇	六二〇
繭	六二〇未滿	六三〇未滿	六三〇未滿	六二〇	六三〇
繭	六三〇未滿	六四〇未滿	六四〇未滿	六三〇	六四〇
繭	六四〇未滿	六五〇未滿	六五〇未滿	六四〇	六五〇
繭	六五〇未滿	六六〇未滿	六六〇未滿	六五〇	六六〇
繭	六六〇未滿	六七〇未滿	六七〇未滿	六六〇	六七〇
繭	六七〇未滿	六八〇未滿	六八〇未滿	六七〇	六八〇
繭	六八〇未滿	六九〇未滿	六九〇未滿	六八〇	六九〇
繭	六九〇未滿	七〇〇未滿	七〇〇未滿	六九〇	七〇〇
繭	七〇〇未滿	七一〇未滿	七一〇未滿	七〇〇	七一〇
繭	七一〇未滿	七二〇未滿	七二〇未滿	七一〇	七二〇
繭	七二〇未滿	七三〇未滿	七三〇未滿	七二〇	七三〇
繭	七三〇未滿	七四〇未滿	七四〇未滿	七三〇	七四〇
繭	七四〇未滿	七五〇未滿	七五〇未滿	七四〇	七五〇
繭	七五〇未滿	七六〇未滿	七六〇未滿	七五〇	七六〇
繭	七六〇未滿	七七〇未滿	七七〇未滿	七六〇	七七〇
繭	七七〇未滿	七八〇未滿	七八〇未滿	七七〇	七八〇
繭	七八〇未滿	七九〇未滿	七九〇未滿	七八〇	七九〇
繭	七九〇未滿	八〇〇未滿	八〇〇未滿	七九〇	八〇〇
繭	八〇〇未滿	八一〇未滿	八一〇未滿	八〇〇	八一〇
繭	八一〇未滿	八二〇未滿	八二〇未滿	八一〇	八二〇
繭	八二〇未滿	八三〇未滿	八三〇未滿	八二〇	八三〇
繭	八三〇未滿	八四〇未滿	八四〇未滿	八三〇	八四〇
繭	八四〇未滿	八五〇未滿	八五〇未滿	八四〇	八五〇
繭	八五〇未滿	八六〇未滿	八六〇未滿	八五〇	八六〇
繭	八六〇未滿	八七〇未滿	八七〇未滿	八六〇	八七〇
繭	八七〇未滿	八八〇未滿	八八〇未滿	八七〇	八八〇
繭	八八〇未滿	八九〇未滿	八九〇未滿	八八〇	八九〇
繭	八九〇未滿	九〇〇未滿	九〇〇未滿	八九〇	九〇〇
繭	九〇〇未滿	九一〇未滿	九一〇未滿	九〇〇	九一〇
繭	九一〇未滿	九二〇未滿	九二〇未滿	九一〇	九二〇
繭	九二〇未滿	九三〇未滿	九三〇未滿	九二〇	九三〇
繭	九三〇未滿	九四〇未滿	九四〇未滿	九三〇	九四〇
繭	九四〇未滿	九五〇未滿	九五〇未滿	九四〇	九五〇
繭	九五〇未滿	九六〇未滿	九六〇未滿	九五〇	九六〇
繭	九六〇未滿	九七〇未滿	九七〇未滿	九六〇	九七〇
繭	九七〇未滿	九八〇未滿	九八〇未滿	九七〇	九八〇
繭	九八〇未滿	九九〇未滿	九九〇未滿	九八〇	九九〇
繭	九九〇未滿	一〇〇〇未滿	一〇〇〇未滿	九九〇	一〇〇〇

四八〇未滿	二八	四九〇未滿	二五
五〇〇未滿	二五	五三〇未滿	一四
五二〇未滿	一五	五五〇未滿	〇
五四〇未滿	一	五七〇未滿	二
五六〇未滿	〇	五九〇未滿	三
五八〇未滿	〇	六一〇未滿	二
六〇〇未滿	〇	六三〇未滿	一
六二〇未滿	〇	六五〇未滿	〇
		六七〇未滿	〇
		六九〇未滿	〇
		七一〇未滿	〇
		七三〇未滿	〇
		七五〇未滿	〇
		七七〇未滿	〇
		七九〇未滿	〇
		八一〇未滿	〇
		八三〇未滿	〇
		八五〇未滿	〇
		八七〇未滿	〇
		八九〇未滿	〇
		九一〇未滿	〇
		九三〇未滿	〇
		九五〇未滿	〇
		九七〇未滿	〇
		九九〇未滿	〇
		一〇一〇未滿	〇
		一〇三〇未滿	〇
		一〇五〇未滿	〇
		一〇七〇未滿	〇
		一〇九〇未滿	〇
		一一一〇未滿	〇
		一一三〇未滿	〇
		一一五〇未滿	〇
		一一七〇未滿	〇
		一一九〇未滿	〇
		一二一〇未滿	〇
		一二三〇未滿	〇
		一二五〇未滿	〇
		一二七〇未滿	〇
		一二九〇未滿	〇
		一三一〇未滿	〇
		一三三〇未滿	〇
		一三五〇未滿	〇
		一三七〇未滿	〇
		一三九〇未滿	〇
		一四一〇未滿	〇
		一四三〇未滿	〇
		一四五〇未滿	〇
		一四七〇未滿	〇
		一四九〇未滿	〇
		一五一〇未滿	〇
		一五三〇未滿	〇
		一五五〇未滿	〇
		一五七〇未滿	〇
		一五九〇未滿	〇
		一六一〇未滿	〇
		一六三〇未滿	〇
		一六五〇未滿	〇
		一六七〇未滿	〇
		一六九〇未滿	〇
		一七一〇未滿	〇
		一七三〇未滿	〇
		一七五〇未滿	〇
		一七七〇未滿	〇
		一七九〇未滿	〇
		一八一〇未滿	〇
		一八三〇未滿	〇
		一八五〇未滿	〇
		一八七〇未滿	〇
		一八九〇未滿	〇
		一九一〇未滿	〇
		一九三〇未滿	〇
		一九五〇未滿	〇
		一九七〇未滿	〇
		一九九〇未滿	〇
		二〇一〇未滿	〇
		二〇三〇未滿	〇
		二〇五〇未滿	〇
		二〇七〇未滿	〇
		二〇九〇未滿	〇
		二一一〇未滿	〇
		二一三〇未滿	〇
		二一五〇未滿	〇
		二一七〇未滿	〇
		二一九〇未滿	〇
		二二一〇未滿	〇
		二二三〇未滿	〇
		二二五〇未滿	〇
		二二七〇未滿	〇
		二二九〇未滿	〇
		二三一〇未滿	〇
		二三三〇未滿	〇
		二三五〇未滿	〇
		二三七〇未滿	〇
		二三九〇未滿	〇
		二四一〇未滿	〇
		二四三〇未滿	〇
		二四五〇未滿	〇
		二四七〇未滿	〇
		二四九〇未滿	〇
		二五一〇未滿	〇
		二五三〇未滿	〇
		二五五〇未滿	〇
		二五七〇未滿	〇
		二五九〇未滿	〇
		二六一〇未滿	〇
		二六三〇未滿	〇
		二六五〇未滿	〇
		二六七〇未滿	〇
		二六九〇未滿	〇
		二七一〇未滿	〇
		二七三〇未滿	〇
		二七五〇未滿	〇
		二七七〇未滿	〇
		二七九〇未滿	〇
		二八一〇未滿	〇
		二八三〇未滿	〇
		二八五〇未滿	〇
		二八七〇未滿	〇
		二八九〇未滿	〇
		二九一〇未滿	〇
		二九三〇未滿	〇
		二九五〇未滿	〇
		二九七〇未滿	〇
		二九九〇未滿	〇
		三〇一〇未滿	〇
		三〇三〇未滿	〇
		三〇五〇未滿	〇
		三〇七〇未滿	〇
		三〇九〇未滿	〇
		三一〇〇未滿	〇

(ホ) 織度

春蠶繭二百三十一點、夏秋蠶繭四十六點ニ就キテ各繭十顆ヲ繰絲シ其ノ織度ヲ検査シタル成績ノ概要

最細	二〇四	夏秋蠶繭	二〇七
最太	三、四八	蠶繭	二〇七
平均	二、九〇	繭	二、三三

尙詳細ハ左表ノ如シ

織度目標	於ケル數	春蠶繭ニ於	夏秋蠶繭ニ於
二、一〇〇未滿	一	〇	〇
二、三〇〇未滿	二	〇	〇
二、五〇〇未滿	二	〇	〇
二、七〇〇未滿	三	〇	〇
二、九〇〇未滿	四	〇	〇
三、一〇〇未滿	九	〇	〇

三、三〇〇未滿	一	三、四〇〇未滿	九
三、五〇〇未滿	三		

春蠶繭二百三十一點、夏秋蠶繭四十六點ニ就キテ各繭十顆ヲ繰絲シ全部ノ類節ヲ検査シタル成績ノ概要

區別目標	春蠶繭	夏秋蠶繭
最少	〇	〇
最多	二〇	五九
平均	三、二	一五、二

尙詳細ハ左表ノ如シ

類節數目標	於ケル數	春蠶繭ニ於	夏秋蠶繭ニ於
〇	六	〇	〇
二	五	〇	〇
四	一	〇	〇
六	〇	〇	〇
八	〇	〇	〇
一〇	〇	〇	〇
一二	〇	〇	〇
一四	〇	〇	〇
一六	〇	〇	〇
一八	〇	〇	〇
二〇	〇	〇	〇
二二	〇	〇	〇
二四	〇	〇	〇
二六	〇	〇	〇
二八	〇	〇	〇
三〇	〇	〇	〇
三二	〇	〇	〇
三四	〇	〇	〇
三六	〇	〇	〇
三八	〇	〇	〇
四〇	〇	〇	〇
四二	〇	〇	〇
四四	〇	〇	〇
四六	〇	〇	〇
四八	〇	〇	〇
五〇	〇	〇	〇
五二	〇	〇	〇
五四	〇	〇	〇
五六	〇	〇	〇
五八	〇	〇	〇
六〇	〇	〇	〇
六二	〇	〇	〇
六四	〇	〇	〇
六六	〇	〇	〇
六八	〇	〇	〇
七〇	〇	〇	〇
七二	〇	〇	〇
七四	〇	〇	〇
七六	〇	〇	〇
七八	〇	〇	〇
八〇	〇	〇	〇
八二	〇	〇	〇
八四	〇	〇	〇
八六	〇	〇	〇
八八	〇	〇	〇
九〇	〇	〇	〇
九二	〇	〇	〇
九四	〇	〇	〇
九六	〇	〇	〇
九八	〇	〇	〇
一〇〇	〇	〇	〇
一〇二	〇	〇	〇
一〇四	〇	〇	〇
一〇六	〇	〇	〇
一〇八	〇	〇	〇
一一〇	〇	〇	〇
一一二	〇	〇	〇
一一四	〇	〇	〇
一一六	〇	〇	〇
一一八	〇	〇	〇
一二〇	〇	〇	〇
一二二	〇	〇	〇
一二四	〇	〇	〇
一二六	〇	〇	〇
一二八	〇	〇	〇
一三〇	〇	〇	〇
一三二	〇	〇	〇
一三四	〇	〇	〇
一三六	〇	〇	〇
一三八	〇	〇	〇
一四〇	〇	〇	〇
一四二	〇	〇	〇
一四四	〇	〇	〇
一四六	〇	〇	〇
一四八	〇	〇	〇
一五〇	〇	〇	〇
一五二	〇	〇	〇
一五四	〇	〇	〇
一五六	〇	〇	〇
一五八	〇	〇	〇
一六〇	〇	〇	〇
一六二	〇	〇	〇
一六四	〇	〇	〇
一六六	〇	〇	〇
一六八	〇	〇	〇
一七〇	〇	〇	〇
一七二	〇	〇	〇
一七四	〇	〇	〇
一七六	〇	〇	〇
一七八	〇	〇	〇
一八〇	〇	〇	〇
一八二	〇	〇	〇
一八四	〇	〇	〇
一八六	〇	〇	〇
一八八	〇	〇	〇
一九〇	〇	〇	〇
一九二	〇	〇	〇
一九四	〇	〇	〇
一九六	〇	〇	〇
一九八	〇	〇	〇
二〇〇	〇	〇	〇
二〇二	〇	〇	〇
二〇四	〇	〇	〇
二〇六	〇	〇	〇
二〇八	〇	〇	〇
二一〇	〇	〇	〇
二一二	〇	〇	〇
二一四	〇	〇	〇
二一六	〇	〇	〇
二一八	〇	〇	〇
二二〇	〇	〇	〇
二二二	〇	〇	〇
二二四	〇	〇	〇
二二六	〇	〇	〇
二二八	〇	〇	〇
二三〇	〇	〇	〇
二三二	〇	〇	〇
二三四	〇	〇	〇
二三六	〇	〇	〇
二三八	〇	〇	〇
二四〇	〇	〇	〇
二四二	〇	〇	〇
二四四	〇	〇	〇
二四六	〇	〇	〇
二四八	〇	〇	〇
二五〇	〇	〇	〇
二五二	〇	〇	〇
二五四	〇	〇	〇
二五六	〇	〇	〇
二五八	〇	〇	〇
二六〇	〇	〇	〇
二六二	〇	〇	〇
二六四	〇	〇	〇
二六六	〇	〇	〇
二六八	〇	〇	〇
二七〇	〇	〇	〇
二七二	〇	〇	〇
二七四	〇	〇	〇
二七六	〇	〇	〇
二七八	〇	〇	〇
二八〇	〇	〇	〇
二八二	〇	〇	〇
二八四	〇	〇	〇
二八六	〇	〇	〇
二八八	〇	〇	〇
二九〇	〇	〇	〇
二九二	〇	〇	〇
二九四	〇	〇	〇
二九六	〇	〇	〇
二九八	〇	〇	〇
三〇〇	〇	〇	〇

類節ノ調査ハ線糸ノ際毎百回ニ就キ檢シタルニ由リ百回毎ニ之ヲ區別シ平均數ヲ計算セルニ左ノ如シ

區別	春蠶繭ニ於ケル類節數		夏秋蠶繭ニ於ケル類節數	
	春蠶繭ニ於ケル類節數	夏秋蠶繭ニ於ケル類節數	春蠶繭ニ於ケル類節數	夏秋蠶繭ニ於ケル類節數
第一次百回	三六	七九	五五	二四、四
第三次百回	九六	三八、五	一〇、四	四五、四
第五次百回	五、八	二八、三	一、六	六、五
第七次百回	〇、四	〇、六		

春蠶繭二百三十一點、夏秋蠶繭四十六點ニ就キテ各十顆ノ繭ノ線糸中ニ於ケル切斷數ヲ調査シタル成績ノ概要ハ左ノ如シ

區別	春蠶繭		夏秋蠶繭	
	最 多	最 少	最 多	最 少
平均	二、六	〇、三	三、二	〇、六
尚詳細ハ左表ノ如シ				

區別	春蠶繭ニ於ケル類節數		夏秋蠶繭ニ於ケル類節數	
	春蠶繭ニ於ケル類節數	夏秋蠶繭ニ於ケル類節數	春蠶繭ニ於ケル類節數	夏秋蠶繭ニ於ケル類節數
〇	三五	九	一五、三	一一、〇
一、〇 未滿	二二	六	一、六	一、〇
二、〇 未滿	三	二	一	三
三、〇 未滿	一	〇	〇	一

區別	春蠶繭		夏秋蠶繭	
	第一 次百回	第二 次百回	第一 次百回	第二 次百回
第一 次百回	一、二一	〇、八九	〇、三一	〇、四一
第三 次百回	〇、四二	一、三九	〇、七六	二、三三
第五 次百回	〇、七一	一、三九	〇、一三	〇、四四
第七 次百回	〇、〇四	〇、〇八		

(五) 出品繭ノ概評
 今回ノ出品繭ハ計三百七十七點ニシテ春蠶繭ニ在リテハ又昔最モ多ク小石丸、青熟、白玉ノ三種之ニ次
 キ夏秋蠶繭ニ在リテハ青熟最モ多ク多摩錦、白龍之ニ次ケリ出品繭ノ名稱ハ概ネ以上ノ數種其ノ大部
 分ヲ占メ稍一定セルカ如キ觀アリト雖モ其ノ實質ニ至リテハ決シテ齊一ナリト謂フ能ハス即チ形狀
 ノ大小縮皺ノ粗密等區々ニシテ名稱ト伴ハサルヲ憾ミトス勿論是等ノ事項タル決シテ直ニ之カ一定
 ヲ圖ルニト能ハサルヘシト雖モ將來努メテ留意改良ヲ企圖セサルヘカラス
 之ヲ要スルニ繭ノ品質ハ特ニ優良ナルモノ少シト雖モ又甚シク劣等ノモノ少ク概シテ佳良ナリト謂
 フヲ得ヘシ而シテ繭ノ乾燥ハ方法宜シキヲ得貯藏亦其ノ法ニ適ヒ繭層ヲ損傷セルモノ少ク微菌ノ寄
 生ヲ受ケタルモノノ如キハ極メテ僅少ナリトス是特ニ近年ノ進歩ト認ムルコトヲ得ヘシト雖モ尙改
 良ノ餘地少シトセス將來一層ノ改善ヲ施シテ完全ヲ期スヘシ

其 一 牛、豚、羊、兔、家禽及卵、蜜蜂
 第二十八類 牛、豚、羊、兔、家禽及卵、蜜蜂、皮、骨、角

主 任 西 川 勝 藏
 報 告 員 望 月 瀧 三
 同 石 崎 芳 吉

本類ニ屬スル出品物中牛、豚、山羊、家兔、家禽、蜜蜂及雞卵ノ七種其ノ總數二百九十三點之ヲ細別スレハ牛
 八十二點、豚四十七點、山羊八點、家禽百三十五點、蜜蜂二點、雞卵一點トス我カ邦中央都府ノ博覽會出品物
 トシテハ其ノ數甚タ尠ク品質區々ニシテ亦甚タ宜シカラサルハ大ニ遺憾トスル所ナリ家禽ハ其ノ數
 稍多ク比較的良種ニ乏シカラサリト雖モ往々出陳者ノ注意ニ缺クル所アリテ間然スヘキ點尠シト

(一) 牛

畜牛ノ出陳數ハ各種合計八十二頭ニシテ内賞ヲ得タルモノ三十七頭其ノ割合出陳總數ノ四割五分強相當ス之ヲ他ノ出品物ニ比シテ擬賞數決シテ尠シトセス其ノ種類牝牡數擬賞數ヲ細別スレハ左ノ如シ

種別	出品數			擬賞			褒狀	計	百分率
	牝	牡	壯	一等賞	二等賞	三等賞			
「エーアシャ」種	二二	一〇	一二	—	—	四	四	九	四〇
同 雜 種	五	四	—	—	—	—	—	—	四〇
「ブラウンスウイス」種	五	二	三	—	—	—	—	—	六〇
「ジャージー」種	九	五	—	—	—	—	—	—	七〇
「ホルスタイン」種	二九	—	—	—	—	—	—	—	三七
同 雜 種	八	—	—	—	—	—	—	—	—
短角 雜 種	—	—	—	—	—	—	—	—	—
「シンメンタール」種	—	—	—	—	—	—	—	—	—
「フレンチカナディアン」種	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	八二	四一	四一	七	—	—	—	—	—
(イ)「ホルスタイン」種及其ノ雜種	—	—	—	—	—	—	—	—	—

本種ハ世界ノ乳用牛トシテ我カ邦ニ於テモ克ク其ノ本能ヲ發揮シ最モ廣ク分布セル牛種ニシテ全國中優良ナルモノ尠カラズ然ルニ今回出陳セラレタル本種ハ頭數ニ於テ第一位ニ在ルニ拘ラス品質區々ニシテ一ナラス加フルニ其ノ能力ノ標徴ト爲ルヘキ泌乳機關ハ先天的或ハ後天的ノ畸形ヲ呈セルモノ多キハ畢竟日常ノ管理及繁殖法ノ拙劣ナル結果ニ外ナラス牡牛ニ於テモ唯單ニ其ノ血統及形而上ニ重キヲ置キタル觀アルハ能力ヲ以テ本位ト爲ス牛乳營業者ノ出陳牛トシテハ聊カ奇異ノ感ナキ能ハス然リト雖モ獨リ東京府下ノ島嶼ヨリ出陳シタル本種ハ其ノ品質ノ點ヨリ見ルトキハ前者ト殆

ト等差ナシト雖モ其ノ改良ノ基礎ヲ爲シタル種牝牛及之ト土着牝牛ノ交配ニ依リテ生産シタル牝牛ヲ選出シ其ノ事業ノ効績ヲ公示シタルカ如キハ最モ出品ノ方法宜シキヲ得タルモノニシテ且効績ノ認ムヘキモノアリ

(ロ)「エーアシャ」種及其ノ雜種

本種ハ其ノ頭數ニ於テ「ホルスタイン」種牛ノ次位ニ在リト雖モ其ノ擬賞率ハ之ニ超過ス概シテ出陳牛中品質優良ト認ムヘキモノ尠ク一牝牛ニシテ體質及能力稍見ルヘキモノアリシカトモ少シク老齡ノ感アリシハ惜ムヘシ牡牛ノ如キハ近年之ヲ外國ヨリ輸入シ又ハ輸入牛ノ系統ヲ享受セシモノアリシカトモ其ノ品質賞揚スヘキモノナク且育成其ノ法ヲ誤リシハ實ニ遺憾ノコトトス畜牛家タルモノ將來特ニ本種ノ特徴ヲ知悉シ其ノ育成法ニ注意セサレハ假令優良ナル系統ヲ有スル牝牛終ニ其ノ本能ヲ没却スルニ至ルヘシ雜種牛ノ如キモ未タ固定シタル體質ヲ有セス從ヒテ改良繁殖上ノ効績トシテ記スヘキモノナシ

(ハ)「ブラウンスウイス」種

本種ハ數年前創メテ我カ國ニ渡來セシ牛種ニシテ日尙淺ク改良上ノ効績未タ著カラズト雖モ其ノ骨格ノ偉大ナルト性質温順ナルトノ點ニ於テ一般世人ノ流行的嗜好ニ投シタル牛種トス本會ニ出陳セラレタル頭數ハ僅ニ五頭ニシテ多クハ外國輸入ノモノ又ハ其ノ父系ヲ外國ニ受ケタル牝牛ナレハ特ニ論評ヲ要セスト雖モ輸入後不自然ノ管理飼養ヲ行ヒタル爲其ノ原形ヲ多少破壊シツツアルハ特ニ本種繁殖家ノ注意ヲ要スル所ナリ

(ニ)「ジャージー」種

本種ハ酪用牛トシテ既ニ世界的牛種ナリトス其ノ骨格モ他ノ牛種ニ比シ大ニ特異ノ點アリ今回出陳ハ管外ノモノ多キヲ占メ東京府ノ出陳數ハ僅ニ六頭ニ過キス其ノ品質ニ於テモ寧ロ劣等ノモノ多ク獨リ群馬縣神津牧場ノ出陳牛中ニハ比較的優良ナルモノアリシカトモ悉ク外國輸入ニ係ルモノニ

シテ其ノ改良上ノ効績ヲ認ムルハ尙數年ノ後ニ在ルヘシ

(ホ) 短角雜種及「シンメンタル」雜種
兩種共ニ出陳數各一頭ニシテ特ニ評論スヘキ點ナシ

(ヘ) 「フレンチカナデア」種

本種ハ明治三十八年初メテ我カ國ニ輸入セラレタルモノニシテ飼養ノ日尙淺ク體形品質如何ニ變化スヘキモノナリヤ今遽ニ其ノ優劣ヲ論評スルコト能ハス然レトモ新輸入牛トシテ畜牛家ヲ裨益セシヤ疑フ容レス

要スルニ各種ヲ通シテ繁殖飼養管理及特ニ牝ヲ育成スル法ニ於テ缺點多キハ最モ遺憾トスル所ナリ是出品者カ主トシテ生乳ノ販賣ヲ唯一ノ目的トスル搾乳營業者タルト一ハ其ノ出陳ニ係ル畜牛ノ多クハ自家ノ生産育成ニ非スシテ外國輸入ノモノカ然ラサレハ其ノ系統ヲ享受シタルモノヲ轉買シテ出陳シタルニ基因セルモノナルヘシ

(二) 豚

豚ノ出品數ハ總計四十七頭ナリ内「バークシャー」種十七頭「ヨーククシヤ」種三十頭ニシテ出品人員十九名ナリ之ヲ三回ニ出陳シ審査ノ結果十四頭ヲ選抜シテ擬賞セリ其ノ割合出陳總數ノ二割九分八強ニ相當ス出品ノ點數牝牡數及擬賞等級ヲ種類別ニ表示スレハ左ノ如シ

種類	出 品 數	牝 牡 數	擬 賞			計
			一等賞	二等賞	三等賞	
「バークシャー」種	一七	一〇	七	一	一	一七
「ヨークシヤ」種	三〇	一八	二二	一	一	三〇
合 計	四七	二八	一九	二	二	四七

輓近養豚業ノ勃興ニ伴ヒ各地ニ於ケル斯業ノ進歩甚タ著ク殊ニ體格ノ改善ノ如キ實蹟ノ見ルヘキモノ尠シトセス今回出陳ノ豚種カ悉ク世界ノ優良種タル「バークシヤ」種「ヨークシヤ」種ノ系統ニ出ツ

ルカ如キハ實ニ之ヲ表證セルモノト謂フヘシ然レトモ今細カニ出品ヲ檢スルニ漫ニ種類ノ名稱ノミヲ貴ヒ各種ノ特能特質ノ如キハ殆ト顧ミサルモノノ如ク全ク名アリテ實ナキ非難アルヲ免レサルモノアルヲ認ム或ハ體ノ均稱ヲ失フモノアリ或ハ肥滿ニ過キテ繁殖ニ適セサルモノアリ或ハ性質粗野ナルモノアリテ概スルニ優良ナル出品ニ乏シカリシハ斯業上遺憾尠シトセス蓋シ此ノ如キハ決シテ實益ヲ主眼トスル養豚業ノ目的ニ適合シタルモノニ非ス當業者宜シク繁殖飼育管理法ヲ考究シテ速ニ其ノ失點ヲ改善シ生産物販賣法ノ矯正ト相俟テ益々斯業ノ發達ヲ企圖セサルヘカラス

(三) 山羊

山羊ハ總數十八頭ニシテ出品人員七名ナリ審査ノ結果選抜擬賞セルモノ六頭其ノ褒賞歩合ハ出陳數ノ三割三分強ニ相當ス出品ノ點數牝牡數及擬賞等級ヲ種類別ニ表示スレハ左ノ如シ

種類	出 品 數	牝 牡 數	擬 賞			計
			一等賞	二等賞	三等賞	
「チベット」雜種	五	二	三	一	一	五
「ヌビヤ」雜種	四	二	二	一	一	四
「マルタ」雜種	四	二	二	一	一	四
「ザーネン」雜種	三	二	二	一	一	三
小笠原山羊	二	一	一	一	一	二
合 計	一八	九	九	四	四	一八

出品中小笠原島出陳ノ在來山羊ヲ除キテハ悉ク乳用山羊ニ屬スルモノナリ然ルニ最近海外ヨリ輸入サレタル「ザーネン」種ニ於テ僅ニ賞スヘキモノアリタル外概シテ品質善良ナラス體格及泌乳量ニ於テモ共ニ乳用トシテ到底首肯シ得サルモノ多キヲ認メタリ

(四) 家兔

何レモ普通品ニシテ特ニ批評ヲ加フヘキ價值アルモノニ非ス亦其ノ用途ニ於テモ賞翫ヲ主トセルモ

漫然種名ヲ羅列シタルニ過キスシテ徒ニ雜駁ノ出品ノミ饒多ナリシハ實ニ遺憾トスル所ナリ今出品中ノ重ナル種類ニ就キテ概評ヲ試ミルコト左ノ如シ

(イ)「レグホーン」種

本種ハ出品中最モ多數ヲ占メ隨ヒテ優等品ニ乏シカラス其ノ擬賞數モ亦最モ多キヲ得タリ殊ニ單冠白色種ノ如キ體稍小形ニ過クル嫌ナキニ非サレトモ出品ノ品位殆ト整一シ且各自能ク種類ノ特徴ヲ具有シ博覽會ノ出品トシテモ正ニ價値アルモノ多キヲ認メタリ然レトモ爾餘ノ出品ニ至リテハ僅ニ一二ノ稍賞スヘキモノアリタル外品位著ク劣リ到底比肩シ得ヘキモノニ非ス褐色種ノ如キハ羽色複雜ニシテ其ノ完美ヲ得ルコト決シテ容易ナラサルヘク概シテ蕃殖法ノ失宜ニ基因セル缺點多カリシヲ認ム宜シク大ニ改善ノ法ヲ講シ白色種ト駢進センコトヲ期セサルヘカラス

(ロ)「ブリマスロック」種

本種ニハ漣斑種ト白色種トノ出品アリ兩種トモ近年外國ヨリ種禽ノ輸入セラルルモノ頻繁ニシテ而モ蔓延ノ度頗ル迅速ナルヲ以テ其ノ進歩ノ實績極メテ著大ナラサルヘカラサルニ事實ハ大ニ之ニ反セルカ如シ出品中拔群ト認メラルモノ白色種ニ僅ニ一點ノミニシテ其ノ他ハ概ネ普通品ニ屬セリ種禽運用ノ方法ニ宜シキヲ失ヘルモノアリテ其ノ効績現ハレサリシニ依ルカ其ノ理由ヲ知ルニ苦ム今後益改良ニ努力スルヲ要ス

(ハ)「ミノルカ」種

今回ノ出品ハ黑色種ノミニシテ數ニ於テハ前二種ニ亞ク本種ノ本邦ニ飼養セララルルヤ既ニ年アリ加之近時英米ヨリ種禽ノ渡來スルモノ亦多キニ拘ラス其ノ實蹟見ルヘキモノ甚タ少ク特徴ヲ完備セルモノ極メテ少キヲ認ム殊ニ頃來所謂大冠種ト稱シテ肉冠肉髯ノ膨大ナルモノヲ悅フ風流行シ爲ニ頭部ノ發育ニノミ重キヲ置キテ體格ノ均齊ヲ失セシムルモノ尠カラサルカ如シ徒ニ冠髯ノミ大ナリトテ決シテ種類ノ特能ヲ發揮スルモノニ非ス大ニ忌ムヘキコトナリ本種ヲ繁殖スルニ於テハ能ク其ノ

特徴特質ヲ詳知シ長ヲ取り短ヲ捨テ益採卵用雞トシテ其ノ美點ヲ發揮セシムルニ努力セサルヘカラス

其ノ他ノ出品ニ至リテハ獨リ黑色ハムバーク種ニ稍見ルヘキモノアリタル外點數少ク品位亦概ネ劣等ニシテ出陳ノ目的那邊ニ在ルヤ了解シ難キモノ多ク甚シキニ至リテハ出陳種類ノ特徴ヲモ辨別セサルヤヲ疑ハシムルモノアリ到底各種ニ就キテ一々論評スヘキ價値アルモノニ非ス

之ヲ要スルニ今回出陳ノ家禽ハ點數少ク優等品ニ乏シク東京勸業博覽會ノ出品トシテハ誠ニ不滿ノ感ナキ能ハス由來東京ハ全國ノ種禽供給地ヲ以テ目セラレ又家禽業ニ練熟セルモノ甚タ多ク中ニハ斯道ノ大家ヲ以テ自任セル士少カラサル所ナルニ其ノ出品ニシテ今回ノ如キ不良ノ成績ヲ見タルハ寔ニ惜ムヘキコトナリ世人往々ニシテ東京家禽業ノ眞價ヲ疑フモノアルモ所以ナキニ非ス敢テ當業者ノ猛省ヲ望ム

(ニ) 蜜蜂

蜜蜂ノ出品ハ僅ニ二點ナリ共ニ在來種ニシテ優良ト云フヘキモノニ非サレトモ稍見ルヘキ所アリ依リテ兩ナカラ之ニ褒狀ヲ擬賞セリ

蜜蜂ハ本邦農家ノ副業トシテ有利ナルモノノ一ナリ良種ヲ繁殖シ且管理法ヲ練熟シテ其ノ發達ヲ圖ルトキハ益スル所尠カラサルヘシ

(七) 雞卵

東京府下ヨリ僅ニ一點ノ出陳アリ普通品ニシテ記スヘキコトナシ

其二 獸皮、骨、角等

主任 今泉 雄作
報告員 豐丸 勝二

本會出品ノ皮、骨及角ハ其ノ出品點數七十二點、出品人員三十八名ニシテ小笠原島ノ出品二點ヲ除ク外

ハ臺灣及韓國ノ出品ニ屬ス而シテ出品物ノ品質ハ韓國ノ出品ニ係ルモノノ中稍見ルヘキモノアリシ
外概シテ良好ナラス審査ノ結果韓國ノ出品ニ於テ僅ニ二名ヲ選拔擬賞スルニ過キサリシハ甚タ遺憾
ナリトス今左ニ管内、臺灣及韓國ノ出品點數及擬賞數ヲ表示スレハ左ノ如シ

出品點數	出品人員	擬賞			出品點數ニ對 スル擬賞割合
		三等賞	褒狀	計	
東京府	二	二			
臺灣	三三				
韓國	三八	一	一	二	〇・五三
合計	七二	一	一	二	〇・二八

今各出品物ニ對シ概評ヲ試ミレハ左ノ如シ

獸皮 獸皮ノ出品ハ韓國三十七點、臺灣六點、小笠原島二點、合計四十五點ナリ而シテ韓國ノ出品ニ係ル
諸毛皮類ハ種類多ク鞣成亦宜シキヲ得テ實用ニ適スルヲ認ム之ニ反シ同國ノ主要産物ノ一ニ屬シ
年々我カ國ニ輸入スル額尠少ナラサル製革原料ノ牛皮ハ剝皮及貯藏ノ方法ニ注意ヲ缺ケルカ爲品
質ヲ不良ナラシムルコト多キハ實ニ惜ムヘシ又臺灣ノ出品ニ係ル原料獸皮モ概シテ品質粗惡ニシ
テ實用ニ適スルモノ少シ

角 角ハ全部臺灣ノ出品ニ係リ總點數二十六點ナリ就中鹿角最モ多ク水牛角、山羊角之ニ次ク品質粗
惡ニシテ實用ニ適スルモノナシ
骨 骨ハ韓國ノ出品ニ係ル牛骨一點アルノミ品質粗惡ニシテ評スルニ足ラス

第二十九類 茶、珈琲、粗糖、甘蔗、蜂蜜、粉、乾物
主 任 大 林 雄 也

本會出品ノ茶、珈琲類ハ茶三百十二點、珈琲三點、合計三百十五點、人員二百十三名ニシテ之ヲ管内、管外及

臺灣ニ細別スレハ左表ノ如シ

管 區 別	茶		珈 琲		合 計
	出品人員	出品點數	出品人員	出品點數	
管内	六九	一一七	三	三	七二
管外	六二	七七	一	一	六二
臺灣	七九	一一八	一	一	七九
合計	二一〇	三三二	三	三	二一三

而シテ審査ノ結果優等者五十四名ニ擬賞シタリ其ノ細別左ノ如シ

管 區 別	一 等			二 等			三 等			計	出品人員百ニ 對スル割合
	出品人員	出品點數	褒狀	出品人員	出品點數	褒狀	出品人員	出品點數	褒狀		
管内	一	一		八	八		一八	一八		二・五〇	
管外	二	五		三	七		一七	一七		二・七四	
臺灣	一	四		七	七		一九	一九		二・二七	
合計	四	一〇		一八	二二		五四	五四		二・五四	

本會出品ノ茶ハ其ノ點數第五回内國勸業博覽會ニ比較スルニ十分ノ一ニ達セサルノミナラス當業者
中著名ナル者ノ出品ヲ缺キシカ故ニ以テ我カ茶業ノ趨勢ヲ評スルコト固ヨリ不可能ナリト雖モ管内
ノ出品點數ハ從來ノ博覽會、共進會等ニ比シテ遙ニ多ク從ヒテ品質優等ノモノ亦尠カラサリキ殊ニ市
内販賣者ノ出品ハ精製、篩分及火入完全ナルヲ認メタリ又郡部生産者ノ出品ハ形状ノ整美ナルニ比シ
火度ノ高キニ過キタルモノ、揉込過度ナリシカ爲ニ香氣ヲ害シタルモノ、乾燥揉捻ノ進行一致ヲ缺キタ
ルカ爲ニ茶ノ表面白色ヲ帶ヒ内暗黒ニ過クルモノ若クハ久シク貯藏セハ製造當時ノ色澤香味ヲ保持
シ得サルカ如キモノアリテ未タ其ノ業ニ熟セサル非難ヲ免レサルカ如シ

管外ノ出品ハ埼玉縣最モ多ク就中狭山地方ノモノ多數ヲ占メタリ由來狭山綠茶ハ色澤茶ノ本質ヲ表
シ火度最モ強烈ニシテ香氣他ノ地方ノ製茶ニ比シテ秀テタルヲ以テ名アリシカ近年製造上其ノ形状

ハ著ク進歩シタレトモ香氣ハ却リテ劣ル所アルカ爲ニ往々舊來慣行ノ製法ヲ以テ完全ナルモノト認
メ茲ニ製法上改良法折衷法及舊法ノ競争ヲ現出スルニ至レリ本會出品中最近ノ改良法ニ則リタルモ
ノハ色澤白味ナク底線ナル茶ノ本色ヲ顯ハシ香味從ヒテ充實シタルモノ數點アルヲ見ルニ至レルハ
同地方ノ爲ニ悅フヘキコトナリ
山城茶ハ出品少數ナリシカトモ色牙へ透キテ滋味少ク香味亦良好ナリ若シ水色ノ改良之ニ伴ハンカ
殆ト匹敵スルモノナカラン
其ノ他各地ノ出品ハ何レモ少數ニシテ特ニ評スルニ足ルモノナシ
再製茶ニ在リテハ静岡縣下ノ出品數點アリ概シテ莖煉リノ粗ナリシカトモ邦人ノ經營ニ係ル再製技
術大ニ進歩シ外商ト殆ト選ム所ナキニ至レルヲ認メタリ
臺灣ノ出品ハ烏龍茶及包種ニシテ綠茶ニ比シ其ノ數比較的多カリシカトモ濕損セサルモノハ殆ト少
ク之ヲ第五回内國勸業博覽會ニ比シ一層甚シカリシヲ覺ユ而シテ品質ハ世人ノ賞揚スル特種ノ佳香
ニ富メルモノ比較的多シト雖モ絶品ト稱スルニ足ルモノ尠シ將來完全ナル容器ヲ用キテ濕損ノ憂ナ
キ様注意スルヲ要ス
珈琲ハ種實ノ小ニシテ而モ充實セサルモノ多シ
要スルニ本會ニ於ケル製茶ノ出品ハ形狀ニ比シ風味ノ佳良ナルモノ多ク其ノ製造ノ技術亦進歩セル
ノ跡アルヲ認メタルハ甚タ悅フヘキコトナリトス

其二 粗糖

主任 大工原 銀太郎

粗糖ノ出品ハ其ノ點數二百點出品人員百九十二名ニシテ香川縣ヨリノ出品一點ヲ除ク外ハ東京府下
及臺灣ノ出品ニ係レリ左ニ粗糖ノ種類及各府縣ノ出品點數及人員ヲ表示スヘシ

東	府	縣	名	黑糖	白下糖	玉糖	合計	出品人員
			東京	三	三三	四	三九	三六

右ノ表ニ示スカ如ク今回粗糖ノ出品中東京府小笠原島ノ出品ニ係ルモノハ白下糖最モ多ク臺灣ノ出
品ハ悉ク玉糖ナリ而シテ審査ノ結果優等品ヲ選拔シテ二等賞四點三等賞十二點褒狀二十二點合計三
十八點ヲ擬賞セリ左ニ各府縣別擬賞數並ニ擬賞歩合ヲ表示スヘシ

府縣名	出品點數	出品人員	二等賞	三等賞	褒狀	合計	擬賞歩合
香	一	一	一	一	一	三	一六〇
臺	三	三	一	一	一	三	一六〇
合	四	四	二	二	二	六	一五五
香	一	一	一	一	一	三	一六〇
東	三	三	一	一	一	三	一六〇
京	三	三	一	一	一	三	一六〇
川	一	一	一	一	一	三	一六〇
臺灣	一	一	一	一	一	三	一六〇
合	一六〇	一五五	四	四	四	一二	一七
計	二〇〇	一九二	四	四	四	一二	一七

小笠原島ノ出品白下糖中母島産ノモノニハ比較的良好品アリシカトモ其ノ他ハ概ネ品質劣等ニシテ色
澤良好ナラス水分亦多キニ過クルモノアリ將來一層ノ改善ヲ要ス又玉糖ニ至リテハ其ノ出品點數極
メテ尠ク品質亦劣リテ見ルニ足ルモノナシ然ルニ同島ニ於テ將來最モ有望ナルヘキ製糖ノ種類ハ玉
糖ナルヘキコト農商務省農事試驗場技師山中源太郎氏ノ嘗テ同島ニ於テ實驗セル成績之ヲ證明シテ
餘リアルヲ以テ將來之カ製造ニ努メ良品ヲ産出スルニ至ランコトヲ望ム
小笠原島産ノ出品ニ係ル粗糖十四點中玉糖七點白下糖七點アリ白下糖ハ品質劣等ニシテ見ルニ足ル
モノナシト雖モ玉糖ハ再製糖ト共ニ同島農事試驗場ニ於テ特ニ優秀ナル甘蔗ノ種類選擇ニ資センカ
爲ニ栽培製造等總ヘテノ状態ヲ同一ニシ七種ノ甘蔗ヨリ製造シタル玉糖ヲ出品シタルモノナリ
今參考ノ爲ニ之カ化學分析ヲ行ヒタル成績ヲ示セハ左表ノ如シ

種類	結晶糖	不結晶糖	灰	水分	肉眼鑑定等級
ラ	八四〇六	六四八	一一五三	四四五	一

白	蔗(在來種)	八二、七六	四、二六	三、九九	六、一三
納	蔗	七四、七一	七、二六	五、六二	五、六六
「ローズバンブー」	蔗	七六、五三	八、四六	四、七三	五、八一
「ストライプド、シンガポール」	蔗	七五、三二	八、四一	五、六九	五、七四
臺灣	竹	六四、七五	五、三七	五、七七	六、二二
紅	蔗	七五、九二	一、三四	四、三四	五、八三

右ノ表ノ成績ニ依レハ分析ノ成績ハ肉眼鑑定ノ結果ト大體ニ於テ能ク符合シ「ラファイナ」種及同島在來種ナル白蔗ハ共ニ其ノ製品ノ質優良ニシテ特ニ「ラファイナ」種ニ於テ好成績ヲ示セルヲ見レハ今後種類ノ改良ハ斯業上最モ重要ナルコトヲ知ルニ足ルヘシ

臺灣ノ出品ハ玉糖百六十點ニシテ糖類總出品點數ノ七割六分ヲ占メ從ヒテ優良ナル出品抄カラス就中鹽水港廳下ノ出品ニ良品多ク鳳山嘉義廳下ノ出品之ニ次ケリ又阿緜廳下ノ出品ハ其ノ點數最モ多キニ拘ラス概シテ中等品多ク其ノ他斗六新竹等諸廳下ノ出品ハ品質何レモ劣等ニシテ見ルニ足ルモノ尠シ近年甘蔗ノ壓搾ニ蒸氣力ヲ應用スルモノ増加セシハ喜フヘキ現象ナリト雖モ創業日尙淺キカ爲カスル大製造家ノ出品中住々色澤香味共ニ良好ナラサルモノ尠カラサルヲ憾ミトス將來再製糖事業ノ勃興ト共ニ漸次粗糖ノ需用ノ減少ヲ來スヘキハ蓋シ自然ノ勢ナルヘシト雖モ尙家庭庖厨用トシテ需用抄カラサルヲ以テ臺灣玉糖ノ將來ハ未タ敢テ悲觀スヘキニ非ス宜シク甘蔗種類ノ改良ヲ期スルト共ニ其ノ製造方法ニ一大改善ヲ加ヘ益、優品ヲ廉價ニ供給スルノ途ヲ講セサルヘカラス

其三 甘蔗

主任 大工原 銀太郎

今回甘蔗ノ出品ハ府下及臺灣ヲ合セ總出品點數三十三點出品人員三十三名ニシテ審査ノ結果優品六點ヲ選抜シテ褒狀ヲ擬シタリ之ヲ表示スレハ左ノ如シ

府 縣 名	出品點數	出品人員	褒 狀	擬 賞 步 合
東 京	一	一	一	〇
臺 灣	三二	三二	六	一、八八
合 計	三三	三三	六	一、八四

臺灣ノ出品ハ「ローズバンブー」種最モ多ク優品亦抄カラスト雖モ他ノ種類殊ニ在來種ニ至リテハ品質劣等見ルニ足ラス同島糖業改良ノ第一着歩ハ甘蔗品種ノ改良ニ在ルヘキハ論ナシト雖モ去ル三十六年ニ於ケル甘蔗收穫高十億〇七百四十九萬餘斤中竹蔗紅蔗納蔗「ローズバンブー」及「ラファイナ」種ノ各割合ヲ算出スレハ優良種タル「ラファイナ」及「ローズバンブー」二種ノ栽培反別甚タ少キコト左表ノ如シ

竹	蔗	七割弱
紅	蔗	一割七分強
納	蔗	一割一分強
「ローズバンブー」	蔗	一分七厘弱(内百分ノ九十五以上ハ「ローズバンブー」トス)
「ラファイナ」	蔗	

其四 蜂蜜

主任 大工原 銀太郎

今回蜂蜜ノ出品ハ東京府三點愛媛縣四點合計七品出品人員三名ニシテ府下ノ出品中一點愛媛縣ノ出品中一點ヲ選抜シテ共ニ褒狀ヲ擬賞セリ

府下ノ出品中小笠原島五十嵐八五郎ノ出品ハ色澤不良ニシテ且酸性醱酵ヲ起シ一種ノ惡臭ヲ有シ府下北多摩郡淺見甚之助ノ出品中秋氣採收ノモノモ亦同様ノ醱酵ヲ起シタリト雖モ其ノ春季採收ノモノ

ノハ品質中等ニシテ些ノ酸酵ヲ認メサリキ
 愛媛縣下井養蜂園ノ出品ハ四品共ニ色澤良好品質頗ル優良ナルヲ見タリ
 仰養蜂ノ事タル農家ノ副業トシテ最モ適當ナルモノノ一ナリト雖モ本邦ニ於ケル該業ハ頗ル幼稚ニ
 シテ蜂蜜利用ノ方法亦未タ發達セス爲ニ多額ニ良質ノ蜂蜜ヲ產出スルノ域ニ達セサルヲ遺憾トス將
 來ハ一層學理的及實地ノ養蜂管理法竝ニ蜜ノ利用法ヲ攷究シ以テ斯業ノ改良發達ヲ期スルヲ要ス

其五 粉類

主任 小林房次郎

粉類ノ出品ハ百四十點ニシテ三府一道十縣ニ亘レリ出品ノ最モ多キハ東京府ニシテ八十一點ニ達シ
 千葉、臺灣之ニ亞ケリ粉類中主ナルモノハ澱粉ニシテ徹塵粉及小麥粉之ニ亞ケリ其ノ他ハ白玉粉、蕎麥
 粉、浮粉、晒餡、豆粉、蒟蒻粉及加工穀類ナリ
 粉類ノ出品中小麥粉及澱粉ヲ除クノ外ハ概ネ調製及乾燥ノ點ニ於テ缺クル所アリ敢テ改良セラレタ
 ルノ形跡ヲ認メス
 左ニ出品點數、人員擬賞數等ヲ掲ク

府縣名	出品總數	出品人員	名譽	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	計	出品點數ニ對スル擬賞割合	出品人員ニ對スル擬賞割合
東京	八一	四〇	一	一	一	四	一二	一八	二二・二二	四五〇
愛知	二	一	一	一	一	一	一	一	五〇〇	一〇〇〇
千葉	二四	一〇	一	一	三	一	一	一	四・一六	一〇〇〇
茨城	二	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇〇	一〇〇〇
山形	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇〇	一〇〇〇
秋田	二	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇〇	一〇〇〇
群馬	三	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇〇	一〇〇〇
長野	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇〇	一〇〇〇
合計	一四〇	七八	一	二	六	一三	二四	四六	三・二九	五・九〇

各粉類ニ就キ概評ヲ下セハ左ノ如シ

(一) 小麥粉

府縣名	出品點數	出品人員	名譽	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	計	出品點數ニ對スル擬賞割合	出品人員ニ對スル擬賞割合
新潟	四	三	一	一	一	一	一	一	七・五〇	一〇〇〇
福井	二	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇〇	一〇〇〇
大阪	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇〇	一〇〇〇
兵庫	三	二	一	一	一	一	一	一	六・六六	一〇〇〇
北海道	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇〇	一〇〇〇
臺灣	一三	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇〇	一〇〇〇
合計	一四〇	七八	一	二	六	一三	二四	四六	三・二九	五・九〇

小麥粉ノ出品點數ハ十九點ニシテ内東京府ノ出品ニ係ルモノ十點其ノ他ハ僅ニ群馬縣三點臺灣六點
 ニ過キサリキ今回ノ出品ヲ通覽スルニ臺灣ノ出品ヲ除クノ外概ネ製粉機ニ依リテ製造セラレタルモ
 ノニシテ從來ノ水車製粉ハ僅ニ三四點ニ過キス其ノ他ノ第五回内國勸業博覽會ノ出品中ニハ外國產
 製粉ヲ混シタルモノ甚タ多カリシカ今回斯ノ如キ出品ヲ見サリシハ喜フヘシ
 出品中品質優等ニシテ且製産額ノ多大ナルモノハ東京ノ日本製粉株式會社及群馬縣館林製粉株式會
 社トス就中日本製粉株式會社ハ其ノ規模大ニシテ經營宜シキヲ得生産額亦頗ル多クシテ一ケ年約六
 十萬袋ニ達ス但シ一袋ノ代價平均二圓二十錢トセハ全生産額ノ價ハ百三十萬圓餘ニ達シ小麥及製粉
 ノ輸入額ノ一割内外ニ當ルモノトス前記製粉會社ノ小麥粉ハ色澤純白ニシテ適度ノ粘力ヲ有シ乾燥
 亦宜シク敢テ米國產小麥ノ中品ニ讓ラス館林製粉株式會社ノ出品モ品質ニ於テ前會社ノ出品ト著キ
 徑庭ヲ認メサレトモ其ノ一ケ年ノ製造力ハ十五萬袋價額三十四萬圓内外ナリ然レトモ其ノ關東ニ於
 ケル屈指ノ製粉會社タルハ何人モ知ル所ナリ其ノ他東京玉川製粉合資會社ノ出品ハ本邦產小麥ノミ
 ヲ原料トシテ製造シタルモノナレトモ其ノ龜印及鶴印ノ如キハ品質良好ナリ該會社ハ玉川上水ヲ利
 用セル小規模ノ工場ナリト雖モ製粉機ハ小形ローラ機ヲ用キ篩機モ亦稍完全ニ近ク在來ノ水車製粉

工場ヲ改良スルニ就キテ模範トスルニ足ルモノトス
 其ノ他ハ何レモ確製粉ニシテ品質概テ不良ナリ要スルニ確製ノ缺點ハ「ローラ」式ト其ノ挽立ノ方法ヲ
 異ニスルモノナルカ故ニ多少ノ穀ヲ混シ爲ニ色澤ヲ損シ且ツ乾燥一般ニ不良ナルニ在リ臺灣ノ出品
 モ概テ確製ニ係ルカ故ニ品質良好ナラス
 小麥粉ノ出品中品質稍良好ナルモノ十數點ヲ選ヒ乾燥ノ良否、灰分ノ多少ヲ檢定セリ其ノ成績
 左ノ如シ

種 類	製 法	水 分	乾燥灰素量(風乾百分中)	灰 分
龜 印	機 械 製	一二、七一	一一、五〇〇	〇、七二六
旭 印	同	一二、七九	一〇、〇五〇	〇、四〇〇
鶴 印	同	一二、七九	九、五五〇	〇、五三六
軍 艦 印	同	一二、三二	八、四五〇	〇、四六四
松 印	同	一二、五三	八、四五〇	〇、四五二
櫻 川 印	同	一二、八九	一二、七五〇	〇、七四〇
玉 川 印	同	一二、九六	八、〇〇〇	〇、五三〇
同 鶴 印	同	一二、九八	七、〇〇〇	〇、四九八
同 印	同	一二、九八	一二、三五〇	〇、六五八
同 印	同	一二、九八	八、〇〇〇	〇、四五〇
同 印	同	一二、九八	五、〇〇〇	〇、三六〇
同 印	同	一二、六七	八、〇五〇	〇、三五〇
同 印	同	一二、八九	一〇、三〇〇	〇、三五〇

右ノ成績ニ據ルニ「ローラ」機製ハ一般ニ水分少ク確製ハ概シテ水分ニ富メリ普通製粉ノ含水量ハ十五
 パーセントヲ以テ最高限トス其レ以上ノ水分ヲ含有スルモノハ到底貯藏ニ堪ヘスト云フ要スルニ水
 車袋ノ水分多キハ製造法ノ然カラシムル所ニシテ粗製品中ニハ往々右ノ定限ヲ超ユルモノアリ

嘗テ本邦産小麥粉十九種ニ就キテ施行セシ分析ノ結果ニ依レハ風乾物百分中平均灰素一〇、六七九灰
 分〇、五四二ヲ含有セリ然ルニ右ノ表ニ示ス如ク今回出品中品質稍良好ト認メシモノノ内ニハ灰素ノ
 含量右ノ平均數以上ヲ超ユルモノ僅ニ二點ニ過キス内一點「櫻川」機製粉中ノ下等品ニシテ多
 少ノ穀ヲ交ヘ灰素分離ノ際穀ノ大部分ハ灰素中ニ包留セララルヲ以テ斯ク灰素多キヲ示スモノトス
 軍艦印及松印ノ灰素ノ少キハ其ノ原料内國産ト外國産トノ混合ナレトモ外品ハ配合稍多キヲ占ムル
 ニ依ルカ然レトモ是等ノ含灰素量ハ敢テ過少ト云フヘカラス左ニ參考ノ爲外國製粉ノ灰素量ヲ掲ク

製粉番號	捏粉量	製粉番號	捏粉量
一號製粉	一四七グラム	三號製粉	一四六グラム
四號同	一四六	二號製粉	一四六グラム
「ハンガリー」産小麥製粉	七、七〇	製粉番號	捏粉量
「パレントダスト」	一五三	第〇印製粉	一五五、五
「ダントスト」	一五三	「インペリヤル」	五、八五〇
「露國」オデッサ「エレマンヌ」イルベイン「レチン」會社製粉	二、〇〇	「ブ」デッサ	九、〇〇〇
種 類	乾燥灰素量(風乾百分中)	種 類	乾燥灰素量(風乾百分中)
「ク」ラ「バ」	七、四〇〇	「インペリヤル」	五、八五〇
「ク」ラ「バ」	九、三〇〇	「ブ」デッサ	九、〇〇〇
米國「シャトル」産麥粉	九、三〇〇	種 類	乾燥灰素量(風乾百分中)
種 類	乾燥灰素量(風乾百分中)	「ビ」ク「パ」	一一、〇五〇
日ノ出印	一一、六五〇	種 類	乾燥灰素量(風乾百分中)
種 類	乾燥灰素量(風乾百分中)	「ビ」ク「パ」	一一、〇五〇

加奈太産麥粉

種	類	水分	乾素素量(風乾百)	種	類	水分	乾素素量(風乾百)
「ベ	ス	ト	一二、八四一	「スト	ロン	グ	一〇、七五〇
「キ	ヤ	ピタル	—	「バー	ベ	ストクイン	一〇、六〇〇
「パ	テ	ン	ト	「スト	レート	グレート	一〇、九五〇
「シ	ユ	ー	ベリオル	—	—	—	—

以上ノ外國製粉中麩素ノ最モ多キハ米國「シャトル」産及加奈太産ニシテ露國及ボヘミヤ産ハ其ノ量概シテ少シ元來加奈太ハ北米合衆國ニ於ケル小麥ノ名産地ニシテ其ノ小麥粉ノ如キモ歐米市場ニ於テ常ニ優等ノ位置ヲ占ムルハ人ノ知ル所ナリ今ヤ内國産ヲ加奈太産ニ比スレハ其ノ品質及ハサル所アレトモ普通輸入米國産ノ中等品又ハ露國産ニ比スレハ敢テ遜色アルコトナシ

抑我邦ニ於ケル小麥粉ノ需用ハ頗ル多クシテ各種ノ菓子麵麩麵類等ノ製造ニ使用セラルルモノトス今自家用料トシテ製セララル小麥粉ヲ除キ製粉業者カ製造スル小麥粉ノ量ヲ推測スルニ内地産小麥約百萬石外國産小麥約三十萬石ハ製粉用ニ供セラルヘキカ故ニ其ノ粉量ハ約二億三千六百萬斤價格約一千八百八十萬圓ナルヘシ然ルニ此ノ數量ハ到底我カ需用ヲ充タスニ足ラサルカ故ニ之カ供給ヲ海外ニ仰カサルヘカラス左ニ最近四ケ年小麥粉及小麥ノ輸入額ヲ示サン

年 度	小 麥 粉 數 量	價 額	小 麥 數 量	價 額	合 計
三十六年度	二〇九、一五九、一九九	一〇、三三四、四二〇	五六二、五〇一	四、二六七、八三九	一五、〇九二、二五九
三十七年度	一九一、四一九、五三三	九、六二五、三九八	一七、七七二	一、五三六、七七三	一一、一六二、一七一
三十八年度	一八四、一五八、一六六	九、九五二、三六七	四五六、二〇四	四、〇二二、〇九二	一三、七六三、四五九
三十九年度	一五九、一五二、五八六	八、一九〇、九八二	一五七、九〇〇	一、三七一、七四八	九、五六二、七三〇

備考 三十六年度ニ於ケル製粉及小麥ノ輸入多キハ日露戰役ヲ見越シタル結果ナルヘシ又三十七、八年度ハ戰役ノ爲實際需用ノ増加シタル爲ナラン三十九年度ニ於テ輸入少キハ三

十八年度ニ於テ多量ノ製粉及原料輸入ノ影響ヲ蒙リタルト軍用品需用ノ減少ノ結果ナルヘシ

即チ最近四ケ年ノ平均輸入額ハ小麥粉一億千百萬斤(價額九百五十萬圓)小麥三十萬石(價額三百五十六萬圓)今假リニ此ノ數量ヲ以テ平時ニ於ケル平均ノ輸入量トセハ我カ小麥ノ需用ハ自家用製造ヲ除キ實ニ四億二千七百七十萬斤(價額二千三百三十四萬圓)多キニ達スルヲ知ルヘシ斯ノ如ク小麥粉ノ需用ハ現今已ニ巨額ニ達シ將來倍增加スヘキカ故ニ我カ製粉業ノ前途ハ尙頗ル有望ナルヘシ當業者爰ニ觀ル所アリテ殊ニ昨年以來或ハ工場ノ規模ヲ擴張シ或ハ新ニ工場ノ設置ノ計畫ヲ爲ス者アルニ至レリ製粉業ノ發達ニ伴ヒ當然起ルヘキハ原料供給ノ問題ナリ現今我カ邦ニ産スル小麥ノ平均收穫ハ年々四百萬石ナレトモ醬油味噌及自家用麵類等ノ爲ニ消費セラルル額頗ル大ナルカ故ニ製粉業者ノ使用スルモノハ僅ニ百萬石内外ニ過キスシテ現時ノ需用ヲ充タスニハ尙約百萬石ノ不足アルヘシ試驗ノ成績ニ依ルニ本邦産ノ小麥ハ製粉用トシテ未タ缺點アルノミナラス我カ農家ノ栽培スルモノハ品種及耕作法區々ニシテ品質不齊ナルカ故ニ現今ノ状態ニテハ我カ製粉業者ハ數量上及品質上内地産ノミヲ使用スルコト能ハス然レトモ品質優良ナル小麥ノ種類ヲ選擇シ農家ヲシテ適當ナル方法ニ依リテ栽培ヲ行ハシムレハ我カ製粉ノ原料モ敢テ海外ノ供給ヲ仰ク必要ナキニ至ルヘシ

(二) 澱 粉

片栗或ハ晒葛等ノ名稱ノ下ニ出品セラレタル澱粉類ハ概ネ甘藷及馬鈴薯澱粉ニシテ東京府三點其ノ他三十六點ナリ而シテ千葉縣産ハ總出品點ノ八割以上ヲ占ムルノミナラス其ノ品位概ネ優良ナリ蓋シ千葉縣ハ北海道ニ亞キテ甘藷及馬鈴薯澱粉ノ製造盛ニシテ其ノ業ハ實ニ天保年間ニ創マレリ爾來甘藷澱粉ノ製造ノミニ從事シタリシカ明治十五年ニ至リ始メテ馬鈴薯ヲ栽培シ以テ澱粉ノ製造ヲ試ミ其ノ後幾多ノ改良ヲ加ヘ優良ナル澱粉ヲ製スルニ至レリ今同縣ヨリ出品セル澱粉類中高橋重兵衛ノ製造ニ係ル馬鈴薯澱粉ハ殊ニ色澤純白ニシテ又北海道黒須萬吉出品ノ馬鈴薯澱粉モ其ノ品質